岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第554集

坪渕（つぼふち）Ⅱ遺跡発掘調査報告書

胆沢ダム建設事業関連遺跡発掘調査

２０１０

国土交通省東北地方整備局
胆沢ダム工事事務所
（財）岩手県文化振興事業団

坪渕Ⅱ遺跡発掘調査報告書

胆沢ダム建設事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする１万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解する上で欠くことの出来ない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれその土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、岩手県奥州市胆沢区の胆沢ダム建設事業に関連して平成19年・20年の2カ年にわたって発掘調査を実施した、奥州市胆沢区坪渕Ⅱ遺跡の成果をまとめたものです。今回の調査では、縄文時代後・晩期の遺構や遺物を中心に、近世墓や建物跡も見つかりました。本遺跡は、近世における岩手と秋田を結ぶ主要な仙北街道筋にあたり、当時の人々の往来が盛んだった痕跡を示すことができたほか、これまで未調査であった奥州市胆沢区の最西地域での歴史時代以前の様子が一部ではありますが明らかとなりました。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所、奥州市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成22年１月

財団法人　岩手県文化振興事業団
理事長　武　田　牧　雄

例　　言

1　本書は、岩手県奥州市胆沢区若柳字追分34ほかに所在する坪渕Ⅱ遺跡の調査成果を収録したものである。

2　岩手県遺跡台帳における本遺跡の登録番号は、ＮＥ31－1023、遺跡の調査略号はＴＦⅡ－07・08である。

3　本遺跡の発掘調査は、胆沢ダム建設事業に伴い、岩手県教育委員会の調整を経て、国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所の委託を受けた（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。

4　調査期間・調査面積・調査担当者は、以下のとおりである。

　平成19年5月1日～6月22日／5,029㎡／木戸口俊子・濱田　宏

　平成20年4月11日～5月29日／2,000㎡／濱田　宏・藤原大輔・小林弘卓

5　室内整理期間・担当者は、以下のとおりである。

　平成19年11月1日～平成20年3月31日／木戸口俊子

　平成20年11月16日～平成21年3月31日／濱田　宏

6　本書の執筆については、平成19年度調査分は木戸口が、平成20年度調査分は濱田が担当した。また、全体の編集は濱田が担当した。

7　図中に使用している地図は、国土地理院5万分の1「焼石岳」である。

8　野外調査の土層観察は、下記の土色帖を使用して行った。

　「新版　標準土色帖　1993年版」 農林水産省農林水産技術会議事務局　監修

　財団法人日本彩色研究所　色票監修

9　野外調査では、国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所、奥州市教育委員会、奥州市胆沢区・水沢区の作業員の方々、胆沢ダム建設事業に関わる多くの工事業者により多大なご協力をいただいた。

10　各種分析・鑑定は、以下の機関に依頼した。

　石質鑑定・・・・花崗岩研究会

　火山灰分析・・・(株)火山灰考古学研究所

11　基準点測量は、平成19年度に株式会社ランド技術設計が行った。

12　航空写真は、東邦航空株式会社により撮影した。

13　平成20年度の遺物の撮影は、福士昭夫氏に外部委託した。

14　本遺跡の調査結果は、先に『岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第524集　平成19年度発掘調査報告書2008』及び『(同) 第546集　平成20年度発掘調査報告書2009』において発表しているが、本書の内容が優先する。

15　本遺跡の出土遺物および諸記録は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

目　　次

Ⅰ　調査に至る経過 …… 1

Ⅱ　立地と環境 …… 2

1　遺跡の位置と地理的環境 …… 2
2　歴史的環境 …… 2
3　基本層序 …… 9

Ⅲ　野外調査と室内整理の方法 …… 11

1　野外調査 …… 11
（1）グリッドの設定 …… 11
（2）試掘・表土除去 …… 11
（3）遺構の検出と精査 …… 11
（4）調査経過 …… 12
2　室内整理 …… 12

Ⅳ　検出された遺構と遺物 …… 16

1　検出遺構の内訳 …… 16
2　平成19年度調査 …… 16
（1）遺　　構 …… 16
（2）遺　　物 …… 48
3　平成20年度調査 …… 89
（1）遺　　構 …… 89
（2）遺　　物 …… 123

Ⅴ　自然科学的分析 …… 153

Ⅵ　ま　と　め …… 157

1　縄文時代の遺構について …… 157
2　「寺屋敷」と時期不明掘立柱建物跡について …… 157
3　近世以降の墓壙群について …… 158
4　表面採集遺物 …… 161
5　総　　括 …… 161
報告書抄録 …… 227

図版目次

第１図　遺跡位置図……３
第２図　地形分類図……４
第３図　周辺の遺跡図……６
第４図　基本層序……９
第５図　遺跡周辺図……10
第６図　北側調査区遺構配置図……14
第７図　南側調査区遺構配置図……15
第８図　101号竪穴住居跡 ……17
第９図　102号竪穴住居跡 ……19
第10図　101・302号掘立柱建物跡……20
第11図　102号掘立柱建物跡 ……22
第12図　201号掘立柱建物跡 ……23
第13図　301号掘立柱建物跡 ……25
第14図　101 ～ 106号土坑 ……26
第15図　107 ～ 110号土坑 ……29
第16図　111 ～ 116号土坑 ……31
第17図　117 ～ 121号土坑 ……33
第18図　201 ～ 206号土坑 ……36
第19図　207 ～ 211・301号土坑……38
第20図　212 ～ 217号土坑 ……41
第21図　218 ～ 222号土坑、201号溝……44
第22図　焼土……45
第23図　遺構内出土遺物（１）……54
第24図　遺構内出土遺物（２）……55
第25図　遺構内出土遺物（３）……56
第26図　遺構内出土遺物（４）……57
第27図　遺構内出土遺物（５）……58
第28図　遺構内出土遺物（６）……59
第29図　遺構内出土遺物（７）……60
第30図　遺構内出土遺物（８）……61
第31図　遺構内出土遺物（９）……62
第32図　遺構内出土遺物（10）……63
第33図　遺構内出土遺物（11）……64
第34図　遺構内出土遺物（12）……65
第35図　遺構内出土遺物（13）……66
第36図　遺構内出土遺物（14）……67
第37図　遺構内出土遺物（15）……68
第38図　遺構内出土遺物（16）……69
第39図　遺構外出土遺物（１）……70
第40図　遺構外出土遺物（２）……71
第41図　遺構外出土遺物（３）……72
第42図　遺構外出土遺物（４）……73
第43図　遺構外出土遺物（５）……74
第44図　墓石（１）……75
第45図　墓石（２）……76
第46図　墓石（３）……77
第47図　101号土器埋設遺構 ……89
第48図　122 ～ 125号土坑 ……91
第49図　223 ～ 229・231号土坑……92
第50図　230・232 ～ 235・246号土坑 ……95
第51図　236 ～ 240号土坑 ……97
第52図　241 ～ 245・247号土坑……99
第53図　248 ～ 253号土坑 …… 101
第54図　254・255・257・261号土坑ほか…… 103
第55図　256・259・262・265号土坑ほか…… 105
第56図　260・267 ～ 269・273号土坑 …… 108
第57図　258・274・275・277号土坑ほか…… 111
第58図　263・270・271・276号土坑…… 112
第59図　271・278 ～ 281・294号土坑 …… 114
第60図　282・283・285・286号土坑ほか…… 116
第61図　302 ～ 310号土坑 …… 119
第62図　311 ～ 314号土坑 …… 122
第63図　遺構内出土遺物（17）…… 125
第64図　遺構内出土遺物（18）…… 126
第65図　遺構内出土遺物（19）…… 127
第66図　遺構内出土遺物（20）…… 128
第67図　遺構内出土遺物（21）…… 129
第68図　遺構内出土遺物（22）…… 130
第69図　遺構内出土遺物（23）…… 131
第70図　遺構内出土遺物（24）…… 132
第71図　遺構内出土遺物（25）…… 133
第72号　遺構内出土遺物（26）…… 134
第73図　遺構内出土遺物（27）…… 135
第74図　遺構内出土遺物（28）…… 136
第75図　遺構内出土遺物（29）…… 137
第76図　遺構内出土遺物（30）…… 138
第77図　遺構内出土遺物（31）・遺構外出土銭貨 … 139
第78図　掘立柱建物跡と焼土、土坑…… 157

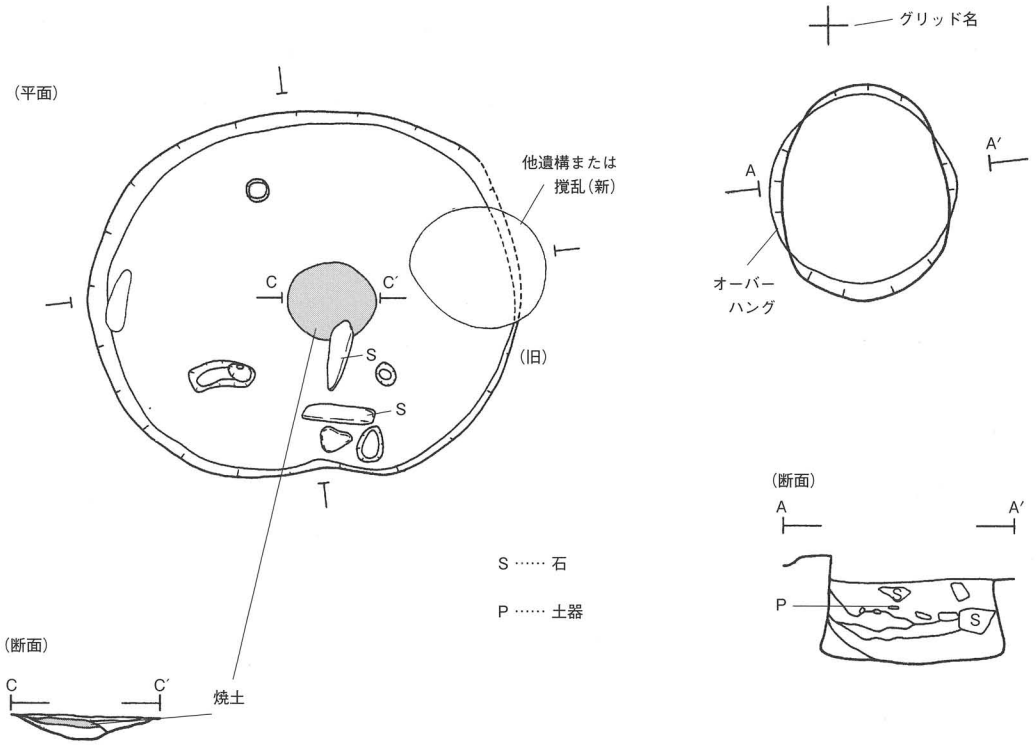
表　目　次

第１表　周辺の遺跡一覧表……7
第２表　柱穴及び柱穴状小土坑観察表……47
第３～11表　平成19年度出土遺物観察表… 78～88
第12表　柱穴状小土坑観察表…… 123
第13～19表　平成20年度出土遺物観察表… 140～152
第20表　墓壙観察表…… 159

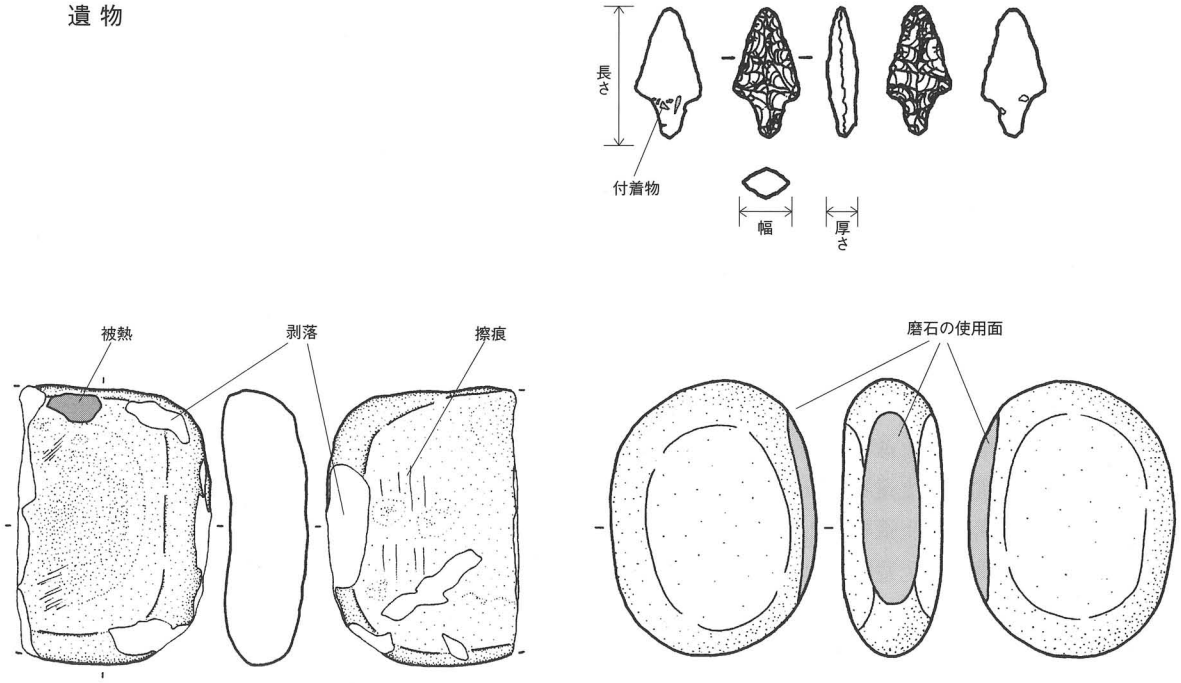
写真図版目次

写真図版１　航空写真…… 165
写真図版２　調査前風景・基本層序、調査区全景… 166
写真図版３　101号竪穴住居跡 …… 167
写真図版４　101・102号竪穴住居跡…… 168
写真図版５　102号竪穴住居跡ほか …… 169
写真図版６　301・302号掘立柱建物跡ほか…… 170
写真図版７　103・104・106号土坑 …… 171
写真図版８　105・107～109号土坑…… 172
写真図版９　110～113号土坑 …… 173
写真図版10　114・116～118号土坑…… 174
写真図版11　115・119・120号土坑ほか …… 175
写真図版12　203～208号土坑 …… 176
写真図版13　209・210号土坑ほか…… 177
写真図版14　211・215～217号土坑ほか…… 178
写真図版15　101・102・201・301号焼土…… 179
写真図版16　302・303号焼土、墓石（１）ほか… 180
写真図版17　墓石（２）…… 181
写真図版18　遺構内出土遺物（１）…… 182
写真図版19　遺構内出土遺物（２）…… 183
写真図版20　遺構内出土遺物（３）…… 184
写真図版21　遺構内出土遺物（４）…… 185
写真図版22　遺構内出土遺物（５）…… 186
写真図版23　遺構内出土遺物（６）…… 187
写真図版24　遺構内出土遺物（７）…… 188
写真図版25　遺構内出土遺物（８）…… 189
写真図版26　遺構内出土遺物（９）…… 190
写真図版27　遺構外出土遺物（１）…… 191
写真図版28　遺構外出土遺物（２）…… 192
写真図版29　遺構外出土遺物（３）…… 193
写真図版30　遺構外出土遺物（４）…… 194
写真図版31　122～125号土坑 …… 195
写真図版32　223～226号土坑 …… 196
写真図版33　227～230号土坑ほか …… 197
写真図版34　231～235号土坑 …… 198
写真図版35　236～239号土坑 …… 199
写真図版36　240～243号土坑 …… 200
写真図版37　244～247号土坑 …… 201
写真図版38　248～251号土坑 …… 202
写真図版39　252～255号土坑ほか …… 203
写真図版40　256・257号土坑ほか…… 204
写真図版41　258～260号土坑ほか …… 205
写真図版42　263～266号土坑ほか …… 206
写真図版43　267～270号土坑 …… 207
写真図版44　271～274号土坑 …… 208
写真図版45　275～278号土坑 …… 209
写真図版46　279～283号土坑 …… 210
写真図版47　282～286号土坑 …… 211
写真図版48　287～290号土坑 …… 212
写真図版49　293・294号土坑ほか…… 213
写真図版50　304～307号土坑 …… 214
写真図版51　308～311号土坑 …… 215
写真図版52　312～314号土坑ほか …… 216
写真図版53　遺構内出土遺物（10）…… 217
写真図版54　遺構内出土遺物（11）…… 218
写真図版55　遺構内出土遺物（12）…… 219
写真図版56　遺構内出土遺物（13）…… 220
写真図版57　出土銭貨（１）…… 221
写真図版58　出土銭貨（２）…… 222
写真図版59　出土銭貨（３）…… 223
写真図版60　出土銭貨（４）…… 224
写真図版61　出土銭貨（５）…… 225
写真図版62　出土銭貨（６）…… 226

遺構


グリッド名
(平面)
他遺構または
撹乱(新)
(旧)
C
C′
S
S
A
A′
オーバー
ハング
(断面)
A
A′
P
S
S …… 石
P …… 土器
(断面)
C
C′
焼土

遺物


長さ
付着物
幅
厚さ
被熱
剥落
擦痕
磨石の使用面

凡　　例

Ⅰ　調査に至る経過

坪渕Ⅱ遺跡は、「胆沢ダム建設事業」に伴いその事業区域内に位置することから、発掘調査を実施することになったものである。

胆沢ダムは、北上川右支川胆沢川に建設中の堤体高132m、堤頂長723m、総貯水容量１億4,300万㎥の中央コア型ロックフィルダムで、その目的に洪水調節・河川環境保全等のための流水確保・かんがい用水・水道用水・水力発電を有する多目的ダムである。胆沢ダム建設事業は、平成2年5月11日に「胆沢ダムの建設に関する基本計画」が官報告示されて建設着手し、その後平成12年6月14日に基本計画変更が官報告示され、事業費及び工期改定を行い現在に至っている。（当初工期：平成11年度→変更工期：平成25年度）

埋蔵文化財の取り扱いについては、事業に先立ち昭和58年10月に建設省（現国土交通省）新石淵ダム調査事務所（昭和63年4月に胆沢ダム工事事務所に組織改正）から、ダム事業区域内における埋蔵文化財の有無を岩手県教育委員会に照会し、周知地区864,000㎡、可能性有の地区490,000㎡を確認した。その後は、水没面積4,400,000㎡を含む事業区域内における埋蔵文化財の包蔵地について、毎年度各工事の実施に先立って、岩手県教育委員会と協議を行いながら計画的に調査を実施してきているところである。

坪渕Ⅱ遺跡については、包蔵地全体で約50,000㎡と広大な面積であったため、付替市道敷及び工事用道路敷に係る包蔵地北側区域を先行することとし、平成18年５月15日付け国東整胆調設第10号により、胆沢ダム工事事務所長から岩手県教育委員会に試掘調査の依頼を行った。依頼を受けた岩手県教育委員会が平成18年９月14日～15日、同11月29日、同12月14日の４日間にわたり試掘調査を実施した結果、設定した14本のトレンチのうち、西側高標高部から縄文土器などが検出され、遺構等が存在する可能性が高いことが判明した。これにより、当該区域については平成18年12月19日付け教生第1276号にて「発掘調査が必要」である旨、胆沢ダム工事事務所長に回答があった。

また、包蔵地の未調査区域（常時満水位以下箇所）について、平成19年３月22日付け国東整胆調設第29号により、再度胆沢ダム工事事務所長から岩手県教育委員会に試掘調査の依頼を行った。依頼を受けた岩手県教育委員会は、平成19年７月24日、同８月23日の２日間にわたり試掘調査を実施し、設定した19本のトレンチの遺物出土分布と平成18年度のそれを重ね合わせて総合判定した結果、平成18年度要発掘判定箇所の隣接部のみ遺構等が存在する可能性が高いことが判明し、当該区域については平成19年度８月27日付け教生第884号にて「発掘調査が必要」である旨、胆沢ダム工事事務所長に回答があった。

この回答に基づき岩手県教育委員会と協議し、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに委託して発掘調査を実施することとなったものである。

（国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所）

Ⅱ　立地と環境

1　遺跡の位置と地理的環境

遺跡が所在する奥州市は、県南部の北上盆地を中心に西は秋田県に接し、東は物見山（種山高原）に達しており、平成18年に水沢市、江刺市、前沢町、胆沢町、衣川村の２市２町１村の合併により誕生した市である。古墳や安倍氏、藤原氏にまつわる旧跡をはじめ、近現代においても偉人を多く輩出するなど、長い歴史の中で受け継がれてきた多くの文化が根付いている。遺跡のある旧胆沢町（現胆沢区）は、西端の県境にそびえる奥羽山系の栗駒山（須川岳1627m）、焼石岳(1548m)から拡がる山々と胆沢川を中心とした大小河川により河岸段丘が形成され、胆沢川中流市野々付近を扇頂部とし東方北上川に向かって大規模な扇状地となっている。この胆沢扇状地は、更新世中期から後期にかけて胆沢川の開析を受けて形成された。近年の大上･吉田(1984)や渡辺(1991)氏らの研究では、胆沢扇状地は、高位からＴ１（大歩面）・Ｔ２（一首坂面）・Ｔ３（西根面）、Ｈ１（上野原面）・Ｈ２(横道面)、Ｍ１(堀切面)･Ｍ２（福原面）、Ｌ１（水沢高位面）･Ｌ２（水沢低位面）の9面に区分される傾斜扇状地で、1辺約20km、面積が約20,000haにも及び、国内最大級の扇状地で県下有数の穀倉地帯となっている。

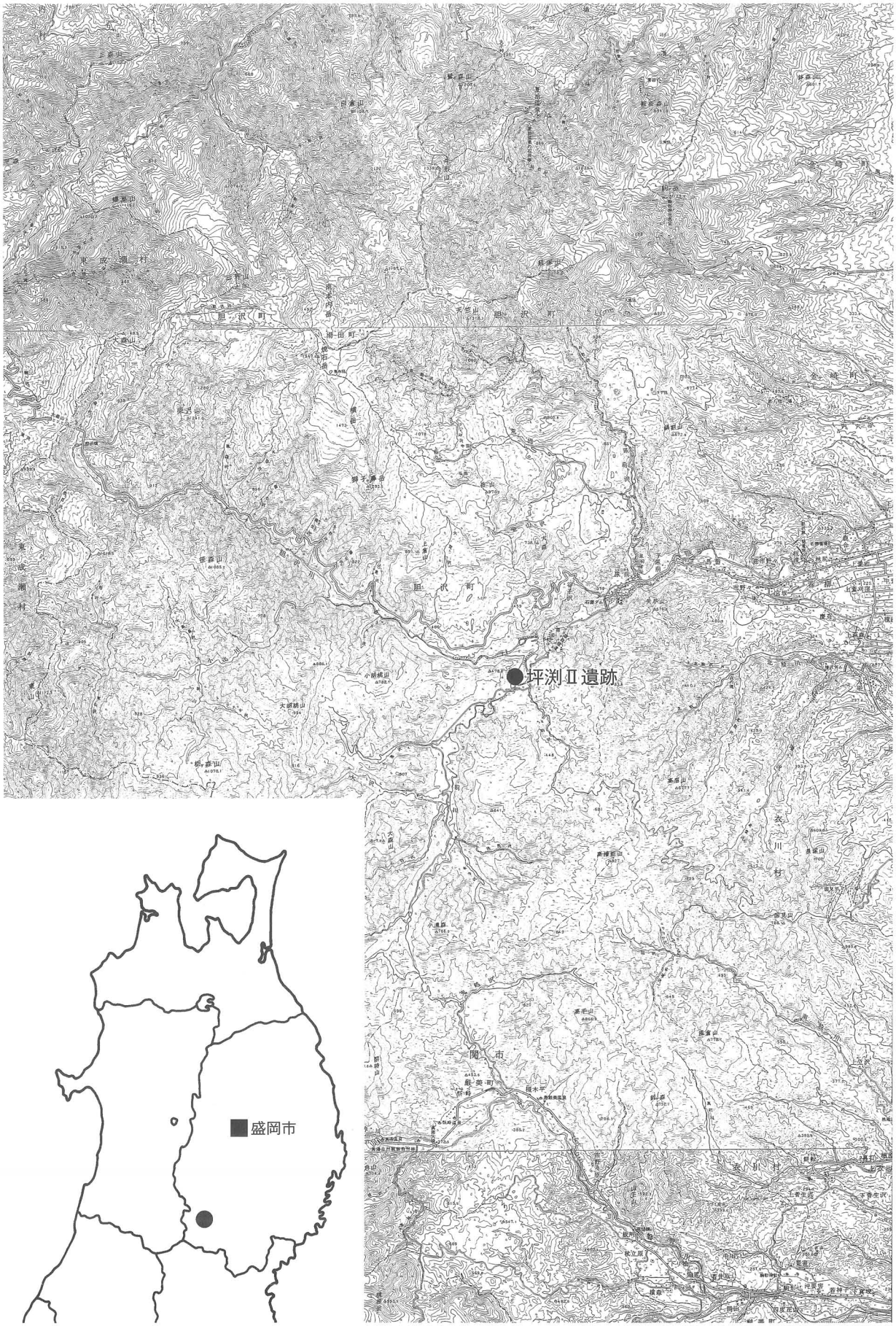
本遺跡はその扇頂部より更に奥にあり、奥州市役所の西南西方向約25.1km、市胆沢支所西方約17km、北緯39度5分57秒、東経140度52分48秒に位置する。北は大森山（739m）、西は大胡桃山（934m）・小胡桃山（783m）、南は大森山（818m）・高檜能山（927m）、東は媚山（684m）に囲まれた石淵ダム西南に坪渕Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡が密接してある。今回調査が行われた坪渕Ⅱ遺跡は、石淵ダムに注ぐ胆沢川支流前川左岸の河岸段丘面に立地し、北東に石英安山岩質凝灰岩の一大巨峰である猿岩（549m）を眺める南東向きの緩斜面となっている。地形分類図上では砂礫段丘ではあるが、その後の改変等のためか崖錐性の礫を多く含んでいる。標高は346～353mであり、現在石淵ダムとの標高差は35m前後、挟まれた坪渕Ⅰ遺跡や坪渕Ⅲ遺跡よりも高位にある。現況は山林で、約40年前までは数件の民家があったが、ダム建設に伴う移転後は無人となっている。前川と胆沢川との合流地点である500m東には下嵐江Ⅰ・Ⅱ遺跡が、本遺跡よりも前川上流1.5km西には大平野Ⅱ遺跡がある。

2　歴史的環境

平成17年度版の岩手県遺跡台帳に登録されている奥州市の遺跡は1,065カ所にのぼり、このうち胆沢区（旧胆沢町）内の登録数は185遺跡である。これらは縄文時代の遺跡が大半で、該期との複合遺跡を含めると全体の約7割を占めるが、旧石器から中・近世に亘り多くの遺跡が存在する。

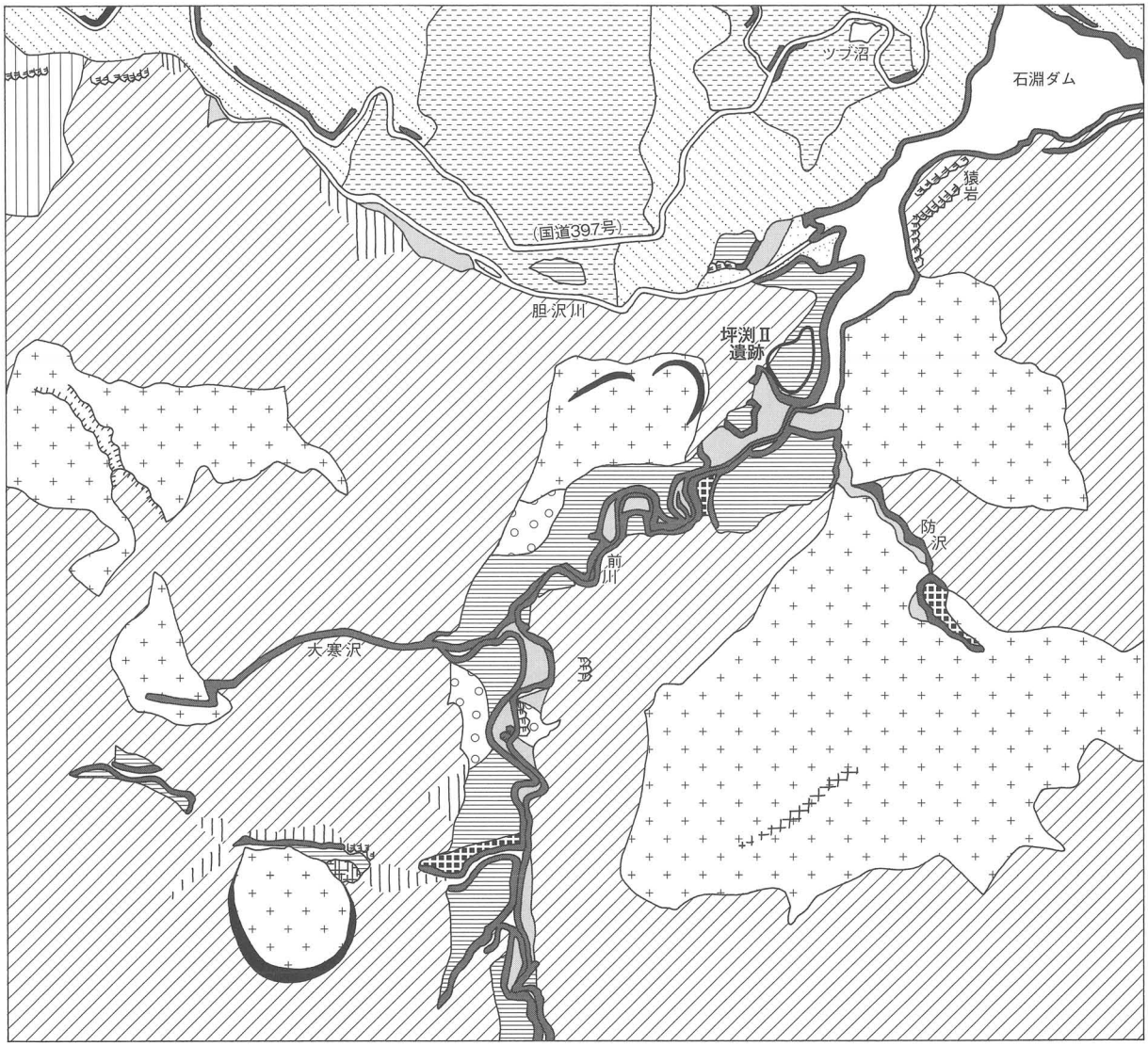
旧石器時代の遺跡としては、昭和50年から3年間胆沢町教育委員会が中心となって調査を行った上萩森遺跡がある。調査の結果2面の文化層が確認され、ナイフ形石器や彫器、スクレーパー等、数ユニットをなして2,000点以上の遺物が確認された。下部のⅡｂ文化層は前半期～中葉期に位置づけられている。また、胆沢町史には、山神遺跡や上佐布遺跡からもほ場整備や開田時に石器が発見されたことが紹介されている。近年では、平成16年度に当センターが調査した二の台長根遺跡、平成18・19年度に同じく当センターで調査した岩洞堤遺跡などで旧石器が出土している。

縄文時代では、先述したとおり大半の遺跡がこの時代に属し広く分布する。草創期に位置づけられる遺跡は確認されていないが、下尿前Ⅳ遺跡から「小瀬ヶ沢型」に似た有舌尖頭器が２点、大平野Ⅱ



第１図　遺跡位置図

１：125,000 川尻・焼石岳・栗駒山



山　地

大起伏山地
(起伏量 400m 以上)

中起伏山地
(起伏量 400～200m)

小起伏山地
(起伏量 200m 未満)

火 山 地

中起伏山地
(起伏量 400～200m)

小起伏山地
(起伏量 200m 未満)

台　地

砂礫段丘Ⅱ

砂礫段丘Ⅲ

低　地

扇状地

崖錐性扇状地

谷底平野及び
氾濫平野

河原

地すべり地形

崩壊地

土石流地形

崖・段丘崖及び
ダム堰堤

麓屑面及び崖錐

壁岩

第２図　地形分類図

遺跡からも有舌尖頭器が出土している。

早期の遺跡としては、尼坂遺跡がある。尼坂遺跡は昭和26年の東北大学の調査をはじめとし、これまで４回の発掘調査が行われ、検出された竪穴住居跡から、貝殻文、条痕文、縄文条痕文、表裏縄文、羽状縄文の土器が出土している。また、漆町遺跡からも撚糸文をはじめ、貝殻文など早期の土器が出土している。

前期の遺跡では、先の尼坂遺跡の第４次調査で前期前半の土器が出土しているほか、前葉期の住居跡を検出している芦の随遺跡や、末葉期の浅野遺跡がある。大規模遺跡としては、近年調査された前期末の大清水上遺跡があげられる。この遺跡は当センターにより平成12年度から5カ年に亘って調査が行われ、竪穴住居跡74棟、土坑203基など、大形住居を主体として構成される縄文時代前期後葉（大木5式期）に相当する環状集落跡であることがわかった。

中期の遺跡には宮沢原遺跡群があり、前葉～末葉（大木７a～10式）にわたる住居跡が多数検出されている。このうち宮沢原Ａ・Ｅ・Ｅ東遺跡における大木９～10式期の住居跡では、「上原型複式炉」と呼ばれる土器埋設炉と石敷き石組部からなる複式炉を持つものが多く、注目される遺跡のひとつである。

後期になると、扇状地地帯ではこれまでより下位の段丘面に分布する傾向が見られるが、遺構を確認している遺跡は少ない。宮沢原Ｄ遺跡では、門前式の可能性がある立石を伴う土坑が検出されている。また、尿前ⅡＡ遺跡や下尿前Ⅱ遺跡からは、後期前葉～中葉期に位置づけられる可能性を持つ住居跡と土坑が検出され、また赤剥遺跡や南中沢遺跡からも後期前半の土器が出土している。

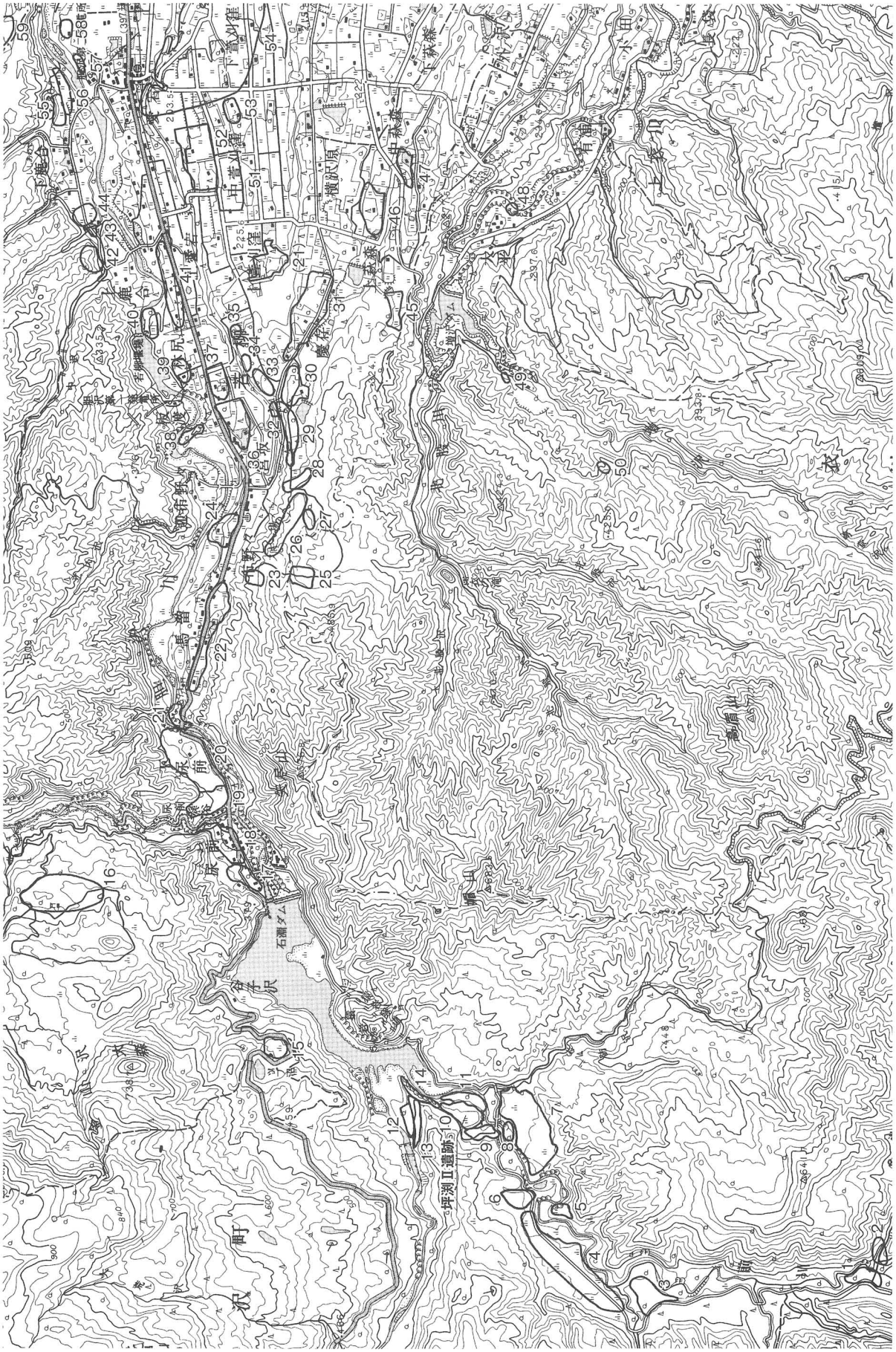
晩期の遺跡も後期と同じような分布傾向を見せる。後葉期の墓壙と炉跡が検出されている南中沢遺跡のほか、赤剥遺跡や合野遺跡などからは該期の土器片が出土している。下嵐江遺跡でも、独鈷石とともに中葉の土器の出土が認められている。

多くの縄文時代の遺跡に比べ、弥生時代の遺構、遺物が確認されている遺跡は大変少ない。台帳から確認できるのは、昭和52年に架橋工事中に県内で初めて石包丁2点が発見された清水下遺跡、また土器が出土している荻袋遺跡や上愛宕原遺跡などである。下尿前Ⅳ遺跡からも後期の土器片が出土している。

古墳時代には、本州最北端に位置する県内最古の前方後円墳である角塚古墳がある。同古墳は国の指定史跡となっており、その造営年代は５世紀末～６世紀初頭と考えられている。これより北方２km には、角塚古墳と同時期と推定される方形区画の濠で囲まれた集落跡や、古式須恵器の瑳と坏、大量の黒曜石などが出土した中半入遺跡も存在する。

奈良、平安時代になると更に遺跡登録数は増加する。沢田遺跡調査報告書（1988）の中にも述べられているように、「農耕社会の確立が促した生活領域の拡大」によって、沖積地における集落形成がなされていく。二本木遺跡からは、奈良時代後半～平安時代初頭の遺物とともに８棟の竪穴住居跡が検出されているほか、８世紀第１四半期と見られる畿内系暗文土器と関東系土器が出土している。沢田遺跡からは８世紀中～後半の竪穴住居跡が、また同時期の焼失住居跡が確認されている要害遺跡などがある。９世紀以降の遺跡としては同沢田遺跡（９世紀末～10世紀代）、宇南田遺跡（９世紀中葉頃）などから住居跡が、小十文字遺跡では住居跡とともに同時期と思われる作業場跡が検出されている。また、石行遺跡では10世紀の焼土遺構がまとまって検出されている。

中・近世の城館跡は12カ所登録され、特にも近世の扇状地における水文化の歴史には欠かせない遺構も多く残っている。平成10年から行われた調査（平成10岩埋文、平成13胆沢町教委）により明らかになった旧穴山堰跡は、「馬留取水口」「昭和穴出口」「七左エ門口」などが次々と発見され、当時の



第３図　周辺の遺跡図

第１表　周辺の遺跡一覧表

NO	遺跡名	時代	種別	遺構・遺物	備考
1	渋民沢	縄文・近世	散布地	縄文土器（中）　近世鉱山跡　寺院跡	
2	渋民沢Ⅱ	近世	鉱山跡	寺院跡　鉱道跡等	
3	大寒沢				平成 14 新規
4	大平野Ⅱ	縄文・弥生・中世	集落跡	竪穴住居跡（中～後）　土坑　中世炉跡　縄文土器（早～晩）弥生土器	平成 14 範囲変更　平成 18 ～調査
5	迎大平野				平成 14 新規
6	大平野Ⅰ	縄文	散布地	縄文土器	平成 14 範囲変更
7	平根原Ⅰ	縄文	散布地	縄文土器	平成 14 範囲変更
8	平根原Ⅱ	縄文	散布地	縄文土器	平成 14 範囲変更
9	坪渕Ⅰ	縄文	散布地	縄文土器	平成 14 範囲変更
10	坪渕Ⅱ	縄文・近世	集落	竪穴住居跡（後・晩）　土坑　掘立柱建物跡　近世墓壙	平成 14 範囲変更　本報告書
11	坪渕Ⅲ	縄文	散布地	縄文土器	平成 14 範囲変更
12	下嵐江Ⅲ	縄文	散布地	縄文土器	平成 14 範囲変更
13	下嵐江Ⅰ	旧石器・縄文・近世	散布地	旧石器　縄文土器　掘立柱建物跡（近世）　近世墓壙	平成 14 範囲変更
14	下嵐江Ⅱ	旧石器・縄文・近世	散布地	旧石器　縄文土器　掘立柱建物跡（近世）　近世墓壙	平成 14 範囲変更
15	谷子沢	縄文	散布地	縄文土器	平成 14 範囲変更
16	蜂谷	縄文	散布地	縄文土器　石器	
17	尿前Ⅱ	縄文	集落跡	縄文土器（早・前・後・晩期）　石器　住居跡	Ｂ地区県埋文報告書第 343 集　平成 14 範囲変更
18	尿前Ⅰ	縄文	散布地	縄文土器　石器	平成 14 範囲変更
19	下尿前Ⅱ	縄文・弥生	散布地	縄文土器（早・前期）　有舌尖頭器　弥生石鏃	県埋文報告書第 252 集　下尿前Ⅳ改め　平成 14 範囲変更
20	下尿前Ⅰ	縄文・弥生・中近世	集落跡	竪穴住居跡（中･後）　土坑（早～晩）　石器　弥生土器　中･近世	平成５～平成７調査　平成 14 範囲変更　下尿前Ⅱ・Ⅲ統合
21	旧穴山堰跡	中世～現代	生産遺跡	隧道　石積　水門　水門遮水板　取水口	平成 10 県、平成 13 町教委調査、平成 14 範囲変更
22	馬留	縄文	散布地	縄文土器	平成 14 範囲変更
23	なめだけⅢ	縄文	散布地	縄文土器	
24	市野々	縄文・古代	散布地	縄文土器　須恵器	平成 14 範囲変更
25	僧寺	縄文	散布地	縄文土器	
26	なめだけⅡ	縄文	散布地	縄文土器	
27	大清水上Ⅱ	縄文	散布地	縄文土器（早・前・後・晩期）	
28	なめだけⅠ	縄文	散布地	縄文土器	
29	大清水上	縄文	集落跡	縄文土器（早・前・後・晩期）　石鏃　槍　ほか	胆沢町埋文報告書第 15 集　県埋文報告書第 475 集
30	大清水	縄文	散布地	縄文土器（早・前・後・晩期）　石鏃　槍　ほか	
31	上横沢原	縄文	散布地	縄文土器（後・晩期）　土偶	
32	横沢原	縄文	散布地	縄文土器（後・晩期）　土偶	
33	横沢原Ⅲ	縄文	散布地	縄文土器	
34	横沢原Ⅱ	縄文	散布地	縄文土器	
35	横沢原Ⅳ	縄文	散布地	縄文土器	
36	宮坂	縄文	散布地	縄文土器（後期）　石鏃	
37	三本柳	縄文	散布地	縄文土器（後・晩期）　土偶	
38	猪の鼻館（栄の華館）	近世	城館跡	二郭　空堀　土塁	
39	林尻	縄文	散布地	縄文土器	
40	萩袋	縄文・弥生・古代	散布地	縄文土器（晩期）　土偶　弥生土器　土師器	
41	岳山	縄文　古代	散布地	縄文土器（後・晩期）　土師器	
42	鹿合館（山居館）	中世末期	城館跡	空堀　掘立柱建物跡　小札　陶器　石匙　石鏃	一部調査
43	上鹿合	縄文	集落跡	縄文土器　石器	
44	南中沢	縄文	散布地	縄文土器（後・晩期）　石匙　石鏃　石斧　石棒	一部調査
45	上萩森	旧石器・弥生	散布地	旧石器　ナイフ形石器　スクレーパー　石核　弥生土器	一部調査
46	萩森北	縄文・弥生	散布地	縄文土器（前・中期）　石斧　石鏃　飾具　弥生土器	
47	前萩森	縄文	散布地	縄文土器（前・中期）　石斧　石鏃　飾具	
48	大平	縄文	散布地	縄文土器	
49	松山寺	中世	寺院跡	石垣	
50	小谷館	中世	城館跡		
51	萱刈窪Ⅱ	縄文	散布地	縄文土器	
52	宮沢原Ⅱ	縄文	散布地	縄文土器	
53	萱刈窪	縄文前期	散布地	縄文土器（前期）　石匙　石斧　石鏃　槍　剣　ほか	
54	宮沢原	縄文	散布地	縄文土器（前期・中期）　石匙　石斧	
55	下鹿合東	縄文	散布地	縄文土器（晩期）	
56	下鹿合東Ⅱ	縄文	散布地	縄文土器（晩期）	平成４新規
57	かどっしょ	縄文　古代	散布地	縄文土器　土師器	平成４新規
58	門ヶ城	中世	城館跡	三郭	
59	中山	縄文	散布地	縄文土器（中・晩期）	

高度な土木技術を我々に見せてくれた。中世から現代まで連綿と続いた重要な遺跡である。

これまでは胆沢扇状地内での遺跡調査が多かったが、胆沢ダム建設事業の進展に伴って、本遺跡周辺の遺跡の内容も徐々に明らかになってきている。ここでは、上記の遺跡と重複している遺跡もあるが、ダム建設関連で本調査が行われた遺跡を下記に示す。

調査時期	遺跡名	調査成果	備考
平成５～７年	下尿前Ⅱ遺跡	縄文時代中期後半、後期前葉の住居、配石遺構を主体に弥生、古代、中・近世の遺物を出土	岩埋文252集
平成８年	下尿前Ⅳ遺跡	縄文時代草創期～前期、弥生時代後期の土坑検出、近・現代の焼土、炭窯検出	岩埋文269集
平成９年	尿前ⅡＡ地区遺跡	縄文時代早期末～前期を含む、後期中葉主体の住居跡、集石を検出	岩埋文288集
平成10年	穴山堰遺跡	平堰跡、穴堰跡、余水吐、石積・水門	岩埋文311集
平成11年	尿前ⅡＢ地区遺跡	縄文時代後期前葉主体とした住居跡を検出　前期、晩期の遺物も出土	岩埋文343集
平成12年	大清水遺跡	縄文時代前期前葉～晩期の遺物出土、縄文時代を主な時代とする狩場跡	岩埋文373集
平成15年	蜂谷遺跡	近代の土坑を検出	岩埋文455集
平成12～16年	大清水上遺跡	大形住居を伴う、縄文時代前期後葉を中心とした大規模な環状集落跡	岩埋文475集
平成18～	大平野Ⅱ遺跡	縄文時代中～後期の住居、土坑を検出、有舌尖頭器、弥生土器出土	岩埋文略報第524集
平成19～	下嵐江Ⅰ・Ⅱ遺跡	旧石器出土、近世の建物跡および墓壙を検出	
平成19～	**坪渕Ⅱ遺跡**	縄文時代後晩期の住居、土坑、近世の墓壙出土	

注）ダム建設区内の遺跡については、県教育委員会生涯学習文化課による範囲確認調査によって範囲や遺跡名が変更になったものも多い。現在、上記の下尿前Ⅱ遺跡は、隣接するⅢ遺跡を統合して下尿前Ⅰ遺跡に、同様に下尿前Ⅳ遺跡は、下尿前Ⅱ遺跡として登録されているが、一覧表への掲載はこれに従っている。

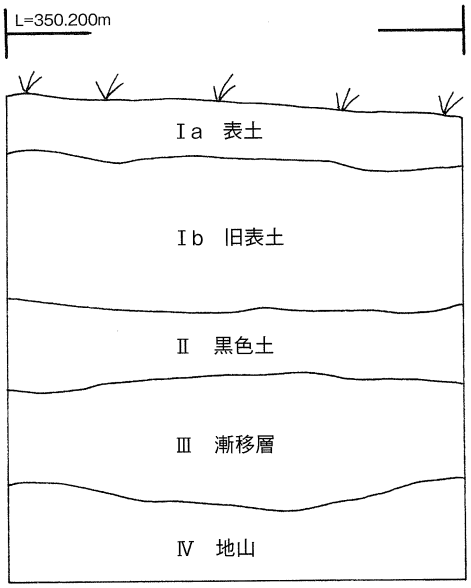
また、当遺跡を含む一帯は旧仙北街道筋にあたり、下嵐江Ⅰ・Ⅱ遺跡から大平野遺跡一帯まで、下嵐江（東下嵐江）として古くから文献にも載っている地区である。この地域の屋敷数は、『安永風土記』には、水沢町を除いて街道筋中18軒と最も多く記されており、また大平野Ⅱ遺跡南方にある渋民沢遺跡には旧鉱山跡があって、金山（カネヤマ－下嵐江銀山）として中世から江戸にかけて栄えた。この頃には更に多くの人々が住み、職種も様々だったようである。後には胆沢ダム入り口の市野々に移ったが、一時は番所が置かれたこともある。下嵐江部落の南東にそびえる猿山には「於呂閉志神社」があり、集落の厚い信仰を集めた。その神社の別当は、下嵐江部落のトヤ（高橋家）が代々司り旧仙北街道の人馬継立・物資の管理などをも勤めるなど、政治的にも経済的にも更には宗教の中心的な役割を担っており、この周辺が重要な場所であったことが言えよう。

この地区では、昭和中頃までは小学校の分校（愛宕小学校前川分校、同石淵分校、同分校下嵐江校）が造られるほどの人家があったようだが、かつての石淵ダム、現在の胆沢ダム建設という二度にわたる事業により、家屋は取り払われ人けも全くない。

3　基　本　層　序

平成19年度調査では、調査区が現道により分断されていたため、便宜的に北側調査区と南側調査区と名付けて区別した。基本土層は、地形改変が少ない北側調査区道路側で確認したが、その層序は以下のとおりである。

Ⅰａ層：黒褐色土　現表土（現森林腐植土）小礫含
　　層厚10 ～ 20cm
Ⅰｂ層：黒褐色土　旧耕作土および腐植土小礫含
　　層厚30 ～ 40cm
Ⅱ　層：黒色土　部分的に礫多い
　　北側調査区高位部で未発達
　　崖錐性堆積物含　層厚15 ～ 30cm
Ⅲ　層：暗褐色土　Ⅳ層の漸移層
　　崖錐性堆積物全体に含
　　層厚20 ～ 30cm　縄文遺物包含層
Ⅳ　層：明黄褐色粘土　遺構検出面
　　崖錐性の礫（拳大、人頭大）含む
　　地山　層厚１ｍ以上



第４図　基本層序

北側調査区は地形分類図でもわかるように中起伏地で、南側調査区よりも傾斜を増しており、表土（Ⅰ層）を剥ぐとすぐにⅣ層が検出された。それに対して、南側調査区ではⅠ層とⅡ層が発達している。また南側調査区の南側（標高347m以下）では、北側調査区を中心に全体的に拡がっていた崖錐性堆積物が極めて少なくなっている。

国道397号
450
402
436
400
350
貯水池
（石淵ダム）
314
548
猿岩
500
猿岩隧道
450
400
350
胆沢川
350
350
400
400
350
350
平成19年度
調査区
雨沼森
△478.6
450
平成20年度
調査区
前川
390
400
坪渕Ⅱ遺跡
350
前川橋
325
防沢橋
343
400
350
防沢
350
350
350
376
ヒラネ沢
桧沢
350
400
400
443
1：10,000

第５図　遺跡周辺図

Ⅲ　野外調査と室内整理の方法

１　野　外　調　査

（１）グリッドの設定

調査グリッドは、平面直角座標第Ｘ系（世界測地系）の座標軸を基準として、まず50×50mの大グリッドを設定した。大グリッドは、東西方向を西から東にローマ数字のＩ、Ⅱ・・・、南北方向を北から南にＡ、Ｂ・・・とし、小グリッドはその中を５×５ｍに分割、東西方向を算用数字１～10、南北方向をａ～ｊの10等分した。そして、グリッドの表記は「ＩＡ１ａ」「ⅡＢ２ｂ」などのように、大・小グリッドの組み合わせとした。

各基準点の成果値と杭高（標高＝Ｈ）は次のとおりである。

基１　　Ｘ＝－ 99940.000、Ｙ＝4030.000、Ｈ=353.470m
基２　　Ｘ＝－100025.000、Ｙ＝4030.000、Ｈ=346.927m
補１　　Ｘ＝－ 99940.000、Ｙ＝4055.000、Ｈ=351.509m
補２　　Ｘ＝－ 99940.000、Ｙ＝4085.000、Ｈ=348.499m
補３　　Ｘ＝－100000.000、Ｙ＝4030.000、Ｈ=347.879m
補４　　Ｘ＝－100000.000、Ｙ＝4050.000、Ｈ=347.036m

（２）試掘・表土除去

便宜的に北側調査区・南側調査区と名付けたことは先述のとおりだが、それぞれの調査区において地形の傾斜に応じて試掘トレンチを設定し、表土の厚さや遺物の有無を確認した。結果、調査区全域で崖錐性の礫が厚く堆積していることが判明、人力による遺構検出は不可能と判断し、表土およびその下の黒色土・漸移層については重機によって除去した。

この周辺に人家がなくなってから40年以上経っていることもあって、調査区内にも大小さまざまな立木があったらしく、伐採終了後であっても広く根を張った木根が多く残されていた。木根の除去については、遺構に影響がありそうなものはそのまま残し人力で根の処理を行った。

（３）遺構の検出と精査

表土除去後には遺構検出作業を行ったが、その最中に見つかった遺物はグリッドごとに取り上げた。縄文時代の遺構については、竪穴住居跡は十字になるようベルトを設け（４分法）埋土の断面実測を、土坑等は半裁（２分法）して断面実測を行い、その後完掘→平面実測と進めた。近世墓壙は、明らかに改葬されているものは、平面とエレベーションのみ記録した。柱穴は、柱あたりが確認されないものは検出状態で土層を観察した後に掘り上げた。

遺構名については、野外調査では検出順に遺構ごとに連番で登録し、いずれの年度においても室内整理の段階で遺構名を変更した。遺構は種類ごとに三桁の数字で表したが、百の位は時期（１は縄文、２は近現代、３は時期不明）を、それ以下は種類ごとの連番となっている。

野外調査における平面図作製は、平成19年度は概ね光波トランシット測量、平成20年度は遣り方測量で行った。図面の縮尺は、全体図（調査区範囲・等高線図含む）を除いて、住居内の炉を１／10

で記録した以外は１／20を基本とした。

写真撮影は、近世墓壙や柱穴を除いて精査の段階ごとに撮影した。記録保存用として、35㎜カメラ（モノクローム・カラーリバーサル）をフィルムごと各１台使用し、主たる遺構については中判カメラ（６×７㎝判モノクローム）での撮影も行った。また、調査過程や状況写真なども含めて、補助的な撮影はデジタルカメラも併用した。

遺跡全体および遺跡周辺の空撮は委託撮影とし、調査終盤に小型飛行機により（モノクローム・カラーリバーサル）での撮影を行った。

（４）調　査　経　過

当該遺跡の調査は、2カ年にわたって行った。年度ごとの調査経過は下記のとおりである。

＜平成19年度＞

5月１日（火）　調査開始（資材搬入・環境整備）
5月11日（金）　業者による雑木撤去
5月30日（月）　基準点設置完了（(株）ランド技術設計）
6月11日（月）　終了確認
6月20日（水）　空撮（(株）東邦航空）
6月22日（金）　調査終了・資材撤去作業

＜平成20年度＞

4月11日（金）　調査開始（資材搬入・環境整備）
5月28日（水）　終了確認
5月29日（木）　調査終了

２　室　内　整　理

野外調査時に作製した図面の点検、遺物洗浄、接合・復元、写真整理等は、原則として野外調査と並行して行った。

遺構図面は、点検後に第2原図を作成した。挿図の縮尺は仕上がり１／40を原則とし、それぞれ図版内にスケールを付した。なお、繰り返しになるが、室内整理時において時代ごとに遺構名を変更・再登録し、掲載にあたっては時代ごとおよび遺構種類ごととした。縄文時代の遺構には101号～、近世遺構には201号～、時期不明遺構には301号～の番号を付した。

遺物は洗浄後に点検し、遺構内外に分けて登録、重量測定後、注記・接合・復元を行った。その後、掲載遺物を選択し、実測・トレース・写真撮影・図版作成と作業を進めた。

報告書に掲載した遺物の選択基準は、土器は、遺構内出土のもので実測可能なもの全て（小破片資料が多い場合は文様の明瞭なもの）、遺構外では接合復元である程度実測可能になったもの（口縁部、文様明瞭のもの優先）である。陶磁器類については、墓壙内出土はもちろん遺構外の出土ではあっても、遺構の年代に関わるものは一部掲載した。石器は、加工痕を有するものは全て掲載した。

挿図中の縮尺は、土器類は１／３、石器類は１／２原則としているが、一部任意縮尺のものもある。

野外調査中に撮影した写真は、モノクロームはフィルムの規格ごとにネガアルバムに整理した。遺物は、報告書記載のもので立体遺物、陶磁器類、金属製品、石器は、キャノンＥＯＳ１Ｄ（1670万画素）で、土器破片資料はキャノンＥＯＳ５Ｄ（1280万画素）等を用いて、当センターの職員及び外注先の

技師が撮影した。その際はＲＡＷモード撮影を行い、当センター所有のハードディスクに遺跡名・遺構名・登録番号をつけ保存した。写真図版中の縮尺については、なるべく実測図版と同じになるようにしたが、小破片および大型製品については、見やすくするため任意の縮尺で掲載した。実測図版を参照していただきたい。なお、図版中の遺物番号と写真図版中の遺物番号は一致している。

参考文献・引用文献

岩手県教育委員会　2005　岩手県遺跡台帳（CD-ROM版）

胆沢町　1981　『胆沢町史Ⅰ　原始・古代編』

胆沢町　1982　『胆沢町史Ⅱ・Ⅲ　古代・中世編』

胆沢町　2000　『胆沢町史Ⅴ　近世編２』

胆沢町　2002　『胆沢町史Ⅵ　近・現代編１』

胆沢町　2004・2006　『胆沢町史Ⅶ　近・現代編２　前・中編』

岩手県教育委員会　1980　『岩手県「歴史の道」調査報告　仙北街道』　岩手県文化財調査報告書第43集

宮城県　1970　『宮城縣史32』資料編９

胆沢町教育委員会　1997　『安永風土記　記載百姓屋敷調べ』　胆沢町文化財調査報告書第19集

胆沢町教育委員会　1993　『胆沢ダム建設に伴う緊急民族調査報告書』　胆沢町文化財調査報告書第14集

胆沢町教育委員会　1983　『胆沢之古碑』

胆沢町教育委員会　2005　『胆沢町地名・屋号調査報告書』　胆沢町文化財調査報告書第32集

胆沢町教育委員会　1985　『大清水上遺跡調査報告書』　胆沢町文化財調査報告書第15集

胆沢町教育委員会　1988　『沢田遺跡調査報告書』　胆沢町文化財調査報告書第18集

胆沢町教育委員会　1995　『要害遺跡調査報告書』　胆沢町文化財調査報告書第26集

胆沢町教育委員会　1986　『宇南田遺跡調査報告書』　胆沢町文化財調査報告書第16集

胆沢町教育委員会　1981　『小十文字遺跡調査報告書』　胆沢町文化財調査報告書第11集

胆沢町教育委員会　1996　『石行遺跡調査報告書』　胆沢町文化財調査報告書第27集

胆沢町教育委員会　1991　『国分・芦の随遺跡調査報告書』　胆沢町文化財調査報告書第21集

胆沢町教育委員会　1988　『浅野遺跡調査報告書』　胆沢町文化財調査報告書第17集

胆沢町教育委員会　1977　『漆町遺跡調査報告書』

胆沢町教育委員会　1984　『二本木遺跡調査報告書』　胆沢町文化財調査報告書第13集

胆沢町教育委員会　1992　『尼坂遺跡　－第二次緊急発掘調査報告書－』　胆沢町埋蔵文化財報告書第22集

胆沢町教育委員会　1993　『尼坂遺跡（東）－第三次緊急発掘調査報告書－』　胆沢町埋蔵文化財報告書第23集

胆沢町教育委員会　1993　『尼坂遺跡（西）－第三次緊急発掘調査報告書－』　胆沢町埋蔵文化財報告書第24集

胆沢町教育委員会　1994　『尼坂遺跡　－第四次緊急発掘調査報告書－』　胆沢町埋蔵文化財報告書第25集

高橋信雄・昆野靖　1996　『日本の古代遺跡　51　岩手』　保育社

（財）岩埋文　1997　『下尿前Ⅱ遺跡発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第252集

（財）岩埋文　1998　『下尿前Ⅳ遺跡発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第269集

（財）岩埋文　1999　『尿前Ⅱ遺跡Ａ地区発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第288集

（財）岩埋文　1999　『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報』「穴山堰遺跡」　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第311集

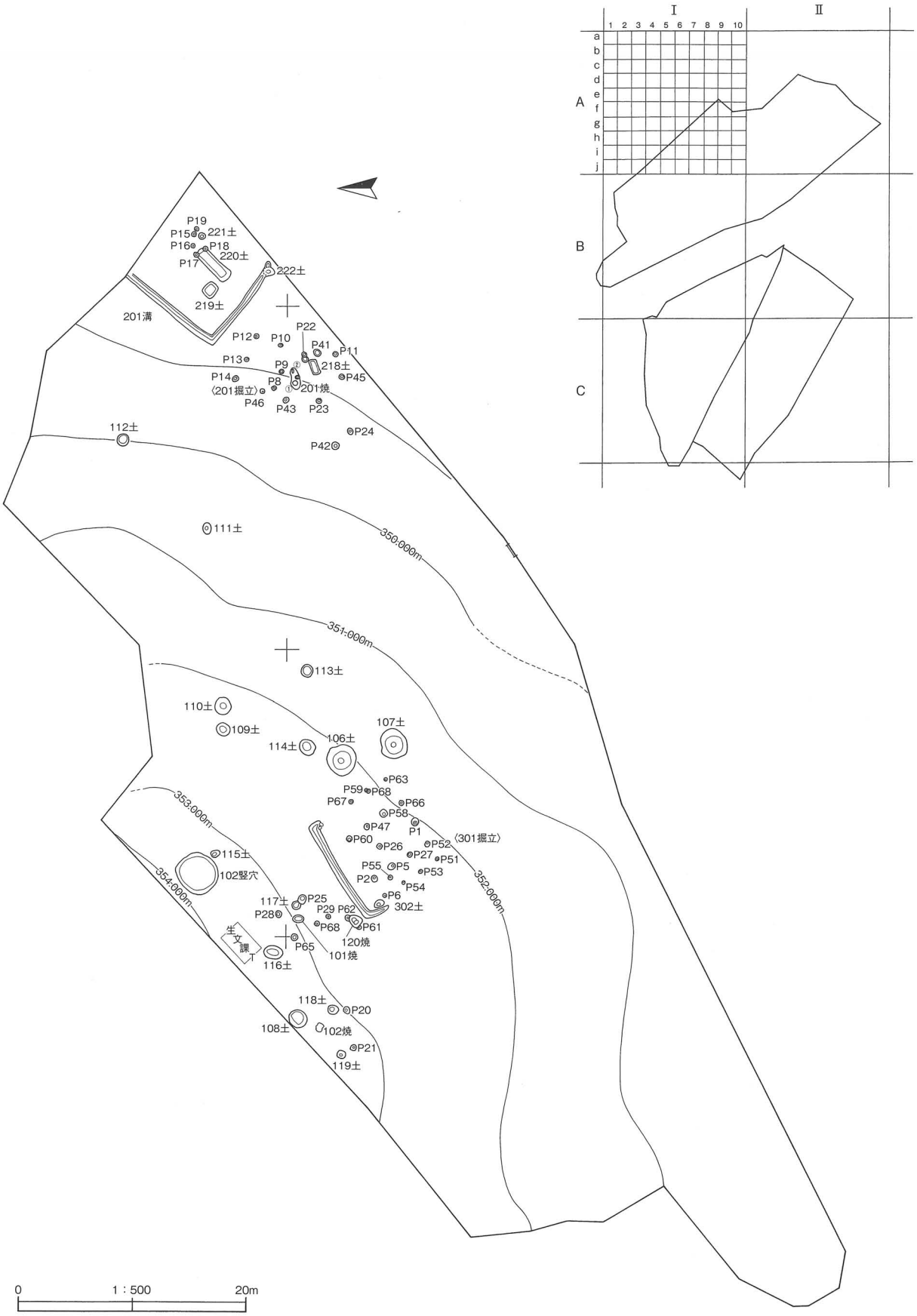
（財）岩埋文　2000　『尿前Ⅱ遺跡Ｂ地区発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第343集

（財）岩埋文　2001　『大清水遺跡発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第373集

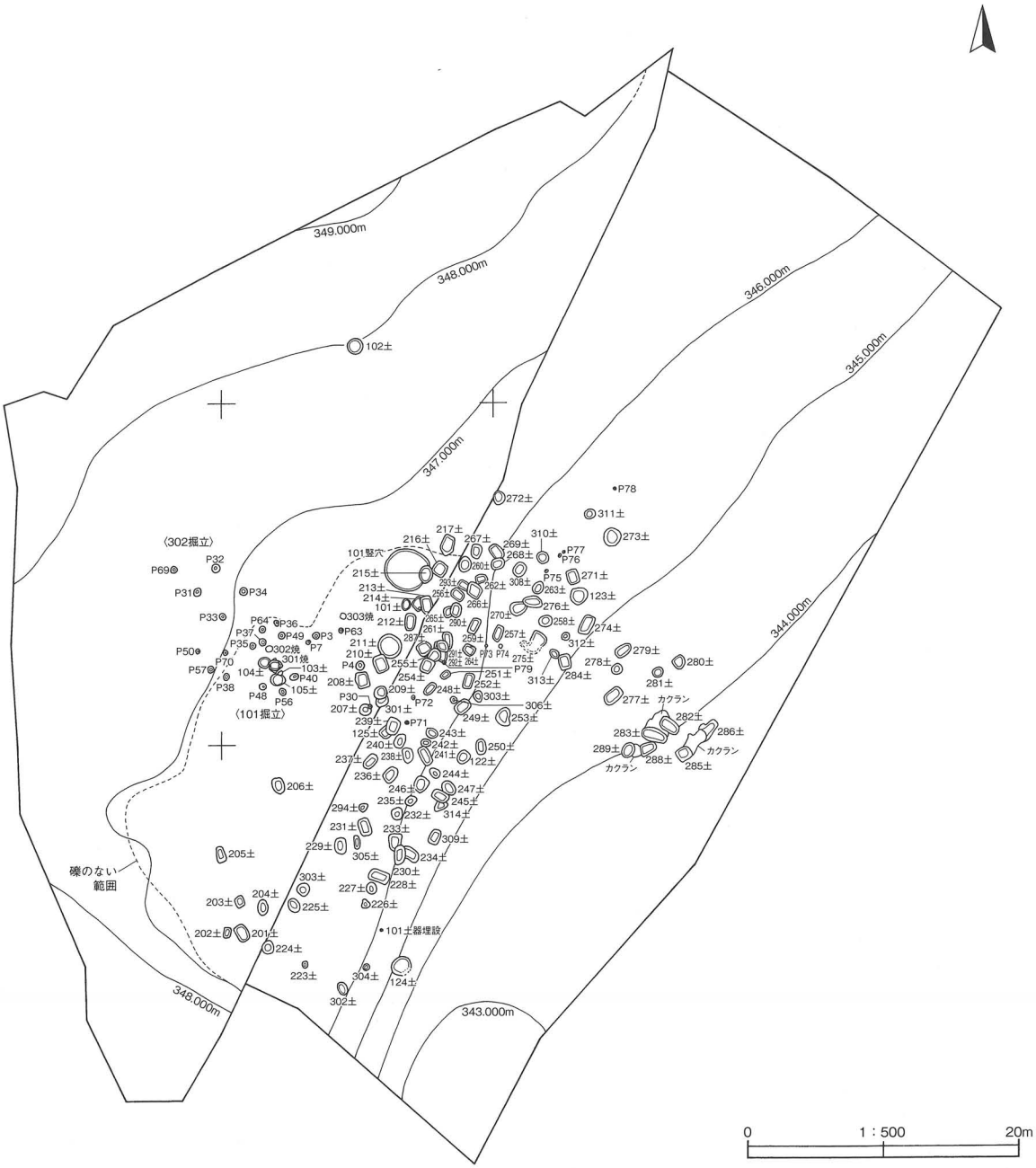
（財）岩埋文　2004　『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報』「蜂谷遺跡」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第455集

（財）岩埋文　2006　『大清水上遺跡発掘調査報告書』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第475集

（財）岩埋文　2008　『平成19年度発掘調査報告書　2008』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第524集



第６図　平成 19 年度北側調査区遺構配置図



第７図　平成 19 年度南側調査区・平成 20 年度調査区遺構配置図

Ⅳ　検出された遺構と遺物

1　検出遺構の内訳

平成19年度と平成20年度の２カ年の調査により検出された遺構数は、下表のとおりである。

	縄文時代					近世以降						時期不明			
遺構種別	竪穴住居跡	掘立柱建物跡	土坑	焼土	柱穴状小土坑	掘立柱建物跡	土坑	墓壙	溝	焼土	柱穴状小土坑	掘立柱建物跡	土坑	焼土	柱穴状小土坑
平成19	2	2	21	2	5	1	4	18	1	1	15	2	1	3	11
平成20	0	0	4	0	0	0	0	72	0	0	0	0	13	0	9
合計	2	2	25	2	5	1	4	90	1	1	15	2	14	3	20

以下に年度別の調査結果を報告するが、いずれも遺構・遺物の順で記載する。

2　平成19年度調査

平成19年度の調査では、Ⅱ－1「遺跡の位置と地理的環境」でも述べたように崖錐性堆積物（礫）が多く含まれており、特に北側調査区では一見遺構は確認できないかと思われたが、検出を重ねた結果、若干礫の少ない区域に遺構が構築されていることが判明した。いくつかの試掘トレンチをあけて土器や石器が出土した地点は、遺構の検出地点と一致している。南側調査区においては、礫の極めて少なくなる区域に並ぶように近世の墓壙やその他の遺構が造られ、いくつかの縄文時代の遺構を壊す状態で検出された。

前章で既述したが、以下に縄文時代の遺構は101号～、近世遺構は201号～、時期不明遺構は301号～で記述する。

（1）遺　　構

a　竪穴住居跡

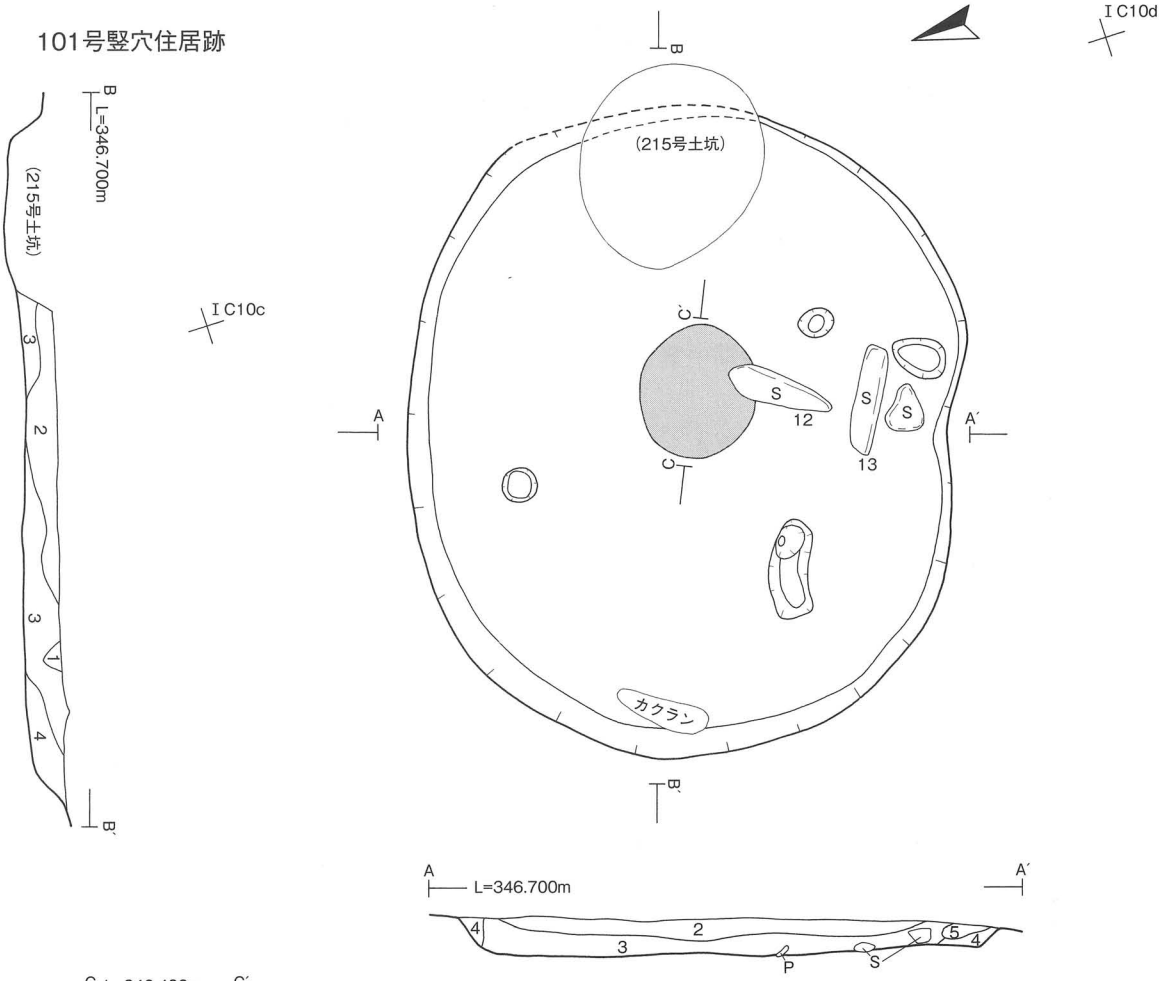
調査区中央を横断する現道を挟んで、北側調査区最北と南側調査区最南に各１棟検出されている。

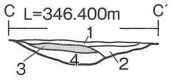
101号竪穴住居跡（第８図、写真図版３・４）

＜位置＞ＩＣ9ｃグリッド。

＜概要＞南側調査区の礫の少ない区域より、暗褐色土の埋土の上面に炭化物や縄文土器片を含んで検出された。東南部において215号土坑（近世墓）と重複しており、攪乱を受ける。北西－東南方向に長軸があるやや楕円形を呈する。壁溝はなく、壁は緩やかに立ち上がる。やや東南寄りに地床炉があるが、焼土はさほど発達していない。床は締まり、凹凸は少ない。北－西－南に計4個の小柱穴があるが、東は土坑との重複部分にあたり確認できなかった。炉の南側の床面直上でやや平坦な自然礫とともに横位状態の石棒２点が出土している。いずれも、60cmほどの長さをもち、１辺15cm内外の柱状の自然礫である。奥羽山脈を産地とした安山岩で、22.6kg、16.5kgである。周辺にはこのような柱状

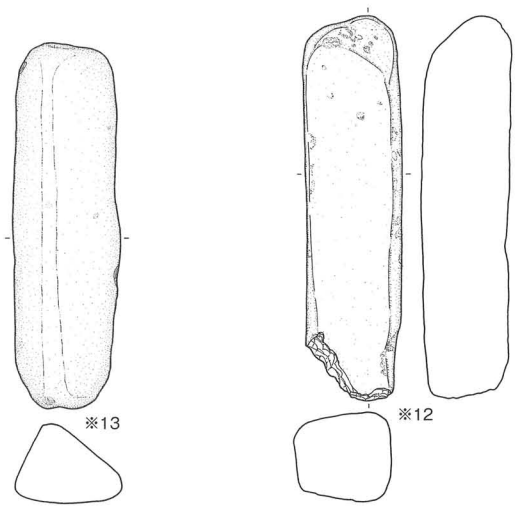
101号竪穴住居跡





C−C′
1　7.5YR4/3褐色土　粘性なし　しまり中　赤褐色焼土含
2　7.5YR3/4暗褐色土～7.5YR4/4褐色土　粘性なし　しまりややあり
3　5YR4/8赤褐色焼土　粘性なし　しまりややあり
4　7.5YR4/4褐色土　粘性ややあり　しまりやや中　上面赤褐色焼土若干含

A−A′、B−B′
1　10YR2/2黒褐色土　粘土質シルト　粘性あり　しまりなし　木根攪乱か
2　10YR3/2黒褐色土　粘土質シルト　粘性ややあり　しまりあり
炭化物粒および径５～10㎜大の小礫を含
3　10YR3/3暗褐色土　粘土質シルト　粘性しまりともにあり
炭化物粒、黄褐色土粒を全体に含
4　10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘土質シルト　粘性しまりともにあり
地山(Ⅳ層)崩落土で壁際に堆積
5　10YR4/4褐色土　粘土　粘性あり　しまりあり　粘土ブロック



0　1：40　2m

(※12. 13)
0　50㎝

第８図　101 号竪穴住居跡

の大型の自然礫はなく意図的に持ち込まれたものと判断した。２点のうち１点（12）は焼土の直上にあるものの被熱しておらず、もともとこの場所にあったものではない。立たせるとするならば支えや穴を掘る必要があるが、住居内ではそれらしいものは確認できなかった。縄文土器は小破片ばかりであるが、総出土量は1129.60ｇである。摩滅も著しく、縄文のみの地文がほとんどである。胎土や文様が辛うじて判断できる土器などから縄文時代後期中葉の可能性がある。
＜規模＞3.44×2.90m、壁高25cm、炉70×60cm（地床炉）、焼土厚12cm。
＜柱穴＞４個。　＜堆積土＞４層　自然堆積。
＜出土遺物＞縄文土器（１～11）、石棒2点（12・13）。
＜時期＞出土遺物から、縄文時代後期中葉と思われる。

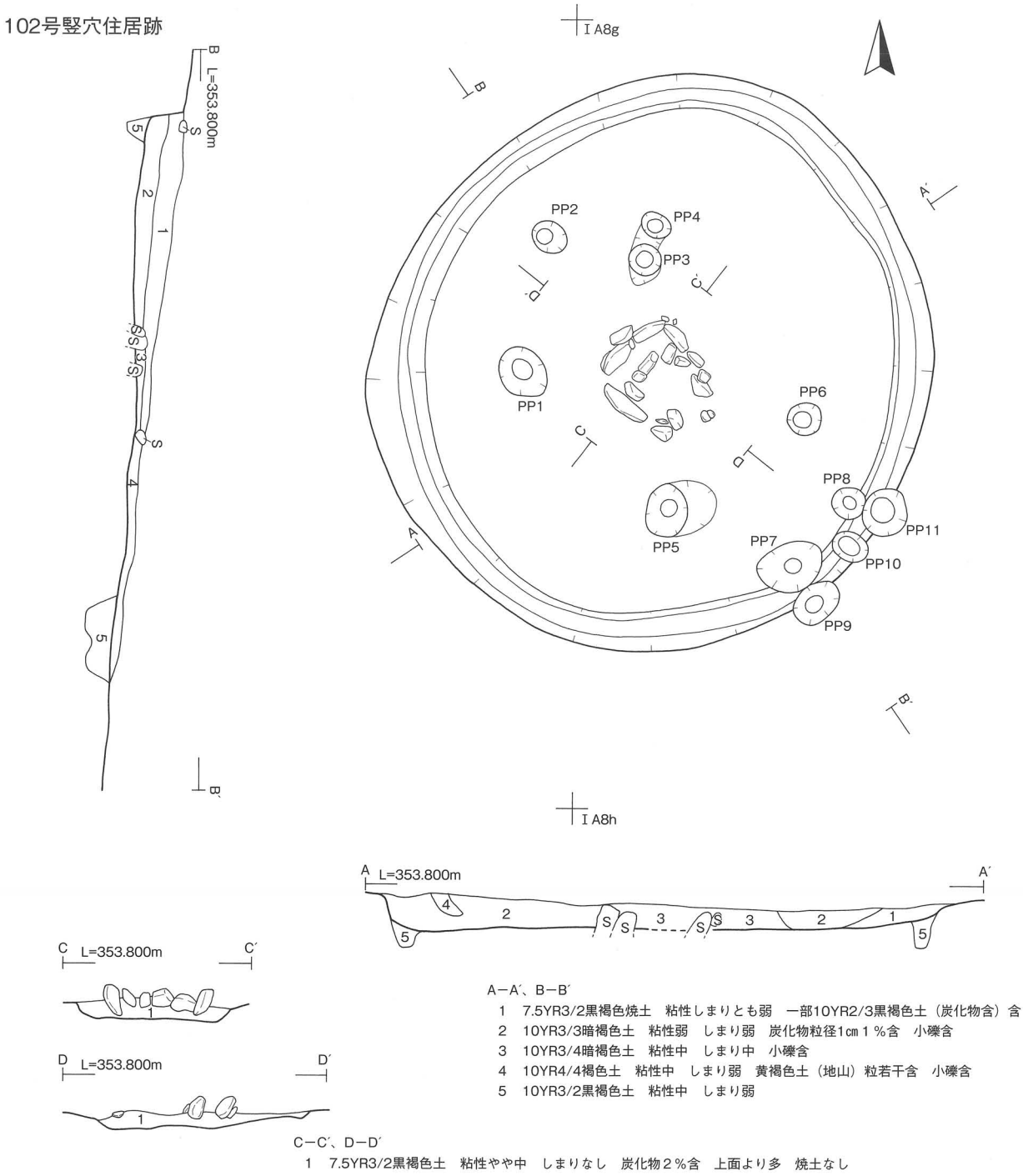
102号竪穴住居跡（第９図、写真図版４・５）
＜位置＞北側調査区ＩＢ7ａ・ＩＢ8ａグリッド。
＜概要＞北側調査区の最も北端の緩斜面上に位置する。検出作業時は周辺と同様に礫が散在してはいたが、土器片が周辺よりも若干多く検出されたことにより遺構確認につながった。遺物出土は破片状態で埋土全体に見られたが、特に北西側で多く見られた。ほぼ円形を呈しており、壁の立ち上がりは垂直に近く全周に周溝を巡らせている。ほぼ中央に方形の石囲炉があり、長軸方向が２重となる。30cm前後の亜角礫を中心に、10cm前後の小亜角礫を配している。使用される回数が少なかったのか、焼土はほとんど見られない。焼土中からは遺物は出土していない。石囲炉の周辺には５個の主柱穴と見られる小土坑があり、南東には、出入口施設跡の柱穴と見られる小土坑が５個検出された。北側のみＰＰ３、ＰＰ４と柱穴２個を確認しているが、その他の柱穴は単独であり、建て直し等も見られない。全体的に土器片が多く出土したが、当該遺構からの出土土器量は、総出土量の34％を超える割合で出土している。ＰＰ１付近からの出土が最も多く、ほとんどが深鉢である。石器は、床面直上よりやや上層であるが、ＰＰ３・ＰＰ４付近（北側）に多く見られた。同じ縦型の石匙であるが、形状の異なる石匙の他、39・41など石製品と思われるものも出土している。39は、他の場所からも見つかっているが、いずれも５cm以内で円柱状に一部調整した痕（擦り）がある。41は、明確な加工（調整）痕は見当たらないが、自然に入るようなものではなく持ち込まれたものと見てよい。
＜規模＞3.56×3.45m、壁高24cm、炉75×65cm（石囲炉）、周溝幅約10cm・深さ12cm、主柱穴５個、出入口柱穴５個。
＜堆積土＞４層＋１層（周溝）、自然堆積。
＜出土遺物＞縄文土器（14～34）、石器（35～41）。
＜時期＞20・26など出土遺物から縄文時代晩期後葉の土器が出土しており、同時代の遺構と考えられる。

ｂ　掘立柱建物跡

北側調査区に３棟、南側調査区に２棟検出された。時期は縄文時代と思われる２棟、近世と思われるもの１棟、時期不明のもの２棟である。

101号掘立柱建物跡（第10図、写真図版５）
＜位置＞南側調査区ＩＣ7ｄ・ＩＣ7ｅグリッド。
＜概要＞南側調査区のほぼ中央から検出された。ここは近世墓壙が全く検出されない場所で、周辺に

102号竪穴住居跡



A－A′、B－B′
1　7.5YR3/2黒褐色焼土　粘性しまりとも弱　一部10YR2/3黒褐色土（炭化物含）含
2　10YR3/3暗褐色土　粘性弱　しまり弱　炭化物粒径1㎝１％含　小礫含
3　10YR3/4暗褐色土　粘性中　しまり中　小礫含
4　10YR4/4褐色土　粘性中　しまり弱　黄褐色土（地山）粒若干含　小礫含
5　10YR3/2黒褐色土　粘性中　しまり弱

C－C′、D－D′
1　7.5YR3/2黒褐色土　粘性やや中　しまりなし　炭化物２％含　上面より多　焼土なし

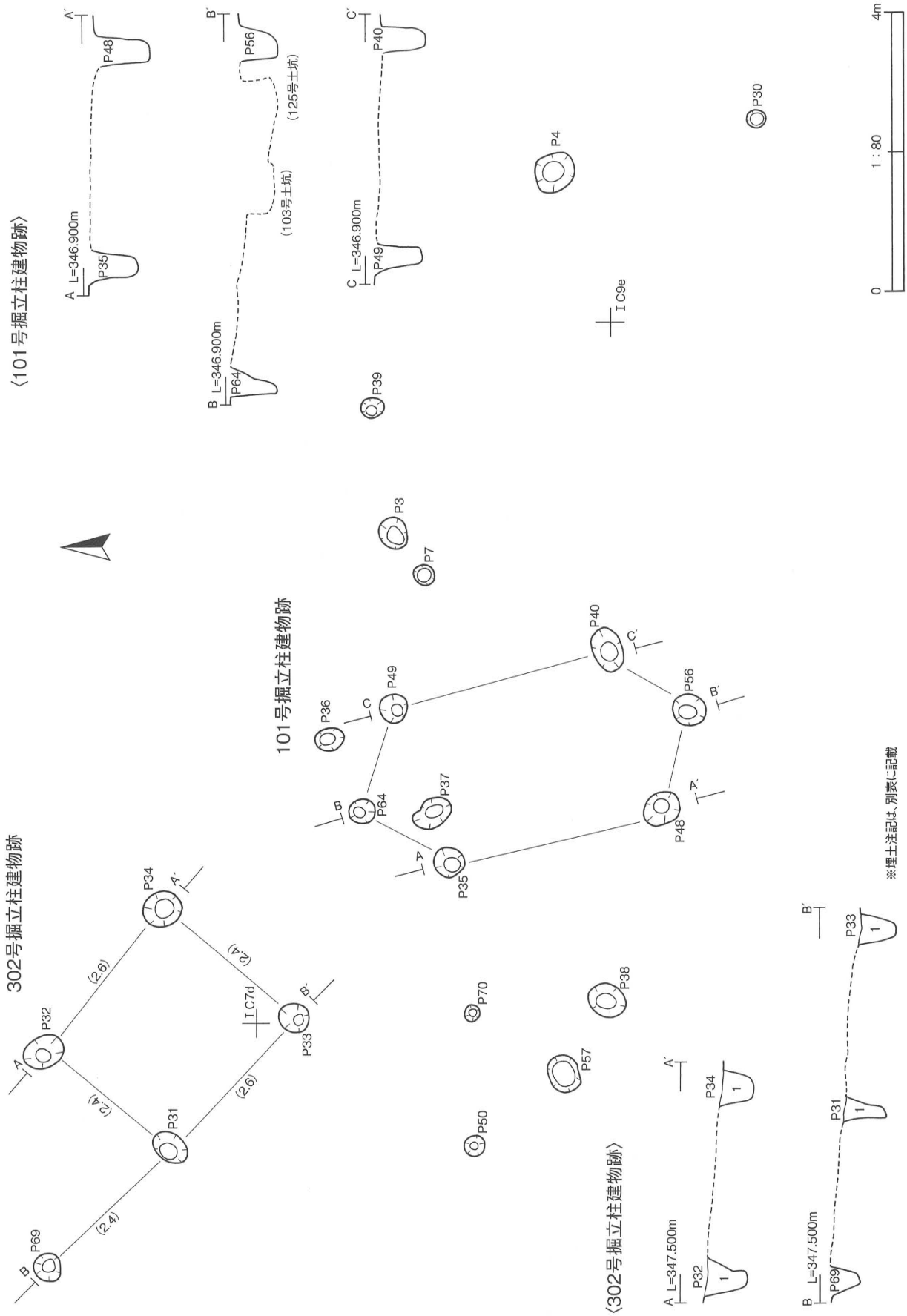
ピット名	長径×短径	最深	ピット名	長径×短径	最深
ＰＰ１	35×29	30	ＰＰ７	41×31	21
ＰＰ２	23×20	20	ＰＰ８	21×20	19
ＰＰ３	21×20	28	ＰＰ９	31×21	10
ＰＰ４	20×15	26	ＰＰ10	24×18	24
ＰＰ５	33×26	39	ＰＰ11	31×28	13
ＰＰ６	22×22	27			

(㎝)

ＰＰ１　10YR3/3暗褐色土　粘性ややあり　しまりなし　炭化物１％含
ＰＰ２　10YR3/3暗褐色土～10YR3/4暗褐色土　粘性ややあり　しまりなし　炭化物1％含
ＰＰ３　10YR4/3にぶい黄褐色土　粘性ややあり　しまりなし　炭化物１％含
ＰＰ４　10YR4/4褐色土　粘性中　しまりなし　炭化物１％含
ＰＰ５　10YR4/3にぶい黄褐色土　粘性ややあり　しまりなし　炭化物１％含　土器片あり
ＰＰ６　10YR4/3にぶい黄褐色土　粘性ややあり　しまりなし　炭化物１％含　土器片あり
ＰＰ７　10YR3/3暗褐色土　粘性なし　しまりややあり　炭化物１％含
ＰＰ８　10YR3/4暗褐色土　粘性なし　しまりなし

0　1：40　2m

第９図　102号竪穴住居跡



第10図　101・302号掘立柱建物跡

縄文土器片が散在していた。また、Ｐ48は検出面に拳大の礫が数個かたまって見つかっており、礫を取り去り発見した柱穴である。北北西－南南東に長軸をもち、亀甲形に６本の柱を配する。使用される柱穴はＰ35・Ｐ40・Ｐ48・Ｐ49・Ｐ56・Ｐ64である。直径は38～65cmほどで、いずれも60cm以上の深さをもつ。Ｐ35では石器が、Ｐ48・49・56からは縄文土器片が出土している。Ｐ48出土の土器（44・45）は、磨消縄文が施されている。

＜規模＞　長軸４m90cm、短軸２m30cm、亀甲形６本柱の建物跡。　＜軸方向＞Ｎ－17°－Ｗ。

＜出土遺物＞縄文土器（42～47）。

＜時期＞遺物から縄文時代後期前葉と思われる。

102号掘立柱建物跡（第11図、写真図版５）

＜位置＞ⅠＢ7ｃグリッド。

＜概要＞北側調査区の北西端での検出である。北北西－南南東を軸とする。使用される柱穴はＰ25・Ｐ28・Ｐ29・Ｐ65である。標高の高い位置にある２本の柱の径は50cm強で、２つの底面の標高値もほぼ同じであるが、Ｐ68は若干径が小さくなる。Ｐ25は径が70cmを超すが、117号土坑の重複が関係していると思われる。Ｐ25・Ｐ65からは土器片が出土している。

＜規模＞　長軸２m50cm、短軸２m40cm、４本柱の建物跡。　＜軸方向＞Ｎ－25°－Ｗ。

＜出土遺物＞縄文土器（48～52）。

＜時期＞出土遺物から縄文時代後期前葉～中葉と思われる。

201号掘立柱建物跡（第12図）

＜位置＞ⅡＢ6ｂ・6ｃ・7ｂ・7ｃグリッド。

＜概要＞北側調査区の南西、現道寄りにて検出された。使用される柱穴はＰ10・Ｐ12・Ｐ13・Ｐ14・Ｐ22・Ｐ43・Ｐ44・Ｐ46である。西北西－東南東を軸とする。北西側の間尺（北西15.7尺－南東15尺）が若干広がるが、同一建物の柱穴とした。南端の柱穴Ｐ22から60cmほど南に離れた所で新寛永通寶が出土した218号土坑が検出された。元の地権者の話によるとこの周辺に建物は一切なかったそうで、このことから218号墓壙よりも古い建物跡と判断した。

＜規模＞　桁行２間×梁間２間。　＜軸方向＞Ｎ－21°－Ｅ。　＜出土遺物＞なし。

＜時期＞状況から近世以降と考えられる。

301号掘立柱建物跡（第13図、写真図版16）

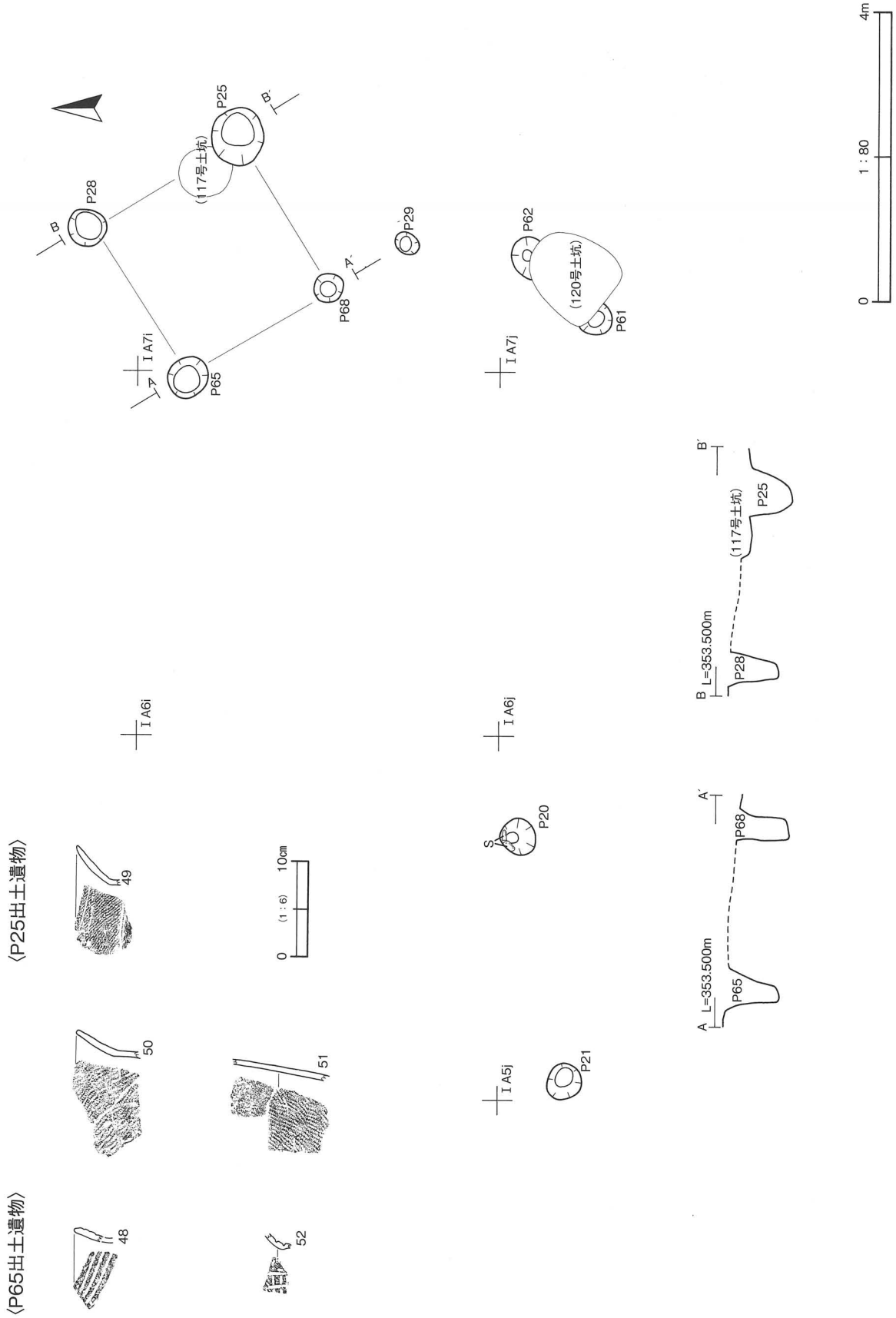
＜位置＞ⅠＢ7ｄ・8ｃ・8ｄ・8ｅ・9ｄ・9ｅグリッド。

＜概要＞北西－南東を軸とし、西側には庇をもつ。当初検出時には溝のみが見つかっていたが、後に柱穴群が伴うことが判明した。溝と建物の方向・規模などから、この溝は排水溝と考えた。また、主となる柱穴は大きめであるが、いずれにも柱痕跡は認められなかった。これらには円形のものとやや方形のものがある。Ｐ60では埋土上～中位に礎石のような平らな礫が確認された。調査時は、柱穴の規模から二面庇の可能性も想定したが、北端の柱穴は見つからなかった。付近には木根もあったため壊された可能性も否めないが、西側との間尺も大分異なることから庇ではないと判断した。

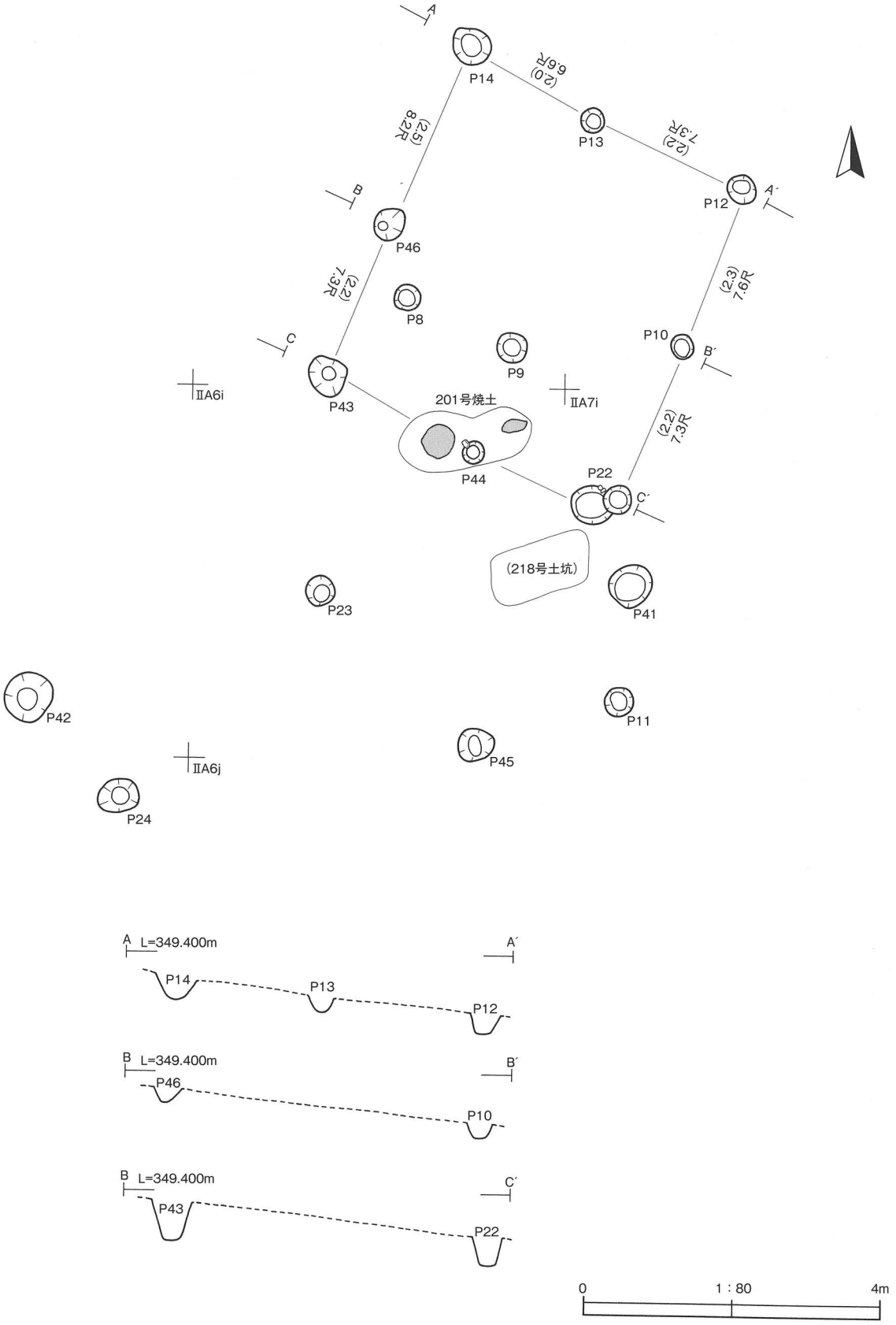
＜規模＞　桁行３間（間尺1.8m）×梁間４間（2.1m、東部分2.5m）、庇部1.7m。

＜軸方向＞Ｎ－32°－Ｗ。　＜溝＞全長９m80cm、幅7.8cm、深さ30cm。

＜柱の堆積土＞近世遺構や縄文遺構の柱穴の埋土とは異なる。



第11図　102号掘立柱建物跡



第12図　201号掘立柱建物跡

＜出土遺物＞柱穴の北側を巡る溝から縄文土器（53）や石器（54～58）が出土したが、これより傾斜の高い位置に縄文時代の遺構があることから、本遺構の時期を示す遺物ではないと判断した。
＜時期＞特定される遺物が伴わないため、時期は不明である。

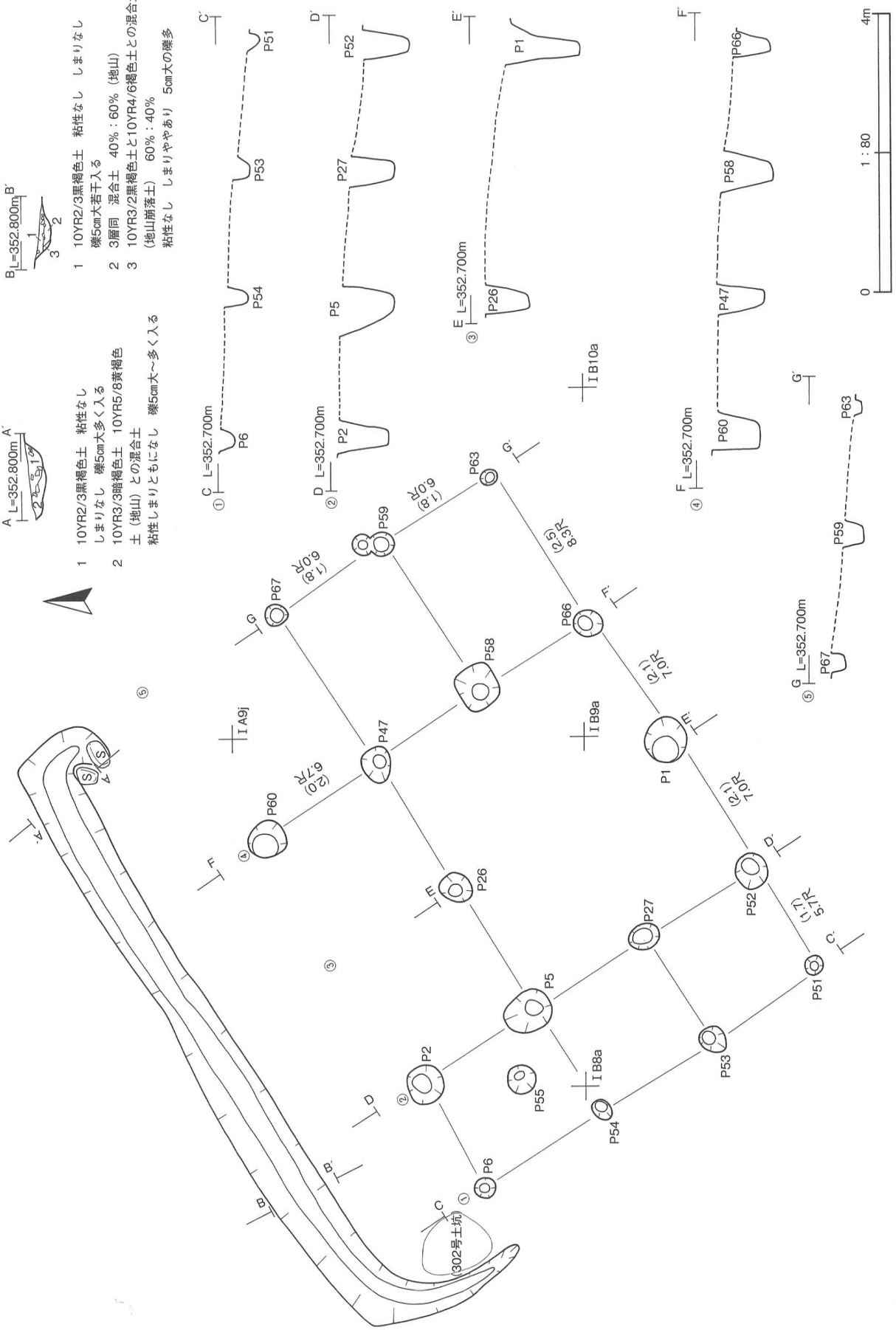
302号掘立柱建物跡（第10図、写真図版６）
＜位置＞ＩＣ6ｃ・7ｃ・7ｄグリッド。
＜概要＞101号掘立柱建物跡よりも更に北側に位置する。北西－南東を軸方向とする。使用される柱穴はＰ31・Ｐ32・Ｐ33・Ｐ34・Ｐ69である。建物跡とするには柱穴数が少ないが、他に見つけることができなかった。
＜規模＞桁行２間（？）×梁間１間（？）。　＜軸方向＞Ｎ－43°－Ｗ。
＜柱間＞北西－南東2.4、2.6m、北東－南西2.3m。
＜出土遺物＞Ｐ31より縄文土器の小破片が出土している。
＜時期＞縄文土器片が出土した柱穴はあるが、出土状況や埋土状の状況などから、当該時期のものとは言えず時期は不明である。

ｃ　土坑
北側・南側の両調査区で確認された。縄文時代と思われる土坑が21基、近世土坑が４基（うち２基は墓壙の可能性もあり）、近世墓壙が18基、時期不明土坑が１基である。

101号土坑（第14図、写真図版６）
＜位置＞ＩＣ9ｃ・9ｄグリッド内。
＜概要＞南側調査区の101号竪穴住居跡の南側に位置する。平面形は円形で、断面はややフラスコ状である。埋土はほぼ単層だが、中位にわずかに焼土粒を含んだ層を有する。縄文土器片が出土しているが、小破片の上に摩滅しており時期は明確でない。
＜規模＞73×68cm、深さ23cm。　＜堆積土＞２層に分層される。人為堆積か？。
＜出土遺物＞縄文土器（59・60）。
＜時期＞出土遺物や周辺の堆積土、形状などから縄文時代後期と思われる。

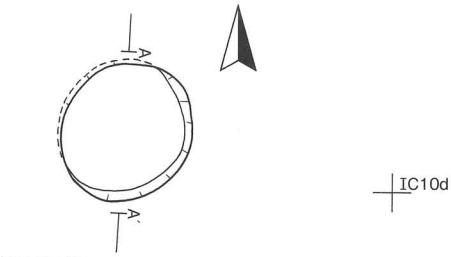
102号土坑（第14図、写真図版６）
＜位置＞ＩＢ8ｊ・9ｊグリッド内
＜概要＞南側調査区の中で最も北寄りから検出された遺構である。平面形は円形で、断面は鍋底状、底面に2個の小ピットを有する。埋土中位から縄文土器がまとまって出土している。
＜規模＞1.38×1.17m、深さ22cm、(ＰＰ１)41×35cm、深さ8.7cm、(ＰＰ２)32×27cm、深さ17.1cm。
＜堆積土＞２層に分層される。人為堆積か？。　＜出土遺物＞縄文土器（61～64）。
＜時期＞出土遺物から縄文時代後期か。

103号土坑（第14図、写真図版７）
＜位置＞ＩＣ7ｄグリッド。
＜概要＞南側調査区のほぼ中央に位置する。北東壁は104号土坑と重複し、当該遺構のほうが新しいと思われる。南には105号土坑がある。この遺構の検出前には301号焼土が上面を覆っており、その焼

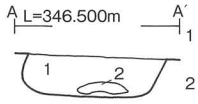


第13図　301号掘立柱建物跡

101号土坑

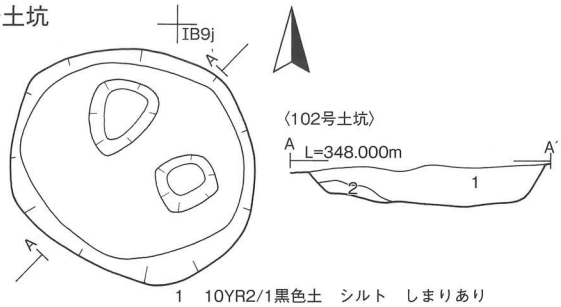


〈101号土坑〉



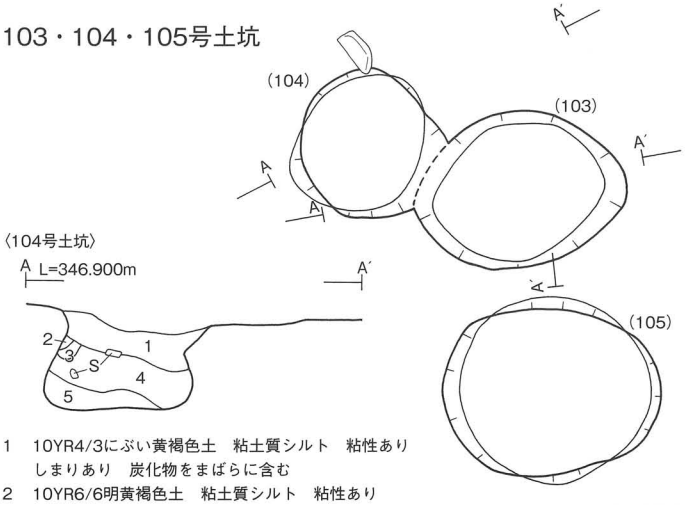
1　10YR3/3暗褐色土　粘土質シルト　粘性しまりともにあり
　５～10㎜大の炭化物粒、黄褐色土小ブロック含む
2　7.5YR4/4褐色土　粘土質シルト　粘性しまりともにあり
　わずかに橙色焼土粒、炭化物粒を含む

102号土坑



1　10YR2/1黒色土　シルト　しまりあり
　粘性あまりなし　径10～20㎜大の礫を全体に含
2　10YR4/4褐色土　粘土質シルト　しまりあり
　粘性あり　地山崩落ブロック

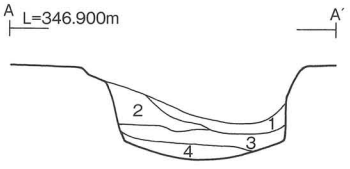
103・104・105号土坑



〈104号土坑〉

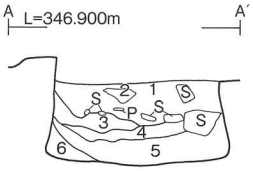
1　10YR4/3にぶい黄褐色土　粘土質シルト　粘性あり
　しまりあり　炭化物をまばらに含む
2　10YR6/6明黄褐色土　粘土質シルト　粘性あり
　しまりあり　Ⅳ層起源の崩落土
3　10YR4/4褐色土　粘土質シルト　粘性あり
　しまりあり　炭化物粒、焼土粒を含むブロック
4　10YR3/3暗褐色土　粘土質シルト　粘性あり
　しまりややあり　黄褐色土小ブロック、炭化物粒を全体に含
5　10YR5/4にぶい黄褐色土　粘土質シルト　粘性あり
　しまりあり　炭化物粒をあまり含まず地山崩落ブロック

〈103号土坑〉



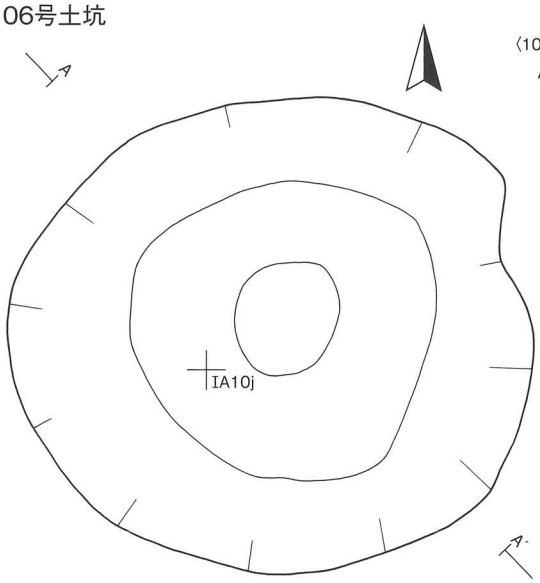
1　7.5YR4/4褐色土　粘土質シルト　粘性あり　しまりややあり
　全体的にくすんだ焼土の色調　５～30㎜大の礫を含む
2　7.5YR4/3褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあり　くすんだ色調
　橙色の焼土をまばらに含む
3　7.5YR4/4褐色土　粘土質シルト　粘性あり　しまりあり　混入物少ない
4　10YR4/4褐色土　粘土質シルト　粘性あり　しまりあり　地山崩落土
　基調

〈105号土坑〉

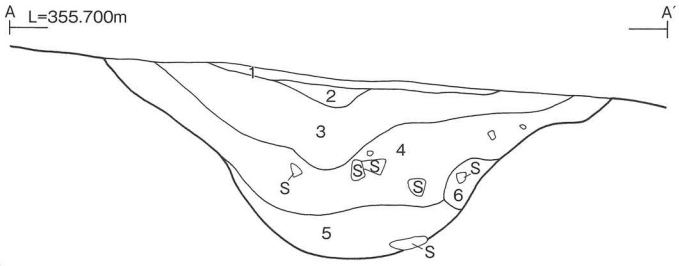


1　10YR3/3暗褐色土　シルト　粘性なし　しまりあり　全体的に黄褐色土ブロック含
2　10YR4/4褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあり　黄褐色土ブロック
3　10YR3/4暗褐色土　粘土質シルト　粘性あり　しまりあり
　くすんだ色合いの焼土、炭化物粒を含
4　10YR4/4褐色土　粘土質シルト　粘性ややあり　しまりややあり
　明黄褐色土粒をまばらに含
5　10YR3/3暗褐色土　粘土質シルト　粘性ややあり　しまりややあり
　1層に似るが黒み強い　黄褐色土粒を含
6　10YR2/3黒褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあり　黒みのあるシルト質土

106号土坑



〈106号土坑〉



1　10YR3/4暗褐色土　粘性弱　しまり弱　炭化物粒3％含
2　10YR5/4にぶい黄褐色土　砂質火山灰　粘性しまりともになし　10YR4/4褐色土含
3　10YR4/4褐色土　粘性弱　しまりなし　小礫が密集して入る
4　10YR3/3暗褐色土　粘性中　しまりやや中　人頭大～小礫多　炭化物粒５％含
　黄褐色土ブロック一部入る
5　10YR3/3暗褐色土　粘性やや強　しまりやや中　炭化物一部含
6　10YR4/4褐色土　粘性やや中　しまりなし　礫含　崩落土？

0　1：40　2m

第14図　101～106号土坑

土を掘り下げたところ見つかった土坑である。焼土との関わりははっきりしない。平面形は楕円形で、ビーカー状の断面である。縄文時代後期前葉の土器が出土している。
＜規模＞1.12×0.82m、深さ48cm。＜堆積土＞４層に分層される。
＜出土遺物＞縄文土器（65 ～ 67）、石器（68）。
＜時期＞検出面、埋土、周辺の出土遺物、遺構等から縄文時代後期と思われる。

104号土坑（第14図、写真図版７）
＜位置＞ＩＣ7ｄグリッド。
＜概要＞南側調査区ほぼ中央で103号土坑と重複している。当該遺構が古い。規模は103号土坑よりも小さい。平面形は円形、断面はフラスコ状を呈する。摩滅した縄文土器が出土している。70 ～ 72は同一個体の深鉢片である。
＜規模＞75×70cm、深さ52cm。
＜堆積土＞５層に分層されるがうち２層は壁の崩落土と見られる。人為堆積の可能性もある。
＜出土遺物＞縄文土器（69 ～ 72）。
＜時期＞遺構重複関係や遺物から縄文時代後期か。

105号土坑（第14図、写真図版８）
＜位置＞ＩＣ7ｄ・8ｄグリッド内。
＜概要＞南側調査区のほぼ中央103号土坑の南側に位置する。平面形は円形、断面はフラスコ状を呈する。埋土から縄文時代中期末の土器（73･76）が出土しているが、流れ込みの可能性も否定できない。周辺の土坑や柱穴のいずれからも同様の時期の土器は見つかっていない。礫を多く含む。
＜規模＞1.14×0.92m、深さ54cm。　＜堆積土＞６層に分層される。自然堆積か？。
＜出土遺物＞縄文土器（73 ～ 76）。
＜時期＞縄文時代中期末と断定できないが、周辺の遺構よりも古い可能性が高い。

106号土坑（第14図、写真図版７）
＜位置＞ＩＢ9ｃ・9ｄ・10ｃ・10ｄグリッド。
＜概要＞検出時の規模から住居跡の可能性をもちながら精査をした土坑である。平面形は円形、断面形は擂鉢状である。２層目には火山灰が堆積していたが、分析の結果十和田ａ降下火山灰の可能性が示された。この火山灰は、当該遺構のほかに107号土坑の埋土、北側調査区南西部で確認されている。４層上面の北西壁際からは、略完形の深鉢形土器（83）が出土している。その他、口縁部に４条の平行沈線を巡らせているもの（80）や、口唇部に刻目をもつもの（77）なども出土している。また、南東壁際および床面で径が40cmほどの亜角礫が出土しているが、その出土状況から床面に据えられたものかどうかは疑問が残る。
＜規模＞2.76×2.49cm、深さ1.03m。
＜堆積土＞６層に分層されるが、下位層の４・５層は人為的な可能性もある。
＜出土遺物＞縄文土器（77 ～ 83）、石匙（85）や４面に凹みを有する凹石（84）など礫石器（86 ～ 88）も多く出土している。当該遺構の土器出土量は、総出土量の約11.7％を占める。
＜時期＞縄文時代晩期後葉と思われる。

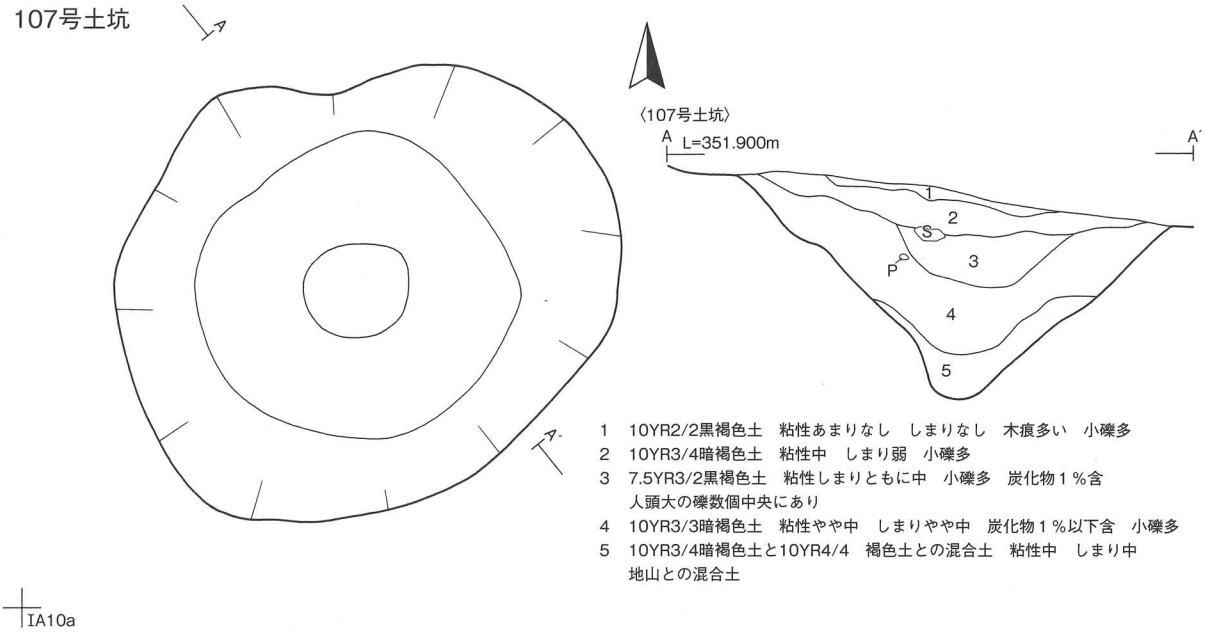
107号土坑（第15図、写真図版８）
＜位置＞ＩＢ9ｅグリッド。
＜概要＞北側調査区、106号土坑の２ｍ南側に位置する。106号土坑とほとんど同規模で、壁は当該遺構のほうがより鋭角に立ち上がる。
＜規模＞2.74×2.41ｍ、深さ1.20ｍ。
＜堆積土＞５層に分層したが、３層と４層は礫の入り具合で分けたもので、同一層と考えられる。これには人頭大の角礫を含み、その下からは小礫が組まれたような状態で出土している。106号土坑同様、堆積状況に一部人為的な様子が窺える。
＜出土遺物＞縄文土器の深鉢底部（90）と別個体の口縁部破片（89）、薄手の有茎石鏃（91）１点が出土している。
＜時期＞縄文時代晩期中葉か。

108号土坑（第15図、写真図版８）
＜位置＞ＩＢ5ｃグリッド。
＜概要＞北側調査区の北側から検出した。平面形は円形で、断面形はフラスコ状になると思われる。埋土上位には小礫が多く含まれているが、埋土中位から下位にかけては縄文土器片が多く出土した。３層には暗褐色土の焼土細粒が含まれている。
＜規模＞1.56×1.47ｍ、深さ96cm。
＜堆積土＞５層に分層される。埋土下位については人為堆積の可能性がある。
＜出土遺物＞磨消縄文を特徴とする縄文時代後期前葉～中葉の土器片（92～101）や礫石器（102・103）が出土している。
＜時期＞縄文時代後期前葉～中葉。

109号土坑（第15図、写真図版８）
＜位置＞ＩＢ10ａグリッド。
＜概要＞北側調査区での検出である。平面形はややいびつな楕円形で、底面は鍋底状である。２層上面には、10cm前後の礫とともに土器片がまとまって出土した。
＜規模＞1.34×1.09ｍ、深さ46cm。
＜堆積土＞２層に分層され、２層目は人為堆積の可能性もある。
＜出土遺物＞深鉢の胴～底部の縄文土器片（104～106）で、時期が明確にわかるものはない。その他、磨石（107）と被熱した人頭大の礫（108）が出土している。
＜時期＞縄文時代。

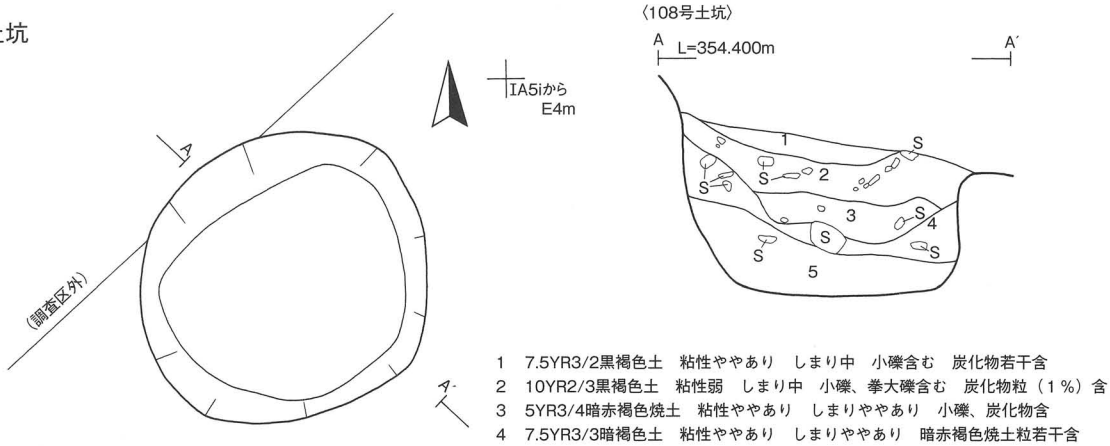
110号土坑（第15図、写真図版９）
＜位置＞ＩＢ10ｂグリッド内。
＜概要＞109号土坑から約40cm東で検出された土坑である。平面形は円形、断面形は擂鉢状である。
＜規模＞1.48×1.47cm、深さ48cm。
＜堆積土＞単層である。上位では10cm強の礫が入り込む。人為堆積の可能性もある。
＜出土遺物＞薄手の壺と見られる無文土器（110）が出土している。109は底部のみだが、胎土が似ていることから110の底部の可能性もある。

107号土坑



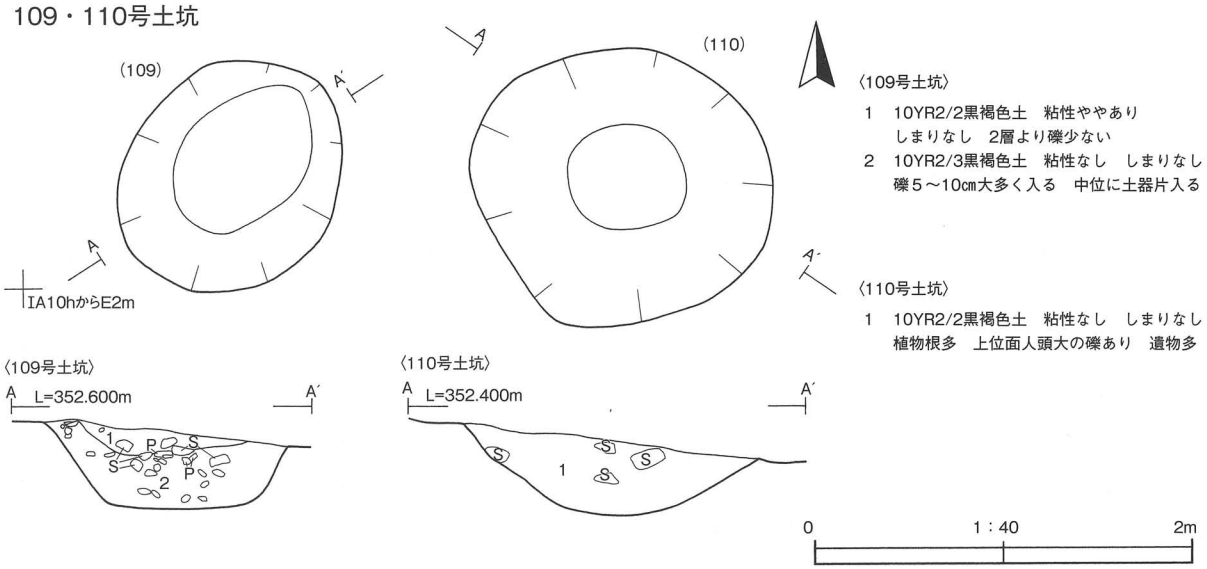
1　10YR2/2黒褐色土　粘性あまりなし　しまりなし　木痕多い　小礫多
2　10YR3/4暗褐色土　粘性中　しまり弱　小礫多
3　7.5YR3/2黒褐色土　粘性しまりともに中　小礫多　炭化物１％含
　人頭大の礫数個中央にあり
4　10YR3/3暗褐色土　粘性やや中　しまりやや中　炭化物１％以下含　小礫多
5　10YR3/4暗褐色土と10YR4/4　褐色土との混合土　粘性中　しまり中
　地山との混合土

108号土坑



1　7.5YR3/2黒褐色土　粘性ややあり　しまり中　小礫含む　炭化物若干含
2　10YR2/3黒褐色土　粘性弱　しまり中　小礫、拳大礫含む　炭化物粒（１％）含
3　5YR3/4暗赤褐色焼土　粘性ややあり　しまりややあり　小礫、炭化物含
4　7.5YR3/3暗褐色土　粘性ややあり　しまりややあり　暗赤褐色焼土粒若干含
　拳大～人頭大の礫含
5　10YR4/4褐色土　粘性やや強　しまり中　拳大礫多

109・110号土坑



〈109号土坑〉
1　10YR2/2黒褐色土　粘性ややあり
　しまりなし　2層より礫少ない
2　10YR2/3黒褐色土　粘性なし　しまりなし
　礫５～10㎝大多く入る　中位に土器片入る

〈110号土坑〉
1　10YR2/2黒褐色土　粘性なし　しまりなし
　植物根多　上位面人頭大の礫あり　遺物多

第15図　107～110号土坑

＜時期＞遺物から縄文時代晩期。

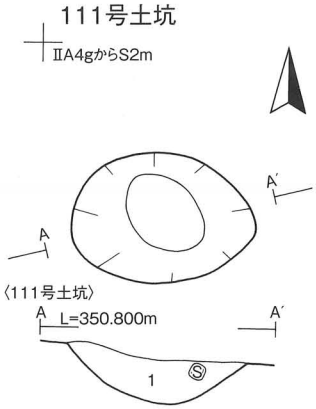
111号土坑（第16図、写真図版９）
＜位置＞ⅡＢ4ａグリッド内。
＜概要＞検出時に遺構の中央部付近から土器片が出土している。平面形は楕円形、断面は擂り鉢状である。
＜規模＞97×69cm、深さ32cm。
＜堆積土＞単層である。上位には拳大の礫を含む。人為堆積かどうかは不明である。
＜出土遺物＞口唇部に刻目が施される地文のみの深鉢（111・112）が出土している。
＜時期＞遺物から縄文時代晩期後葉と思われる。

112号土坑（第16図、写真図版９）
＜位置＞ⅡＡ5ｊグリッド内。
＜概要＞北側調査区の最も西寄りで検出された土坑である。近くに南流する沢があり、その沢沿いに他にも遺構がありそうであったが、本遺構以外には確認できなかった。平面形はほぼ円形で、底部は鍋底状である。
＜規模＞1.05×0.88m、深さ40cm。
＜堆積土＞単層である。埋土中位からは拳大の礫が多く含まれる。
＜出土遺物＞摩滅した縄文土器の小片（113）が出土している。
＜時期＞縄文時代と思われるが詳細は不明である。

113号土坑（第16図、写真図版９）
＜位置＞ⅡＢ1ｃグリッド。
＜概要＞北側調査区114号土坑から東に５ｍほどのところで検出された。北側調査区において、本遺構よりも標高の低い場所では縄文時代の遺構は見つかっていない。平面形は円形で、断面形はビーカー状を呈する。
＜規模＞1.00×1.00m、深さ38cm。
＜堆積土＞3層に分層される。自然堆積と思われる。
＜出土遺物＞工字文が施された小型の土器（114）が出土している。
＜時期＞縄文時代晩期後葉と考えられる。

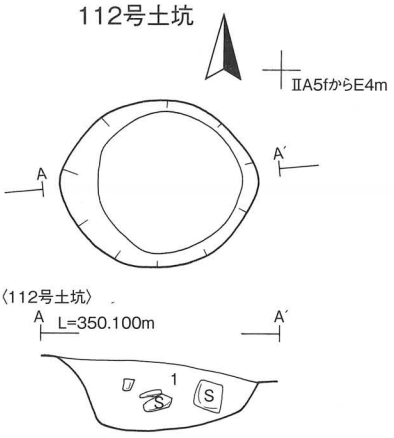
114号土坑（第16図、写真図版10）
＜位置＞ⅠＢ10ｃグリッド。
＜概要＞北側調査区の擂鉢状の大型土坑である106号土坑から約１ｍ北東に位置する。平面形は円形、断面形はビーカー状を呈する。埋土上位から下位まで５cm内外の小礫を多く含み、埋土中位からは突起、刻目、段差のない磨消縄文が施された縄文土器（117～120）などが出土した。それらの土器の下層は炭化物を多く含む層が形成されていた。
＜規模＞1.44×1.37m、深さ84cm。　＜堆積土＞７層に分層される。自然堆積と思われる。
＜出土遺物＞縄文土器（117～124）、打製石斧（125）
＜時期＞出土遺物から縄文時代晩期中葉と考えられる。

111号土坑



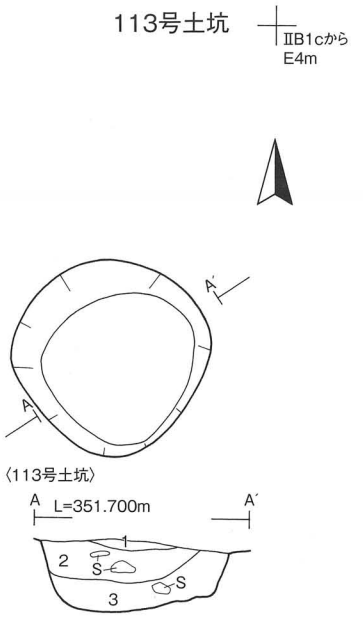
1　10YR3/2黒褐色土　粘性あり　しまりなし
　礫多く含　検出面に土器片多くあり

112号土坑



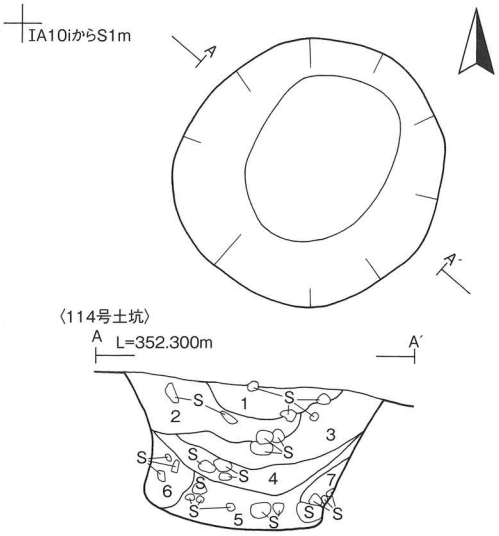
1　10YR2/3黒褐色土　粘性ややあり
　しまりなし　角礫多く含

113号土坑



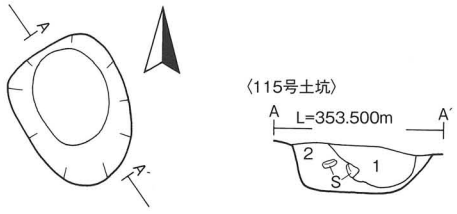
1　10YR3/3暗褐色土　シルト　粘性しまりともにややあり
　径３～2㎜大の小礫を多く含　炭化物粒を含
2　10YR3/3暗褐色土　シルト　粘性しまりともにややあり
　拳大～人頭大の礫含
3　10YR3/2黒褐色土　粘土質シルト　粘性しまりともにややあり
　炭化物を含む地山崩落土主体の堆積土

114号土坑



1　10YR3/3暗褐色土　粘性　ややあり　しまりなし　礫多
2　10YR3/3暗褐色土　粘性中　しまりなし　炭化物粒　５％含む　土器片、礫含
3　10YR4/4褐色土　粘性中　しまりなし　黄褐色土粒１％含む　礫多
4　10YR3/3暗褐色土　粘性中　しまりやや中　炭化物多く含む　礫含
5　10YR4/3にぶい黄褐色土　粘性やや中　しまりなし　黄褐色土粒含　礫極めて多
6　10YR4/6褐色土　地山との混合土　粘性やや中　しまり弱　礫多（崩落土）
7　10YR4/4褐色土　粘性中　しまり弱　礫多い（崩落土）

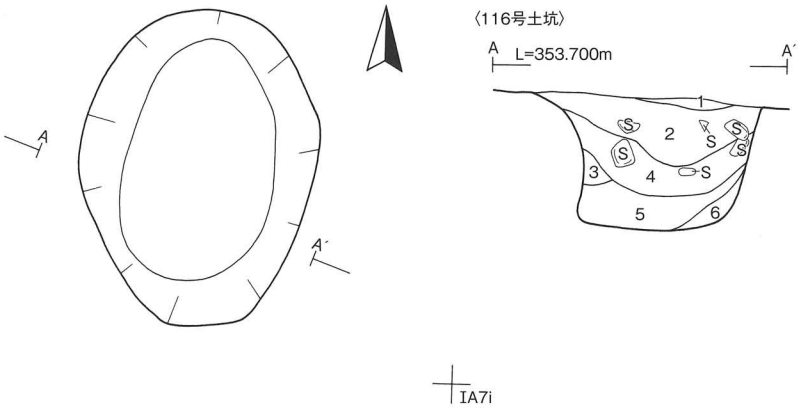
115号土坑



1　10YR2/2黒褐色土　粘性ややなし　しまり弱
　炭化物径５㎜１％含む　礫含む
2　10YR3/3暗褐色土　粘性弱　しまりなし
　黄褐色土(地山)粒との混合土

ⅠA8hからE2m

116号土坑



1　10YR2/3黒褐色土　シルト　粘性なし
　しまりあり　径10～25㎜大の礫を含
2　10YR2/2黒褐色土　シルト　粘性しまりともにややあり
　径30～150㎜大の角礫を全体に含
3　10YR4/4褐色土　粘土質シルト　粘性ややあり
　しまりあり　地山崩落ブロック
4　10YR2/2黒褐色土　シルト　粘性しまりともにややあり
　2層よりも若干黒みを帯びる　炭化物粒を含
5　10YR2/3黒褐色土　粘土質シルト　粘性ややあり
　しまりあり　1、2層よりも小さな礫を全体に含
6　10YR3/3暗褐色土　粘土質シルト　粘性ややあり
　しまりややあり　地山崩落土

0　1：40　2m

第16図　111～116号土坑

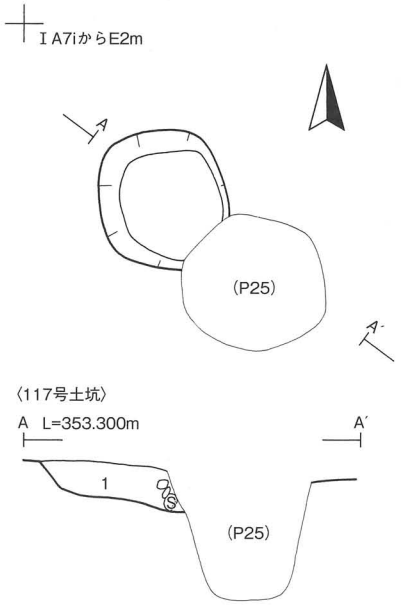
115号土坑（第16図、写真図版11）
＜位置＞ＩＢ8ａグリッド内。
＜概要＞北側調査区の102号竪穴住居跡の南東に接するように検出された。平面形は楕円形、断面は鍋底状を呈している。
＜規模＞74×60cm、深さ26cm。
＜堆積土＞2層に分層される。全体に小礫が多く入り込む。人為堆積の可能性が高い。
＜出土遺物＞縄文時代晩期の土器片（126）が出土している。
＜時期＞出土遺物から縄文時代晩期中葉か。

116号土坑（第16図、写真図版10）
＜位置＞ＩＢ6ｂグリッド。
＜概要＞北側調査区の102号掘立柱建物跡の北西側に位置する。平面形は楕円形で、断面はビーカー状である。埋土上位～下位まで磨消縄文が施された縄文土器が出土した。
＜規模＞1.68×1.24m、深さ73cm。
＜堆積土＞６層に分層される。中位の２～４層までは、拳大の礫や５cm内外の小礫が含まれる。自然堆積と考えられる。
＜出土遺物＞128～131は、平行沈線と磨消縄文が施された波状口縁を持つ土器である。133は縦位の条線が描かれている。137・138は石製品であるが、ともに断面形が円形に近い。石棒に類するものであろうか。
＜時期＞縄文時代後期前葉。

117号土坑（第17図、写真図版10）
＜位置＞ＩＢ7ｃグリッド。
＜概要＞北側調査区の101号焼土のわずか50cm東に位置する。102号掘立柱建物跡のＰ25と重複関係にあり、当該遺構のほうが古い。平面形はほぼ円形、断面形は擂鉢状になると思われる。
＜規模＞70×（68）cm、深さ28cm。
＜堆積土＞単層でしまりもあまりなく、人為堆積の可能性がある。
＜出土遺物＞なし。
＜時期＞縄文時代後期中葉の土器片（49）が出土したＰ25（102号掘立柱建物跡）に壊されているため、それ以前の時期の可能性が高い。

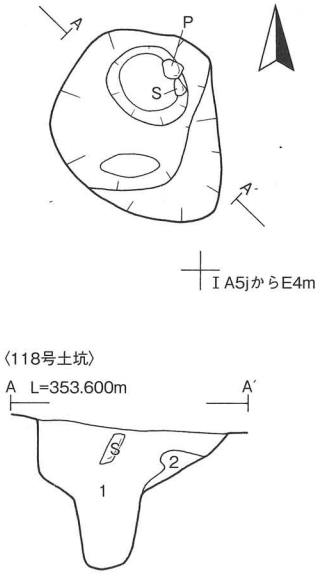
118号土坑（第17図、写真図版10）
＜位置＞ＩＢ5ｃグリッド。
＜概要＞北側調査区108号土坑の２ｍ南に位置する。埋土全体に小礫が含まれるが、上位にやや大きめの角礫が入り込む。５ｍ東には102号掘立柱建物跡が、本遺構の１ｍ北西側には７号焼土がある。
＜規模＞1.1×0.9m、深さ80cm。
＜堆積土＞２層に分層されるが、このうちの１層は崩落土であり、本来の堆積土は単層である。
＜出土遺物＞摩滅している土器片ばかりで、縄文が認められたのは１点（139）のみである。
＜時期＞縄文時代ではあるが、詳細は不明である。

117号土坑



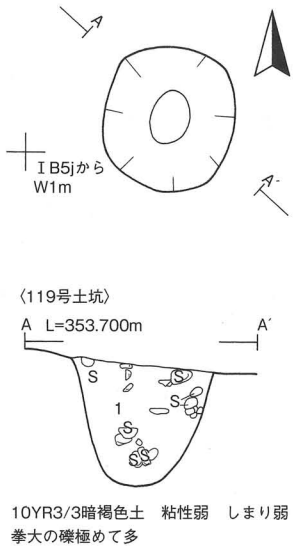
1　10YR4/4褐色土　粘性弱　しまりややあり　小礫多く含

118号土坑



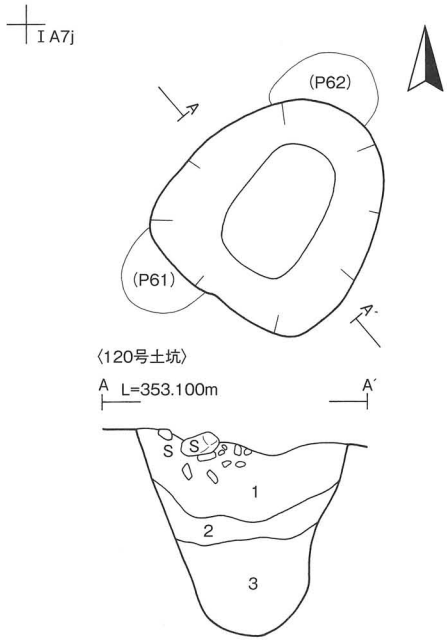
1　10YR3/3暗褐色土　粘性やや弱　しまり弱　炭化物1％
　　礫5～20㎝大含
2　10YR5/8黄褐色土　粘性弱　しまりややあり　崩落土？

119号土坑



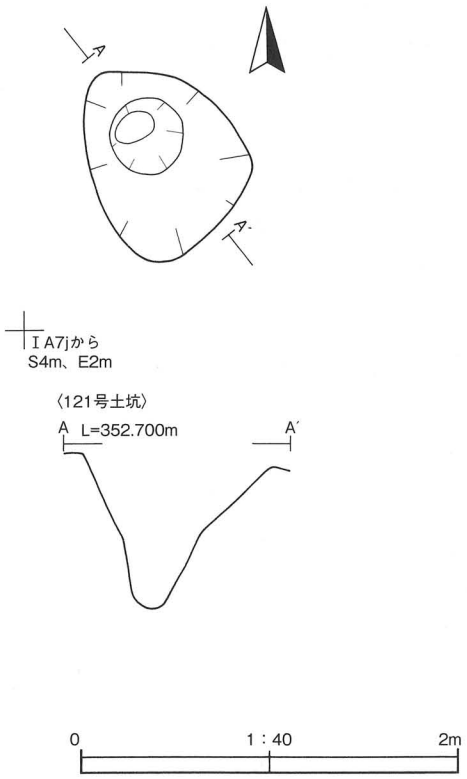
1　10YR3/3暗褐色土　粘性弱　しまり弱
　　拳大の礫極めて多

120号土坑



1　10YR3/3暗褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあり
　　径5～200㎜大の大小礫を含
2　10YR4/6褐色土　シルト　粘性しまりともにややあり
　　径30～50㎜前後の礫を含
3　10YR4/4褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあまりなし
　　径30～200㎜大の礫を全体に含　崩落土主体

121号土坑



第17図　117～121号土坑

119号土坑（第17図、写真図版11）
＜位置＞ＩＢ4ｃ・4ｄグリッド。
＜概要＞北側調査区の検出遺構の中で最も西側に位置する。平面形は円形、断面形は擂鉢状である。形状から柱穴状土坑の可能性もある。小礫が多く入り込む。
＜規模＞77×69cm、深さ68cm。
＜堆積土＞礫を含む暗褐色土の単層である。
＜出土遺物＞縄文土器と見られる土器片が数点出土したが、いずれも摩滅している。
＜時期＞118号土坑と同様、縄文時代とは思われるが詳細は不明である。

120号土坑（第17図、写真図版11）
＜位置＞ＩＢ7ｄグリッド。
＜概要＞北側調査区の301号掘立柱建物跡の北西に位置しているが、建物跡よりも一段高いところにある。２個（Ｐ61・Ｐ62）の柱穴状小土坑と重複しており、本遺構の方が新しい可能性が高い。平面形は略楕円形で、深さの割に底面は平らではなく擂鉢状を呈する。埋土上位に礫が多く入り込み、摩滅した縄文土器片を含む。
＜規模＞1.2×1.1m、深さ110cm。
＜堆積土＞３層に分層される。堆積状況は自然堆積とは言い難い。
＜出土遺物＞119号土坑と同様、数点出土したが、いずれも摩滅している。
＜時期＞縄文時代後期以降か。

121号土坑（第17図）
＜位置＞ＩＢ7ｄグリッド。
＜概要＞北側調査区の301号掘立柱建物跡施設内にある土坑である。位置的に、掘立柱建物跡に付属するものとは捉えがたく、埋土の状況から縄文時代の遺構と判断した。断面形などから柱穴状小土坑の可能性も否めない。
＜規模＞1.00×0.82m、深さ81cm。　＜堆積土＞不明。
＜出土遺物＞磨消縄文、入組文が施された縄文時代後期前葉の土器が出土している。(142・143)
＜時期＞遺物から縄文時代後期前葉か。

201号土坑（第18図、写真図版11）
＜位置＞ＩＣ7ｈグリッド。
＜概要＞南側調査区の南寄りでの検出である。周辺には202～205号土坑がある。平面形はやや楕円形に近い長方形で、断面形はビーカー状である。底面の中央あたりから古銭６枚と釘が出土している。形状、埋土、遺物から近世墓と判断した。埋土から改葬済みと思われるが、これらの遺物はその際に残されてしまったものと考えられる。
＜規模＞1.29×0.98m、深さ44cm。　＜長軸方向＞Ｎ－30°－Ｗ。
＜堆積土＞黄褐色土と褐色土との混合土の単層。
＜出土遺物＞古寛永３枚、新寛永３枚（いずれも文銭）、釘。
＜時期＞文銭が含まれることから、17世紀後半以降か。

202号土坑（第18図、写真図版11）
＜位置＞ＩＣ7ｈグリッド。
＜概要＞201号土坑の西隣にて検出された。底面付近から古銭6枚が出土している。また、凝灰岩製かと思われる摸造銭らしきもの（156）が出土している。近世墓である。
＜規模＞79×54.3cm、深さ33cm。　＜長軸方向＞Ｎ－20°－Ｅ。
＜堆積土＞２層に分層され、黒色土が底面より上面近くまで堆積している。埋土状況からこの遺構は未改葬と思われる。
＜出土遺物＞古寛永５枚、新寛永１枚（文銭）、摸造銭１枚。
＜時期＞文銭が含まれることから、17世紀後半以降か。

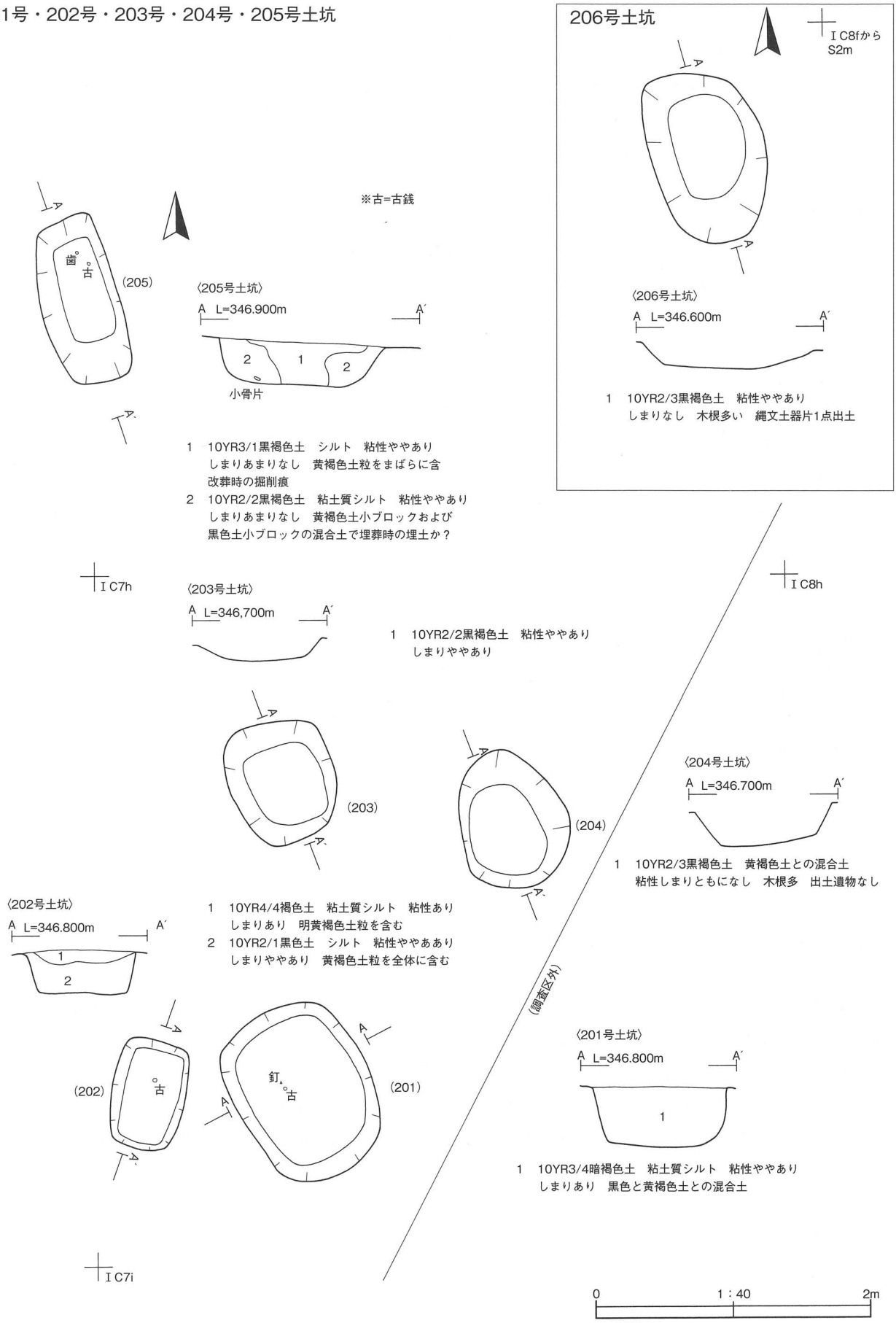
203号土坑（第18図、写真図版12）
＜位置＞ＩＣ7ｈグリッド。
＜概要＞201号土坑の北側１ｍに位置する。埋土の上～中位にて古銭が出土している。平面形は正方形である。削平されているため浅い。
＜規模＞86×76cm、深さ28cm。　＜長軸方向＞Ｎ－22°－Ｗ。
＜堆積土＞201号土坑や202号土坑とは異なる単層の埋土で、これらの土坑よりも古く感じられる。
＜出土遺物＞古寛永６枚、咸平元寶（北宋銭）１枚。
＜時期＞古寛永と渡来銭のみということで、17世紀中頃以降か。

204号土坑（第18図、写真図版12）
＜位置＞ＩＣ7ｈグリッド。
＜概要＞203号土坑の東隣に位置する。楕円形を呈し、長軸は203号土坑と同じくする。出土遺物はないものの形状、検出位置から近世墓と思われる。
＜規模＞1.03×0.78m、深さ33cm。　＜長軸方向＞Ｎ－19°－Ｗ。
＜堆積土＞単層で203号土坑と類似。
＜出土遺物＞なし。
＜時期＞近世以降だが、203号土坑と同時期の可能性が高い。

205号土坑（第18図、写真図版12）
＜位置＞ＩＣ6ｇ・7ｇグリッド内。
＜概要＞南側調査区からの検出。底面より若干上から古銭、木櫛（164）、歯、小人骨片が出土した。平面形は長方形で、幅が狭い近世墓である。
＜規模＞1.21×0.56m、深さ38cm。　＜長軸方向＞Ｎ－19°－Ｗ。
＜堆積土＞２層に分層される。１層中央部は改葬後に入れられたものか。
＜出土遺物＞古寛永３枚、新寛永（文銭）２枚、天聖元寶（北宋銭）１枚、木櫛、歯、人骨片。
＜時期＞文銭が含まれることから17世紀後半以降か。

206号土坑（第18図、写真図版12）
＜位置＞ＩＣ7ｆグリッド。
＜概要＞205号土坑と軸を同じにする。平面形はやや楕円形で、遺構上部が削平されているため浅い。

201号・202号・203号・204号・205号土坑



第18図　201～206号土坑

近世墓である。
＜規模＞1.28×0.82m、深さ20cm。　＜長軸方向＞N－17°－W。
＜堆積土＞黒褐色土の単層。　＜出土遺物＞なし。
＜時期＞近世以降。

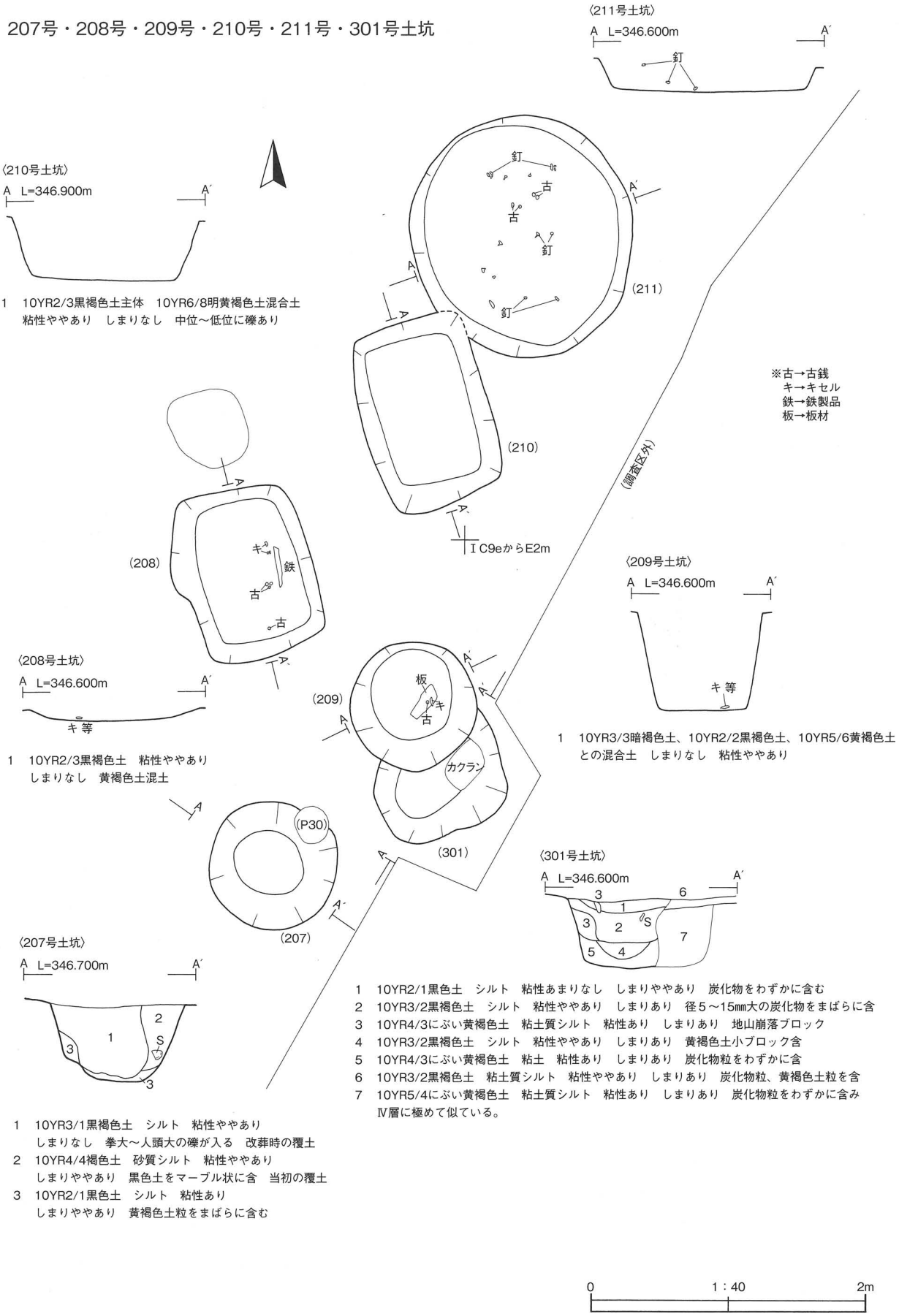
207号土坑（第19図、写真図版12）
＜位置＞ＩＣ9ｅグリッド。
＜概要＞南側調査区で検出された近世墓である。平面形は円形で、Ｐ30に北東壁の一部を壊されている。埋土中位から古銭、煙管、和鋏等が出土している。
＜規模＞94×90cm、深さ55cm。
＜堆積土＞３層に分層される。埋土状況から改葬後の人為堆積と思われる。
＜出土遺物＞古寛永２枚、煙管片、毛抜き、和鋏、骨片、鉄釘。
＜時期＞改葬された状況が明瞭であることから、詳細な時期は不明とせざるを得ない。

208号土坑（第19図、写真図版12）
＜位置＞ＩＣ8ｄ・9ｄ・8ｅ・9ｅグリッド内。
＜概要＞207号土坑の北１ｍに位置する。平面形は長方形で、これも深さがない。中央部に刃部先端がわずかに広がる山刀と思われる鉄製品（176）が出土した。また、古銭や18世紀前半と見られる煙管片なども出土した。
＜規模＞1.24×0.92m、深さ８cm。　＜長軸方向＞N－15°－W。
＜堆積土＞黄褐色土粒を含む黒褐色土の単層。
＜出土遺物＞鉄製品（山刀）、古寛永２枚、新寛永（文銭）４枚、渡来銭（？）１枚、煙管、鉄釘。
＜時期＞無背文銭が含まれないため、18世紀まで下らないようにも思われるが、煙管の特徴からと18世紀初め頃か。

209号土坑（第19図、写真図版13）
＜位置＞ＩＣ9ｅグリッド。
＜概要＞南側調査区東南境に位置する。301号土坑と重複しているが、当該遺構の方が新しい。平面形は円形で、埋土の状況から改葬済みと思われる。底部から棺の一部と煙管片、古銭が底板に密着した状態で出土している。
＜規模＞91×90cm、深さ70cm。　＜堆積土＞黒褐色土・黄褐色土等の混合土である。
＜出土遺物＞新寛永２枚、古銭（銭種不明）２枚、小刀状？鉄製品、歯、煙管片、棺材。
＜時期＞無背文の新寛永が出土していることから、18世紀前半以降か。

210号土坑（第20図、写真図版13）
＜位置＞ＩＣ9ｄグリッド。
＜概要＞208号土坑の北東側40cmに位置し、平面形は長方形で規模・軸方向とも208号土坑と類似する。埋葬時に混入混入したものか不明だが、埋土中位から石皿（191）が出土している。古銭は全部で７枚出土しているが、うち６枚は布に包まれ一括で見つかった。北東側隅で211号土坑と重複するが、当該遺構の方が新しい。

207号・208号・209号・210号・211号・301号土坑



第19図　207～211・301号土坑

＜規模＞1.36×0.94m、深さ47cm。　＜長軸方向＞N－17°－W。
＜堆積土＞明黄褐色土と黒褐色土の混合土。
＜出土遺物＞古寛永２枚、新寛永５枚（文銭３枚、無背文銭２枚）、石皿。
＜時期＞出土遺物および遺構の重複関係から18世紀前半より以降のものと思われる。

211号土坑（第19図、写真図版14）
＜位置＞ＩＣ9ｄグリッド。
＜概要＞210号土坑の北東に重複しており、それよりも当該遺構のほうが古い。平面形は円形であったが、出土した鉄釘の位置から丸く掘りこんだ後に長方形の棺を納めていたことがわかった。棺は小振りである。棺の内側（北側）に集中して古銭８枚が出土した。
＜規模＞1.74×1.6m、深さ24cm（棺92×46cm）。　＜堆積土＞単層か？。
＜出土遺物＞古寛永１枚、新寛永２枚（１枚は文銭）、渡来銭（至道元寶）４枚、不明１枚（渡来銭？）、鉄釘。
＜時期＞無背文銭が含まれることから18世紀前半以降か。

212号土坑（第20図、写真図版13）
＜位置＞ＩＣ9ｄグリッド。
＜概要＞南側調査区211号土坑の北東５ｍに位置する。平面形は長方形で南－北に長軸をもつ。南壁寄りから、鉄製品(刀子)、煙管片、紐で括られた９枚の古銭が出土している。
＜規模＞1.14×0.81m、深さ48cm。　＜長軸方向＞N－４°－E。　＜堆積土＞不明。
＜出土遺物＞刀子、煙管片２点（同一個体の可能性が高い）、古寛永２枚、新寛永６枚、渡来銭（元豊通寶）１枚。
＜時期＞無背文銭、煙管の特徴から18世紀前半以降と考えられる。

213号土坑（第20図、写真図版13）
＜位置＞ＩＣ9ｃ・10ｃ・9ｄ・10ｄグリッド内。
＜概要＞212号土坑の北東70cmに位置する。214号土坑と西壁で重複するが、当該遺構が新しい。南壁は調査区外へ延びている。底面近くで古銭や煙管、鉄製品（和鋏・毛抜き）が出土している。
＜規模＞(1.24)×0.8m、深さ46cm。　＜長軸方向＞N－21°－W。
＜堆積土＞黒褐色土と黄褐色土の混合土。
＜出土遺物＞古寛永１枚、新寛永５枚、不明古銭1枚、煙管は小破片であるが、火皿部（232）は大きく、212号土坑出土の208と同型と推測される。その他、和鋏、毛抜きが出土している。また、石器（磨石219）１点も出土している。
＜時期＞出土遺物から18世紀前半以降と考えられる。

214号土坑（第20図、写真図版13）
＜位置＞ＩＣ9ｃグリッド。
＜概要＞213号土坑と東側にて重複している。当該遺構のほうが古い。平面形は正方形で、上面は削平され浅い。出土遺物は鉄釘のみであるが、形状等から近世墓と考えた。底面で20cm大の扁平な円礫が1点出土した。南隅には柱穴状の小土坑が見られるが、これに伴うものではない。埋土中から縄文

時代の石器（磨石）２点が出土している。
＜規模＞(78)×75cm、深さ17cm。　＜長軸方向＞N－55°－W。
＜堆積土＞炭化物粒を含む褐色土の単層。　＜出土遺物＞鉄釘、石器（230・231）。
＜時期＞重複関係により18世紀より以前か。

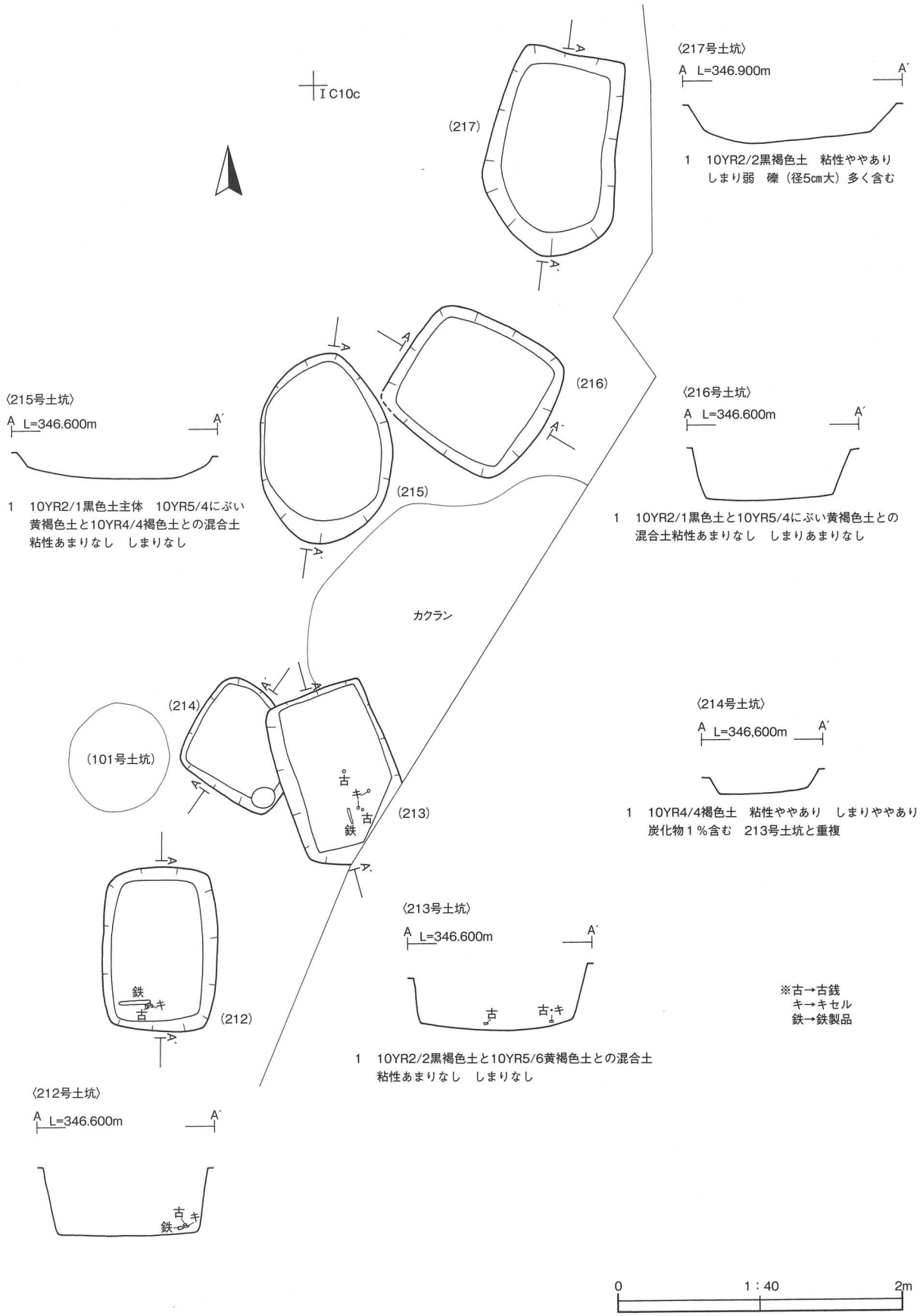
215号土坑（第20図、写真図版14）
＜位置＞ＩＣ9ｅ・10ｅグリッド内。
＜概要＞101号竪穴住居跡と南東側で重複しており、住居跡を切って造られている。平面形は卵形で削平なため深さがない。古銭５枚が重なった状態で出土している。
＜規模＞1.34×0.92m、深さ19cm。　＜長軸方向＞N－８°－E。
＜堆積土＞黒褐色土が主体で、にぶい黄褐色土と褐色土が混じる。
＜出土遺物＞古寛永４枚、新寛永（文銭）１枚、煙管片（小片）。
＜時期＞文銭が含まれるため17世紀後半以降か。

216号土坑（第20図、写真図版14）
＜位置＞ＩＣ10ｅグリッド。
＜概要＞215号土坑の東隣に接するように位置する。平面形は正方形に近い。北西－南東に軸をもつ。縄文土器も出土したが、西側隅の底面から古銭等が出土しており、近世の墓壙とした。
＜規模＞1.09×0.99m、深さ37cm。　＜長軸方向＞N－55°－W。
＜堆積土＞黒色土とにぶい黄褐色土の混合土で単層か。
＜出土遺物＞新寛永３枚、鉄銭３枚（241・242・342）、煙管、縄文土器（238）。
＜時期＞鉄銭を含むことから18世紀中頃以降か。

217号土坑（第20図、写真図版14）
＜位置＞ＩＣ10d・10eグリッド。
＜概要＞216号土坑より北東40cmに位置し、平面形は片側が丸みをもった舟形である。上面を削平され浅い。埋土の状況から未改葬と思われる。西際中央から古銭等が出土した。
＜規模＞1.41×0.88m、深さ27cm。　＜長軸方向＞N－８°－E。
＜堆積土＞礫を含む黒褐色土の単層である。
＜出土遺物＞古寛永１枚（258）、新寛永９枚はいずれも無背文銭である。246と247は接着しており断定できないが、字体から無背文銭と思われる。その他、煙管片、鉄製品、鉄釘、布片が出土した。布片は古銭を包んだものの可能性が高い。
＜時期＞無背文銭の新寛永を含むことから、18世紀前半以降か。

218号土坑（第21図）
＜位置＞ⅡＢ6ｃ・7ｃグリッド内。
＜概要＞北側調査区の西側道路寄りからの検出である。周辺には近世以降の柱穴が見つかっているが、それよりも古い遺構と考えられる。平面形は長方形で削平が著しく、底面のみが残っている程度である。埋土中から古銭、傍から陶器片、東隅から笄（簪）（257）とみられる銅製品が出土している。また、この周辺を検出中に煙管片も見つかっている。

212号・213号・214号・215号・216号・217号土坑



第20図　212～217号土坑

＜規模＞1.35×0.73m、深さ10cm。　＜長軸方向＞N－74°－E。
＜堆積土＞黒褐色土の単層。
＜出土遺物＞新寛永１枚、近世陶器碗（大堀相馬）破片、銅製品（笄？）破片。
＜時期＞検出状況などから18世紀前半までさかのぼるか。

219号土坑（第21図、写真図版14）
＜位置＞ⅡB8ａグリッド。
＜概要＞北側調査区の最東部、201号溝によって囲まれた中に検出された。平面形は長方形でこれも遺構の上面は削平されている。腐食が著しく種類は不明だが、鉄製品が出土している。形状等から墓壙の可能性もある。
＜規模＞1.40×1.16m、深さ10cm。　＜長軸方向＞N－47°－W。
＜堆積土＞黄褐色土粘土粒・炭化物を含む暗褐色土の単層。
＜出土遺物＞鉄製品（259）。
＜時期＞近世以降。

220号土坑（第21図、写真図版14）
＜位置＞ⅡB8ａグリッド。
＜概要＞219号土坑とは90度軸を変え、それを北東－南西方向とする墓壙である。長方形を呈し、東側の両隅でP17・18とそれぞれ重複する。新旧は不明であり一連の遺構である可能性もある。ここからは、202号土坑（近世墓壙）出土の模造銭？（156）と同様のもの（262）が出土した。
＜規模＞3.58×1.28～1.05m、深さ32cm。　＜長軸方向＞N－43°－E。
＜堆積土＞焼土粒・炭化物を含む暗褐色土。
＜出土遺物＞模造銭？、鉄屑、近世陶磁器（灰釉陶器皿、染付？皿）。
＜時期＞近世以降。

221号土坑（第21図、写真図版14）
＜位置＞ⅡB9ａグリッド。
＜概要＞北側調査区220号土坑の東隣での検出である。平面形は円形を呈し、ビーカー状の断面をしている。周辺と同様の埋土である。
＜規模＞62×60cm、深さ41cm。　＜堆積土＞炭化物を含む暗褐色土の単層である。
＜出土遺物＞なし。
＜時期＞近世以降。

222号土坑（第21図、写真図版14）
＜位置＞ⅡB8ｂグリッド。
＜概要＞北側調査区201号溝の最南端部で重複する。新旧関係は明確ではないが、222号土坑の方が古い可能性が高い。201号溝により遺構の半分が攪乱を受けているため全容は不明である。
＜規模＞（100）×（70）cm、深さ（30）cm。　＜堆積土＞礫を含む暗褐色土の単層である。
＜出土遺物＞なし。
＜時期＞埋土から近世以降と思われる。

301号土坑（第19図、写真図版13）
＜位置＞ＩＣ9ｅグリッド。
＜概要＞209号土坑と重複しており、当該遺構が古い。当該遺構内に柱穴状の撹乱がある。
＜規模＞99×53cm、深さ50cm。　＜長軸方向＞Ｎ－45°－Ｅ。
＜堆積土＞５層に分層される。自然堆積か。
＜出土遺物＞摩滅した縄文土器片が出土している。
＜時期＞重複関係から近世よりは古いと考えられるが、詳細な時期は不明である。

ｄ　溝

溝状遺構自体は２条検出しているが、うち１条は301号掘立柱建物跡に付属する遺構としているため、単独の遺構は１条のみである。

201号溝（第21図、写真図版14）
＜位置＞ⅡＡ7ｊ・8ｊ・ⅡＢ7ａ・7ｂ・8ｂグリッドに跨る。
＜概要＞北側調査区の最東部にて検出された。周辺に219・220・221・222号土坑、Ｐ15～19がある。この周辺は、当該遺構によって全体的に平坦になっており、その後に前述の遺構が造られているようである。この溝は水路や区画溝というよりも、斜面地形を普請したものの可能性が高い。
＜規模＞全長9.60ｍで途中屈曲する。幅68～50cm、最深42cm。
＜堆積土＞小礫を含む暗褐色土の単層である。
＜出土遺物＞近世陶器（大堀相馬？碗ほか）２点（263・264）。
＜時期＞近世以降。

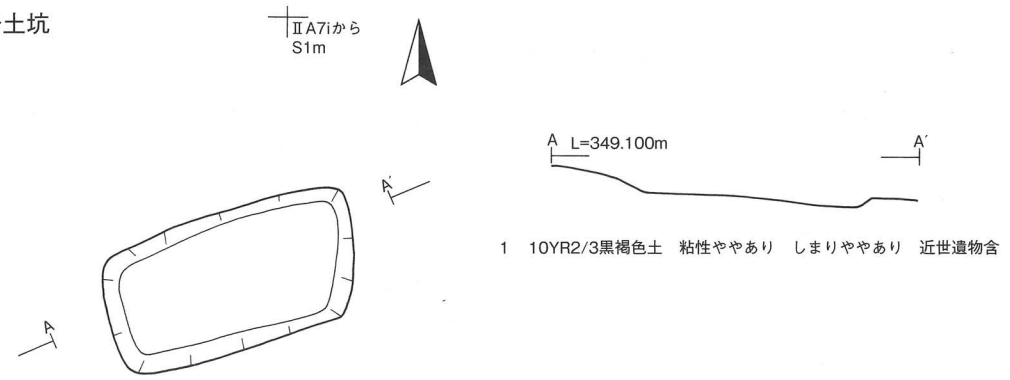
ｅ　焼土

焼土は６基検出している。検出状況などから、縄文時代に属すると思われるものが２基、近世と思われるものが１基で、南側調査区から検出された３基はいずれも時期が不明である。

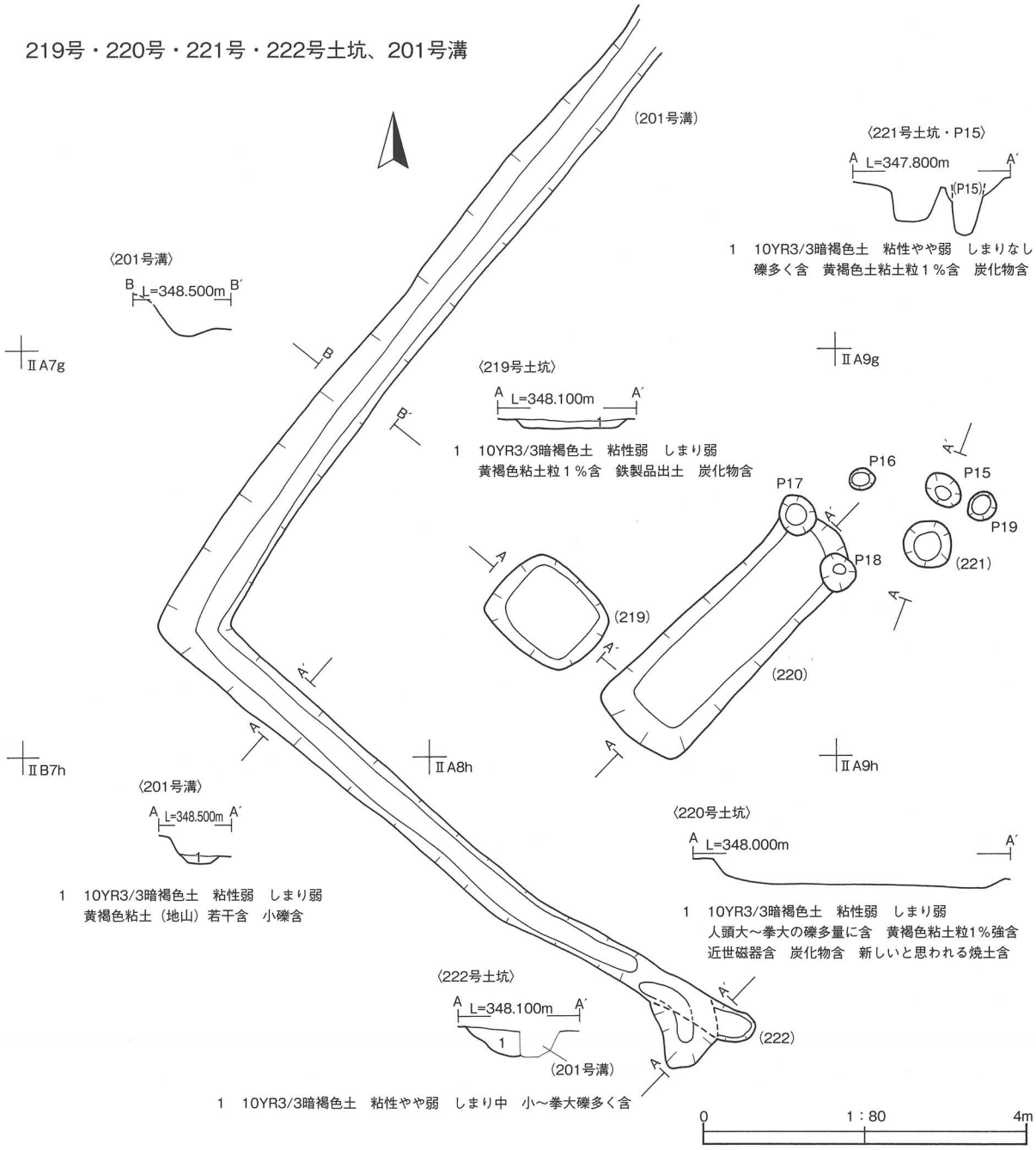
101号焼土（第22図、写真図版15）
＜位置＞ＩＢ7ｃグリッド。
＜概要＞北側調査区北寄りに位置し、102号掘立柱建物跡に囲まれるようにある。平面形は略円形。
＜規模＞63×53cm、厚さ20cm。
＜焼土の状態＞大きく二つに分けられ、上位中央部は焼けが良くない。下位は赤褐色の色調である。
＜出土遺物＞石器片が出土した。
＜時期＞縄文時代に属すると思われるが、詳細な時期は不明である。

102号焼土（第22図、写真図版15）
＜位置＞ＩＢ5ｃグリッド。
＜概要＞北側調査区の北寄り、108号土坑の南西５ｍに位置する。
＜規模＞86×57cm、厚さ15cm。
＜焼土の状態＞礫を含むにぶい赤褐色の色調で、焼けはあまり良くない。この焼土下に炭化物を含む黒褐色土が入り土坑状にも見える。

218号土坑

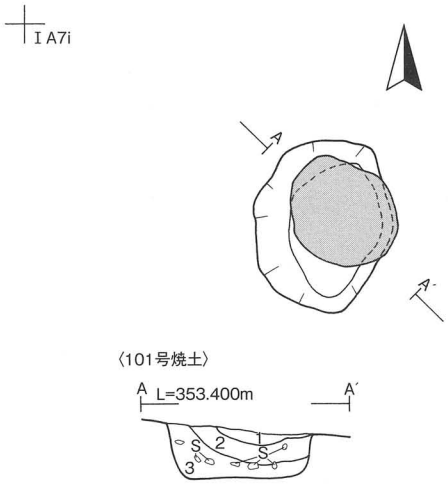


219号・220号・221号・222号土坑、201号溝



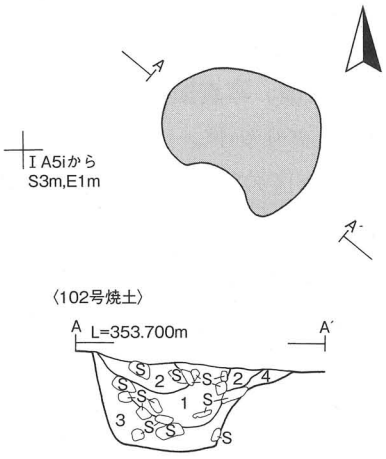
第21図　218～222号土坑、201号溝

101号焼土



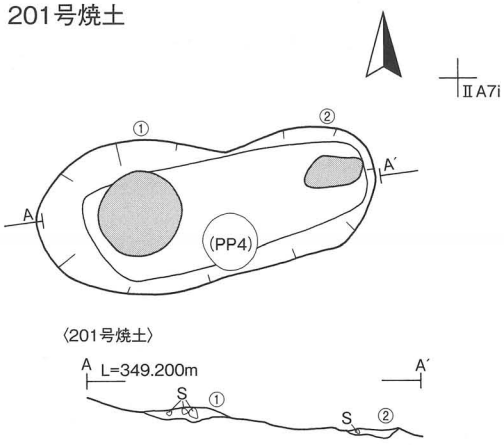
1　7.5YR4/4褐色焼土　粘性なし　しまりあり　赤褐色土粒多く含
2　5YR4/8赤褐色焼土　粘性なし　しまりなし
3　7.5YR4/4褐色土　粘性ややあり　しまりややあり　5cm大礫含

102号焼土



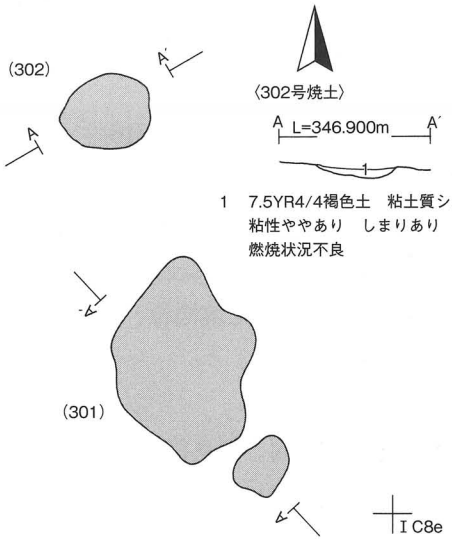
1　10YR2/2黒褐色土　粘性なし　しまりなし　炭化物１％強含
2　5YR4/4にぶい赤褐色土　粘性やや弱　しまりなし　礫多く含
3　7.5YR4/4褐色土　粘性中　しまり中　小～拳大礫多く含
4　7.5YR4/4褐色土と10YR4/6褐色土　との混合土　粘性やや中　しまり中
拳大の礫多く含（地山崩落土？）

201号焼土



①　2.5YR3/4暗赤褐色焼土　粘性なし　しまりややあり
②　2.5YR3/4暗赤褐色焼土と2.5YR2/2極暗赤褐色焼土との混合土
粘性ややあり　しまりなし

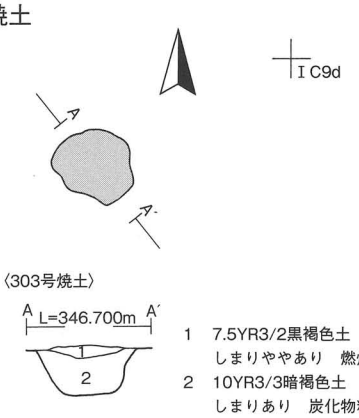
301号・302号焼土



1　7.5YR4/4褐色土　粘土質シルト
粘性ややあり　しまりあり
燃焼状況不良

1　7.5YR4/4褐色土　粘土質シルト　粘性ややあり
しまりあり　燃焼不良

303号焼土



1　7.5YR3/2黒褐色土　シルト　粘性ややあり
しまりややあり　燃焼不良
2　10YR3/3暗褐色土　粘土質シルト　粘性あり
しまりあり　炭化物粒含　20mm～の拳大の礫混入

0　1：40　2m

第22図　焼　土

＜出土遺物＞地文のみの縄文土器（265・266）と石器片が出土している。
＜時期＞出土遺物から縄文時代後期に属するものか。

201号焼土（第22図、写真図版15）
＜位置＞ⅡB6ｃグリッド。
＜概要＞南側調査区の201号掘立柱建物跡内に２基１対で検出した。一つの平面形は円形、もう一つは不整楕円形である。
＜規模＞①直径44cm、厚さ８cm。　②32×13cm、厚さ４cm。
＜焼土の状態＞いずれも暗赤褐色土をなす。焼けは良くない。
＜出土遺物＞なし。
＜時期＞検出状況などから近世以降の焼土としておく。

301号焼土（第22図、写真図版15）
＜位置＞ＩC7ｄグリッド。
＜概要＞南側調査区のほぼ中央、101号掘立柱建物跡の中央付近に検出された。当初は単独の大きく広がる焼土に見えたが、結局は単独の遺構２基の扱いとした。当該焼土の平面形は不整形である。これを精査中にこの真下から103号土坑を検出したが、これらが一連の遺構の可能性も皆無ではない。
＜規模＞1.2×0.80m、厚さ12cm。
＜焼土の状態＞焼けの悪い褐色土。　＜出土遺物＞なし。
＜時期＞不明。

302号焼土（第22図、写真図版16）
＜位置＞ＩC7ｄグリッド。
＜概要＞南側調査区の301号焼土に隣接し、検出状況は上述のとおりである。平面形は略円形である。
＜規模＞48×40cm、厚さ４cm。
＜焼土の状態＞301号土坑同様、焼けの良くない褐色土である。　＜出土遺物＞なし。
＜時期＞不明。

303号焼土（第22図、写真図版16）
＜位置＞ＩC8ｄグリッド。
＜概要＞近世と縄文時代の遺構の間に位置する。平面形は略円形である。
＜規模＞42×39cm、厚さ７cm。　＜焼土の状態＞焼けが極端に悪い。
＜出土遺物＞縄文土器片、石器（磨石）。
＜時期＞不明であるが、出土遺物から縄文時代後期前葉の可能性がある。

ｆ　柱穴状小土坑

縄文時代に属すると思われるものは５個、近世は15個、時期不明は９個である。いずれも掘立柱建物跡などを構成しない。時期は、出土遺物や埋土の状況などから判断した。下表に一覧を掲載したので参照されたい。

第２表　柱穴及び柱穴状小土坑観察表

遺構名	グリッド	建物名	長径(cm)	短径(cm)	最深(cm)	底部標高(cm)	埋　土
P 35	Ⅰ C7d	101 号掘立柱建物跡	43	42	66.9	346.119	
P 40	Ⅰ C8d	101 号掘立柱建物跡	65	41	61.0	346.050	10YR4/4　褐色土　粘性やや中　しまり弱　炭化物１％含
P 48	Ⅰ C7e	101 号掘立柱建物跡	55	46	77.2	345.952	10YR3/4　暗褐色土　粘性ややあり　しまりなし　周辺に礫あり　検出面に礫多くあり　土器片含
P 49	Ⅰ C7c	101 号掘立柱建物跡	41	40	69.5	346.082	10YR3/3　暗褐色土　粘性ややあり　しまりややあり　炭化物粒１％含　土器片含
P 56	Ⅰ C7e	101 号掘立柱建物跡	48	43	56.5	346.129	10YR3/4　暗褐色土　粘性ややあり　しまりややあり　炭化物粒若干含　土器あり
P 64	Ⅰ C7d	101 号掘立柱建物跡	38	34	67.4	346.166	10YR3/3　暗褐色土　粘性ややあり　しまりやや中　炭化物１％含
P 25	Ⅰ A7i	102 号掘立柱建物跡	75	71	65.4	352.480	10YR2/3　黒褐色土　粘性ややあり　しまり極めて弱　上面に礫あり　39 号土坑切る
P 28	Ⅰ A7h	102 号掘立柱建物跡	52	50	100.0	352.640	10YR3/3　暗褐色土　粘性やや弱　しまり中　黄褐色土粒ややあり　炭化物粒１％含
P 65	Ⅰ A6i	102 号掘立柱建物跡	58	52	76.0	352.630	10YR3/4　暗褐色土～ 10YR4/4　褐色土との混合土　粘性ややあり　しまりややあり　土器片、炭化物含
P 68	Ⅰ A7i	102 号掘立柱建物跡	43	40	69.0	352.490	
P 10	Ⅱ A7h	201 号掘立柱建物跡	44	29	18.0	348.566	10YR2/3　黒褐色土　粘性ややあり　しまりなし　小礫（１～ 3cm）含
P 12	Ⅱ A7h	201 号掘立柱建物跡	40	37	27.0	348.355	10YR2/2　黒褐色土　粘性ややあり　しまりなし　礫 5cm大含
P 13	Ⅱ A7h	201 号掘立柱建物跡	34	30	21.0	348.610	10YR2/2　黒褐色土　粘性ややあり　しまりあり　小礫含
P 14	Ⅱ A6h	201 号掘立柱建物跡	52	48	36.5	348.770	10YR3/3　暗褐色土　粘性ややあり　しまりなし　礫 5cm強含
P 22	Ⅱ A7i	201 号掘立柱建物跡	36	35	39.1	348.444	10YR3/4　暗褐色土　粘性弱　しまり弱　上位小礫多く入る
P 43	Ⅱ A6h	201 号掘立柱建物跡	52	49	56.9	348.726	
P 46	Ⅱ A6h	201 号掘立柱建物跡	45	41	22.7	348.980	10YR3/2　黒褐色土　粘性弱　しまり弱　礫が少ない
P 1	Ⅱ A8a	301 号掘立柱建物跡	62(40)	60(37)	103.0	351.000	10YR3/2　黒褐色土　シルト　10YR3/4 暗褐色土との混合土　粘性弱　しまり弱　小礫（５～ 10cm）多く入る
P 2	Ⅰ A7j	301 号掘立柱建物跡	54	52	75.0	351.760	10YR3/4　暗褐色土　粘性弱　しまり弱　拳大～人頭大の礫含
P 26	Ⅰ A8j	301 号掘立柱建物跡	46	40	64.0	351.730	10YR3/4　暗褐色土　粘性中　しまり中　黄褐色土粒１％含　小礫～拳大多い
P 27	Ⅱ A8a	301 号掘立柱建物跡	44	35	66.0	351.640	10YR3/3　暗褐色土　粘性中　しまり弱　植物根多い
P 47	Ⅰ A8j	301 号掘立柱建物跡	51	41	70.0	351.580	10YR3/4　暗褐色土　粘性やや弱　しまり弱　小礫　上面多い
P 5	Ⅰ A8j	301 号掘立柱建物跡	70	56	77.0	351.670	10YR3/4　暗褐色土　シルト　黄褐色土粒若干含　粘性なし　しまり弱　５～ 50mm大の小礫含
P 51	Ⅱ A8a	301 号掘立柱建物跡	26	25	16.0	351.940	10YR4/4　褐色土　粘性ややあり　しまりなし
P 52	Ⅱ A8a	301 号掘立柱建物跡	52	43	65.0	351.440	10YR3/4　暗褐色土　粘性ややあり　しまりなし
P 53	Ⅱ A8a	301 号掘立柱建物跡	40	36	23.0	352.090	
P 54	Ⅱ A7a	301 号掘立柱建物跡	31	25	35.0	352.130	
P 6	Ⅰ A7j	301 号掘立柱建物跡	31	30	23.5	352.330	
P 60	Ⅰ A8j	301 号掘立柱建物跡	55	50	56.5	351.800	10YR3/4　暗褐色土　粘性ややあり　しまりなし　礎石？あり
P 63	Ⅰ A 9j	301 号掘立柱建物跡	22	20	10.0	351.810	10YR4/4　褐色土　粘性なし　しまりなし
P 66	Ⅰ A 9j	301 号掘立柱建物跡	41	35	52.0	351.480	
P 67	Ⅰ A 9j	301 号掘立柱建物跡	29	28	18.0	352.050	
P 58	Ⅰ A 9j	301 号掘立柱建物跡	62	58	72.0	351.450	10YR3/4　暗褐色土　粘性なし　しまりなし　植物根多い
P 59	Ⅰ A 9j	301 号掘立柱建物跡	33	(32)	28.0	351.790	
P 31	Ⅰ C6c	302 号掘立柱建物跡	53	40	60.4	346.676	10YR3/2　黒褐色土　シルト　粘性なし　しまりややあり　ふかふかやわらかい　礫含まず
P 32	Ⅰ C7c	302 号掘立柱建物跡	62	42	61.8	346.620	10YR3/2　黒褐色土　シルト　粘性なし　しまりややあり　ふかふかやわらかい　礫含まず
P 33	Ⅰ C6d	302 号掘立柱建物跡	45	42	55.2	346.525	10YR3/2　黒褐色土　シルト　粘性なし　しまりややあり　ふかふかやわらかい　礫含まず
P 34	Ⅰ C7c	302 号掘立柱建物跡	56	50	51.7	346.530	10YR3/2　黒褐色土　シルト　粘性なし　しまりややあり　ふかふかやわらかい　礫含まず
P 69	Ⅰ C6c	302 号掘立柱建物跡	50	35	39.0	347.053	
P 3	Ⅰ C8d		46	40	16.3	346.529	10YR3/3　暗褐色土　粘性中　しまり中　炭化物２％含　上面に縄文土器あり
P 4	Ⅰ C8e		57	54	12.1	346.423	10YR2/2　黒褐色土　粘性ややあり　しまり中　若干黒褐色土含
P 7	Ⅰ C8d		37	30	7.1	346.644	
P 8	Ⅱ A6h		35	34	21.5	348.940	10YR3/2　黒褐色土　粘性ややあり　しまりなし　礫 5cm大含
P 9	Ⅱ A6h		38	38	34.0	348.675	10YR2/3　黒褐色土　粘性ややあり　しまりなし　礫 5cm大含
P 11	Ⅱ A7i		37	37	33.5	348.495	10YR2/3　黒褐色土　粘性ややあり　しまりなし　礫（１～５cm）含　検出面よりキセル出土
P 15	Ⅱ A9g		45	37	66.7	347.029	10YR3/3　暗褐色土～ 10YR3/4　暗褐色土との混合土　粘性やや弱　しまりなし　上位に礫あり　木根多い

遺構名	グリッド	建物名	長径(cm)	短径(cm)	最深(cm)	底部標高(cm)	埋　土
P 16	Ⅱ A9g		30	25	16.6	347.599	
P 17	Ⅱ A8g		50	42	64.3	347.166	
P 18	Ⅱ A8g		43	40	41.6	347.274	
P 19	Ⅱ A9g		35	32	10.0	347.500	10YR3/3　暗褐色土　粘性弱　しまり弱　植物根多い
P 20	Ⅰ A5j		51	46	41.5	353.200	10YR2/2　黒褐色土　粘性弱　しまり弱　炭化物粒若干含
P 21	Ⅰ A5j		52	47	48.1	353.345	10YR2/2　黒褐色土　粘性やや弱　しまり弱　土器片あり
P 23	Ⅱ A6i		39	38	48.0	348.795	10YR3/3　暗褐色土　粘性弱　しまり弱　小礫若干含
P 24	Ⅱ A5j		55	44	47.0	348.935	10YR2/3　黒褐色土　粘性弱　しまり弱　礫少ない
P 29	Ⅰ A7i		30	28	30.4	352.770	10YR3/3　暗褐色土　粘性やや弱　しまり中　黄褐色土粒若干入る　炭化物粒若干入る
P 30	Ⅰ C9e		(25)	(24)	54.6	345.927	207号土坑と重複　土坑よりも新
P 36	Ⅰ C7d		42	32	10.0	346.710	
P 37	Ⅰ C7d		56	39	43.3	346.279	
P 38	Ⅰ C7d		55	42	19.3	346.713	
P 39	Ⅰ C8d		31	29	43.6	346.141	10YR3/4　暗褐色土　粘性ややあり　しまり中　炭化物１％含
P 41	Ⅱ A7i		57	53	44.6	348.405	10YR3/2　黒褐色土～10YR3/3　暗褐色土　粘性弱　しまり弱　黄褐色土粒若干入る
P 42	Ⅱ A5i		65	65	84.0	348.740	10YR2/3　黒褐色土　粘性弱　しまり弱　小礫多く入る
P 44	Ⅱ A6i		28	27	113.0	347.840	10YR3/3　暗褐色土　粘性弱　しまり弱　炭化物粒若干入る　201号焼土と重複　焼土よりも旧い
P 45	Ⅱ A6i		47	43	111.5	347.860	10YR3/2　黒褐色土　粘性弱　しまり弱　礫が少ない
P 50	Ⅰ C6d		30	29	17.5	346.914	
P 55	Ⅰ A8j		38	38	29.0	352.190	
P 57	Ⅰ C6d		52	45	23.5	346.762	10YR3/3　暗褐色土　粘性ややあり　しまりややあり　土器・石器あり
P 61	Ⅰ A 7j		(46)	(30)	(70.5)	352.200	10YR3/4　暗褐色土　粘性ややあり　しまりなし　120号土坑と重複　土坑よりも旧い
P 62	Ⅰ A 7j		(45)	(30)	(95.7)	352.018	10YR3/4　暗褐色土　粘性ややあり　しまりなし　120号土坑と重複　土坑よりも旧い
P 70	Ⅰ C7d		24	20	31.0	346.695	10YR4/4　褐色土混じり　10YR3/4　暗褐色土　粘性ややあり　しまり弱

（2）遺　　物

a　土器（第23～33・37～39図、写真図版18～23・25～27）

平成19年度の縄文土器の総出土量は、18.76kgである。そのうち、84％強が遺構内出土土器である。時期は縄文時代後期前～中葉、晩期中葉～後葉に属する土器がほとんどである。大まかに時期によりⅠ群～Ⅴ群に分類した。最も出土の多かったⅢ群とⅣ群については、文様などから更に以下のように細分した。

Ⅰ群　南側調査区から同地点で出土した289～292の小破片4点は同一個体と見られる。いずれも繊維を含んでおり縄文時代前期と思われる土器である。調査区から唯一の出土である。

Ⅱ群　縄文時代中期末と思われる土器である。坪渕Ⅱ遺跡はもともと縄文時代中期の土器が出土する遺跡として知られていたが、本調査区からの出土量は数点のみで、105号土坑から出土した73・76だけである。なお、これらの土器は同一個体の可能性がある。

Ⅲ群　縄文時代後期に属する土器である。十腰内Ⅰ式（最新）～新山権現社1式相当、加曽利B1式に相当するものが多く見られる。

1類は、十腰内Ⅰの範疇に入る土器である。

1a類　磨消縄文が施され、縦位に展開される曲線が描かれるものがある（44・45）。

1b類　1a類に後続するもので、磨消縄文や入組文が施される土器である（142・143）。本調査区からはあまり出土していない。

1c類　磨消縄文が横位に展開し、口縁部に沿った平行沈線が描かれる（132・285）。波状口縁のもの（128～131）が多い。平行沈線が多条になるものも含まれる（273・274）。

1ｄ類　平行沈線の間隔が短くなり、沈線の間に縄文が施されないもの（48・52）。

2類は、後期中葉にあたるものである。

2ａ類　波状口縁で平行沈線が更に発展して、多条の平行沈線に交互に縦位の弧線を入れ区画しているもの（3）がある。また朝顔状に大きく外反するもの、頂部突端に刻目が施されるものなどがある（49・96）。新山権現社1式にあたるものと思われる。

2ｂ類　弧状の条線や刺突が施されるものが入る。(294・295)

2ｃ類　2ａ類の朝顔状に大きく外反した口縁部がやや内湾するようになったもので、2ａ類に後続すると思われる土器である。293は縁端部にのみ施文されている。

3類は、地紋のみのものである。ただし小破片で他の文様が不明のものも含む。

4類は、底部資料である。

Ⅳ群　縄文時代晩期に属する土器である。北側調査区の晩期遺構内からの出土が多い。

1類　大洞Ｃ2式に相当するものである。浅鉢は、口縁部が「逆くの字」に屈曲し、屈曲部に刺突が施される。114号土坑より出土した117～120は同一個体でこの類に属する。

2類　大洞Ａ式に相当するものである。鉢類では工字文が描かれるもの（26）や平行沈線が施され突起を持つもの(77)、小波状口縁になるもの(80)がある。頸部が無文帯となっているものが多い。31は高台のみであるが、同類に含まれると思われる。

3類　大洞Ａ′式に相当するものである。113号土坑より出土した114がこの類に属する。

4類　深鉢で中葉から後葉にかけてのものと思われる土器で粗製なものが多い。

4ａ類　口唇部に刻目が施され、頸部に平行沈線が描かれる土器である（279）。

4ｂ類　頸部が無文で、肩部から地文のみのもの（14・15・19など）や口唇部に刻目を持つもの（111・123・284）、小波状口縁になるもの（20・22）が含まれる。

4ｃ類　胴部～胴下部の破片資料で地文のみ施されている土器である。破片が多いため、見つかっていない部位に他の文様が施されている可能性もある。25・29・33は15と同一個体の可能性が高い。

5類　無文の土器である。106号土坑から出土した83は、本調査区で唯一略完形に接合できた土器である。口縁部は一部欠損しているが、8単位と思われる波状口縁で胴部はヘラ状のもので調整されて縄文はない。胴部にススが多量に付着しており、また、そのススをこすり取ったような痕も見られる。No110は壺である。薄手で丁寧に作られたようだが、摩滅がひどい。

6類　晩期と思われる底部資料である。

Ⅴ群　縄文時代後～晩期の土器と思われるが、これまでのいずれの分類にも属さない一群である。

1類は胴部破片資料、2類は底部破片資料である。

前述したように、出土した土器はほとんどが縄文土器であるが、Ｐ57の埋土からの出土で縄文土器と胎土を異にする土器275がある。Ｐ57は、南側調査区の302号掘立柱建物跡寄りにて検出したものであるが、この柱穴状ピットの他にもいくつか検出されているがいずれも時期ははっきりしない。やや内湾する口縁で蓋付きの埦を想像させる明確な段を持っている。この類の土器はこの1点のみで詳細は不明である。

	遺構内出土		遺構外出土		計	
北側調査区	67点	26.2%	112点	43.8%	179点	69.9%
南側調査区	41点	16.0%	36点	14.1%	77点	30.1%

種　別	点数	率
剥片石器	188点	73.4%
礫石器	58点	22.7%
石製品	10点	3.9%

石器の総出土数は256点で、内訳は剥片石器（フレイク等含む）が73.4%、礫石器が22.7%、石製品が3.9%である。また、遺構内出土も含めた北側調査区と南側調査区の出土割合は、前者が69.9%後者が30.1%となっている。剥片石器のほとんどが頁岩で、瑪瑙は全体の５%、黒曜石は数点のみである。このうち掲載したものは遺構内出土の石器類および遺構外出土の加工された石器・石製品の70点（27.3%）である。掲載している石器の産地は、立地の地域性がそのまま反映される奥羽山脈産が95.7%と大半を占める。

＜石鏃＞　頁岩（赤色頁岩含む）３点、瑪瑙３点、黒曜石１点の７点が出土した。有茎の石鏃では、凸基のものと平基のものがある。無茎では全て円基である。有茎の石鏃は、先端部に比べて茎の部分が長いものがある（300・301 ？・302）。

＜石匙＞　6点出土している。いずれも縦型の石匙であるが、①細身長身で先端部が直線的なもの（306・304）、②長身だがやや幅広で先端部が尖っているもの（305）、③幅広で先端部が丸みを帯びているもの（35・86・306）の３種類に分けられる。

＜石錐＞　１点のみで菱形のものである（329）。

＜石篦＞　２点出土している。328は、刃部の裏面が使用によるものか光沢がある。

＜削・掻器・不定形石器＞　整形して縁辺に刃をつけたものを、削・掻器、整形せずに刃をつけたものを不定形石器とした。また不定形石器の中で細かい剥離を持って刃部として加工しているものを２次加工とし、刃部としての加工とは認めがたい剥離のあるものを微細剥離として表に掲載している。303の石器は、自然に摩耗したものか意図的なものか不明だが、一つ一つの剥離稜線が摩耗（？）している部分と摩耗していない部分とが混在している。使用当時に再加工された可能性もある。312のように、これらの石器の中には不掲載の石器も含めて、掌大の大きな剥片も含まれている。ほとんどが奥羽山脈系の頁岩であり、もともとは同一個体の石器であることが容易にわかるものがあることから、周辺に頁岩の採取地があったのかもしれない。

＜楔形石器＞　１点のみの出土である。両極に細かい剥離が見られる。

＜石斧＞　打製石斧が１点出土している。凹石などの礫石器や剥片石器に比べると極めて少ない。

＜磨石・凹石・敲石＞　磨部だけのもの、凹みと磨部があるもの、磨部と敲部があるもの、全て見られるものの４種がある。凹石は、円形または楕円形で扁平なものは両面に凹み、厚みのある礫の凹みは２面以上に見られる。

＜石皿・台石＞　石皿と判断できるものは２点出土し、台石としたものの中には、被熱を受けた痕が見られるものがある。

＜石製品＞　10点掲載した。頁岩製で長さが３～4cm前後、断面が楕円形の円柱状石製品が目立った。いずれも欠損しており全容は不明だが、自然に割れたものとは判断しにくい。縄文時代晩期の代表的遺跡である北上市の九年橋遺跡でも、4次調査･5次調査で類似した円柱状の石製品が報告されている。41は、石剣を作ろうとしたのか、頭部と先端部に整形痕が認められるが未製品である。

＜その他＞　108は、加工痕が見られず自然礫のようではあるが、被熱しているものである。

c　銭貨（第 33 ～ 37、写真図版 23 ～ 26・29・30）

銭貨は全部で 96 点出土し、うち 92 点は墓壙内からの出土である。内訳は、寛永 3 年（1626 年）から寛文 8 年（1668 年）の文銭鋳造が始まる以前の寛永通寶、いわゆる「古寛永」が 32 点、文銭以降の「新寛永」が 43 点、寛永通寶ではあるが時期が不明なもの 2 点、北宋銭などの渡来銭が 8 点、銅銭ではあるが腐食等により銭種不明なもの 2 点、鉄銭 3 点、材質不明の摸造銭（？）が 2 点である。

208 号土坑出土の 179 ～ 184 は、一緒に穿孔された木片（345）が出土している。209 号土坑出土の 187・210 号土坑出土の一括 6 枚 192 ～ 198・212 号土坑出土の一括 9 枚 210 ～ 218・215 号土坑出土の一括 5 枚 233 ～ 237 などは、複数の銭を束ねたと思われる捩られた藁片や、銭を包んでいたと思われる布片が銭に付着した状態で見つかっている。

渡来銭は、南側調査区のⅠ層から出土した永楽通寶以外は全て北宋銭である。211 号土坑から 8 枚出土した銭貨のうち、6 枚が渡来銭の「至道元寶」であったことは興味深い。

202 号土坑と 220 号土坑からは、凝灰岩製の摸造銭と思われるものが 1 枚ずつ出土した（156・262）。いずれも表面を平らにし、周辺を細かく磨り円形に整形している。一関市川崎町河崎の柵擬定地からは、凝灰岩製の摸造銭が 1 点出土しているが、これは中央に四角の穿孔があるもので、形状から摸造銭と判断されたものである。祭祀行為に使用された可能性が高く、時期は中世から近世初頭としている。本遺跡から出土した遺物は、河崎の柵擬定地出土のものとは異なるが、出土状況や形状から摸造銭と判断した。

先述したが、208 号土坑や 211 号土坑からは古銭とともに四角に穿孔された木片が出土している（345・346）。緡縄の固定のためのものとも考えられるが、217 号土坑では布片が付着し、大きさや重さをほぼ同じくする円形の木片 2 点も見つかっている（347・348）。

平成 4 年に調査された北九州市の宋玄寺跡では、江戸時代後期以降と推定される肥前産の甕に埋葬された熟年男性の墓が調査されている。この 463 号墓からは、2 振の木製儀刀や漆器椀、蓋付椀、袴の腰抜とともに円板の中央に孔を持つ木製の円板 6 枚が出土している。うち 4 枚は孔を四角に整えられ、6 枚揃っていることから、調査担当者は一文銭を模した六道銭と判断している。また、金沢市の久昌寺遺跡では、19 世紀代と思われる近世墓から 5 枚の木製摸造銭が出土している。いずれも表面に「寛永通寶」、裏面に「文」の墨書があり、文銭を模したもののようである。今回出土した木片は、これらの木製摸造銭には及ばない粗悪なもので摸造銭とは言えないものだが、今後の参考資料として記載した。

d　煙管（第 34 ～ 37 図、写真図版 24 ～ 26・29）

煙管は 9 点出土した。うち近世墓壙内から出土したものは 8 点である。遺構外から出土した 325 もその出土状況から、墓壙と推測される 218 号土坑に伴う可能性がある。

いずれも煙管の残存状態は極めて悪く、取り上げの際に壊れてしまうものも多くあったが、最も残りの良い煙管は、208 号土坑から出土した 177 である。これは古泉氏の分類（1987「江戸の考古学」）に拠れば、河骨形で補強帯がなく吸口が一枚ものということから、Ⅲ段階もしくはⅣ段階（17 世紀後半～ 18 世紀前半）に属するようである。

209 号土坑出土の 185・186 は、煙の漏れを防ぐためかあるいは副葬品とした時に煙管を保護したためか、和紙のようなものが巻かれた痕が見られる。北上市岩脇遺跡や一関市川崎町河崎の柵擬定地など、墓壙から多くの煙管が出土した遺跡にも、本体に布片を巻いてあるものが出土しているようである。

e　鉄製品（第34・36～38図、写真図版23～26）

鉄製品には、和鋏2点、毛抜き2点、刃物類4点、鉄釘などがあり、いずれも近世墓壙もしくは墓壙の周辺から出土した。和鋏や毛抜きが出土した207号土坑と213号土坑からは刃物は出土しておらず、このことは埋葬された人物（性別）の違いを示しているのであろう。

江戸中期に書かれた『和漢三才図絵』では、「鑷」と書かれ、和名で「波奈介沼岐」いう名のとおり、もともとは白髪と鼻毛を抜くものだったようだ。「近世では顔面に眉以外に毛のあるものを好まない（訳注）」らしく、余分な毛を抜くことが当たり前の様で生活必需品であった。小型・薄型化している現代物よりも大振りである。

一般に小型の刃物については、短刀や小刀などと呼び方が様々ある。「短刀」は、一般的に長さ1尺以下の刀の総称で、用途や所持の仕方から様々な呼ばれかたをし、武器類に属するものである。これに対し、「小刀」は、古くは「刀子」と呼ばれた背の反りのない小型の刃物で、いずれにも帰属しない万能工具に分類されるようである。当該遺跡出土の小型刃物の多くは、「小刀」として記載したが、176については、先端がわずかに広がることから「小刀」ではなく、「山刀（ナタ）＜剣鉈＞」として報告した。薪などを割る際に見かける先端が角張ったものを「腰鉈」というのに対し、「山刀」は先端が鋭利なことが特徴のようである。207は柄が残る小刀で、柄の部分は約9㎝、刃渡りは11.9cmである。

f　近世陶磁器（写真図版30）

登録したものは8点で、墓壙出土ものが3点、溝出土が2点、遺構外が4点である。350は型紙摺絵で明治期、それ以外は明治以前と考えられる。大堀相馬産かと思われるもの（255・263）、肥前産陶器らしきもの（260）が出土しているが、いずれも小破片ではっきりしない。

g　その他（写真図版30）

352は、小型のガラス瓶で「みや古染め」と見える。現在でも染色家や愛好家に昔ながらの染料として使用されているようだが、戦前は家庭用染色剤として一般的に利用されたようである。

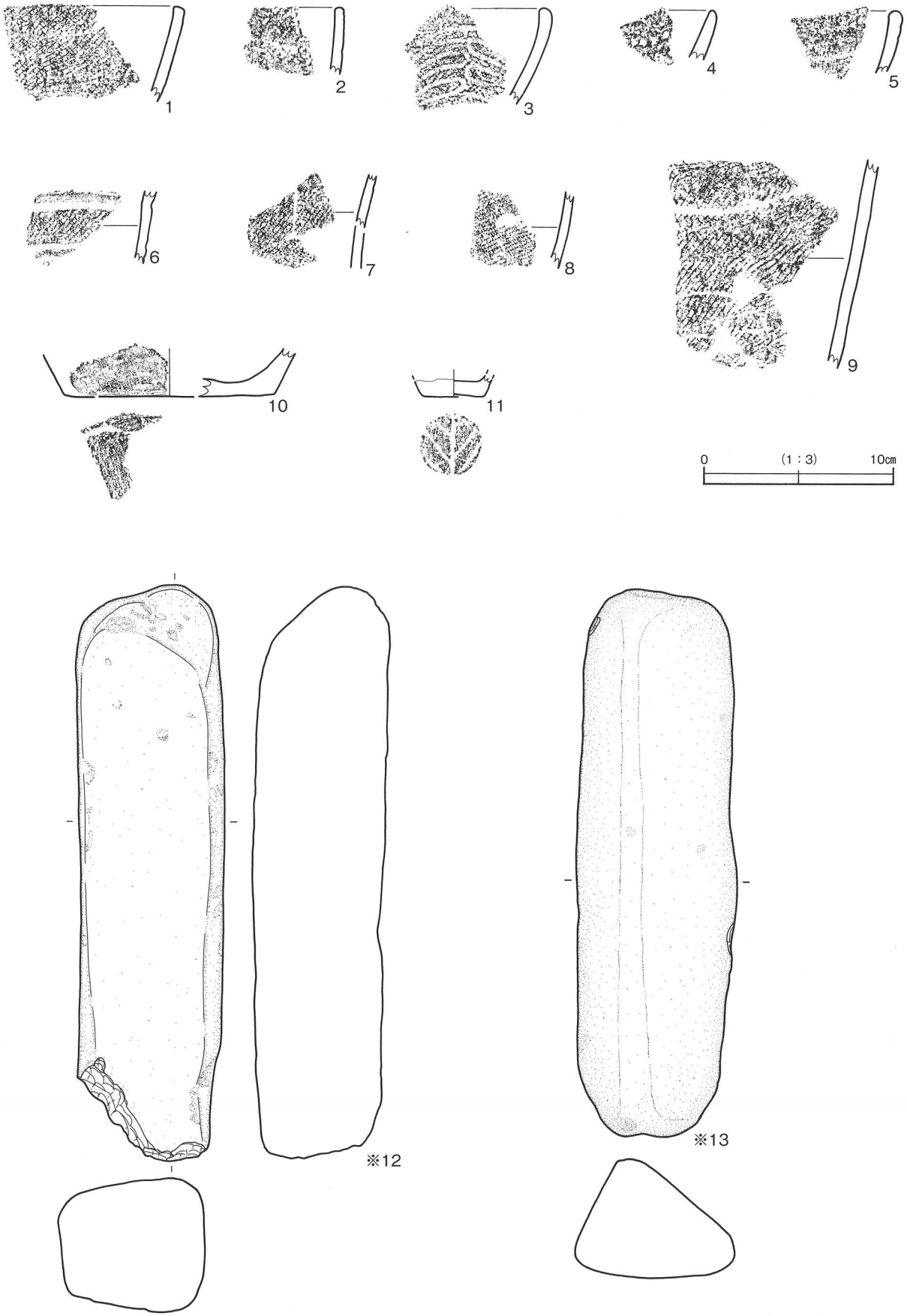
218号土坑から出土した細長い銅製品は、欠損しているため全容は不明だが、形状から推測すると笄もしくは簪ではないかと思われる。笄は「髪をかきあげるのに用いる細長い具。箸に似て根もとが平たく先端は細くふつう銀や象牙で作る」とある。素材は異なるが、後世になるとさまざまなもので作られるようになるようである。前述した『和漢三才図絵』では、「楴枝（こうがい）」という字で書かれ、「楴枝とは髪を整えるための釵（かんざし）」という説明とともに絵も載っており、出土したものと類似している。

南側調査区外（調査区境）の表採品に、粘板岩製の碁盤（353）と石臼（339）がある。碁盤は8.6×4.3cmの小片ではあるが、表面には2㎝前後の区画が格子状に刻まれている。石臼は、粉挽き臼の下臼の部分で上面に目が刻まれており、下面にも摩耗した目がいくつか見られる。我が国では臼の目は6分画と8分画が主流のようだが、残存状況から溝の目は不整の6分画と思われる。

h　墓石（第44～46図、写真図版16・17）

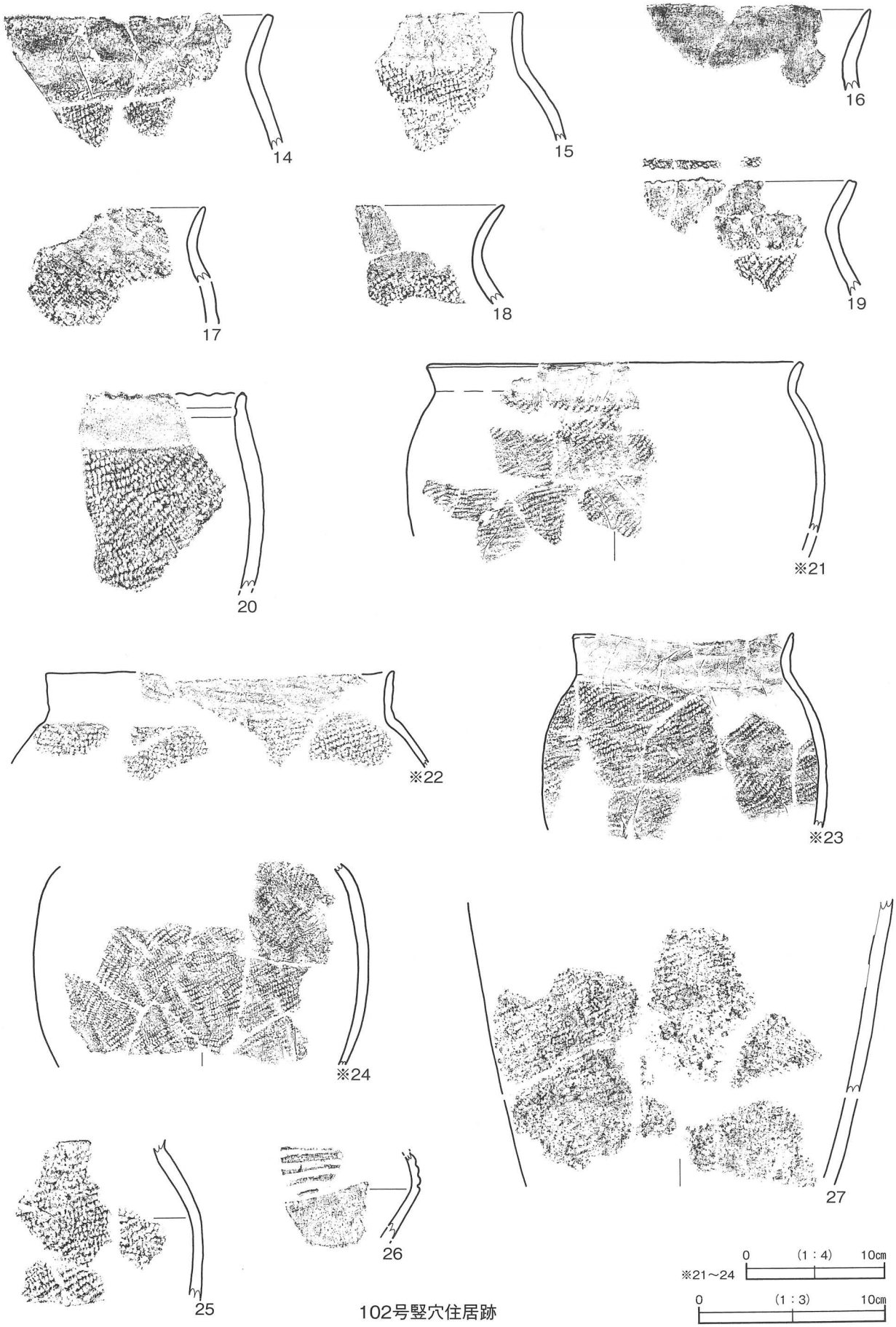
南側調査区近世墓壙群の近くに廃棄されていたもので、全部で13基見つかっている。この墓壙群は、およそ40年前に改葬されたことを元の地権者に聞いているが、その際に捨てられたものであろうか。自然礫を利用し、銘が刻まれているものが多いが、この他に墓石と思われる巨礫もあった。本書では、

現場で採取した拓影図と墓石の写真を掲載した。一番古いもの（墓石－1）で「享保4（1719）年」で、新しいものは「明治34（1901）年」（墓石－11）である。上部に「○」の頭書があり、下部に蓮弁が刻まれることが多い。表面に女性像が刻まれている2基は他の墓石に比べ小振りの礫を使う。一つは横向きに立ち背中に赤子を背負う。足下には蓮弁が描かれている。もう一つは、正面を向きで同様に蓮が描かれている。文字などは確認できなかったが、水子地蔵などと同じような供養碑なのだろう。



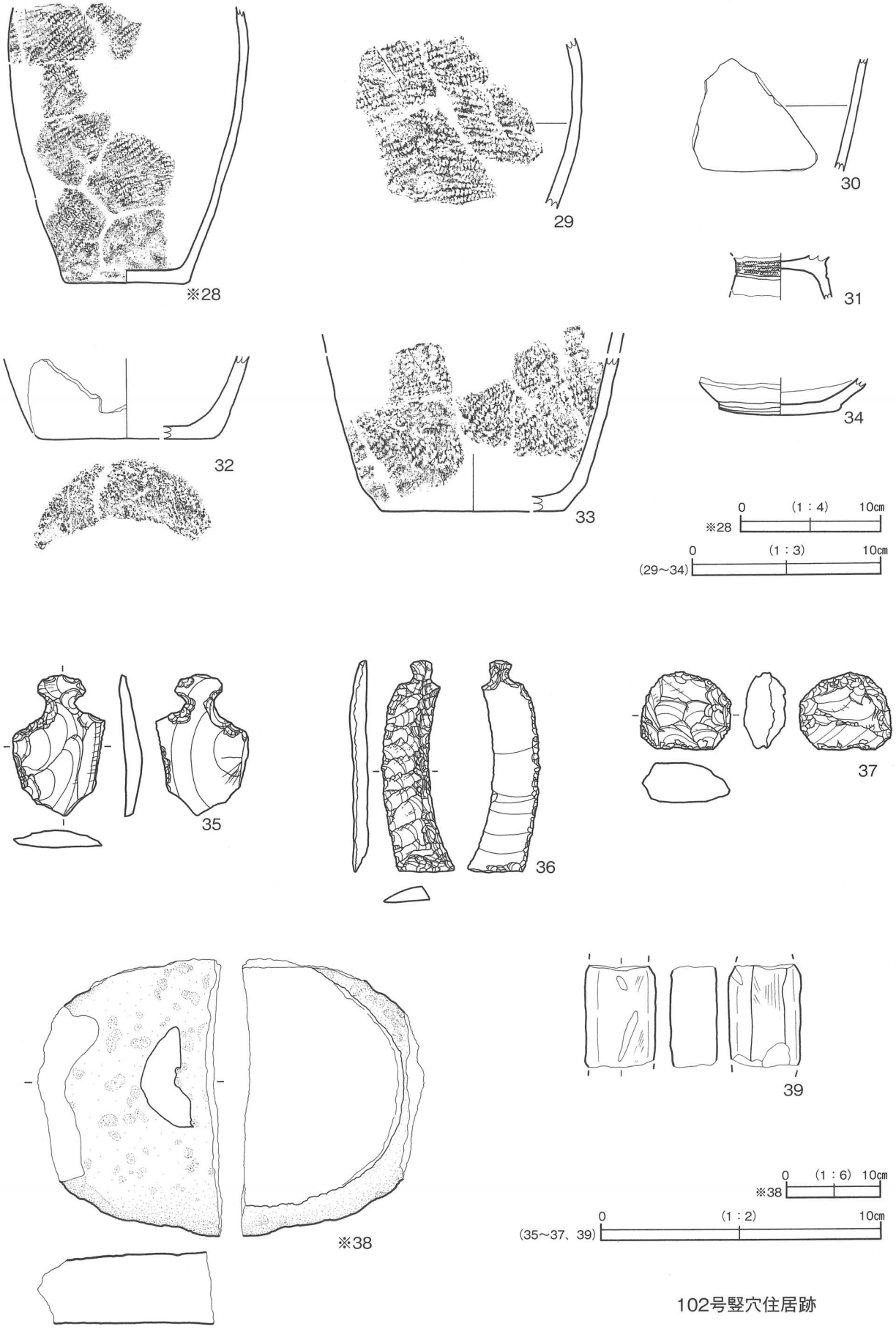
101号竪穴住居跡

第23図　遺構内出土遺物（1）

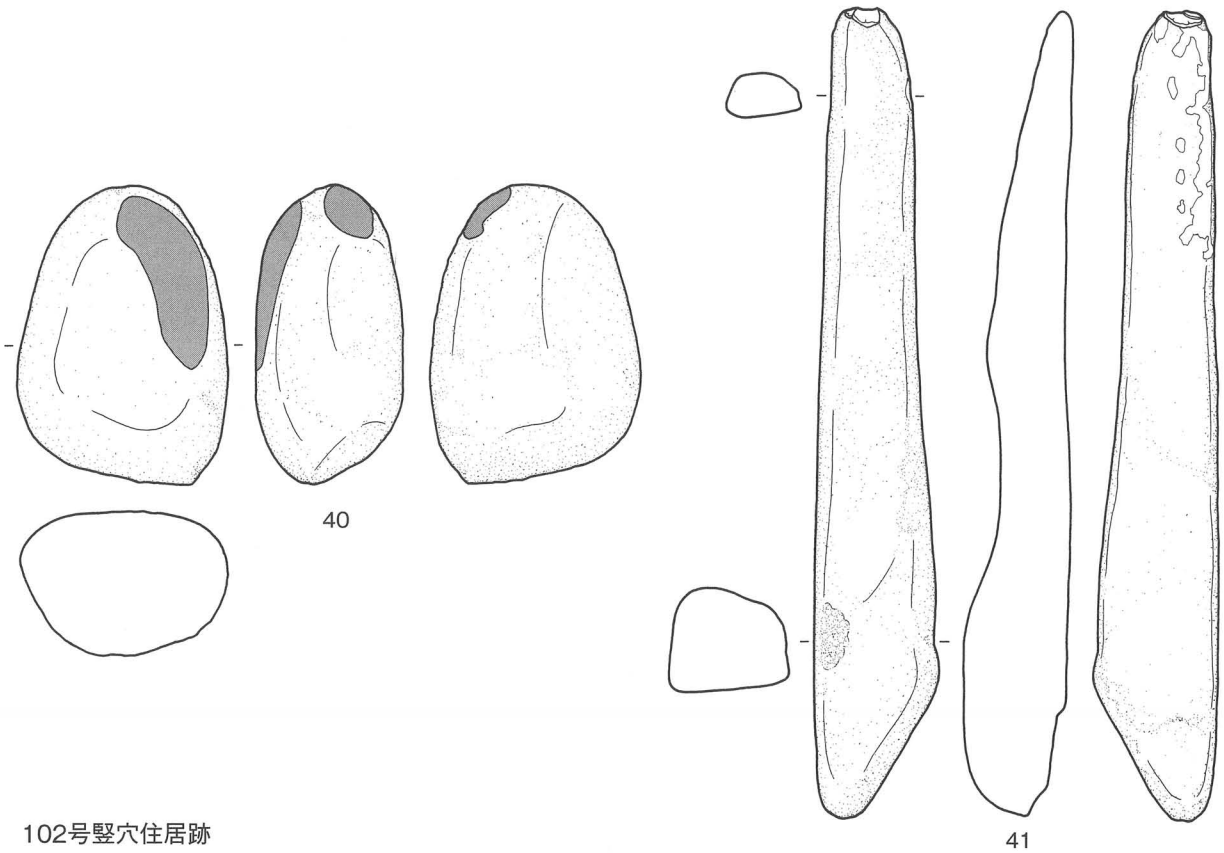


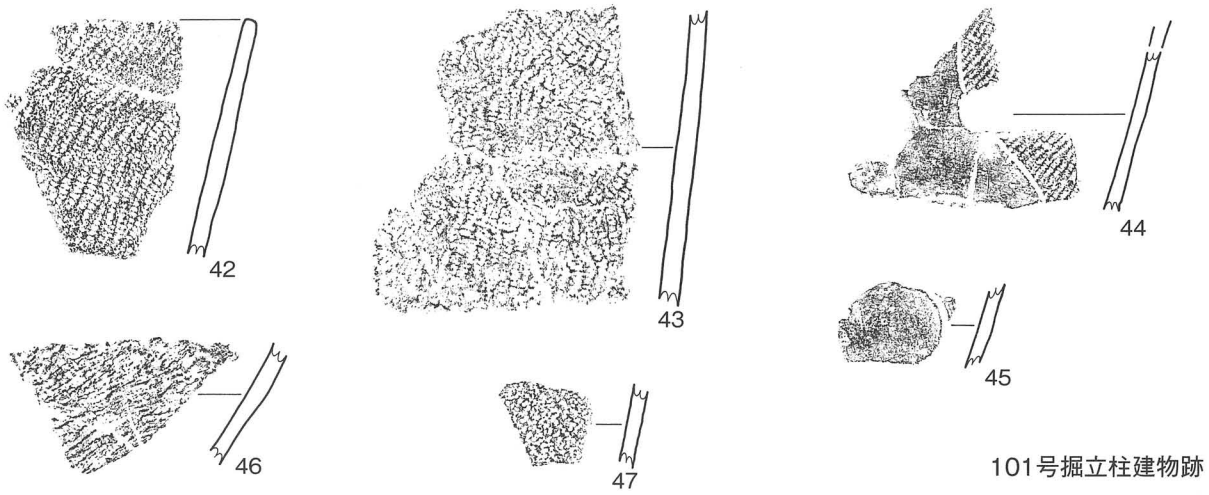
102号竪穴住居跡

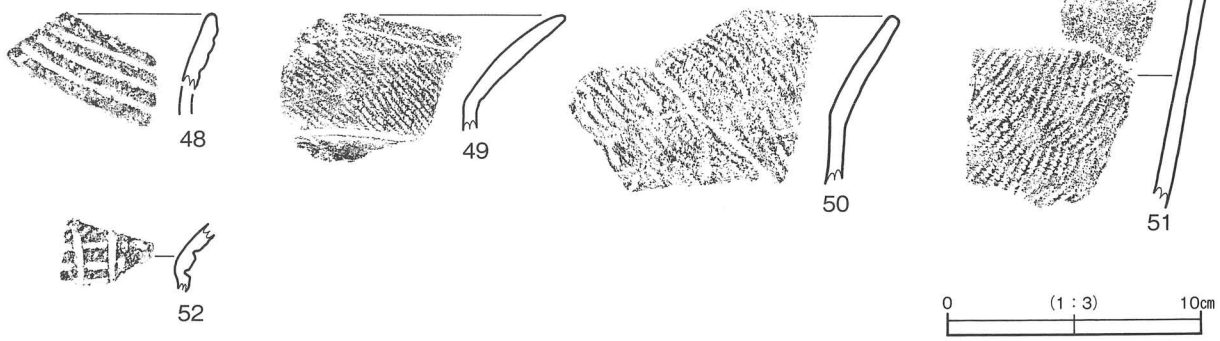
第24図　遺構内出土遺物（2）



第25図　遺構内出土遺物（3）

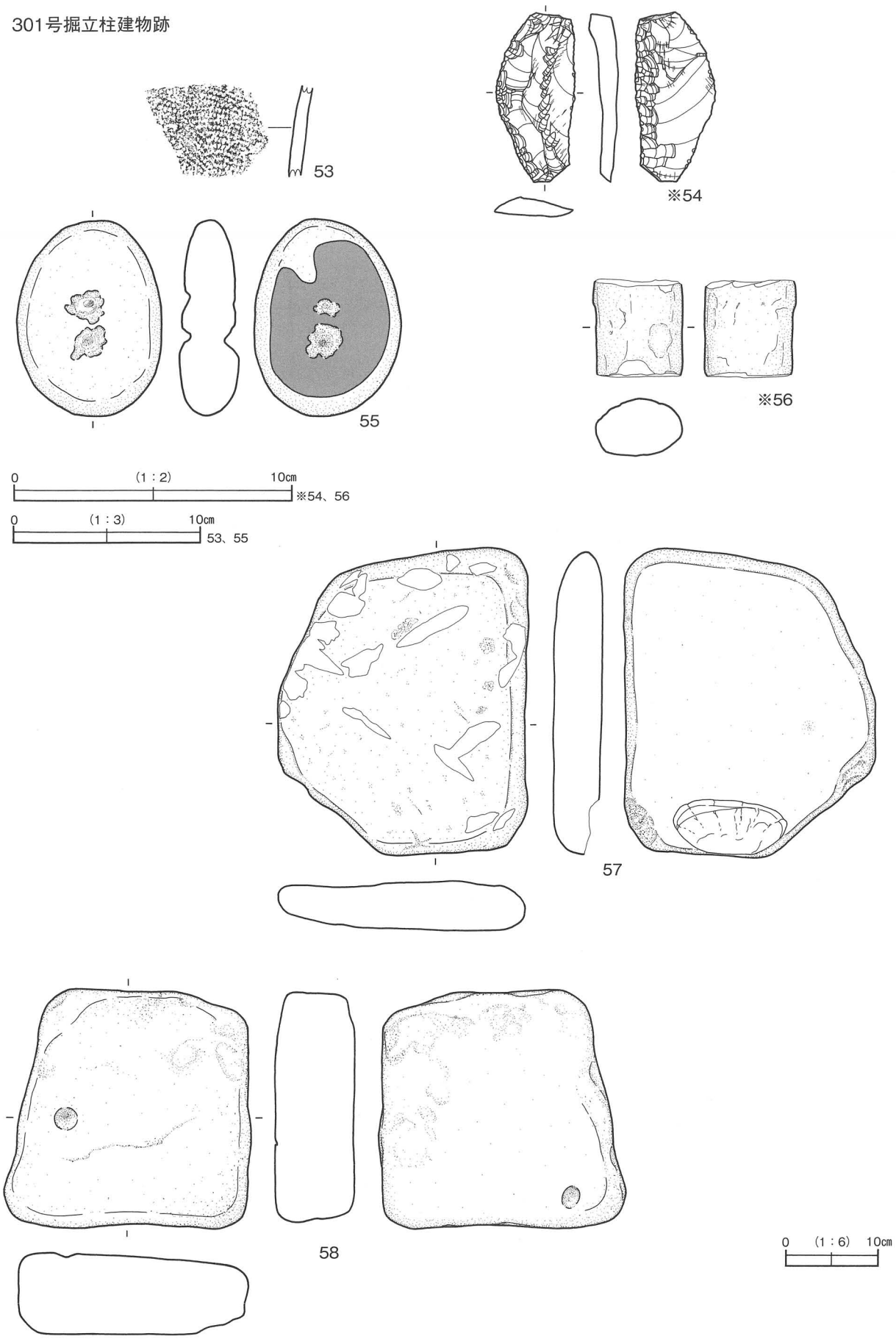




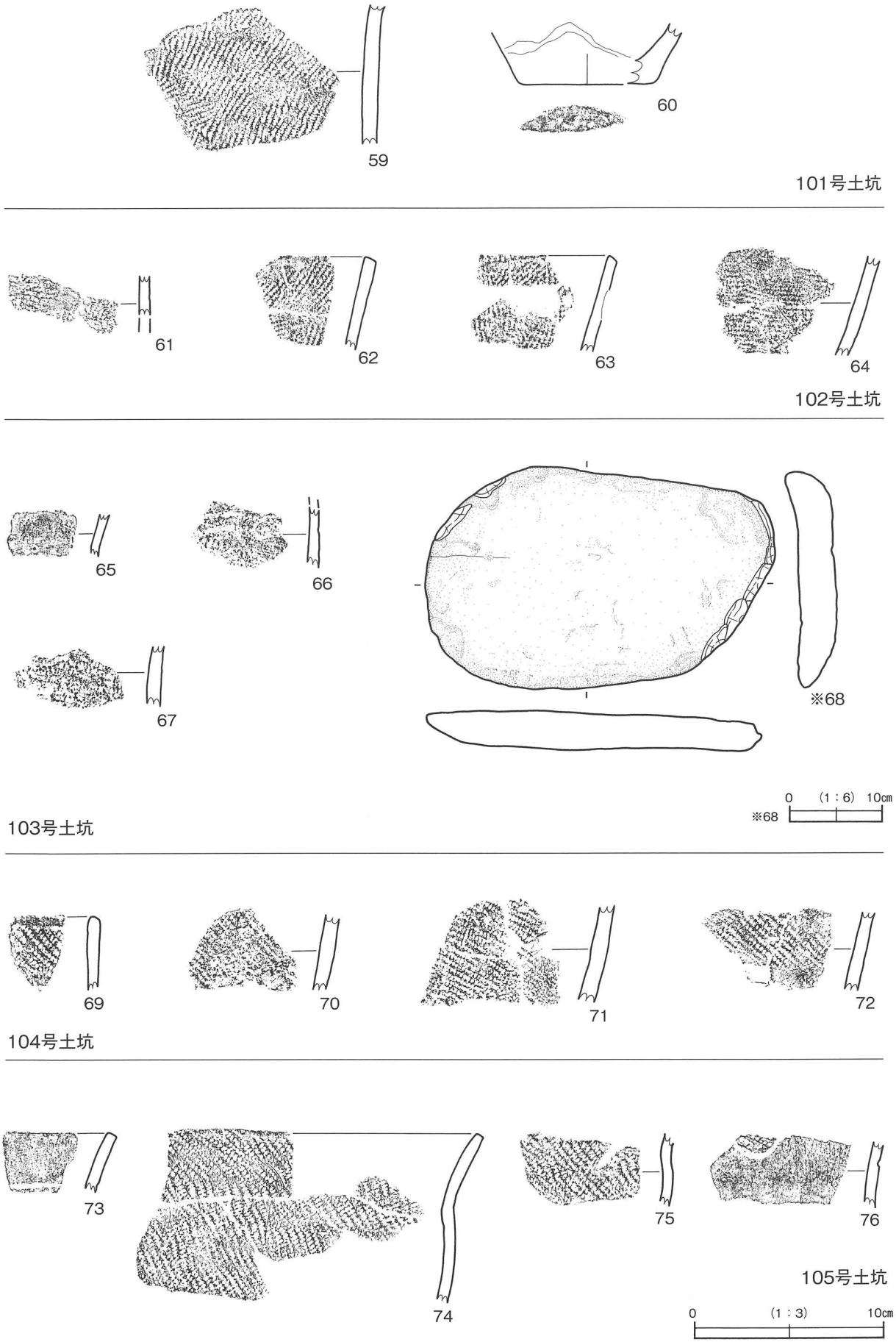


第26図　遺構内出土遺物（4）

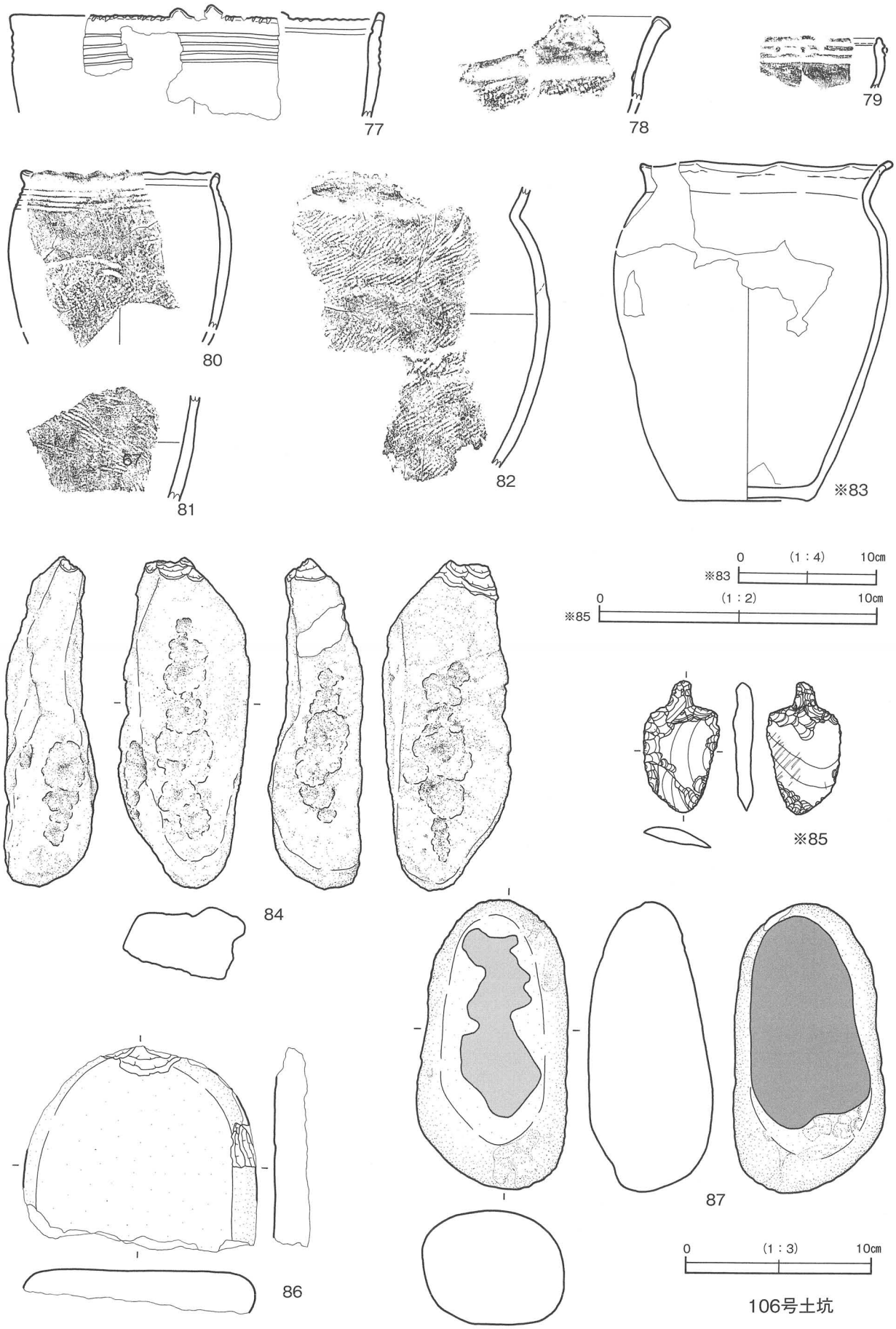
301号掘立柱建物跡



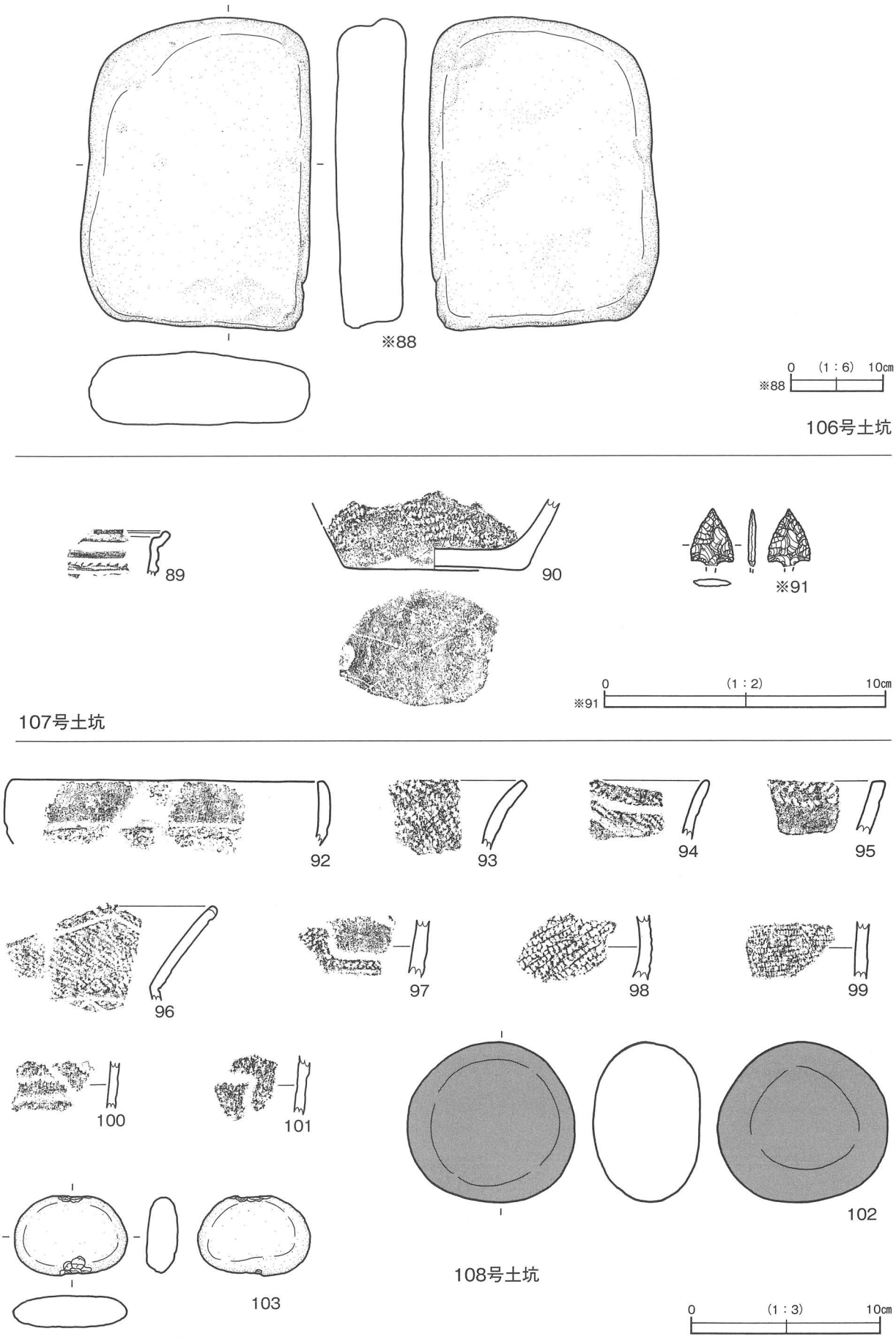
第27図　遺構内出土遺物（5）



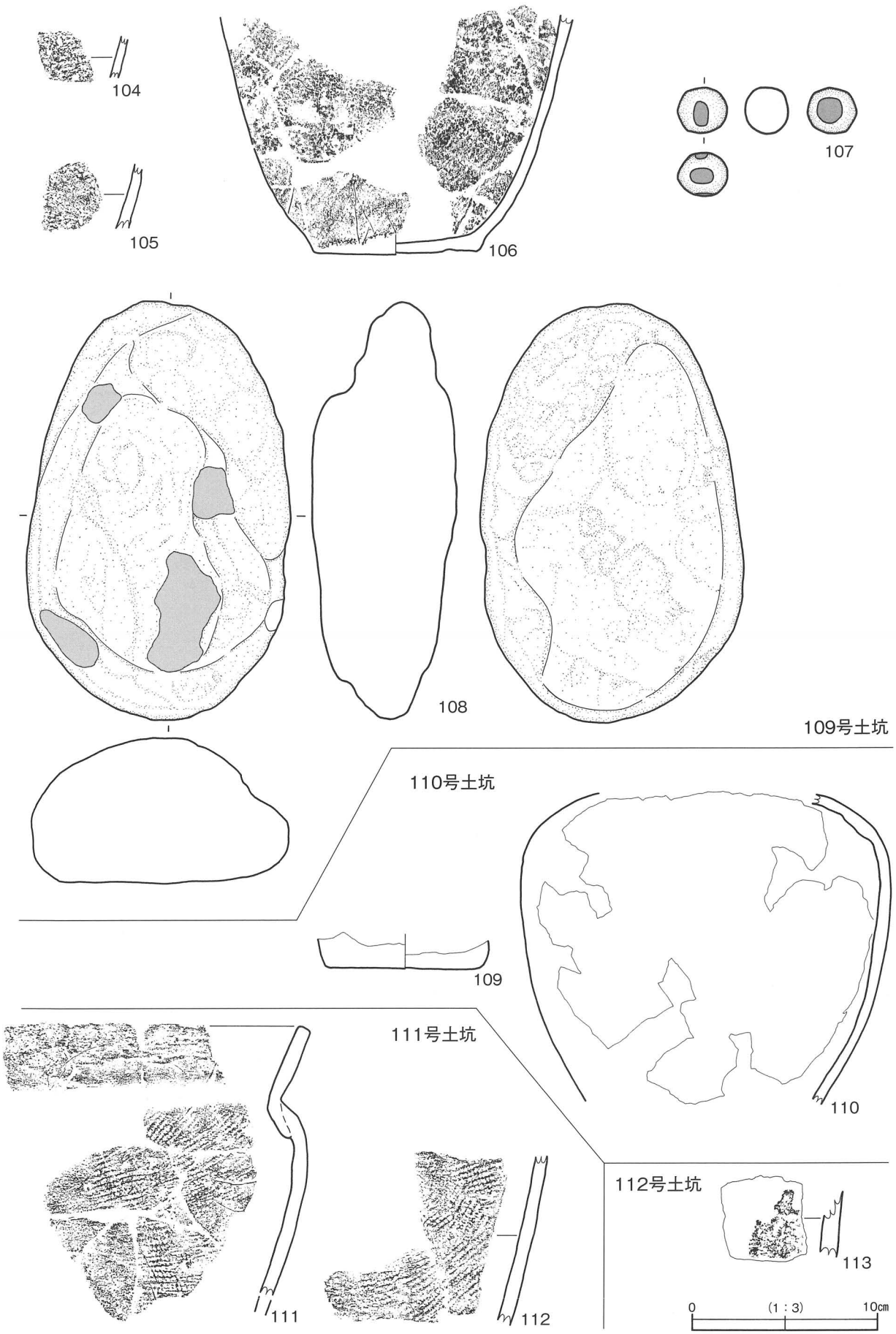
第28図　遺構内出土遺物（6）



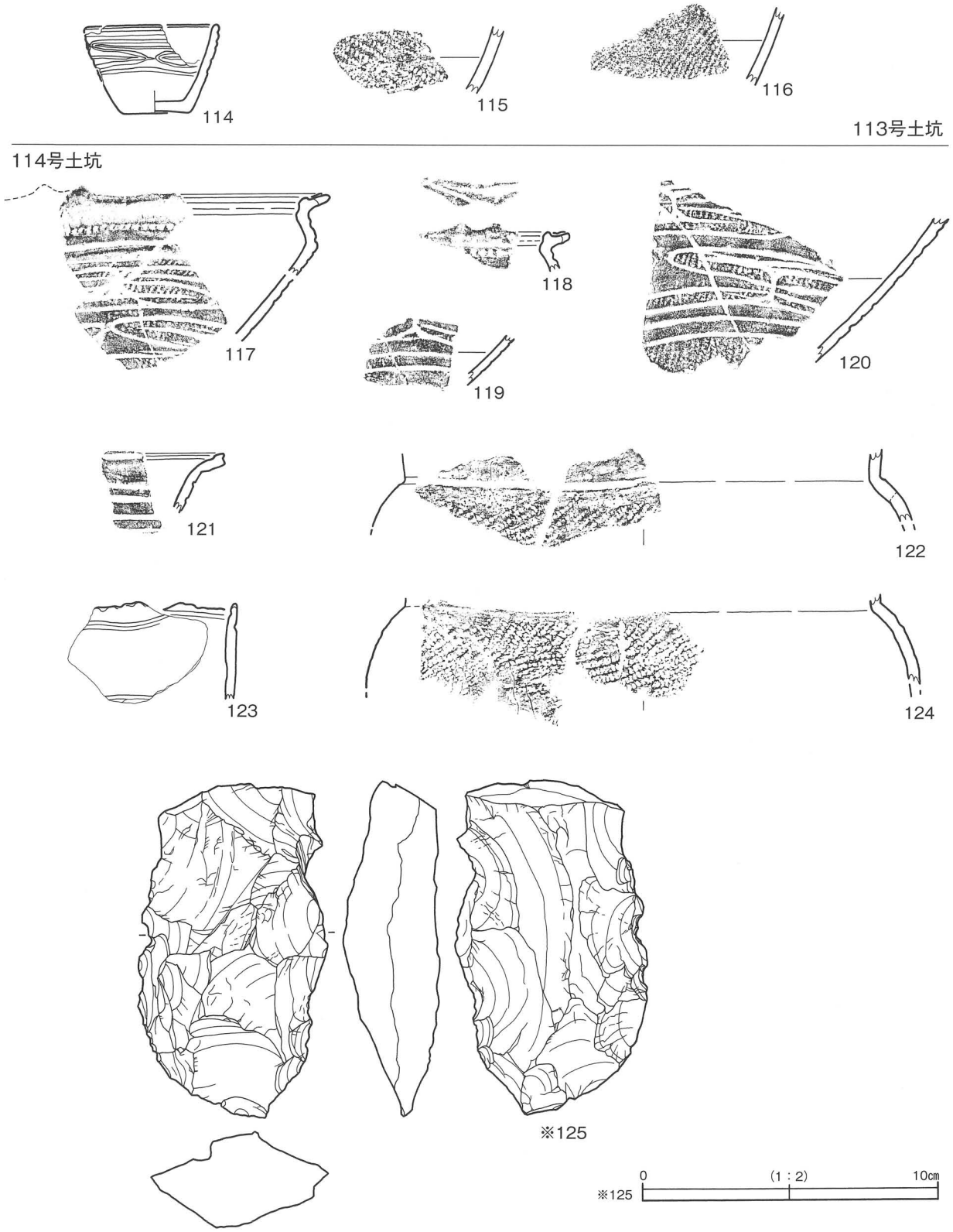
第29図　遺構内出土遺物（7）



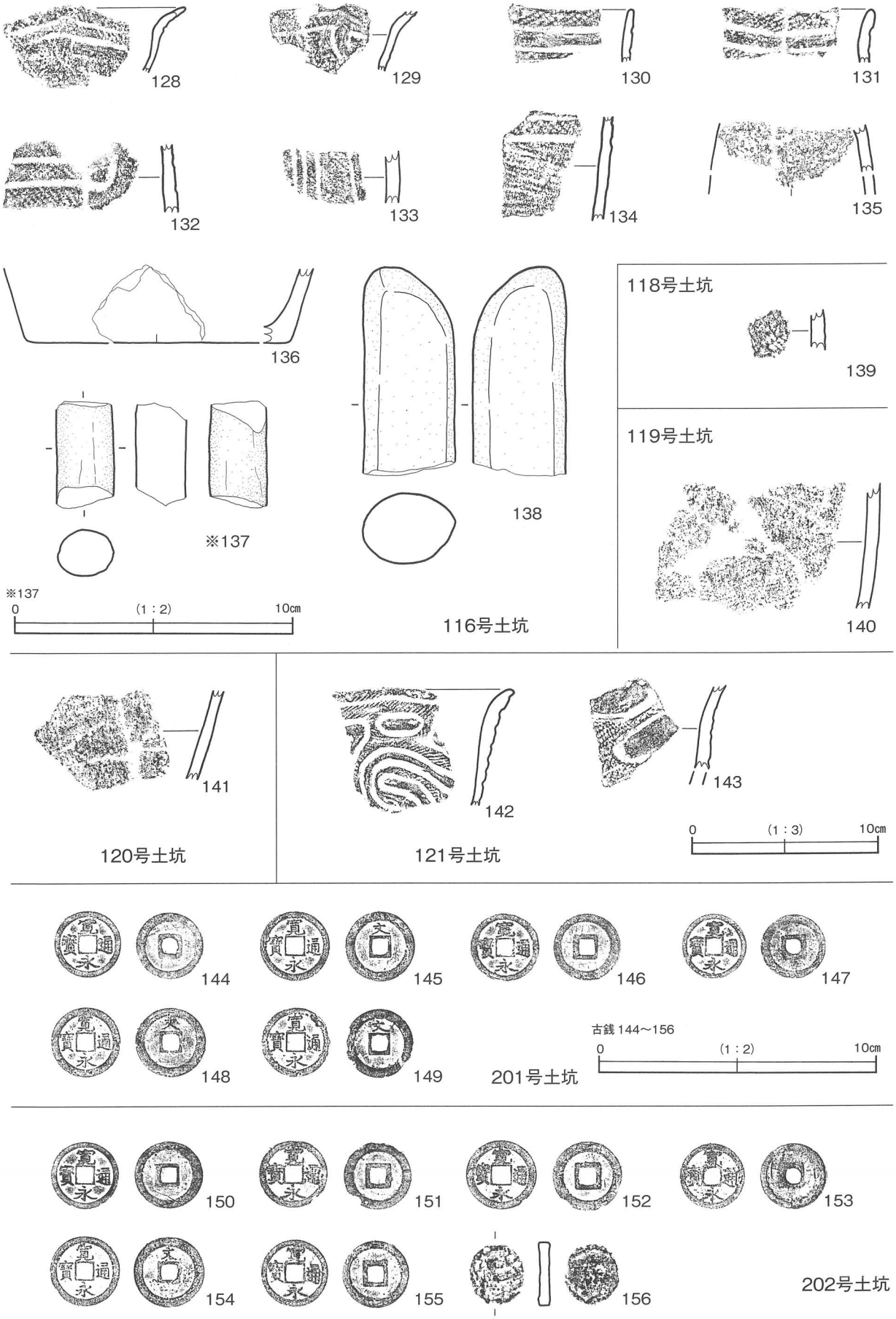
第30図　遺構内出土遺物（8）



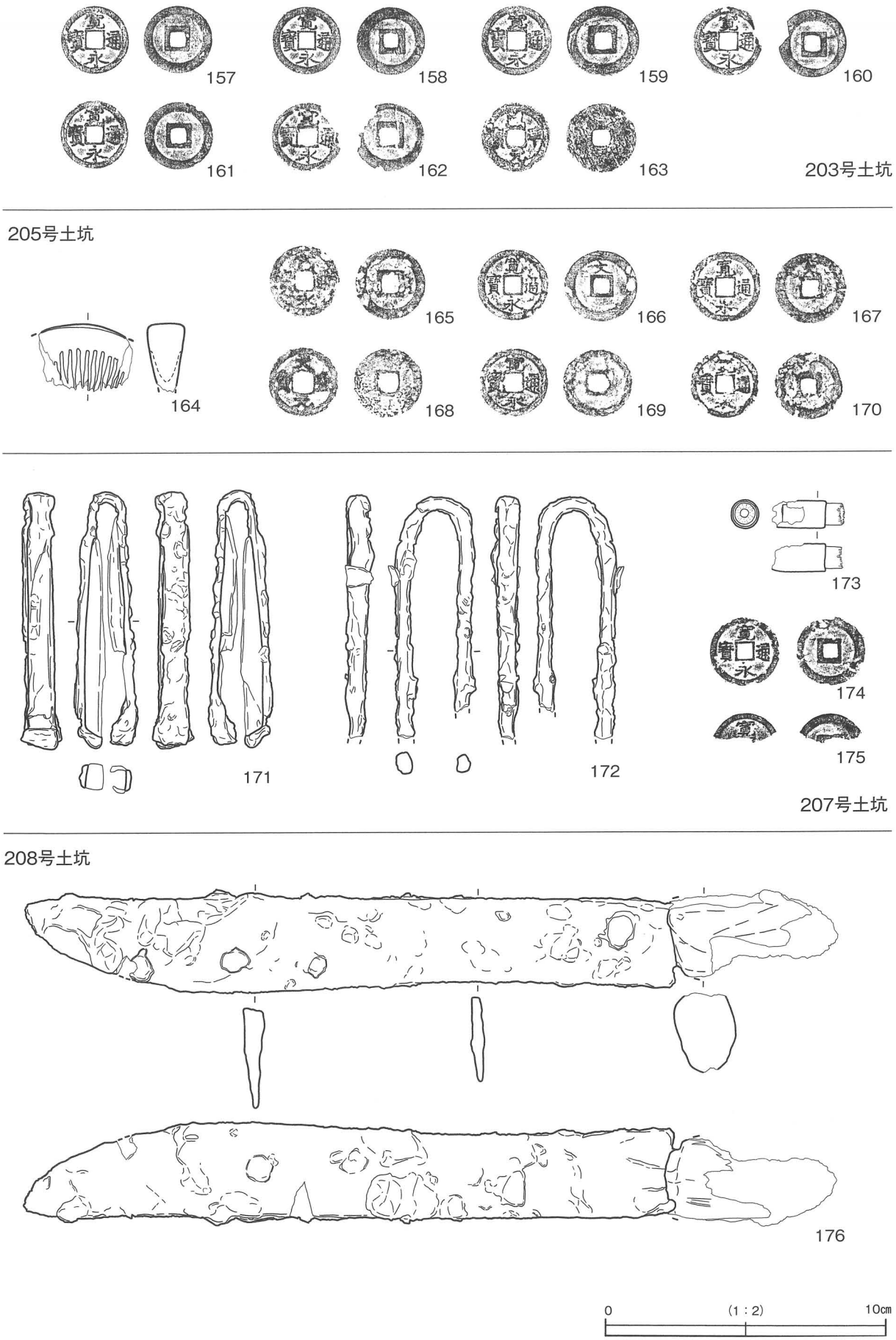
第31図　遺構内出土遺物（9）



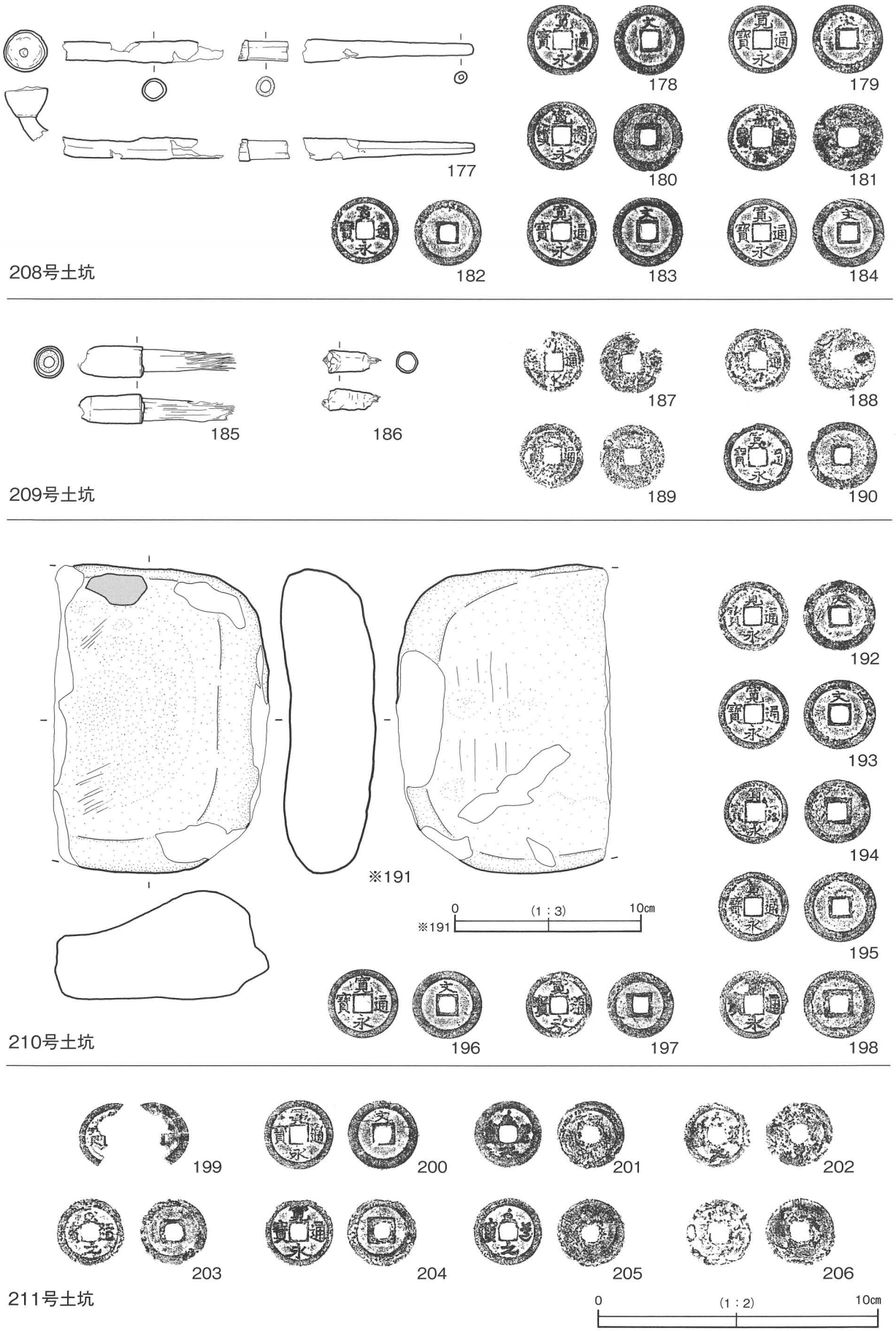
第32図　遺構内出土遺物（10）



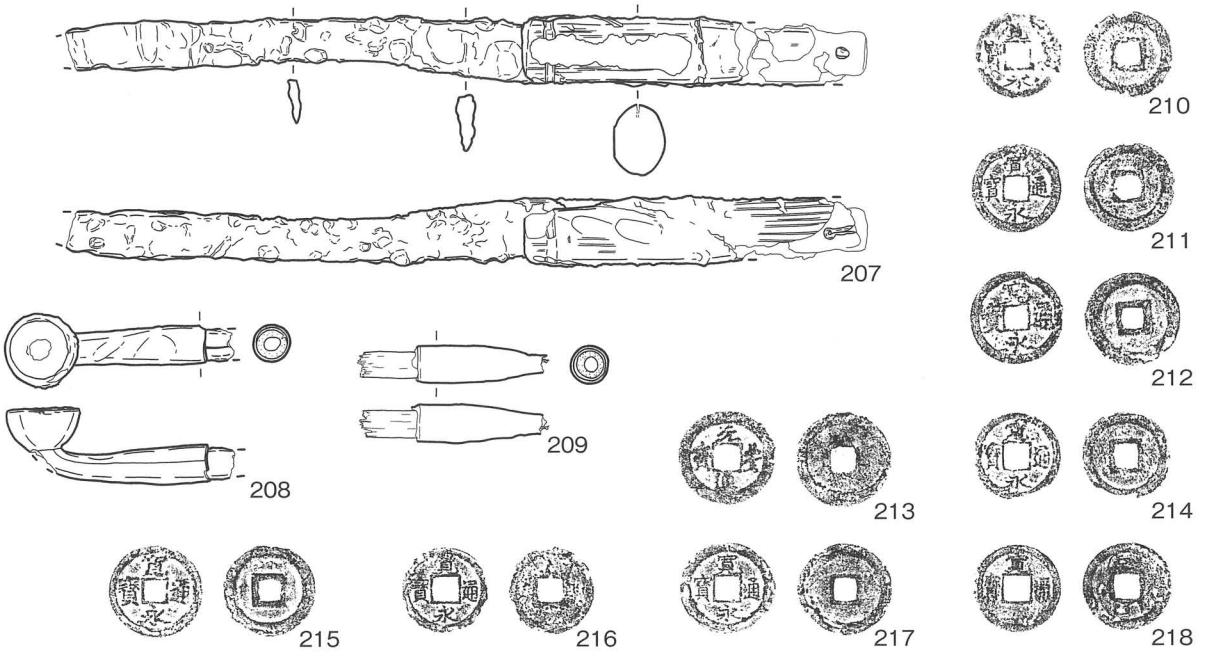
第33図　遺構内出土遺物（11）



第34図　遺構内出土遺物（12）

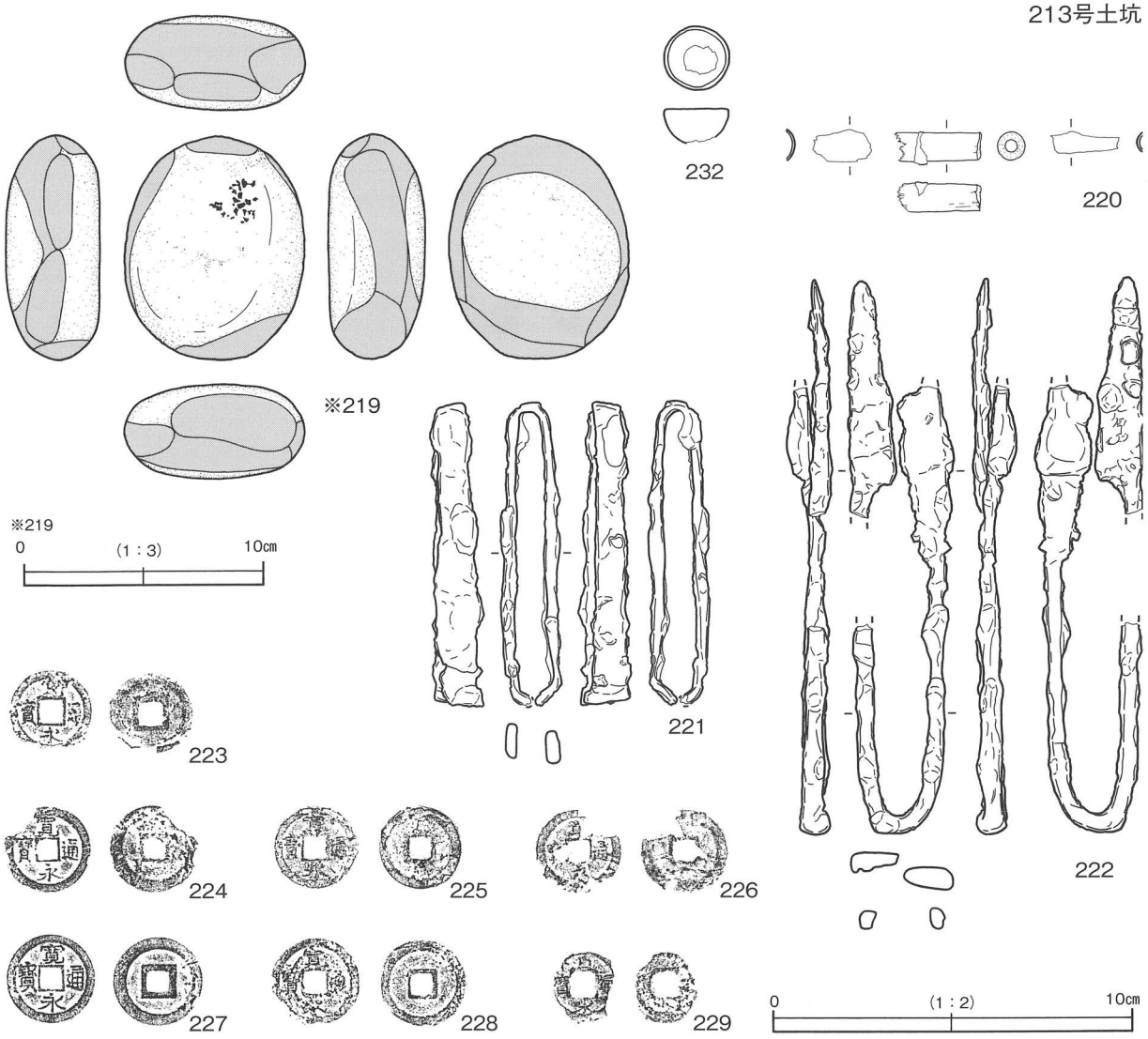


第35図　遺構内出土遺物（13）

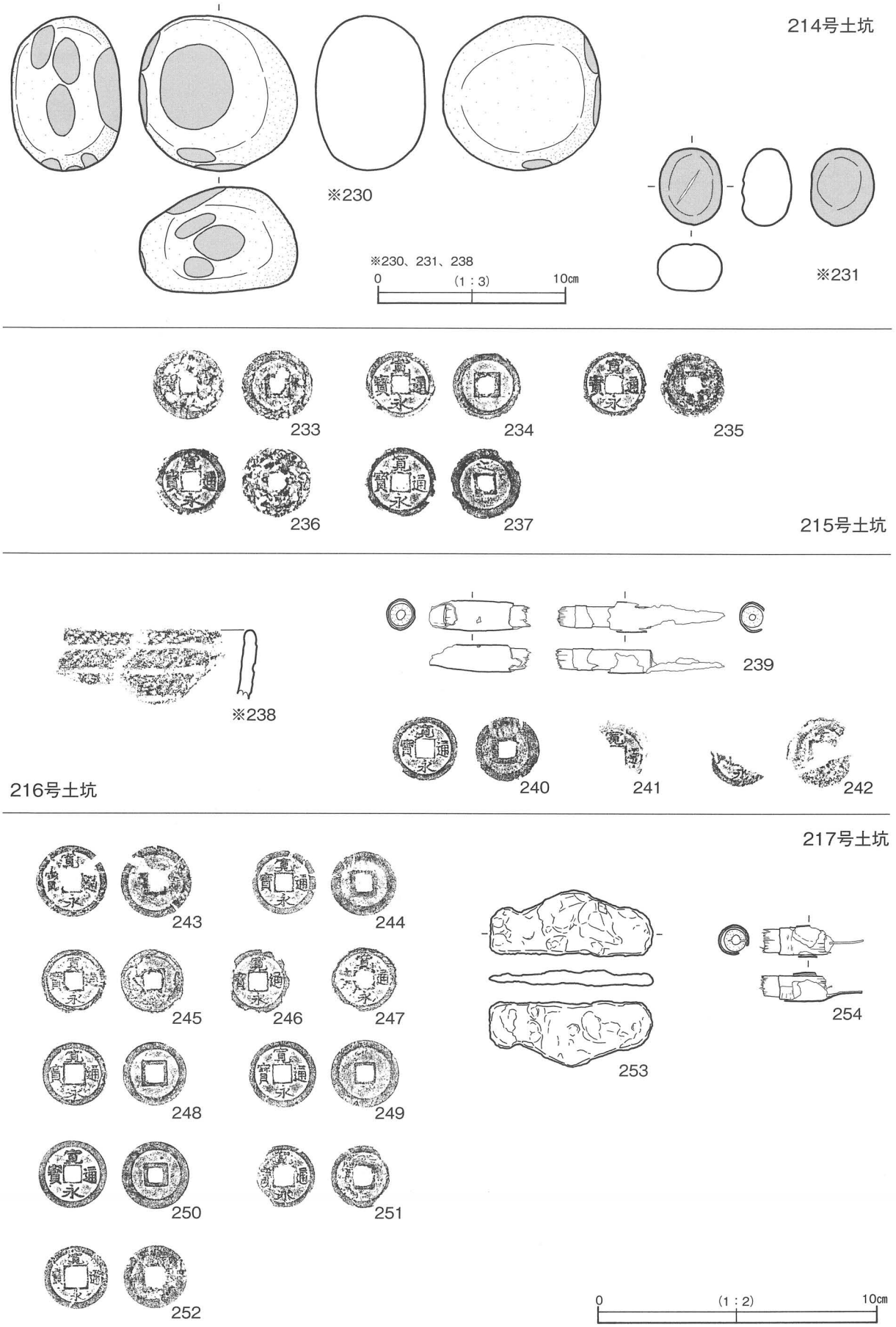


212号土坑

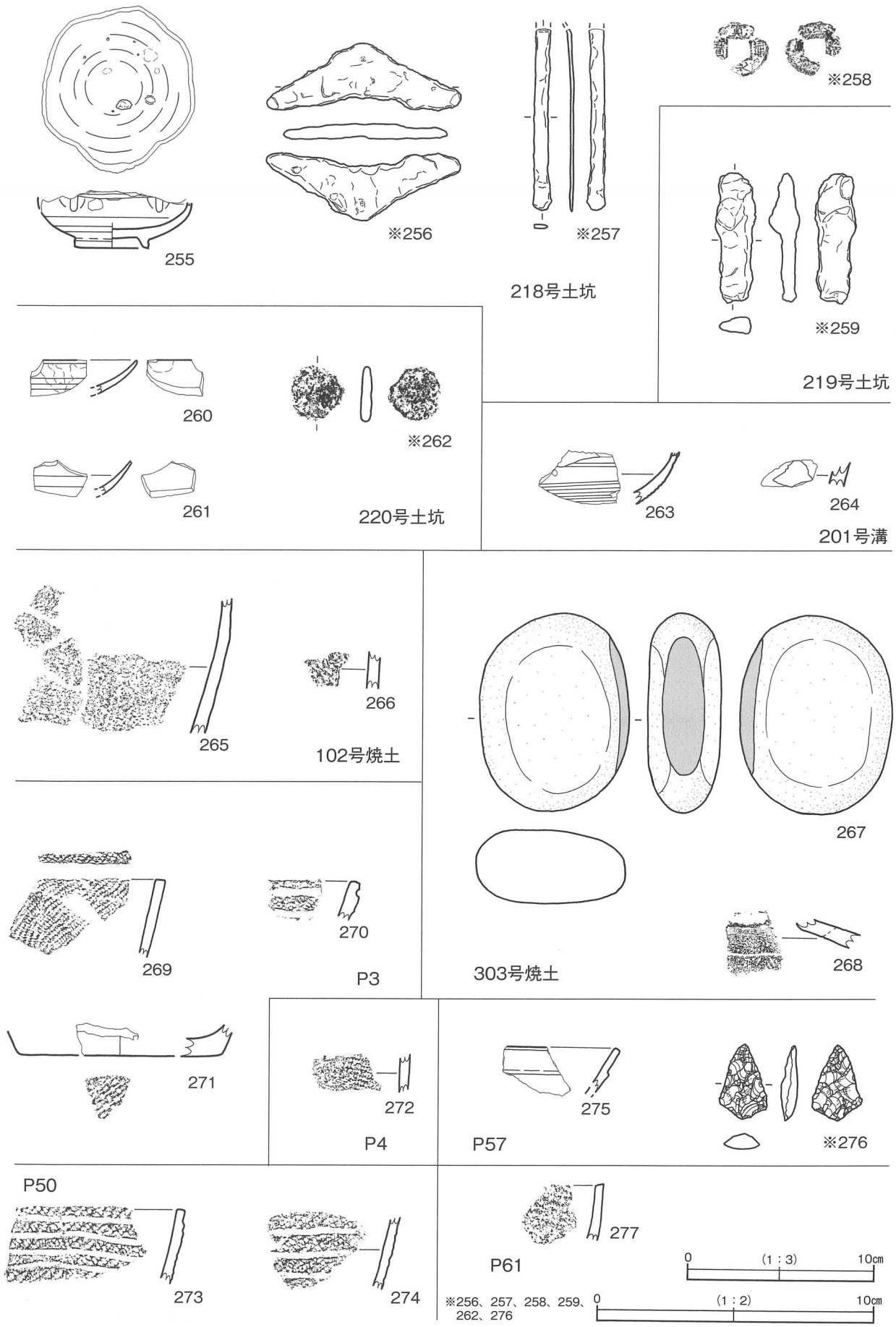
213号土坑



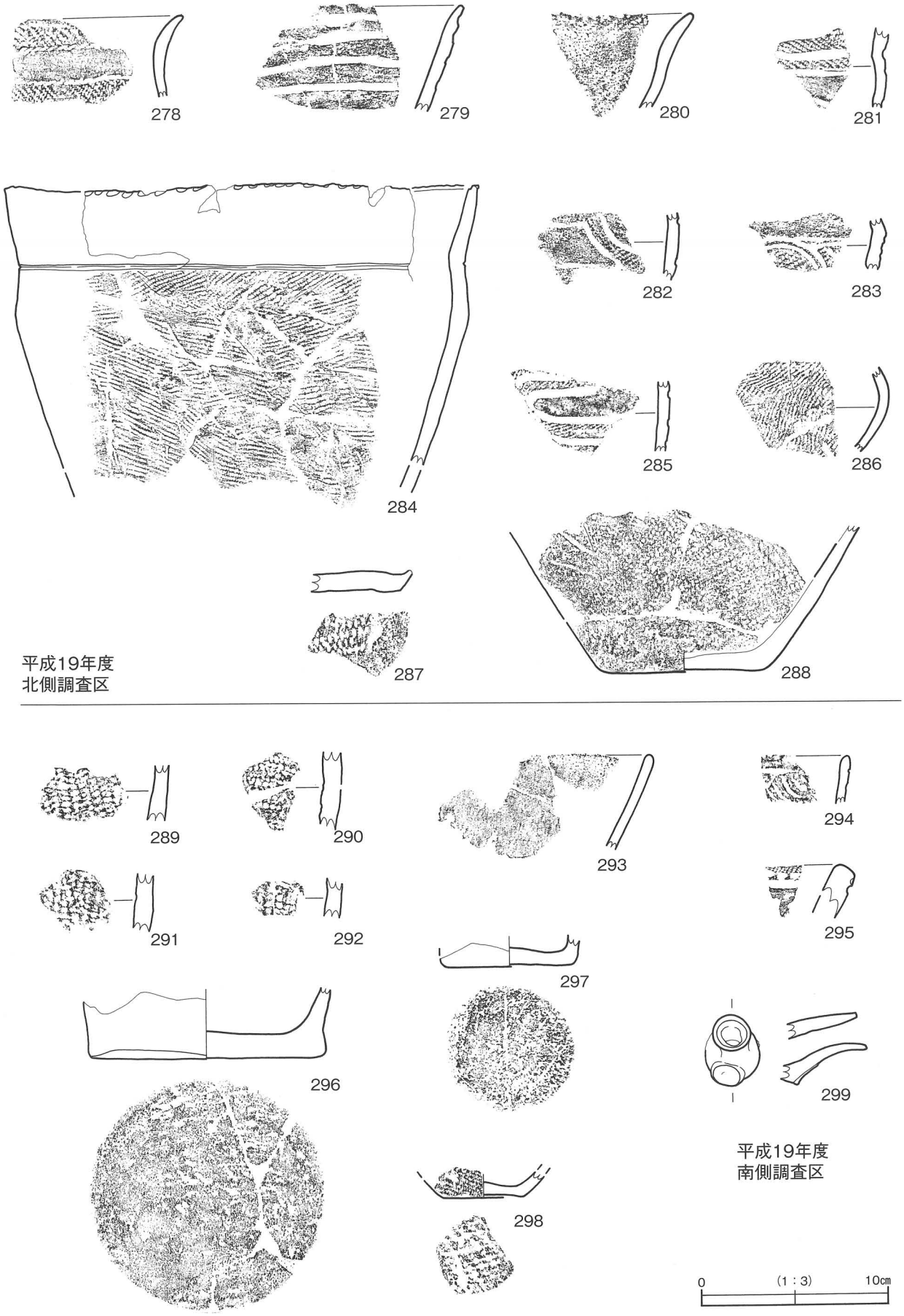
第36図　遺構内出土遺物（14）



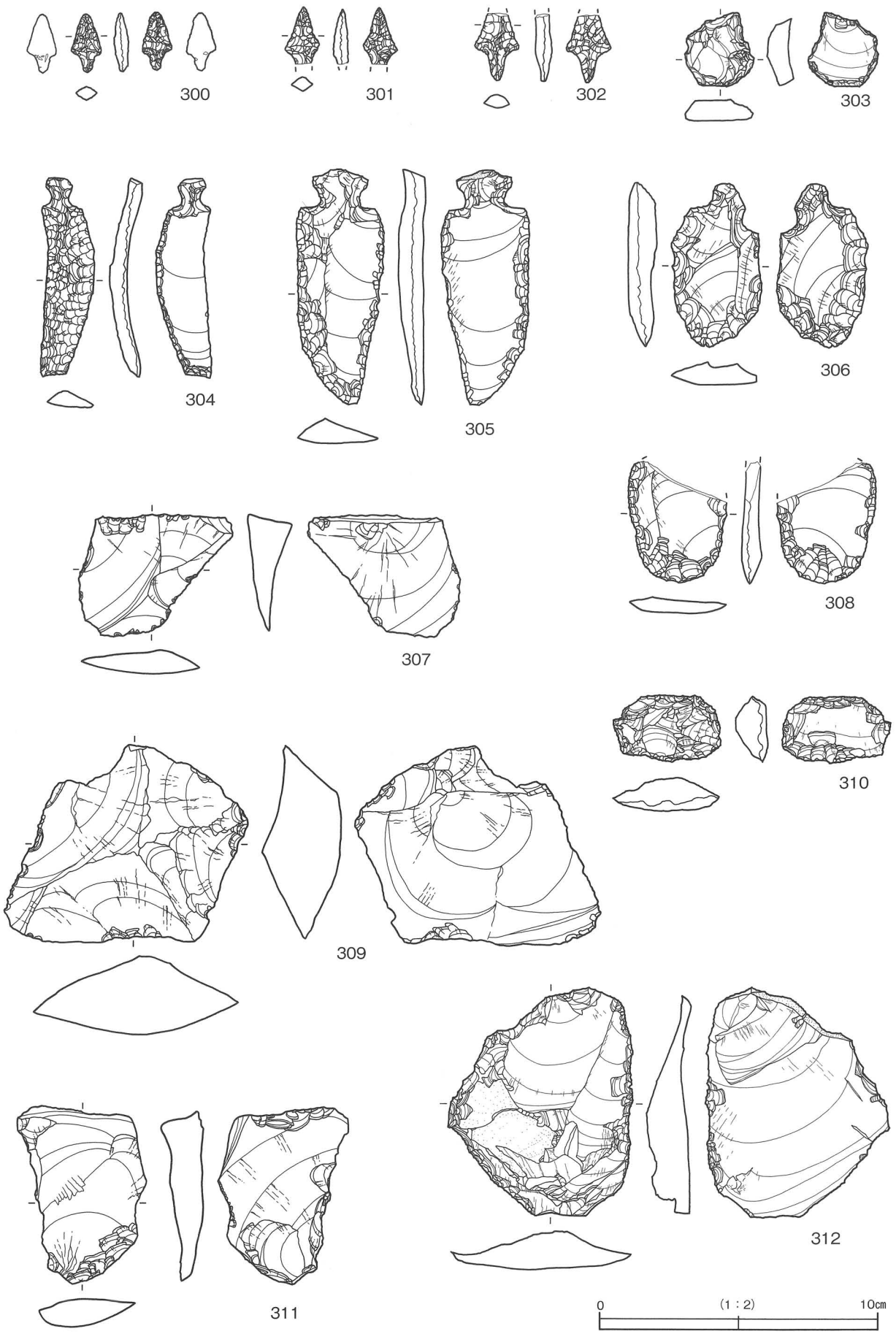
第37図　遺構内出土遺物（15）



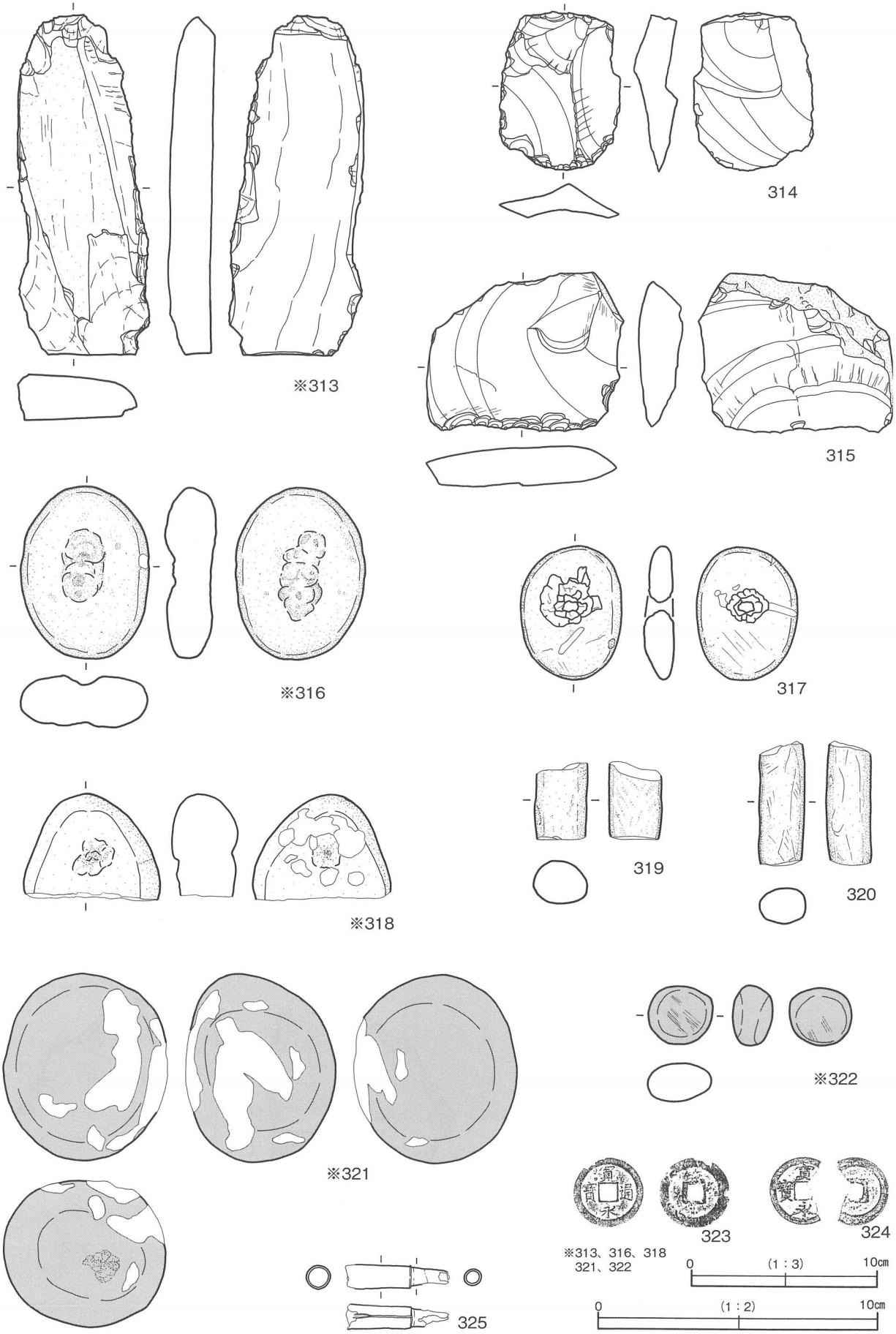
第38図　遺構内出土遺物（16）



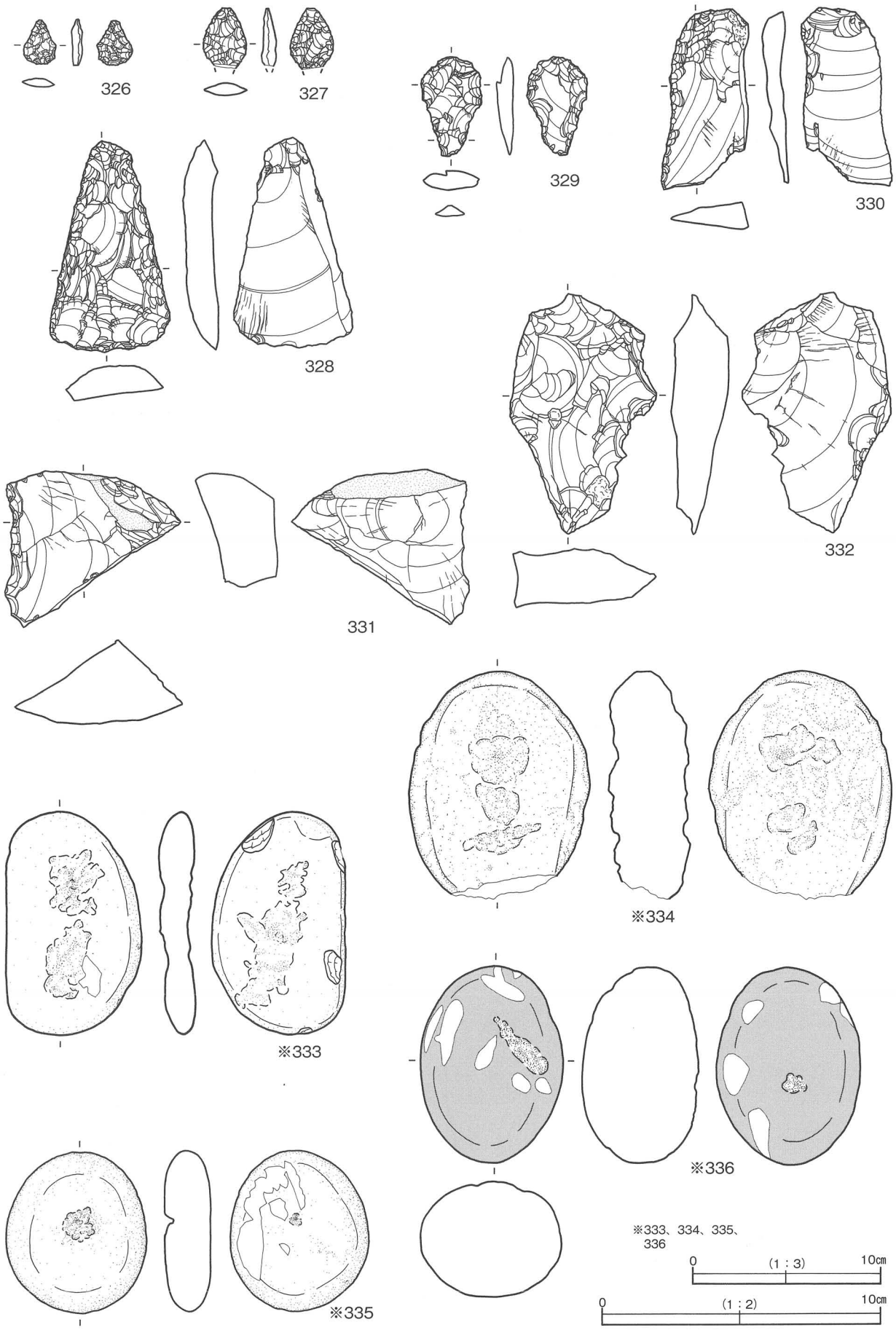
第39図　遺構外出土遺物（1）



第40図　遺構外出土遺物（2）

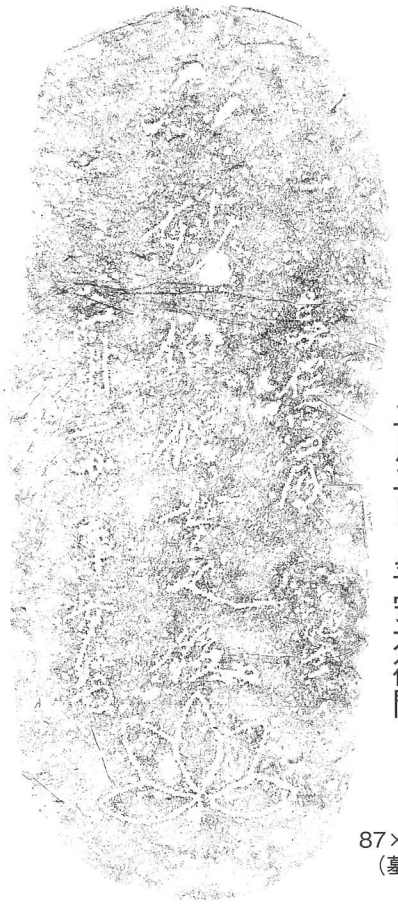


第41図　遺構外出土遺物（3）



第42図　遺構外出土遺物（4）

第43図　遺構外出土遺物（5）



87×31×18㎝
（墓石－1）

□妙伯信女之位
二月二日　平安左衛門

（一七一九年）
享保四歳　施主？

66×42×20㎝
（墓石－2）

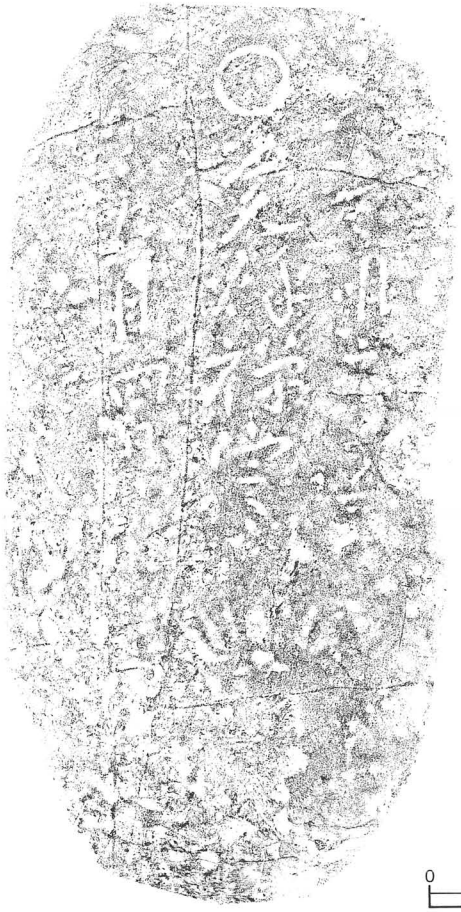
○秋葉禅定門
十月廿六日

元文元年（一七三六年）

75×29×6㎝
（墓石－3）

○寒翁禅男
十二月廿五日

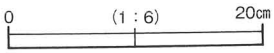
元文三年（一七三八年）



88×38×10㎝
（墓石－4）

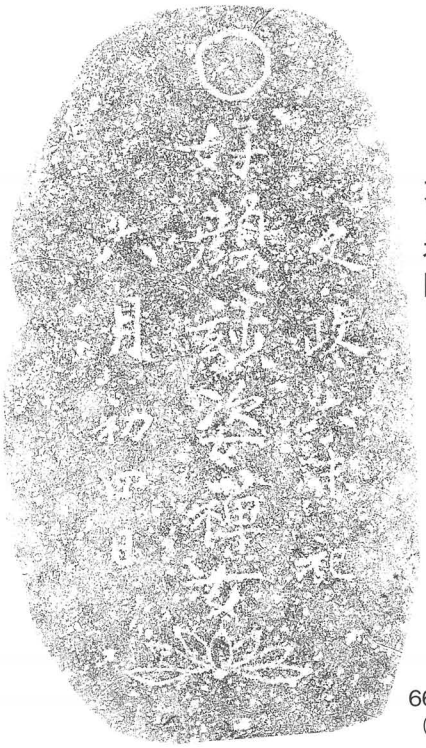
○覚炑禅定門？
（秋）
九月四日

天明六年（一七八六年）



第44図　墓石（1）

文政六年祀（一八二三年）
○好顔妙(妙)姿禅女
六月初四日



66×38×11㎝
（墓石－6）

寛政七(?)年（一七九五年）
○石岩妙骨禅定尼
十月十五日

68×40×12㎝
（墓石－5）

嘉永五(子?)三月廿七日（一八五二年）
○安心妙雲禅女
壽甫祖□禅男
天保九戌三月二日（一八三八年）

66×36×10㎝
（墓石－8）

（一八四四年）
天保十五年
有縁無縁三界万灵(霊)
九月廿九日

40×25×8㎝
（墓石－7）

0　(1：6)　30㎝

第45図　墓石（2）

○久安良道禅男
九月初三日
文久二戌（一八六二年）

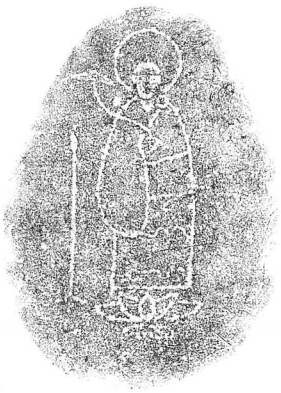
57×37×15㎝
（墓石－9）

○單相妙傳信女
四月廿日
明治廿四年（一八九一年）

78×41×13㎝
（墓石－10）

52×38×16㎝
（墓石－11）

○緣室妙念善女
八月三日
明治卅四年
（一九〇一年）



32×23×4㎝
（墓石－12）

23×18×3㎝
（墓石－13）

0　(1：6)　30cm

第46図　墓石（3）

第３表　平成19年度出土遺物観察表（縄文土器）

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	器種	部位	外面（文様・装飾、地文・原体）	内面	付着物	分類	その他
1	130	101号竪穴住居	埋土東	深鉢	口縁部	0段多条（ＬＲ）　焼成良	ナデ（丁寧）		Ⅲ３	No9と同一個体？
2	131	101号竪穴住居	埋土東	深鉢	口縁部	撚糸文　頸部に横位に圧痕文（ＬＲ）	ナデ	スス	Ⅲ３	摩滅
3	132	101号竪穴住居	埋土西	深鉢	口縁部	波状口縁　平行沈線　弧線	ナデ		Ⅲ２ａ	摩滅　No5と同一個体？
4	133	101号竪穴住居	埋土西	深鉢	口縁部	刺突文			Ⅲ	摩滅
5	134	101号竪穴住居	埋土西	深鉢	口縁部	波状口縁　平行沈線			Ⅲ２ａ	摩滅　No3と同一個体？
6	138	101号竪穴住居	埋土西	深鉢	胴部	沈線　入組文？　焼成やや良			Ⅲ２	摩滅
7	139	101号竪穴住居　ベルト	埋土	深鉢？	胴部	0段多条（ＬＲ）　一部磨り消し？　焼成やや良			Ⅲ３	
8	140	101号竪穴住居　ベルト	埋土	深鉢	胴部	0段多条（ＬＲ）　焼成やや良	ナデ	朱？	Ⅲ３	No7と同一個体？
9	141	101号竪穴住居　ベルト	埋土	深鉢	胴部	0段多条（ＬＲ）　焼成良			Ⅲ３	No1と同一個体
10	137	101号竪穴住居	埋土西	深鉢	底部	ナデ	ナデ	被熱痕	Ⅲ４	摩滅
11	1	101号竪穴住居　西側	埋土	ミニチュア	底部	木葉痕			Ⅲ４	小礫多
14	11	102号竪穴住居　Ｑ１　一括	埋土上位	深鉢	口縁部	口唇部縄文圧痕　口縁部無文　ＬＲ　粗製		スス	Ⅳ４ｂ	No27と同一個体？
15	3	102号竪穴住居　Ｑ１　一括	埋土上位	深鉢	口縁部	口縁部ヨコナデ　直前段多条（ＬＲ）	ナデ	スス	Ⅳ４ｂ	No15・25・29・33と同一個体？
16	143	102号竪穴住居　Ｑ１　一括		深鉢	口縁部	口縁部ヨコナデ	ナデ	スス（外面）	Ⅳ４ｂ	
17	148	102号竪穴住居　東西ベルト	埋土中	深鉢	口縁部	口縁部外反（ヨコナデ）	ナデ	スス(少量)	Ⅳ４ｂ	摩滅
18	144	102号竪穴住居　Ｑ１	上位	深鉢	口縁部	くの字に外反　口縁部無文　直前段多条（ＬＲ）	ナデ（丁寧）		Ⅳ４ｂ	固く締まる
19	142	102号竪穴住居　Ｑ１　一括		深鉢	口縁部	口唇部ＬＲ圧痕　頸部無文　摩滅　粗製	ナデ		Ⅳ４ｂ	小礫多
20	16	102号竪穴住居　炉周辺	埋土下位	深鉢	口～肩部	小波状口縁（押圧）　頸部ナデ　ＬＲ　口縁部内面沈線　粗製	ナデ		Ⅳ４ｂ	小礫多
21	15	102号竪穴住居　炉周辺	埋土下位	深鉢	口～肩部	口唇部～頸部ヨコナデ　ＬＲ斜位　摩滅　粗製	ナデ	スス	Ⅳ４ｂ	小礫多　No32と同一個体？
22	2	102号竪穴住居　Ｑ４	埋土上位	深鉢	口縁部	6単位もしくは8単位の小波状口縁　ヨコナデ痕強　ＬＲ横位展開　粗製	ヨコナデ		Ⅳ４ｂ	小礫多
23	8	102号竪穴住居　Ｑ３　Ｑ４	埋土上～中位	深鉢	口～胴部	口縁部ヨコナデ　ＬＲ　粗製	ヨコナデ	スス多	Ⅳ４ｂ	
24	9	102号竪穴住居　Ｑ１　一括	埋土上位	深鉢	胴部	直前段多条（ＬＲ）　粗製	ナデ	スス	Ⅳ４ｃ	小礫多
25	4	102号竪穴住居　Ｑ１　一括	埋土上位	深鉢	肩部	直前段多条（ＬＲ）	ナデ	スス	Ⅳ４ｃ	No15・25・29・33と同一個体？
26	149	102号竪穴住居　ｐｐ５	埋土中	浅鉢	胴部	工字文？　摩滅	ナデ		Ⅳ２	
27	147	102号竪穴住居　炉周辺	埋土中	深鉢	胴部	直前段多条（ＬＲ）？　粗製	ナデ	スス	Ⅳ４ｃ	摩滅
28	13	102号竪穴住居　Ｑ３	埋土上位	深鉢	胴～底部	底部ナデ　胴～下部施文（ＬＲ）　摩滅	ナデ	スス	Ⅳ４ｃ	
29	5	102号竪穴住居　Ｑ１　一括	埋土上位	深鉢	胴部	頸部ナデ　肩より施文　直前段多条（ＬＲ）	ナデ	スス	Ⅳ４ｃ	No15・25・29・33と同一個体？
30	17	102号竪穴住居　Ｑ３	埋土床直	鉢？	胴部	無文	ナデ		Ⅳ５	小礫多
31	19	102号竪穴住居　Ｑ３	埋土上位	台付鉢	高台部	沈線	ナデ		Ⅳ６	小礫多
32	14	102号竪穴住居　Ｑ３	埋土上位	深鉢	底部	木葉痕？　摩滅	ナデ		Ⅳ６	小礫多　No21と同一個体？
33	7	102号竪穴住居　Ｑ１　一括	埋土上位	深鉢	底部	直前段多条？	ナデ	スス	Ⅳ４ｃ	No15・25・29・33と同一個体？
34	18	102号竪穴住居　Ｑ３	埋土床直	鉢？	底部	無文　壺？浅鉢？　摩滅	ナデ		Ⅳ６	
42	98	101号掘立柱建物跡（Ｐ48）	上面	深鉢	口縁部	ＬＲ	ナデ（丁寧）		Ⅲ３	No43と同一個体
43	97	101号掘立柱建物跡（Ｐ48）	上面	深鉢	胴部	ＬＲ　結束部あり	ナデ（丁寧）		Ⅲ３	No42と同一個体　摩滅
44	95	101号掘立柱建物跡（Ｐ48）	埋土	深鉢	胴部	磨消縄文　孤線文（曲線文）	ナデ		Ⅲ１ａ	No45と同一個体
45	96	101号掘立柱建物跡（Ｐ48）	埋土	深鉢	胴部	磨消縄文　孤線文（曲線文）	ナデ		Ⅲ１ａ	No44と同一個体
46	102	101号掘立柱建物跡（Ｐ56）	埋土	深鉢？	胴部	剥落多い　ＬＲ？　焼成良	ナデ		Ⅴ１	

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	器種	部位	外面（文様・装飾、地文・原体）	内面	付着物	分類	その他
47	99	101 号掘立柱建物跡（Ｐ 49）	埋土	浅鉢	胴部	ＲＬ？　摩滅			Ⅴ１	
48	167	102 号掘立柱建物跡（Ｐ 65）		深鉢？	口縁部	波状口縁　平行沈線（多条）	ナデ		Ⅲ１ｄ	摩滅
49	92	102 号掘立柱建物跡（Ｐ 25）	埋土	深鉢？	口縁部	波状口縁　大きく外反　沈線	ナデ	ススス	Ⅲ２ａ	
50	106	102 号掘立柱建物跡（Ｐ 65）	埋土	深鉢	口縁部	外反　ＲＬ	ナデ（丁寧）	ススス	Ⅲ３	
51	107	102 号掘立柱建物跡（Ｐ 65）	埋土	深鉢	胴部	ＬＲ？　摩滅			Ⅲ３	摩滅
52	166	102 号掘立柱建物跡（Ｐ 65）		深鉢	口縁部	平行沈線　縦沈線　刺突　摩滅	ナデ		Ⅲ１ｄ	
53	83	301 号掘立柱建物跡（溝）	埋土下位	深鉢？	胴部	ＬＲ　摩滅			Ⅴ１	小礫多
59	31	101 号土坑	埋土上位	深鉢	胴部	0 段多条（ＬＲ）	ナデ	ススス	Ⅲ３	小礫多
60	32	101 号土坑	埋土上位	深鉢	底部	網代痕あり？	ナデ		Ⅲ４	小礫多
61	163	102 号土坑	上位	深鉢	胴部	0 段多条（ＬＲ）	ナデ	ススス	Ⅲ３	No61・62・63 と同一個体
62	34	102 号土坑	埋土中位	深鉢	口縁部	ＮＯ 35・36 と同一個体　　口唇部頂部ナデ　撚糸文（小粒）	ナデ（丁寧）	ススス	Ⅲ３	No61・62・63 と同一個体
63	35	102 号土坑	埋土上位	深鉢	口縁部	ＮＯ 34 と同一個体			Ⅲ３	No61・62・63 と同一個体
64	36	102 号土坑	埋土上位	深鉢	胴部	ＮＯ 34 と同一個体			Ⅲ３	No61・62・63 と同一個体？
65	172	103 号土坑	埋土	壺？	口縁部	ナデ	ナデ		Ⅴ１	
66	174	103 号土坑	埋土	深鉢	胴部	2 本の平行沈線（渦巻状）　摩滅	ナデ	ススス	Ⅲ１ｃ	
67	173	103 号土坑	埋土	深鉢	胴部	ＲＬ　摩滅	ナデ	ススス（内外）	Ⅲ３	
69	46	104 号土坑	埋土	深鉢	口縁部	撚糸文（ＲＬ）　摩滅	ナデ	ススス	Ⅲ３	
70	47	104 号土坑	埋土下位	深鉢	胴部	ＲＬ　摩滅	ナデ		Ⅲ３	No70 ～ 72 と同一個体
71	48	104 号土坑	埋土下位	深鉢	胴部	ＲＬ　摩滅	ナデ	ススス	Ⅲ３	No70 ～ 72 と同一個体
72	49	104 号土坑	埋土	深鉢	胴部	ＲＬ　摩滅	ナデ	ススス	Ⅲ３	No70 ～ 72 と同一個体
73	164	105 号土坑		深鉢	口縁部	口唇部押圧　口縁部無文　区画沈線？	ナデ		Ⅱ	No76 と同一個体
74	78	105 号土坑	埋土	深鉢	胴部	多条？（ＲＬ）	ミガキ（丁寧）		Ⅲ３	No75 と同一個体
75	79	105 号土坑	埋土	深鉢	肩部	撚糸文？　ＲＬ			Ⅲ３	No74 と同一個体
76	80	105 号土坑	埋土		胴部	沈線　充填縄文	ナデ	ススス	Ⅱ	No73 と同一個体
77	24	106 号土坑	埋土底部	鉢	口縁部	口唇部刻目　2 個一対の突起あり　平行沈線 4 条（細・深・粗）口縁内面沈線	ナデ	ススス	Ⅳ２	摩滅
78	25	106 号土坑	埋土上～中位	鉢	口縁部	突起あり　中央部凹み　口唇部頂上部に沈線	ナデ		Ⅳ２	
79	26	106 号土坑	埋土底部	鉢	肩部	変形工字文　2 個の粘土瘤貼付	ナデ		Ⅳ２	
80	23	106 号土坑	埋土底部	深鉢	口～胴部	波状口縁　平行沈線 4 条（細・丁寧・深）　口縁部内部沈線　しまり密	ナデ	ススス多	Ⅳ２	
81	27	106 号土坑	埋土中位	深鉢	胴部	無節（Ｒ）　粗製	ナデ		Ⅳ４ｃ	
82	22	106 号土坑　一括出土②	埋土底部	深鉢	口～胴部	口縁部無文　Ｌ　輪積痕あり　薄手　口唇部欠損	ナデ	ススス	Ⅳ４ｂ	
83	21	106 号土坑　一括出土②	Ⅳ層	深鉢	略完形	波状口縁（8 単位？）　頸部ヨコナデ　胴部横位・斜位ナデ　底部ナデ	ナデ	ススス多	Ⅳ５	
89	28	107 号土坑	埋土中位	浅鉢？	口縁部	刻目　沈線　内部沈線あり			Ⅳ１	しまりあり
90	29	107 号土坑	Ⅱ層	鉢？	底部	木葉痕　ＬＲ？	ナデ		Ⅳ６	小礫含む
92	151	108 号土坑	Ⅰ層	深鉢？	口縁部	湾曲　平行沈線　口縁部無文　摩滅	ナデ		Ⅲ２ｃ	摩滅ひどい
93	154	108 号土坑	Ⅱ層	深鉢	口縁部	縄文ＲＬ	ナデ（丁寧）		Ⅲ３	
94	160	108 号土坑	焼土層	深鉢	口縁部	波状口縁　平行沈線	ナデ		Ⅲ１ｃ	摩滅
95	158	108 号土坑	下位	深鉢	口縁部？	磨消縄文　撚糸無節圧痕文	ナデ		Ⅲ	摩滅
96	153	108 号土坑	Ⅱ層	深鉢	口縁部	波状口縁　突起頂上部刻み　撚糸文ＲＬ　口縁部外反	ナデ		Ⅲ２ａ	

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	器種	部位	外面（文様・装飾、地文・原体）	内面	付着物	分類	その他
97	152	108号土坑	Ⅰ層	深鉢	胴部	磨消縄文	ナデ	スス（外面）	Ⅲ１ｃ	摩滅
98	155	108号土坑	Ⅱ層	深鉢	胴部	ＬＲ	ナデ	スス	Ⅲ３	
99	159	108号土坑		深鉢	胴部	０段多条？	ナデ		Ⅲ３	摩滅
100	156	108号土坑	Ⅱ層	深鉢	胴部	平行沈線			Ⅲ１ｃ	摩滅ひどい
101	157	108号土坑	Ⅱ層	深鉢	胴部	磨消縄文			Ⅲ１ｃ	摩滅
104	38	109号土坑	埋土中位	深鉢？	胴部	縄文ありそうだが、摩滅がひどく不明			Ⅴ１	
105	39	109号土坑	埋土中位	深鉢？	胴部				Ⅴ１	摩滅　小礫含む
106	37	109号土坑	埋土上位	深鉢	胴～底部	ＬＲ斜位？　摩滅ひどい	ナデ		Ⅴ	
109	67	110号土坑	埋土		底部	ＮＯ66と同一個体か？　摩滅	ナデ		Ⅳ６	
110	66	110号土坑	埋土上位	壺	肩～胴部	ミガキ　摩滅	ナデ		Ⅳ５	
111	44	111号土坑	埋土上位	深鉢	口～胴部	口唇部刻目　口縁部無文　粗製	ナデ	スス多	Ⅳ４ｂ	No112と同一個体
112	45	111号土坑	埋土上位	深鉢	胴部	粗製	ナデ	スス多	Ⅳ４ｂ	No111と同一個体
113	43	112号土坑	埋土	深鉢？	胴部	粗製　摩滅激しい			Ⅴ１	
114	40	113号土坑	埋土	ミニチュア	口～底部	変形工字文	ナデ(丁寧)		Ⅳ３	
115	41	113号土坑	埋土	深鉢	胴部	ＲＬ？	ナデ	スス	Ⅳ4c	小礫含む
116	42	113号土坑	埋土	深鉢？	胴部	縄文斜位（ＬＲ？）　粗製		スス（内面）	Ⅳ４ｃ	摩滅
117	51	114号土坑	埋土中位	浅鉢	口～胴部	磨消縄文　頸部刻目　突起　内面口縁部沈線	ナデ	スス	Ⅳ１	No117～120同一個体
118	52	114号土坑	埋土中位	浅鉢	口縁部	磨消縄文　頸部刻目　突起　内面口縁部沈線	ナデ	スス	Ⅳ１	No117～120同一個体
119	54	114号土坑	埋土上位	浅鉢	胴部	磨消縄文　頸部刻目　突起　内面口縁部沈線	ナデ	スス	Ⅳ１	No117～120同一個体
120	53	114号土坑	埋土中位	浅鉢	胴部	磨消縄文　頸部刻目　突起　内面口縁部沈線	ナデ	スス	Ⅳ１	No117～120同一個体
121	55	114号土坑	埋土中位	深鉢？	口縁部	波状口縁　頂部・内面沈線　平行沈線	ミガキ		Ⅳ１	
122	58	114号土坑	埋土中位	深鉢	口縁部	ＬＲ			Ⅳ４ｃ	
123	57	114号土坑	埋土中位	深鉢	口縁部	口唇部刻目　内面口縁部沈線　口縁部及び肩部沈線	ナデ		Ⅳ４ｂ	摩滅
124	56	114号土坑	埋土中位	深鉢	口縁部	ＬＲ			Ⅳ４ｃ	
126	61	115号土坑	埋土	鉢	口縁部	突起部平行沈線（工字文？）	ナデ		Ⅳ１	
127	62	115号土坑	埋土上位	深鉢？	胴部	粗製			Ⅳ４ｃ	摩滅
128	68	116号土坑	埋土	小型土器	口縁部	ＮＯ69と同一個体　波状口縁　磨消縄文？平行沈線　摩滅	ミガキ	朱？	Ⅲ１ｃ	Ｎo129と同一個体
129	69	116号土坑	埋土	小型土器	口縁部		ミガキ		Ⅲ１ｃ	Ｎo128と同一個体
130	71	116号土坑	埋土	深鉢	口縁部	波状口縁　平行沈線　磨消縄文	ナデ		Ⅲ１ｃ	
131	72	116号土坑	埋土	深鉢	口縁部	波状口縁　平行沈線　磨消縄文	ナデ		Ⅲ１ｃ	
132	75	116号土坑	埋土	深鉢	胴部	平行沈線　磨消縄文	ナデ		Ⅲ１ｃ	
133	76	116号土坑	埋土	深鉢	胴部	縦位の条線	ナデ		Ⅲ	摩滅ひどい
134	74	116号土坑	埋土	深鉢	胴部	平行沈線	ナデ	朱？	Ⅲ１ｃ	
135	70	116号土坑	埋土	鉢？	台？		ナデ		Ⅴ２	摩滅ひどい
136	77	116号土坑	埋土	深鉢？	底部		ナデ		Ⅲ４	摩滅
139	175	118号土坑	埋土中	深鉢	胴部	縄文有り	ナデ	スス（少量）	Ⅴ１	摩滅
140	65	119号土坑	埋土	深鉢？	胴部	縄文あり？			Ⅴ１	摩滅
141	165	120号土坑		深鉢	胴部				Ⅴ１	摩滅

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	器種	部位	外面（文様・装飾、地文・原体）	内面	付着物	分類	その他
142	81	121号土坑	埋土	深鉢	口縁部	ゆるい波状口縁　渦巻き状文　磨消縄文　平行沈線	ナデ	スス（少量）	Ⅲ１ｂ	
143	82	121号土坑	埋土	深鉢	頸部	磨消縄文　平行沈線	ナデ	スス（少量）	Ⅲ１ｂ	
238	33	216号土坑	埋土上位	深鉢	口縁部	平行沈線	ナデ	スス多	Ⅲ１ｃ	もろい
265	87	102号焼土	埋土下位	深鉢	胴部		ナデ（丁寧）		Ⅴ１	摩滅
266	162	102号焼土	埋土中	深鉢	胴部	地紋のみ	ナデ		Ⅴ１	
268	86	303号焼土	埋土中～下位	深鉢？	肩部	磨消縄文	ナデ		Ⅲ	
269	89	Ｐ３	埋土	深鉢	胴部	口唇部縄文　０段多条（ＬＲ）	ナデ		Ⅲ３	
270	88	Ｐ３	埋土	深鉢？	口縁部	平行沈線	ナデ	スス	Ⅲ１ｃ	
271	90	Ｐ３	埋土	深鉢？	底部	網代痕（1本潜り１本越え）	ナデ		Ⅲ４	
272	91	Ｐ４	埋土	深鉢？	胴部	ＬＲ	ナデ	スス	Ⅴ１	
273	100	Ｐ５０	埋土	深鉢	口縁部	平行沈線	ナデ		Ⅲ１ｃ	No274と同一個体　摩滅
274	101	Ｐ５０	埋土	深鉢	胴部	平行沈線	ナデ		Ⅲ１ｃ	No273と同一個体　摩滅
275	103	Ｐ５７	埋土	坏	口縁部	土師器？	ナデ			
277	104	Ｐ６１	埋土	深鉢	胴部	Ｒ	ナデ		Ⅴ１	
278	111	ⅠＡ9i　木根中	Ⅲ層	深鉢	口縁部	頸部磨り消し　外反　ＲＬ圧痕	ナデ(丁寧)		Ⅲ	
279	117	ⅡＢ2b　木根中	Ⅲ層	深鉢	口縁部	口唇部刻目　粗製	ナデ	スス	Ⅳ４ａ	
280	113	ⅠＢ区　木根中	Ⅲ層	深鉢	口縁部	波状口縁　口唇部縄文あり　摩滅	ナデ（丁寧）		Ⅲ３	
281	112	ⅠＡ9i　木根中	Ⅲ層	深鉢	胴部？	平行沈線　磨消縄文	ナデ	スス	Ⅲ１ｃ	
282	114	ⅠＢ区　木根中	Ⅲ層	深鉢	胴部	磨消縄文　平行沈線　摩滅			Ⅲ１ｃ	
283	110	ⅠＡ7i　木根中	Ⅲ層	深鉢	胴部	２条の平行沈線（隆沈線）　ＬＲ　摩滅	ナデ		Ⅲ１ｂ	
284	116	ⅡＢ2b　木根中	Ⅲ層	深鉢	口～胴部	口唇部刻み目　口縁部無文　頸部沈線　Ｌ　結束帯あり	ナデ	スス	Ⅳ４ｂ	
285	108	ⅠＡ6h	Ⅳ層	深鉢	胴部	磨消縄文　摩滅	ナデ		Ⅲ１ｃ	
286	118	ⅡＢ2b　木根中	Ⅲ層	壺？	肩部	Ｌ	ナデ	スス	Ⅳ４ｃ	
287	109	ⅠＡ6j	Ⅳ層		底部	網代痕（1本潜り１本越え）	ナデ		Ⅴ２	
288	115	ⅠＢ区　木根中	Ⅲ層	鉢？	胴～底部	沈線あり？　ＬＲ？		スス（内外面）	Ⅳ６	摩滅
289	126	ⅠＣ８ｅ	Ⅳ層	深鉢？	胴部	繊維あり		スス	Ⅰ	No289～292同一個体
290	127	ⅠＣ８ｅ	Ⅳ層	深鉢？	胴部	繊維あり		スス	Ⅰ	No289～292同一個体
291	128	ⅠＣ８ｅ	Ⅳ層	深鉢？	胴部	繊維あり		スス	Ⅰ	No289～292同一個体
292	129	ⅠＣ８ｅ	Ⅳ層	深鉢？	胴部	繊維あり		スス	Ⅰ	No289～292同一個体
293	168	ⅠＣ10c	攪乱部	深鉢	口縁部	口唇部のみ施文　ほかは無文　摩滅	ナデ	スス(少量)	Ⅲ２ｃ	
294	59	ⅠＣ９ｄ	Ⅳ層		口縁部	口唇部刻み目　弧線状の平行沈線			Ⅲ２ｂ	小礫多
295	124	ⅠＣ７ｇ	攪乱部	深鉢	口縁部	半竹管刻み目　沈線　Ｌ	ミガキ		Ⅲ２ｂ	厚手
296	60	ⅠＣ９ｄ	Ⅳ層	深鉢	底部	ナデ調整　摩滅	ナデ		Ⅴ２	
297	120	ⅠＣ７ｃ	Ⅳ層	深鉢	底部	木葉痕　摩滅	ナデ		Ⅴ２	
298	123	ⅠＣ７ｇ	Ⅳ層	鉢	底部	ＲＬ　網代痕（1本潜り２本越え１本送り）　粗製	ナデ		Ⅳ６	
299	93	ⅠＣ８ｅ　（Ｐ４０周辺）	埋土	注口	注口部	付け根部に押圧			Ⅳ	

第４表　平成19年度出土遺物観察表（石器・石製品）

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	産地	時代	備考
12	567	101号竪穴住居	埋土	石棒	61.10	16.10	14.20	22600.00	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
13	568	101号竪穴住居	埋土	石棒	58.40	17.30	12.80	16500.00	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
35	502	102号竪穴住居　Ｑ３	埋土	石匙	5.05	3.70	0.80	9.50	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	縦型
36	306	102号竪穴住居　東西ベルト中	埋土	石匙	7.60	2.60	0.70	9.60	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	縦型
37	319	102号竪穴住居　Ｑ３	埋土床直	楔形石器	3.20	2.90	1.50	13.60	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
38	569	102号竪穴住居	埋土	台石？	30.40	19.90	7.80	7100.00	デイサイト	奥羽山脈	新生代新第三紀	被熱痕あり
39	309	102号竪穴住居　Ｑ１	埋土上位	石製品	3.20	2.10	1.65	21.20	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
40	503	102号竪穴住居　Ｑ１	埋土上位	磨石	11.80	8.30	5.70	710.50	凝灰岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
41	504	102号竪穴住居　Ｑ２	埋土	石製品	32.00	4.80	4.20	616.70	頁岩	北上山地	古生代	未製品？
54	366	301号掘立柱建物跡（溝）	埋土中	削・掻器	6.10	2.90	1.00	13.00	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
55	533	301号掘立柱建物跡（溝）西端	埋土黒色土	凹石	10.50	7.70	3.20	319.90	頁岩	北上山地	古生代	両面
56	530	301号掘立柱建物跡（溝）	埋土	石製品	(3.50)	3.30	2.10	28.20	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
57	572	301号掘立柱建物跡（溝）付近	Ⅳ層	台石？	33.60	26.90	5.40	6100.00	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
58	573	301号掘立柱建物跡（溝）　Ｐ60	埋土上位	台石？	26.00	26.50	8.90	12200.00	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
68	574	104号土坑北側壁	Ⅳ層	石皿？	24.20	37.60	4.10	4600.00	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
84	511	106号土坑　北半	埋土	凹石	17.90	7.10	5.00	525.40	凝灰岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	４面に凹み
85	323	106号土坑　Ｑ３	埋土上位	石匙	4.70	2.70	0.70	8.00	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	縦型
86	509	106号土坑　　北半	埋土	台石？	(11.90)	(13.50)	(0.14)	432.60	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
87	510	106号土坑　北半	埋土	磨・凹・敲石	15.65	8.20	6.05	1114.80	デイサイト	奥羽山脈	新生代新第三紀	
88	570	106号土坑　東側壁際	埋土	台石？	34.20	25.00	8.00	11500.00	デイサイト	奥羽山脈	新生代新第三紀	
91	330	107号土坑	埋土上位	石鏃	2.05	1.50	0.25	0.60	めのう	奥羽山脈	新生代新第三紀	平基有茎
102	516	108号土坑　ベルト	埋土	磨石	9.30	9.55	6.10	781.70	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
103	514	108号土坑	埋土中位	石錘	4.30	6.00	1.70	49.90	凝灰岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
107	522	109号土坑	埋土下位	磨石	2.50	2.70	2.30	16.10	凝灰岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
108	523	109号土坑	埋土上位	不明	22.50	14.10	7.80	3134.00	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	被熱痕あり
125	347	114号土坑	埋土中位	打製石斧	11.40	6.50	3.00	226.20	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
137	529	116号土坑　北側	埋土	石製品	(3.90)	2.10	1.80	19.80	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
138	528	116号土坑	埋土	石製品	(12.15)	5.30	4.10	350.10	凝灰岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	未製品？一部加工痕あり
191	518	210号土坑	埋土中位	石皿	16.40	11.35	4.65	1289.40	凝灰岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	被熱痕あり
219	519	213号土坑	埋土下位	磨・敲石	9.40	7.50	4.00	372.10	砂岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
230	520	214号土坑　中央	埋土底部	磨石	8.90	9.00	6.15	658.60	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
231	521	214号土坑　東半	埋土	磨石	4.10	3.35	2.50	35.60	凝灰岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
267	513	303号焼土	埋土中位	磨石	10.70	8.20	4.00	559.50	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
276	377	Ｐ５７	埋土中	石鏃	2.80	1.80	0.60	2.00	赤色頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	円基無茎
300	328	ⅠＡ10j	Ⅳ層	石鏃	2.10	1.10	0.50	0.90	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	凸基有茎　アスファルト付
301	400	ⅡＡ1g	Ⅰ層（Ⅲ層含）	石鏃	2.05	1.20	0.50	0.80	めのう	奥羽山脈	新生代新第三紀	凸基有茎

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石質	産地	時代	備考
302	442	ⅡＢ2b　木根中	Ⅲ層	石鏃	(2.40)	1.60	0.50	1.40	めのう	奥羽山脈	新生代新第三紀	凸基有茎
303	500	ⅡＡ9g	Ⅳ層	不定形石器	3.90	3.70	1.20	23.00	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	再加工？
304	446	ⅠＡ9i　木根中	Ⅲ層	石匙	7.20	2.00	0.60	8.50	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	縦型
305	460	ⅠＢ区（北側調査区）	Ⅲ層	石匙	8.50	3.20	0.90	22.20	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	縦型
306	402	ⅠＡ9i　木根中	Ⅲ層	石匙	5.90	3.30	1.00	15.60	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	縦型
307	425	ⅡＢ2b　木根中	Ⅲ層	不定形石器	4.40	5.55	1.60	21.30	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	微細剥離
308	443	ⅡＢ3a　木根中	Ⅲ層	掻器？	(4.40)	3.50	0.70	10.40	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	石匙の一部？
309	391	ⅡＡ1g	Ⅰ層	不定形石器	7.10	8.70	2.80	124.50	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	二次加工
310	403	ⅠＡ9i　木根中	Ⅲ層	石篦	3.60	5.70	1.90	34.00	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
311	413	ⅡＢ2b　木根中	Ⅲ層	不定形石器	6.40	4.70	1.50	35.70	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	二次加工
312	426	ⅡＢ2b　木根中	Ⅲ層	削・掻器	9.80	12.30	2.20	223.10	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
313	536	ⅠＡ5ｉ	Ⅰ層	不定形石器	18.30	7.00	2.40	391.10	頁岩	北上山地	古生代	
314	437	ⅡＢ2b　木根中	Ⅲ層	掻器	5.70	4.30	1.50	30.50	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
315	463	ⅠＢ区（北側調査区）	Ⅲ層	削・掻器	5.70	7.10	1.50	80.30	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
316	540	ⅠＡ9i　木根中	Ⅲ層	磨・凹石	9.20	6.90	2.70	235.80	凝灰岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	両面　側面に磨り
317	553	ⅠＡ区	表採	有孔石製品	4.80	3.60	1.00	20.30	砂岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	両側から穿孔
318	539	ⅠＡ9i　木根中	Ⅲ層	凹石	(6.20)	(7.90)	(3.80)	199.50	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	両面
319	537	ⅠＡ7ｇ	Ⅰ層	石製品	(2.80)	1.90	1.60	11.90	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
320	555	ⅠＡ9i　木根中	Ⅲ層	石製品	(4.50)	1.65	1.30	13.00	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
321	542	ⅠＡ9i　木根中	Ⅲ層	磨・敲石	10.10	8.75	7.90	941.00	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
322	556	ⅡＢ区　木根中	Ⅲ層	磨石	2.10	3.40	2.20	27.00	凝灰岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
326	498	ⅠＣ7ｇ	Ⅱ層	石鏃	1.60	1.20	0.30	0.50	黒曜石	不明	不明	円基無茎
327	494	ⅠＣ7ｇ	Ⅱ層	石鏃	(2.20)	1.60	0.50	1.50	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	円基無茎
328	485	ⅠＢ区（南側調査区）	Ⅲ～Ⅳ層	石篦	7.60	4.30	1.20	39.20	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	刃部裏光沢あり
329	381	ⅠＣ7ｄ	Ⅰ層	石錐	3.60	2.10	0.70	4.50	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
330	382	ⅠＣ7ｄ東側	Ⅰ層	削・掻器？	6.50	3.00	1.00	15.90	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
331	371	ⅠＣ9ｅ	Ⅳ層	不定形石器	6.35	5.70	2.30	67.90	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	二次加工
332	487	ⅠＢ区（南側調査区）	Ⅲ層	不定形石器	8.70	5.30	2.10	89.40	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	二次加工
333	564	ⅠＣ9ｃ	Ⅳ層	凹石	13.00	7.80	2.00	255.40	凝灰岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	両面
334	565	南側調査区外	表採	凹石	(12.30)	9.70	4.40	587.50	凝灰岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	両面　擦痕あり
335	548	ⅠＣ8ｅ	Ⅳ層	磨・凹石	8.70	7.60	2.50	198.10	砂岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	片面のみ凹み
336	562	南側調査区	表採	磨石	10.70	7.60	6.20	650.10	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
337	535	ⅠＣ7ｃ	Ⅰ～Ⅱ層	磨・敲石	14.40	11.30	7.30	1575.10	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
338	560	南側調査区	表採	磨石	11.40	8.70	5.90	695.50	凝灰岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	

第５表　平成19年度出土遺物観察表（銭貨）

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	素材	径（cm）	重量（g）	種別		初鋳造年代	初鋳造年	産地		その他
144	601	201 号土坑	底面直上	銅	2.40	3.46	寛永通寶	古	17c 前	1635 年	水戸銭		
145	602	201 号土坑	底面直上	銅	2.55	3.49	寛永通寶	新	17c 後	1668 年		退点文	
146	603	201 号土坑	底面直上	銅	2.50	3.65	寛永通寶	古	17c 前	1635 年	水戸銭		
147	604	201 号土坑	底面直上	銅	2.30	2.95	寛永通寶	古	17c 前	1637 年	岡山銭？		
148	605	201 号土坑	底面直上	銅	2.35	2.97	寛永通寶	新	17c 後	1668 年		正字文	
149	606	201 号土坑	底面直上	銅	2.50	2.71	寛永通寶	新	17c 後	1668 年		退点文	
150	607	202 号土坑	底面直上	銅	2.45	3.19	寛永通寶	古	17c 前	1637 年	岡山銭		木片、ひも片あり
151	608	202 号土坑	底面直上	銅	2.50	2.99	寛永通寶	古	17c 中	1656 年	鳥越銭		
152	609	202 号土坑	底面直上	銅	2.50	3.29	寛永通寶	古	17c 中	1653 年	建仁寺銭		
153	610	202 号土坑	底面直上	銅	2.40	4.28	寛永通寶	古	17c 前	1639 年	井之宮銭		
154	611	202 号土坑	底面直上	銅	2.55	3.87	寛永通寶	新	17c 後	1668 年		退点文	
155	612	202 号土坑	底面直上	銅	2.45	4.08	寛永通寶	古	17c 中？	1656 年？	鳥越銭？		
156	693	202 号土坑	底面直上	不明	2.30 × 2.05	11.12	不明		？	？		摸造銭？	凝灰岩？
157	613	203 号土坑	埋土上位	銅	2.40	3.03	寛永通寶	古	17c 前	1637 年	吉田銭		木片あり
158	614	203 号土坑	埋土上位	銅	2.45	3.15	寛永通寶	古	17c 前	1637 年	吉田銭		
159	615	203 号土坑	埋土上位	銅	2.55	3.41	寛永通寶	古	17c 中	1653 年	建仁寺銭		
160	616	203 号土坑	埋土上位	銅	2.45	2.44	寛永通寶	古	17c 前	1639 年	井之宮銭		
161	617	203 号土坑	埋土上位	銅	2.40	3.15	寛永通寶	古	17c 前	1637 年	吉田銭		
162	618	203 号土坑	埋土上位	銅	2.50	1.18	寛永通寶	古	17c 中？	1656 年？	鳥越銭？		
163	619	203 号土坑　南側	埋土中位	銅	2.50	1.90	咸平元寶	北宋銭	998 年	998 年？	北宋銭		木片あり
165	620	205 号土坑	埋土下位	銅	2.50	2.07	寛永通寶	古？	～ 17c 中	？	？		
166	621	205 号土坑	埋土下位	銅	2.60	2.96	寛永通寶	新	17c 後	1668 年		退点文	
167	622	205 号土坑	埋土下位	銅	2.55	2.26	寛永通寶	新	17c 後	1668 年		文銭	
168	623	205 号土坑	埋土下位	銅	2.50	3.14	天聖元寶	北宋銭	1023 年	1023 年	北宋銭		
169	624	205 号土坑	埋土下位	銅	2.45	2.91	寛永通寶	古	17c 前	1637 年	吉田銭		
170	625	205 号土坑	埋土下位	銅	2.40	2.39	寛永通寶	古	17c 前	1637 年？	岡山銭？		
174	626	207 号土坑	埋土上位	銅	2.50	1.90	寛永通寶	古	17c 前	1637 年	仙台銭		
175	627	207 号土坑　東半	埋土中位	銅	－	0.61	寛永通寶	古？	～ 17c 中	？	？		残 1/3
178	628	208 号土坑	埋土	銅	2.60	1.97	寛永通寶	新	17c 後	1668 年		正字文	
179	630	208 号土坑	埋土	銅	2.50	3.45	寛永通寶	新	17c 後	1668 年		文銭	
180	629	208 号土坑	埋土	銅	2.50	2.94	寛永通寶	古	17c 前	1639 年	井之宮銭		
181	631	208 号土坑	埋土	銅	2.50	2.94	不明		？	？	渡来銭？	渡来銭？	木片（穿孔）あり
182	632	208 号土坑	埋土	銅	2.40	2.22	寛永通寶	古？	～ 17c 中	1637 年？	岡山銭？		一括
183	633	208 号土坑	埋土	銅	2.50	2.73	寛永通寶	新	17c 後	1668 年		正字文	
184	634	208 号土坑	埋土	銅	2.50	2.77	寛永通寶	新	17c 後	1668 年		正字文	

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	素材	径（cm）	重量（g）	種別		初鋳造年代	初鋳造年	産地		その他
187	635	209 号土坑　a	底面直上	銅	2.20	1.09	寛永通寶？	不明	？	？	？		布片（銭を包んだもの）
188	636	209 号土坑　b	底面直上	銅	2.35	1.59	寛永通寶	新？	17c 後～	？	？		
189	637	209 号土坑　a	埋土上位	銅	2.30	1.98	寛永通寶？	？	？	？	？		
190	638	209 号土坑　b	埋土上位	銅	2.50	2.27	寛永通寶	新	18c 前	1726 年？	京都七條銭？		
196	639	210 号土坑　中央	埋土上位	銅	2.50	1.97	寛永通寶	新	17c 後	1668 年		退点文	
192	641	210 号土坑　b	底面直上	銅	2.50	2.64	寛永通寶	新	17c 後	1668 年		文銭	
193	642	210 号土坑　c	底面直上	銅	2.50	2.86	寛永通寶	新	17c 後	1668 年		退点文	6 枚一括布片あり
194	643	210 号土坑　d	底面直上	銅	2.30	2.38	寛永通寶	新	18c 前	1716 年頃	猿江銭？		
195	644	210 号土坑　e	底面直上	銅	2.50	3.41	寛永通寶	新	18c 前	1714 年？	丸屋銭？		
197	640	210 号土坑　a	底面直上	銅	2.40	2.80	寛永通寶	古	17c 前	1637 年	吉田銭		
198	645	210 号土坑　f	底面直上	銅	2.50	2.22	寛永通寶	古	17c 中	1653 年	建仁寺銭		
199	646	211 号土坑	底面直上	銅	－	0.22	寛永通寶	新	17c 後	1668 年以降			残 40%
200	647	211 号土坑	底面直上	銅	2.50	1.43	寛永通寶	新	17c 後	1668 年		退点文	木片（穿孔）あり
201	648	211 号土坑　a	底面直上	銅	2.45	2.34	至道元寶	北宋銭	995 年	995 年		草	
202	649	211 号土坑　b	底面直上	銅	2.40	1.42	至道元寶	北宋銭	995 年	995 年		草	
203	650	211 号土坑　c	底面直上	銅	2.50	2.59	至道元寶	北宋銭	995 年	995 年		行	
204	651	211 号土坑　d	底面直上	銅	2.50	2.73	寛永通寶	古	17c 前	1637 年	吉田銭		
205	652	211 号土坑　e	底面直上	銅	2.50	3.24	至道元寶	北宋銭	995 年	995 年		草	
206	653	211 号土坑　f	底面直上	銅	2.40	1.93	至道元寶？	北宋銭	995 年？	995 年？			
210	654	212 号土坑　a	底面直上	銅	2.30	2.87	寛永通寶	新？	17c 後～	？	？		
211	655	212 号土坑　b	底面直上	銅	2.40	2.26	寛永通寶	新	18c 後	1767 年	四年銭小様		
212	656	212 号土坑　c	底面直上	銅	2.50	2.37	寛永通寶	古	17 c 前	1637 年？	吉田銭？		
213	657	212 号土坑　d	底面直上	銅	2.50	2.57	元豊通寶	北宋銭	1078 年	1078 年		真	
214	658	212 号土坑　e	底面直上	銅	2.30	3.01	寛永通寶	新	18c 初	1708 年	四ッ宝銭（広永）		9 枚一括藁片あり
215	659	212 号土坑　f	底面直上	銅	2.50	2.07	寛永通寶	古	17c 前	1635 年	水戸銭？		
216	660	212 号土坑　g	底面直上	銅	2.30	2.54	寛永通寶	新	18 c 前	1716 年頃	猿江銭？		
217	661	212 号土坑　h	底面直上	銅	2.45	2.67	寛永通寶	新	18 c 前～	1736 年～	伏見手？		
218	662	212 号土坑　i	底面直上	銅	2.30	1.86	寛永通寶	新	18c 前～	1736 年～	伏見手？		
223	663	213 号土坑	埋土	銅	2.35	1.65	寛永通寶	新	18c 前	1728 年	重揮通無背（石ノ巻）		布片　むしろ片？
224	664	213 号土坑	埋土	銅	2.50	1.83	寛永通寶	新	18c 前	1728 年	重揮通無背（石ノ巻）		
225	665 a	213 号土坑	埋土	銅	2.35		寛永通寶	新	18c 前	1728 年	重揮通無背（石ノ巻）		665 b と接着出土
226	665 b	213 号土坑	埋土	銅	2.40		寛永通寶	新	18c 前	1728 年	重揮通無背（石ノ巻）		665 a と接着出土
227	668	213 号土坑	埋土	銅	2.50	1.57	寛永通寶	古	17c 中	1653 年	建仁寺銭		布片　むしろ片？
228	667	213 号土坑	埋土	銅	2.50	2.66	寛永通寶	新？	18c 前？	1726 年？	京都七條銭（退永）？		布片　むしろ片？
229	666	213 号土坑	埋土	銅	－	1.03	寛永通寶	新	17c 後～	？	？		残存 90%
233	669	215 号土坑　中央　a	埋土中位	銅	2.55	2.33	寛永通寶	古？	17c 前？	？	？		
234	670	215 号土坑　中央　b	埋土中位	銅	2.45	2.63	寛永通寶	古	17 c 前	1635 年	水戸銭		

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	素材	径（cm）	重量（g）	種別		初鋳造年代	初鋳造年	産地		その他
235	671	215号土坑　中央　c	埋土中位	銅	2.40	1.92	寛永通寶	古	17c前	1635年	水戸銭		
236	672	215号土坑　中央　d	埋土中位	銅	2.50	3.00	寛永通寶	古	17c中	1653年	建仁寺銭		
237	673	215号土坑　中央　e	埋土中位	銅	2.50	2.97	寛永通寶	新	17c後	1668年		文銭	
240	674	216号土坑	底面直上	銅	2.30	2.27	寛永通寶	新	18c前	1736年	輪十鋳銭？虎ノ尾寛小字（十万坪）？		
241	688	216号土坑	底面直上	鉄	－	－	寛永通寶	新	17c後～	？	？		木片とともに接着
242	689	216号土坑	底面直上	鉄	－	－	寛永通寶	新	17c後～	？	？		木片とともに接着
342	690	216号土坑	底面直上	鉄	2.80	3.69	不明	？	？	？	？		腐食著しい
243	675	217号土坑　西側	埋土上位	銅	2.50	1.36	寛永通寶	新	18c前？	1714年？	丸屋銭？		
244	676	217号土坑　①	埋土中位	銅	2.35	0.91	寛永通寶	新	18c前	1736年	輪十鋳銭？虎ノ尾寛小字（十万坪）？		
250	677	217号土坑　②	埋土中位	銅	2.45	2.76	寛永通寶	古	17c前	1637年	武田銭？		
251	679	217号土坑　④	埋土中位	銅	2.30	0.77	寛永通寶	新？	17 c後～	？	？		木片あり
246	680 a	217号土坑a　⑤	埋土中位	銅	2.35		寛永通寶	新	18c前	1738年	秋田大字		
247	680 b	217号土坑a　⑤	埋土中位	銅			寛永通寶	新	18c前	1738年	秋田大字		
245	680 c	217号土坑a　⑤	埋土中位	銅			寛永通寶	新	17c後～	？	？		一括
252	681	217号土坑b	埋土中位	銅	2.30	1.35	寛永通寶	新	18c前	1739年	縮字（吉田島）		
248	682	217号土坑c	埋土中位	銅	2.30	1.75	寛永通寶	新	18c前	1736年	虎ノ尾寛小字（十万坪）？		
249	683	217号土坑d	埋土中位	銅	2.50	1.74	寛永通寶	新	17c後	1668年？	島屋文？		
258	684	218号土坑　南半	埋土上位	銅	－	0.57	寛永通寶	新	17c後～	？	？		
262	694	220号土坑	埋土	不明	2.10	7.49	不明		？	？		摸造銭？	凝灰岩？
340	685	ⅠC7h	Ⅰ層	銅	2.50	1.82	永楽通寶	明銭	1408年	1408年			
323	686	ⅡA8f　（301号溝付近）	Ⅲ～Ⅳ層	銅	2.55	1.77	寛永通寶	新	17c後	1668年？	島屋文？		
324	687	ⅡA9g　（P19周辺）	Ⅳ層	銅	2.50	1.62	寛永通寶	古	17c中	1656年？	鳥越銭？		
341	692	ⅠC7h	Ⅰ層		2.20	0.94	十銭		1941年	1941年			昭和16年製

第６表　平成19年度出土遺物観察表（陶磁器）

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	材質	器種	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重量(g)	内外面（釉薬・絵付）	産地	年代	その他
255	1001	218号土坑　南半	埋土上位	陶器	碗	胴～底部	－	(3.1)	6.0	72.0	こしさび	大堀相馬	江戸	
260	1002	220号土坑	埋土中	陶器	皿	口縁部	－	－	－	4.8	灰釉	肥前？		
261	1003	220号土坑	埋土中	磁器	皿？	体部	－	－	－	3.4	染付？		不明	
263	1004	201号溝	Ⅳ層	陶器	碗	体部	－	－	－	12.7	螺旋状沈線　こしさび	大堀相馬？		
264	1005	201号溝	Ⅳ層	陶器	不明	体部	－	－	－	3.4	鉄釉		不明	
350	1006	ＩＡ７ｆ	Ⅱ層	磁器	碗	口縁部	－	－	－	5.0	型紙摺絵　透明釉		明治	写真のみ
349	1007	ＩＡ８ｉ	Ⅲ層	陶器	大鉢？	胴部	－	－	－	36.2	灰釉　２条の	在地産		写真のみ
351	1008	南側調査区外	表採	陶器	鉢	口縁部	－	－	－	21.5	染付　草花文	肥前？		写真のみ　新しい可能性もあり

第７表　平成19年度出土遺物観察表（煙管）

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	種類	部位	素材	最長（cm）	最幅(cm)	最厚(cm)	重量（g）	特徴等	分類	時期
173	702	207号土坑	埋土下位	煙管	肩部	銅	(2.60)	(1.00)	(1.00)	1.58			
177	703	208号土坑　ＮＯ３	底面直上	煙管	略完形	銅	(15.40)	1.50	2.00	5.08	河骨形　補強帯なし　吸口一枚もの	Ⅳ	18世紀前半
185	704	209号土坑	底面直上	煙管	肩部	銅	(5.70)	(1.10)	(1.10)	2.39	包み紙（和紙？）		18世紀以降
186	705	209号土坑　南側	埋土下位	煙管	肩部	銅	(2.20)	(0.80)	(0.80)	0.33	包み紙（和紙？）		18世紀以降
208	706	212号土坑　南隅	埋土下位	煙管	雁首	銅	(6.00)	2.00	2.05	8.08	脂返しやや小さいが火皿大	Ⅳ？	18世紀前半
209	707	212号土坑	底面直上	煙管	吸口	銅	(5.10)	(1.00)	(1.00)	2.84			18世紀以降
220	708	213号土坑　ＮＯ２	底面直上	煙管	吸口	銅	(6.00)	(0.90)	(0.80)	1.02	709と同一個体か？		
232	709	213号土坑　ＮＯ３	底面直上	煙管	火皿部	銅	(1.80)	1.80	(1.00)	2.18	708と同一個体か？		18世紀以降
239	712	216号土坑	底面直上	煙管	肩部	銅	(9.70)	(1.10)	(1.00)	4.52			
254	713	217号土坑　中央	埋土上位	煙管	肩部	銅	(3.70)	(1.10)	(1.10)	1.32	補強のための巻き糸あり		
325	714	Ｐ１１	検出時	煙管	吸口	銅	(3.80)	(0.90)	0.90	2.37	肩部と吸口に分かれる	Ⅱ～Ⅲ	17世紀

第８表　平成19年度出土遺物観察表（鉄製品）

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	種類	部位	素材	最長（cm）	最幅（cm）	最厚(cm)	重量（g）	特徴等	その他
171	803	207号土坑	埋土上位	毛抜き	完	鉄	9.20	2.30	1.45	15.43		a　出土時ｂと付着
172	804	207号土坑	埋土上位	和鋏	把手	鉄	(8.70)	3.20	1.00	13.21		b　出土時ａと付着
176	808	208号土坑　ＮＯ４	底面直上	山刀	刃部	鉄	(29.00)	3.70	2.20	97.95	先端部やや幅広	
207	819	212号土坑	底面直上	小刀	刃部～柄	鉄	(20.90)	1.90	1.30	33.49	柄部9cm　刃部11.9cm	
222	820	213号土坑　ＮＯ５	底面直上	和鋏	把手	鉄	15.60	2.95	1.20	17.20		a
221	821	213号土坑	底面直上	毛抜き	完	鉄	8.55	1.65	1.45	10.09		b
253	822	217号土坑　中央	埋土中位	火打金？		鉄	(2.40)	(5.85)	(0.55)	11.54		
256	825	218号土坑	埋土上位	〃		鉄	2.45	6.95	0.55	13.09		
259	826	219号土坑	埋土	〃		鉄	4.75	1.45	7.60	7.60	小片	

第９表　平成19年度出土遺物観察表（その他）

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	種類	部位	素材	最長(cm)	最幅(cm)	最厚(cm)	重量(g)	特徴等	その他
257	824	218号土坑　南半	埋土上位	笄・簪	耳掻部？	銅	(6.65)	0.70	0.30	2.27		
164	902 a	205号土坑	底面直上	櫛		木	(2.50)	(3.50)	1.30	5.01	挿櫛？	

第10表　平成19年度出土遺物観察表（参考）

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	種類	部位	素材	最長(cm)	最短(cm)	最厚(cm)	重量(g)	特徴等	その他
343	607	202号土坑	底面直上			木	3.50	2.20	0.55	1.05	楕円形	写真のみ
344	619	203号土坑	埋土中位			木	3.50	2.70	0.40	0.64	不整形	写真のみ
345	629	208号土坑	埋土			木	3.50	2.10	0.60	0.67	四角の穿孔あり　不整形	写真のみ
346	647	211号土坑	底面直上			木	2.30	2.00	0.10	0.21	大変薄い　小片　穿孔あり　不整形	写真のみ
347	678	217号土坑	埋土中位			木	2.30	2.10	0.40	0.60	布付着　円形	写真のみ
348	679	217号土坑	埋土中位			木	2.55	1.90	0.40	0.64	布付着　楕円形	写真のみ

第11表　平成19年度出土遺物観察表（表面採集品）

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	器種	残存率	最長(cm)	最幅(cm)	最厚(cm)	中央孔口径(cm)	重量(g)	石質	産地	時代	備考
339	575	南側調査区付近	表採	石臼(下臼)	1/2	31.00	(18.50)	12.50	8.40	8100.00	デイサイト	奥羽山脈	新生代新第三紀	6分画の目
353	488	南側調査区付近	表採	碁石盤		(8.60)	(4.30)	0.30	－	18.60	粘板岩	北上山地	古生代	写真のみ掲載

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	材質	器種	部位	口径	器高	底径	重量	内外面（釉薬・絵付）	備考
352	1009	ＩＣ７ｈ	Ｉ層	ガラス	小型瓶	完形	2.10	4.40	3.15	353.00	無色透明　「みや古染め」	写真のみ

3　平成20年度調査

（1）遺　　構

a　土器埋設遺構

平成20年度調査でのみ１基検出された。埋設された土器から、時期は縄文時代中期後半と考えられる。

101号土器埋設遺構（第47図、写真図版52）

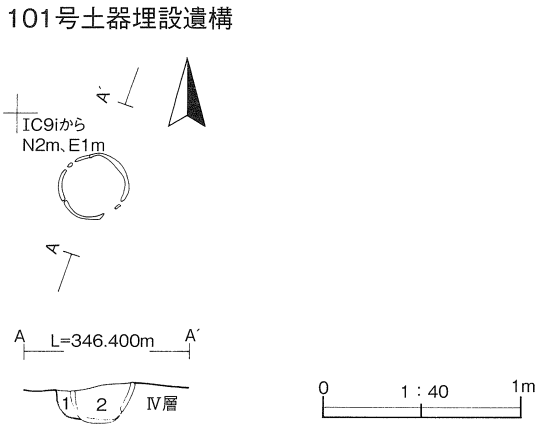
＜位置＞ＩＣ９ｈグリッドの南西隅寄りで確認された。本遺構の南側約２ｍに124号土坑がある。

＜概要＞墓壙が集中する平坦部から東側へ下る斜面肩部付近に位置する。埋設された土器の掘り方は明瞭でない。この周辺に柱穴などは見つからず、遺構間の重複もない。

＜規模＞土器の直径15cm。一部深さ10cm程度の掘り方を有する。底部が残っており、正立状態で埋められたものだが、遺構の上部は検出時かそれ以前に失われたと思われる。

＜出土遺物＞深鉢形土器の胴部から底部（354）。土器内部には暗褐色土が入っていた。

＜時期＞出土遺物から縄文時代中期後半の遺構としておく。詳細な時期は不明である。



1　10YR3/2黒褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあり
　　不明瞭な掘り方
2　10YR2/2黒褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりややあり
　　土器内の土

第47図　101号土器埋設遺構

b　土坑

平成20年度の調査では89基検出された。その内訳は、縄文時代に属する土坑が４基、近世以降の墓壙が72基、時期不明の土坑が13基である。近世以降に属する墓壙のうち、副葬品に明治・大正および昭和期の銭貨が納められていたものは９基見つかった。これらの墓壙は基本的に改葬されており、埋葬時の墓の形状や副葬品がそのまま留められているものは少ない。近世以降の墓壙とした根拠は、副葬品または人骨を伴っていることに依ったが、中にはその平面形状等から判断したものもある。

なお、墓壙から出土した人骨は、委託者を通じ奥州市胆沢総合支所胆沢ダム振興室の担当者と前地権者との協議を経て、後日「市野々公葬地」に埋葬された。

122号土坑（第48図、写真図版31）

＜位置＞ＩＣ10ｆグリッド内。

＜概要＞平面形は不整な円形で、断面形は浅皿状である。底面は波打つ。重複は認められない。

＜規模＞107×90cm、深さ８cm。

＜堆積土＞にぶい黄褐色土の単層で炭化物を含む。

＜出土遺物＞縄文土器（355）と石器剥片２点3.5ｇ。

＜時期＞出土した遺物から縄文時代に属する遺構である。詳細な時期は不明である。

123号土坑（第48図、写真図版31）
＜位置＞ⅡＣ2ｃグリッド内。
＜概要＞平面形は不整な円形で、断面形は逆台形状である。底面は平坦で、他の遺構との重複はない。
＜規模＞125×116cm、深さ46cm。　＜堆積土＞黒褐色土の単層で黄褐色土粒を含む。
＜出土遺物＞土器片15点179.1ｇ。
＜時期＞遺物から縄文時代に属する遺構である。出土遺物がわずかであり、詳細な時期は不明である。

124号土坑（第48図、写真図版31）
＜位置＞ＩＣ9ｉグリッド内、１号土器埋設遺構の南側約３ｍに位置する。
＜概要＞平面形はほぼ円形で、断面形は浅皿状である。底面は斜面下側が凹む。他遺構との重複は認められない。　＜規模＞137×？cm、深さ29cm。
＜堆積土＞上位は土器片を含む黒褐色土、下位は礫を含む暗褐色土である。自然堆積と思われる。
＜出土遺物＞縄文土器（356・357）と土器片７点43.3ｇ。
＜時期＞出土した遺物から縄文時代に属する遺構である。土器の器形などから後・晩期に所属するものと思われる。

125号土坑（第48図、写真図版31）
＜位置＞ＩＣ9ｅグリッド南側にある。
＜概要＞平面形は楕円形状と思われる。断面形は浅皿状である。本遺構の東側で近世墓壙の239号土坑と重複する。　＜規模＞86×？cm、深さ19cm。
＜堆積土＞４層に分層される。最上位は炭化物を含む黒色土、中位は投げ込まれたかのような焼けの悪い焼土、下位は黒褐色土と焼土粒を含む暗褐色土からなる。人為堆積の様相である。
＜出土遺物＞縄文土器の胴部（358）と土器片15点153.0ｇ。
＜時期＞出土した遺物から縄文時代に属する遺構であるが、詳細な時期は不明である。

223号土坑（第49図、写真図版32）
＜位置＞調査区南端のＩＣ8ｉグリッド内
＜概要＞平面形はほぼ円形で、浅皿状の断面である。　＜規模＞54×53cm、深さ５cm。
＜堆積土＞暗褐色土の単層である。
＜出土遺物＞古寛永１枚（359）と骨片少々。
＜時期＞出土遺物から17世紀前半以降の墓壙としておく。

224号土坑（第49図、写真図版32）
＜位置＞平成19年度南側調査区東端との境界付近、ＩＣ7ｈ・ＩＣ7ｉグリッドに跨る。
＜概要＞平面形は不整な円形で、浅皿状の断面である。底面は大きい凹凸が見られる。他の遺構との重複はない。
＜規模＞94×86cm、深さ10cm。　＜長軸方向＞Ｎ－34°－Ｗ。
＜堆積土＞黄褐色土ブロックを含む暗褐色土の単層である。
＜出土遺物＞焼骨片がわずかに出土した。
＜時期＞近世以降の墓壙と思われるが、詳細は不明である。

225号土坑（第49図、写真図版32）

<位置>224号土坑の北東約3.5mに位置し、ＩＣ7ｈ・ＩＣ8ｈグリッドに跨る。

<概要>平面形は不整な楕円形、断面形は長方形である。底面には小さな凹凸がある。重複はない。

<規模>108×97cm、深さ29cm。　<長軸方向>Ｎ－40°－Ｗ。

<堆積土>炭化物を多く含む黒褐色土を主体とする。

<出土遺物>煙管１セット（360）、小柄１点（361）、古寛永６枚、釘３点26.0ｇ、焼骨片。

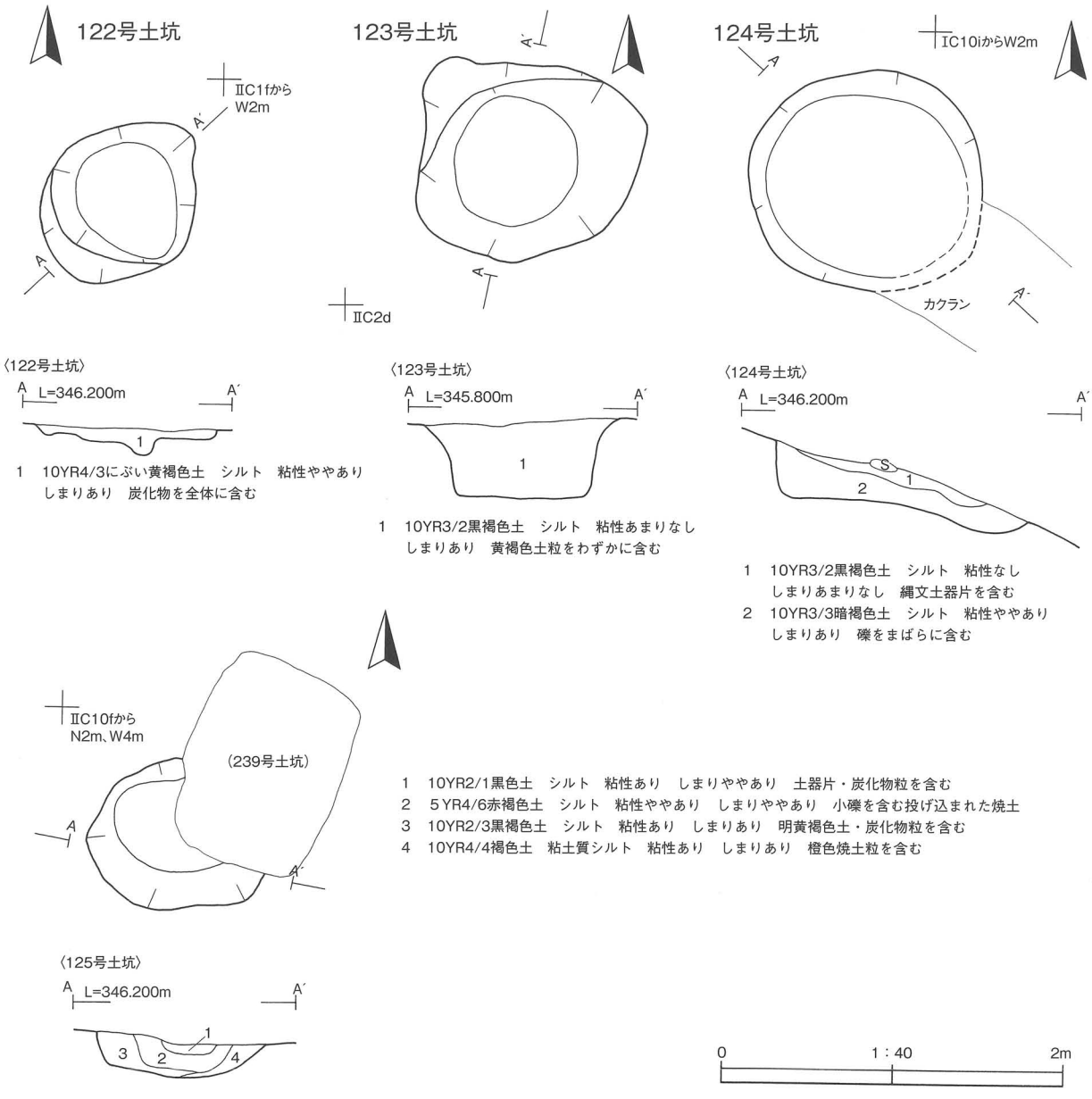
<時期>副葬品の銭貨が古寛永のみであることから、17世紀前半以降の墓壙と判断される。

226号土坑（第49図、写真図版32）

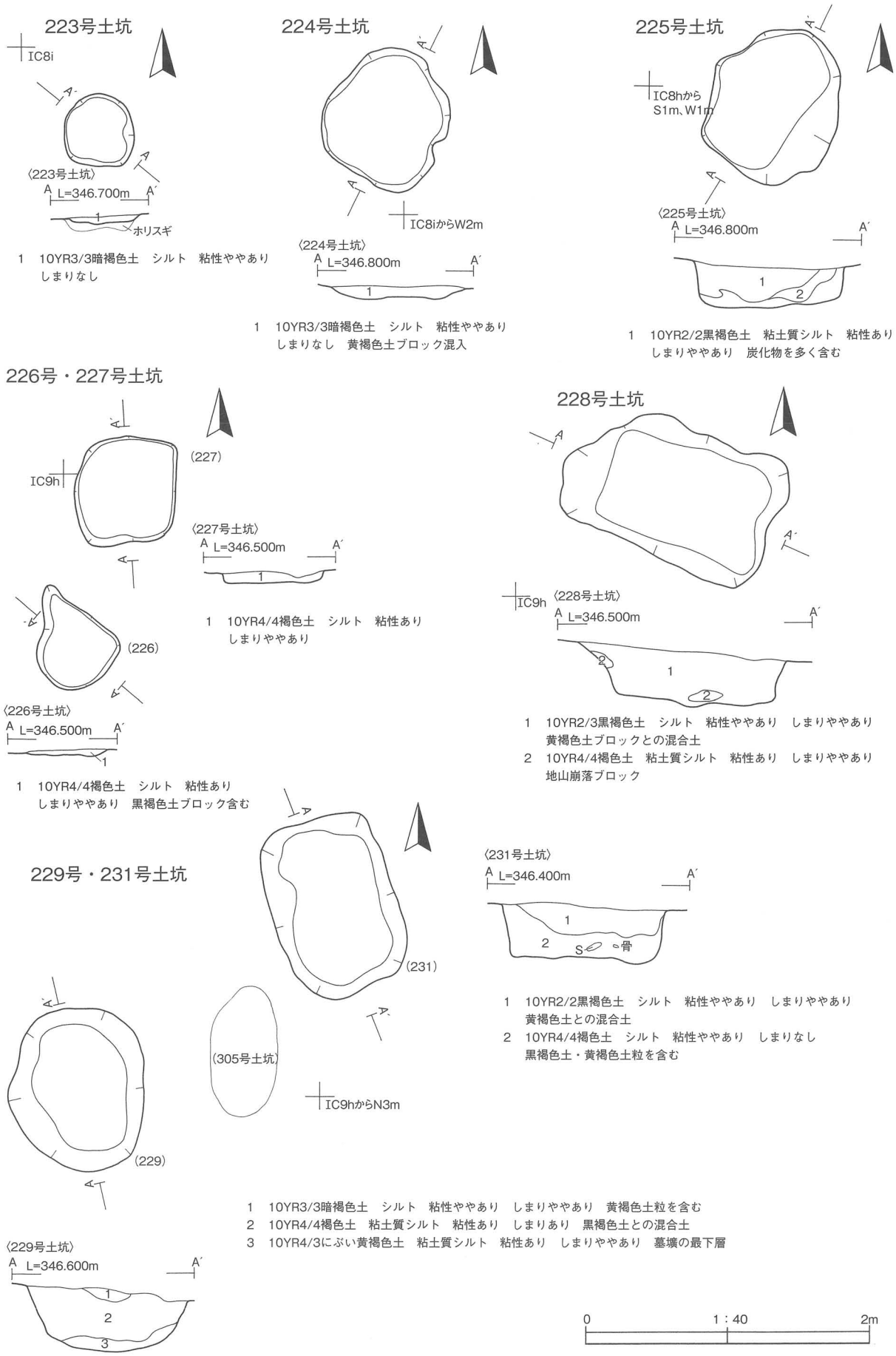
<位置>調査区南側のＩＣ9ｈグリッド内。

<概要>平面形は不整形で、断面形はごく浅い皿状である。　<規模>70×54cm、深さ７cm。

<長軸方向>Ｎ－19°－Ｗ。　<堆積土>褐色土の単層で黒褐色土のブロックを含む。



第48図　122～125号土坑



第49図　223～229・231号土坑

＜出土遺物＞焼骨片少々。
＜時期＞近世以降の墓壙と思われるが、詳細な時期は不明である。

227号土坑（第49図、写真図版33）
＜位置＞ＩＣ9ｈグリッドの北西隅に位置する。
＜概要＞平面形は隅丸方形で、断面形は浅皿状である。　＜規模＞75×72cm、深さ8cm。
＜長軸方向＞Ｎ－５°－Ｅ。　＜堆積土＞褐色土の単層。　＜出土遺物＞焼骨片。
＜時期＞近世以降の墓壙と思われるが、詳細な時期は不明である。

228号土坑（第49図、写真図版33）
＜位置＞ＩＣ9ｈ・ＩＣ9ｇグリッドに跨る。227号土坑の北側に近接する。
＜概要＞平面形は不整な長方形で、断面形は逆台形状である。　＜規模＞150×93cm、深さ38cm。
＜長軸方向＞Ｎ－69°－Ｗ。　＜堆積土＞地山崩落ブロックを含む黒褐色土の単層。
＜出土遺物＞煙管の吸口１点（368）、古寛永２枚、元豊通寶１枚のほか、焼骨片少々。
＜時期＞出土遺物から17世紀前半以降の墓壙とする。

229号土坑（第49図、写真図版33）
＜位置＞ＩＣ8ｇグリッドに位置する。305号土坑の西側に隣接する。
＜概要＞平面形は楕円形で、断面形は逆台形状である。
＜規模＞118×100cm、深さ44cm。　＜長軸方向＞Ｎ－９°－Ｗ。
＜堆積土＞３層に分層された。褐色土を主体とし、最下部には粘性のあるにぶい黄褐色土が堆積する。
＜出土遺物＞四肢骨かと思われる人骨。
＜時期＞近世以降と思われるが詳細な時期は不明である。

230号土坑（第50図、写真図版33）
＜位置＞ＩＣ9ｇグリッドのほぼ中央にある。
＜概要＞北側で233号土坑、西側で234号土坑と重複し、本遺構が最も新しい。平面形は不整な長方形である。断面形は逆台形状である。＜規模＞143×86cm、深さ65cm。
＜長軸方向＞Ｎ－４°－Ｅ。　＜堆積土＞にぶい黄褐色土の単層である。
＜出土遺物＞煙管１セット（372）、古寛永・新寛永併せて２枚、鉄銭数枚24.5ｇ、釘２点2.5ｇ。
＜時期＞出土した遺物から18世紀中頃以降の墓壙とする。

231号土坑（第49図、写真図版34）
＜位置＞ＩＣ9ｇグリッド北西端に位置する。
＜概要＞平面形は長方形で、断面形は逆台形状である。　＜規模＞128×87cm、深さ40cm。
＜長軸方向＞Ｎ－17°－Ｗ。　＜堆積土＞２層に分層され上位は黒褐色土、下位は褐色土からなる。
＜出土遺物＞煙管１セット（373）、刀子１点（376）、和鋏２点（374・375）、火打金２点（377・378）、棒状製品２点（379・380）、柄鏡１点（388）、寶永通寶１枚、古寛永・新寛永併せて５枚、判読不能の銭貨１枚、漆器の漆膜、焼骨片や四肢骨と思われる人骨が出土した。
＜時期＞出土遺物から18世紀前半以降の墓壙であろう。

232号土坑（第50図、写真図版34）
＜位置＞ＩＣ9ｆ・9ｇグリッドに跨る。
＜概要＞平面形は円形で、断面形は深バケツ形である。他遺構との重複はない。人骨の残存状況から未改葬の墓と思われる。　＜規模＞81×81cm、深さ78cm。
＜堆積土＞黄褐色土粒を含むにぶい黄褐色土の単層。
＜出土遺物＞古寛永・新寛永あわせて５枚、判読不能の銭貨１枚、棺の底板のほか、頭蓋骨を含む人骨片多数。
＜時期＞18世紀前半以降と思われる未改葬の墓壙である。

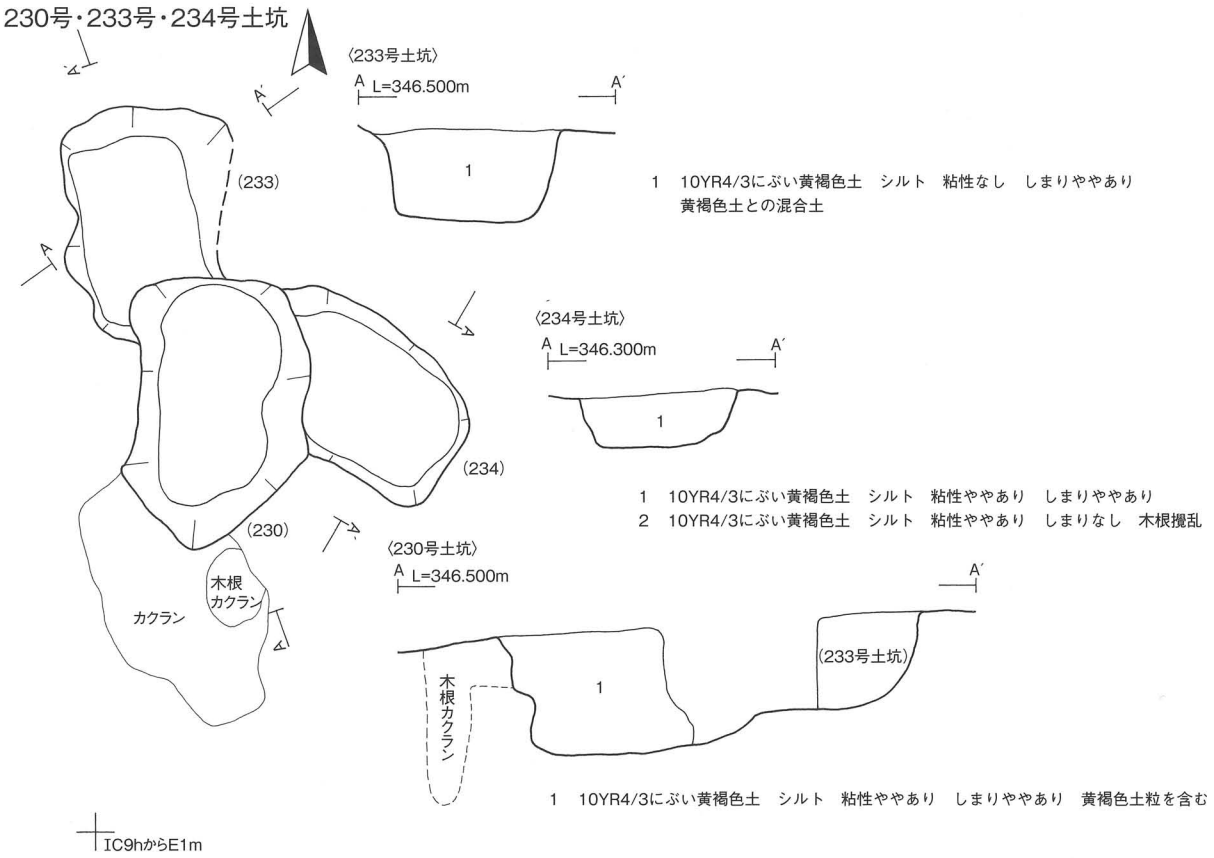
233号土坑（第50図、写真図版33・34）
＜位置＞ＩＣ9ｇグリッド中央部。
＜概要＞平面形は長方形と思われ、断面形は逆台形状である。230号土坑と重複するが本遺構のほうが旧い。　＜規模＞90×？cm、深さ47cm。　＜長軸方向＞Ｎ－12°－Ｗ。
＜堆積土＞にぶい黄褐色土の単層。
＜出土遺物＞煙管１セット（395）と古寛永・新寛永併せて７枚。
＜時期＞18世紀前半以降の墓壙とする。

234号土坑（第50図、写真図版33・34）
＜位置＞ＩＣ9ｇグリッド中央部。
＜概要＞平面形は不整長方形で、断面形は皿状。230号土坑と重複するが本遺構のほうが旧い。233号土坑との新旧完形は不明である。
＜規模＞77×？cm、深さ27cm。　＜長軸方向＞Ｎ－52°－Ｗ。　＜堆積土＞にぶい黄褐色土の単層。
＜出土遺物＞煙管２セット（404･405）と吸口１点（406）、肥前産陶器碗の高台部破片（403）古寛永･新寛永併せて10枚、鉄銭１枚4.5ｇ、釘１点13.0ｇが出土した。
＜時期＞18世紀前半以降の墓壙である。

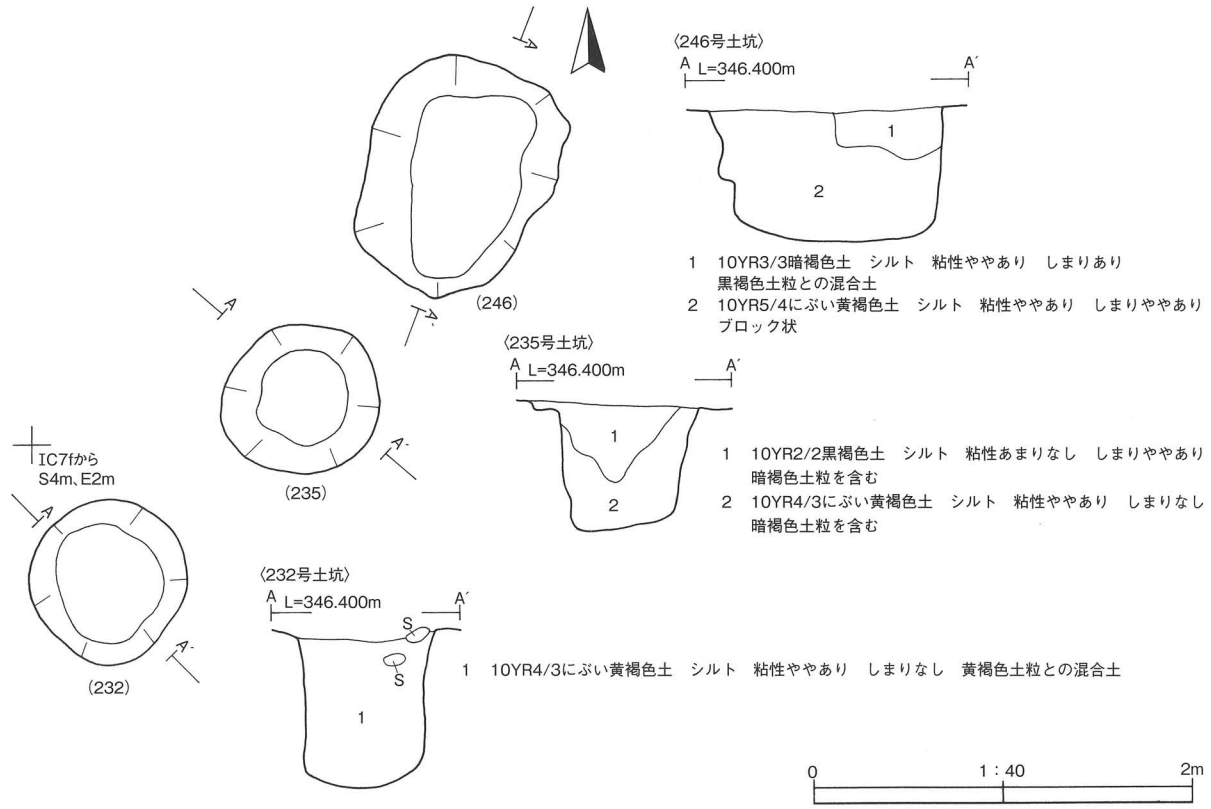
235号土坑（第50図、写真図版34）
＜位置＞ＩＣ9ｆグリッド南東端に位置する。
＜概要＞平面形は円形で、断面形はバケツ形である。他遺構との重複はない。
＜規模＞83×79cm、深さ65cm。
＜堆積土＞上位から中位は粘性の乏しい黒褐色土、下位はにぶい黄褐色土の２層からなる。
＜出土遺物＞四肢骨と思われる人骨。
＜時期＞近世以降の墓壙と思われるが、詳細な時期は不明である。

236号土坑（第51図、写真図版35）
＜位置＞ＩＣ9ｆグリッド中央に位置する。
＜概要＞平面形は長方形を基調とし、断面形は逆台形状である。他遺構との重複はない。
＜規模＞116×85cm、深さ40cm。　＜長軸方向＞Ｎ－43°－Ｅ。
＜堆積土＞褐色土粒を含む黒褐色土の単層で礫を含む。
＜出土遺物＞煙管１セット（417）、鏡背に草花が描かれた柄鏡１点（424）、古寛永･新寛永併せて６枚、

230号・233号・234号土坑



232号・235号・246号土坑



第50図　230・232～235・246号土坑

和鋏、棺の金具、不明鉄製品17.1ｇのほか、頭蓋骨と思われる人骨数片。
＜時期＞18世紀前半以降の墓壙である。

237号土坑（第51図、写真図版35）
＜位置＞ＩＣ9ｆグリッドの北西隅、236号土坑の北西側１ｍに長軸を同じくして位置する。
＜概要＞平面形は不整長方形、断面形は逆台形状である。重複はない。
＜規模＞109×73cm、深さ35cm。　＜長軸方向＞Ｎ－35°－Ｅ。
＜堆積土＞３層に分層した。埋め戻された黒褐色土・褐色土が主体である。
＜出土遺物＞煙管１セット（425）、古寛永・新寛永通寶併せて３枚、釘10点17.6ｇが出土した。
＜時期＞18世紀前半以降の墓壙である。

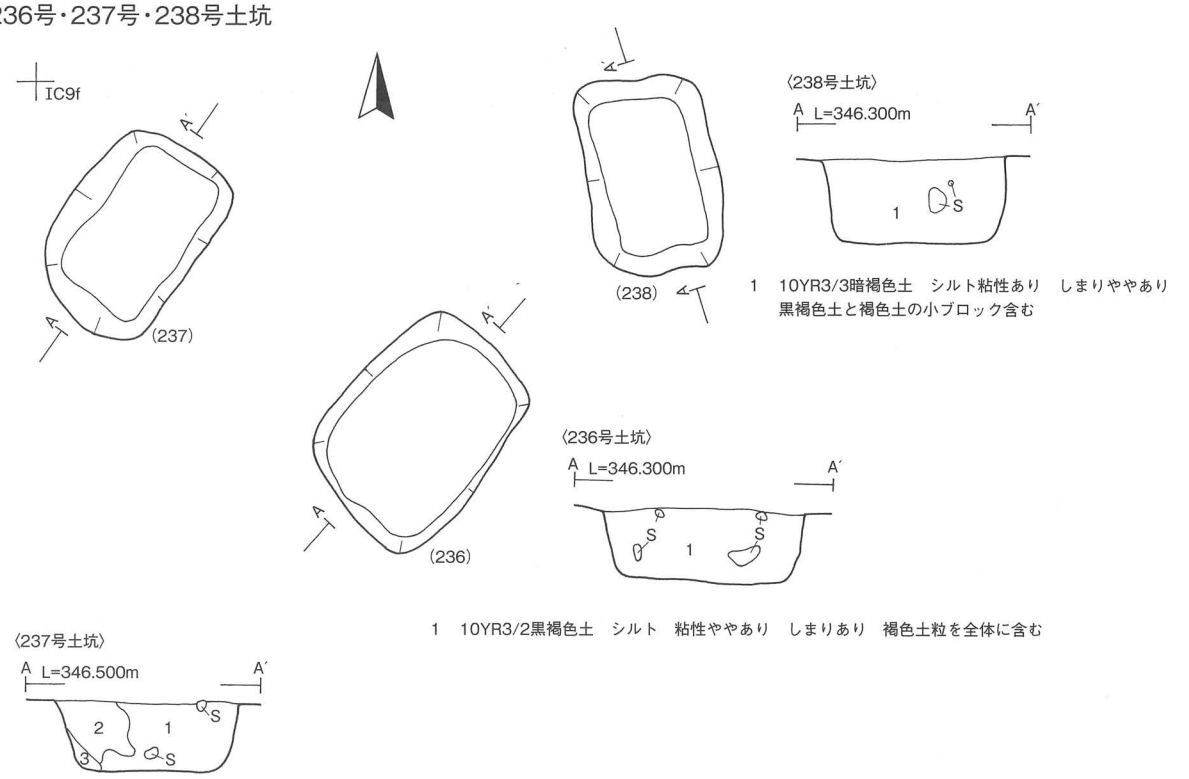
238号土坑（第51図、写真図版35）
＜位置＞ＩＣ9ｆグリッドの北東側、240号土坑に近接する。
＜概要＞平面形は長方形、断面形は逆台形状である。重複はない。
＜規模＞102×70cm、深さ44cm。　＜長軸方向＞Ｎ－10°－Ｗ。
＜堆積土＞黒褐色土と褐色土の小ブロックを含む暗褐色土の単層。
＜出土遺物＞煙管１セット（429）、新寛永３枚。
＜時期＞18世紀前半以降の墓壙である。

239号土坑（第51図、写真図版35）
＜位置＞ＩＣ9ｅグリッドの南寄りに位置する。
＜概要＞平面形は長方形、断面形は浅皿状。縄文時代に属する125号土坑と重複している。
＜規模＞112×93cm、深さ８cm。　＜長軸方向＞Ｎ－23°－Ｅ。
＜堆積土＞褐色土粒を全体に含む黒褐色土の単層である。
＜出土遺物＞煙管１セット（433）、文銭４枚を含む新寛永５枚と古寛永１枚、寛永通寶と思われる銭貨３枚、縄文時代の土器片５点36.9ｇ、不明鉄製品１点2.8ｇ。
＜時期＞文銭が出土していることから、17世紀後半以降の墓壙としておく。

240号土坑（第51図、写真図版36）
＜位置＞ＩＣ9ｅグリッドの南東側に位置する。239号土坑と近接する。
＜概要＞平面形は不整な長方形、断面形は浅皿状である。
＜規模＞92×65cm、深さ29cm。　＜長軸方向＞Ｎ－43°－Ｅ。
＜堆積土＞黒褐色土粒や褐色土ブロックを含む黒褐色土の単層。
＜出土遺物＞古寛永・新寛永併せて５枚、縄文時代の土器片３点28.2ｇ。
＜時期＞17世紀後半以降の墓壙とする。

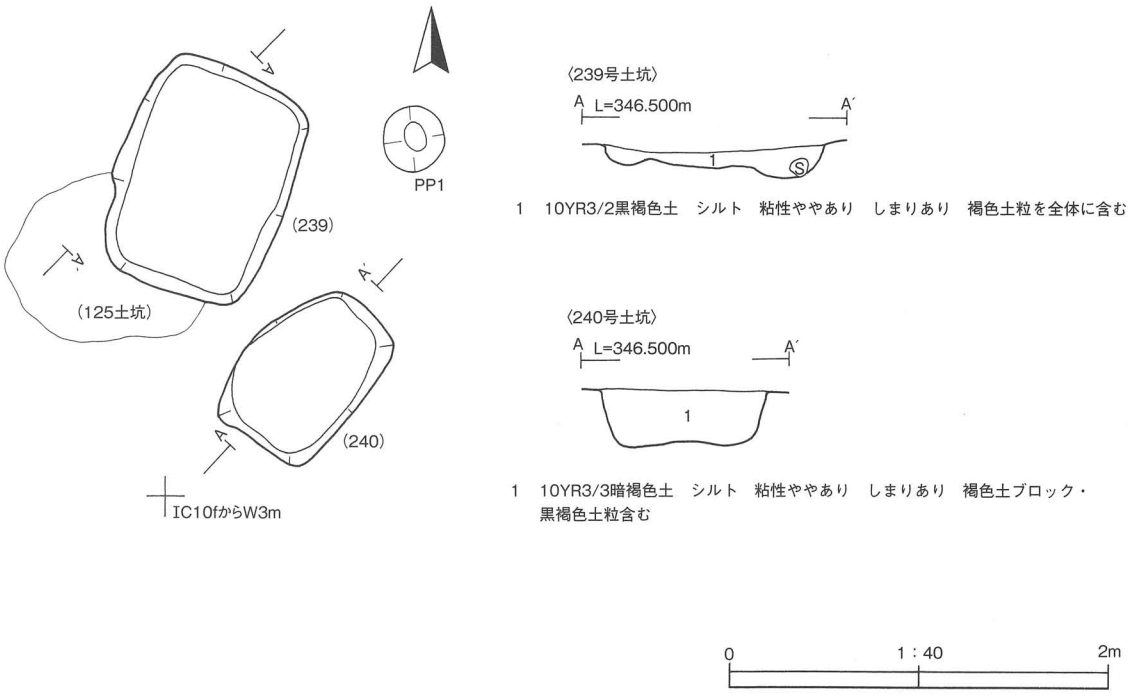
241号土坑（第52図、写真図版36）
＜位置＞ＩＣ9ｆ・10ｆグリッドに跨ってあり、遺構北側の隅が242号土坑とわずかに重複する。
＜概要＞平面形は長方形、断面形は逆台形状である。両者の新旧関係は不明である。
＜規模＞131×82cm、深さ38cm。　＜長軸方向＞Ｎ－30°－Ｗ。

236号・237号・238号土坑



1　10YR3/2黒褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあり　褐色土小ブロックを含む
2　10YR4/4褐色土　粘土質シルト　粘性あり　しまりあり　帯状に黒色土を含む
3　10YR2/2黒褐色土　シルト　粘性しまりともにややあり　褐色土粒を含む

239号・240号土坑



第51図　236～240号土坑

＜堆積土＞３層に分層される。上位から黒褐色土・黄褐色土・暗褐色土の順である。
＜出土遺物＞花模様の細工がある煙管１セット（448）、刀子の細片、和鋏（449）、棒状の鉄製品３点19.9g、新古の判断が付かない寛永通寶１枚が出土した。
＜時期＞17世紀後半以降の墓壙とする。

242号土坑（第52図、写真図版36）
＜位置＞ＩＣ9ｅグリッドの南東端にあり、243号土坑と近接する。
＜概要＞平面形は円形、断面形はバケツ形である。
＜規模＞73×67cm、深さ59cm。
＜堆積土＞にぶい黄褐色土の単層からなるが、黒褐色土や地山崩落土のブロックを含んでいる。
＜出土遺物＞煙管１セット（451）、硯（452）、古寛永・新寛永併せて６枚、棺の木片、漆膜。
＜時期＞18世紀前半以降の墓壙である。

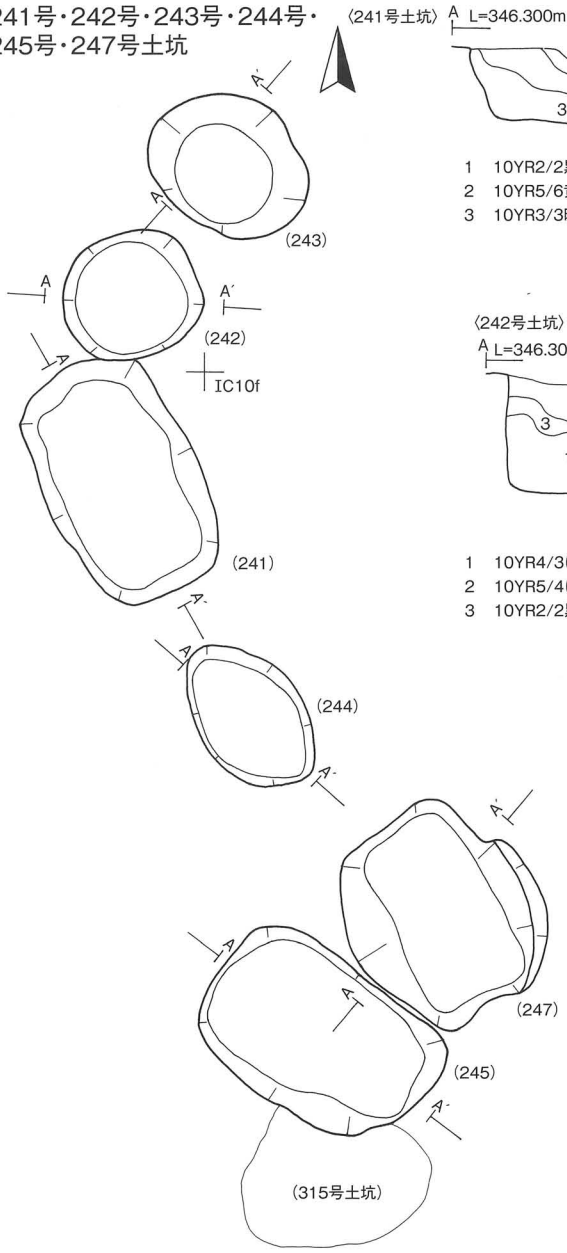
243号土坑（第52図、写真図版36）
＜位置＞ＩＣ9ｅ・10ｅグリッドに跨る。
＜概要＞平面形は不整な円形、断面形はバケツ形である。重複は認められない。
＜規模＞87×70cm、深さ53cm。　＜長軸方向＞Ｎ－50°－Ｗ。
＜堆積土＞上位は暗褐色土、下位は黄褐色土の２層に分層される。
＜出土遺物＞煙管１セット（459）、刀子などの刃物と思われる先端２点（460・461）、家紋が描かれた方形鏡１点（466）、古寛永３枚、木櫛の一部１点、布片、木片、焼骨片。
＜時期＞古寛永の年代から17世紀前半以降の墓壙とした。

244号土坑（第52図、写真図版37）
＜位置＞ＩＣ10ｅグリッド西側。
＜概要＞平面形は楕円形、断面形は浅皿状である。重複は認められない。
＜規模＞88×56cm、深さ６cm。　＜長軸方向＞Ｎ－42°－Ｗ。
＜堆積土＞炭化物を含む黒褐色土の単層。　＜出土遺物＞古寛永６枚と漆器の漆膜。
＜時期＞出土した銭貨がすべて古寛永であることから、17世紀後半以降の墓壙とした。

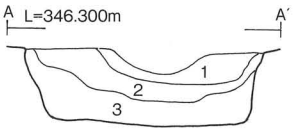
245号土坑（第52図、写真図版37）
＜位置＞ＩＣ10ｆグリッド南西隅に位置する。
＜概要＞平面形は長方形、断面形は浅いビーカー状である。315号土坑と遺構の南隅で重複し、本遺構のほうが新しい。北東側に近接する246号土坑とは、かろうじて重複しない。
＜規模＞124×84cm、深さ38cm。　＜長軸方向＞Ｎ－56°－Ｗ。
＜堆積土＞２層に分層され、暗褐色土と地山の崩落ブロックからなる。前者が主体である。
＜出土遺物＞刀子１点（473）、和鋏１点（475）、鉄製品２点7.7ｇ、新寛永８枚、人骨少量。
＜時期＞出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙と思われる。

246号土坑（第50図、写真図版37）
＜位置＞ＩＣ9ｆグリッド東側に位置する。

241号・242号・243号・244号・245号・247号土坑

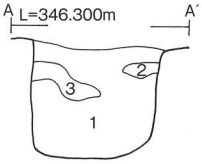


〈241号土坑〉



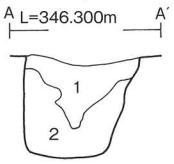
1　10YR2/2黒褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあり　褐色土小ブロック含む
2　10YR5/6黄褐色土　粘土質シルト　粘性あり　しまりあり　黒色土ブロック含む
3　10YR3/3暗褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりややあり　わずかに褐色土粒含む

〈242号土坑〉



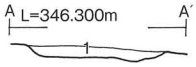
1　10YR4/3にぶい黄褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりややあり　褐色土小ブロック含む
2　10YR5/4にぶい黄褐色土　粘土質シルト　粘性ややあり　しまりあり　地山ブロック
3　10YR2/2黒褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりなし　褐色土粒含む

〈243号土坑〉



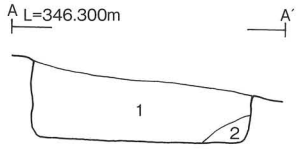
1　10YR3/3暗褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあり　黄褐色土粒を全体に含む
2　10YR5/6黄褐色土　粘土質シルト　粘性ややあり　しまりあり　混入物なし

〈244号土坑〉



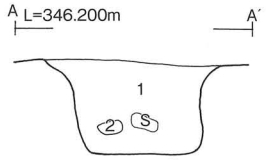
1　10YR2/3黒褐色土　シルト　粘性なし　しまりなし　炭化物含む

〈245号土坑〉

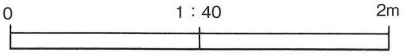


1　10YR3/3暗褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあり　褐色土粒を含む
2　10YR4/4褐色土　粘土質シルト　粘性ややあり　しまりややあり　黒褐色土粒を含む

〈247号土坑〉



1　10YR5/6黄褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあまりなし　フカフカ軟らかい
2　10YR3/3暗褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりややあり　黒褐色土粒を含む



第52図　241～245・247号土坑

＜概要＞平面形は不整な楕円形、断面形は浅いビーカー状である。235号土坑の北東側で隣接する。
＜規模＞109×102cm、深さ49cm。　＜長軸方向＞N－14°－E。
＜堆積土＞にぶい黄褐色土が主体で、暗褐色土のブロックを含んでいる。
＜出土遺物＞煙管１セット（484）、古寛永･新寛永併せて10枚と不明の銭貨が２枚のほか、土器１点8.6ｇと人骨片少量が出土している。
＜時期＞出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙としておく。

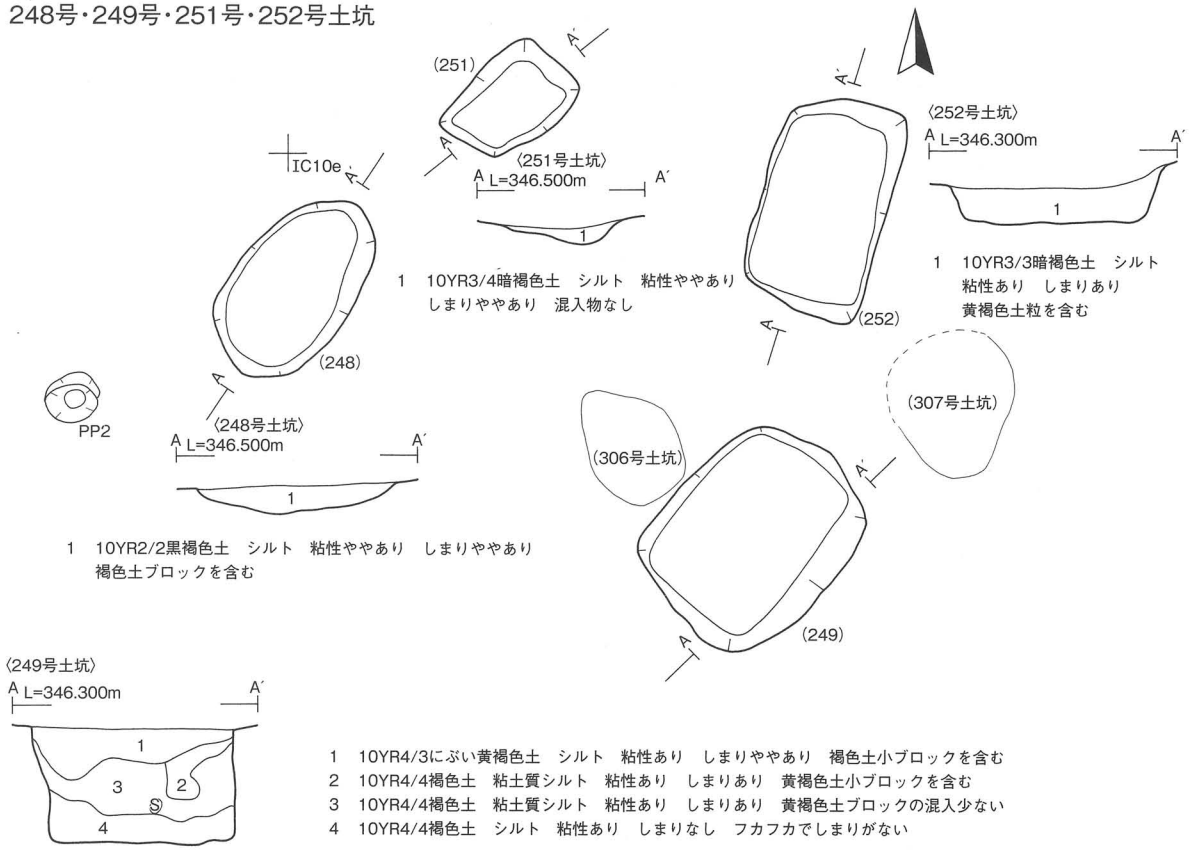
247号土坑（第52図、写真図版37）
＜位置＞ＩＣ10ｆグリッド南西隅に位置する。
＜概要＞平面形は長方形、断面形は浅いビーカー状である。315号土坑と遺構の南隅で重複し、本遺構のほうが新しい。北東側に近接する246号土坑とは、重複しない。
＜規模＞124×84cm、深さ38cm。　＜長軸方向＞N－32°－W。
＜堆積土＞フカフカと軟らかい黄褐色土の単層で、暗褐色土の小ブロックを含む。
＜出土遺物＞煙管１セット（497）、不明鉄製品１点（498）、鏡背に雀？と竹などが描かれる円鏡（紐鏡）１点（506）、木櫛１点（499）、古寛永・新寛永併せて６枚、人骨片。
＜時期＞出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙と思われる。

248号土坑（第53図、写真図版38）
＜位置＞ＩＣ9ｅ・10ｅグリッドに跨る。
＜概要＞平面形は楕円形、断面形は浅皿状である。他遺構との重複はない。
＜規模＞109×63cm、深さ15cm。　＜長軸方向＞N－35°－E。
＜堆積土＞褐色土ブロックを含む黒褐色土の単層である。
＜出土遺物＞雁首１点（248）、寛永通寶17枚の緡銭58.1ｇ（写真図版56に掲載）と漆器の漆膜。
＜時期＞銭種から18世紀前半以降の墓壙としておく。

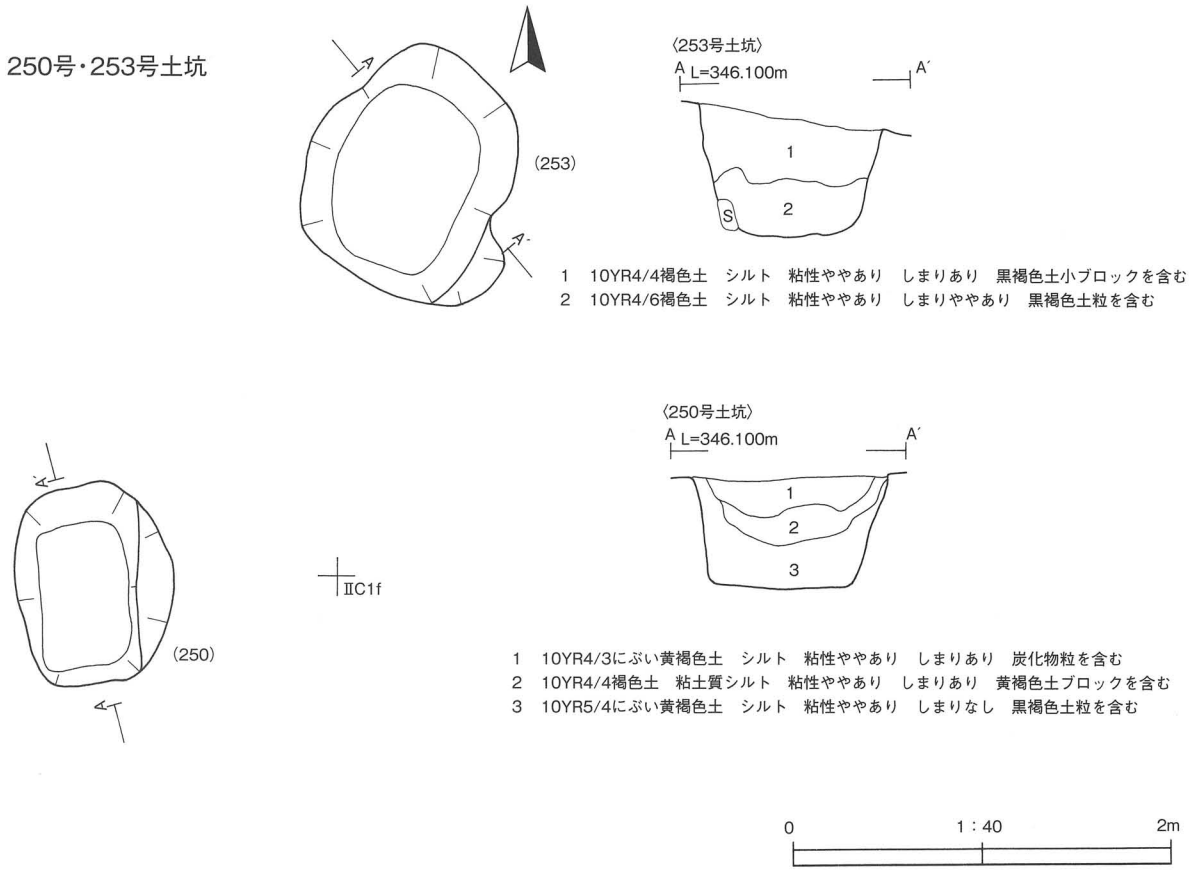
249号土坑（第53図、写真図版38）
＜位置＞ＩＣ10ｅグリッド中央に位置する。306号土坑と北西側で近接するが重複はない。
＜概要＞平面形は長方形で隅丸に近い。断面形は浅いビーカー状である。
＜規模＞117×93cm、深さ61cm。　＜長軸方向＞N－39°－E。
＜堆積土＞３層に分層される。上位はにぶい黄褐色土、中位は褐色土、下位はフカフカとしまりのない褐色土からなる。全体に黄褐色土粒を含む。
＜出土遺物＞古寛永・新寛永併せて５枚と銭種不明１枚。
＜時期＞出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙と思われる。

250号土坑（第53図、写真図版38）
＜位置＞ＩＣ10ｅ・10ｆグリッドに跨る。
＜概要＞平面形は不整な長方形で、断面形は浅いビーカー状である。遺構間の重複はない。
＜規模＞105×83cm、深さ46cm。　＜長軸方向＞N－８°－W。
＜堆積土＞３層に分層された。上位は炭化物粒を含むにぶい黄褐色土、中位は褐色土、下位はにぶい黄褐色土である。

248号・249号・251号・252号土坑



250号・253号土坑



第53図　248～253号土坑

＜出土遺物＞煙管１セット（514）、肥前産陶器の小坏（515）、古寛永・新寛永併せて４枚と銭種不明２枚。
＜時期＞出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙である。

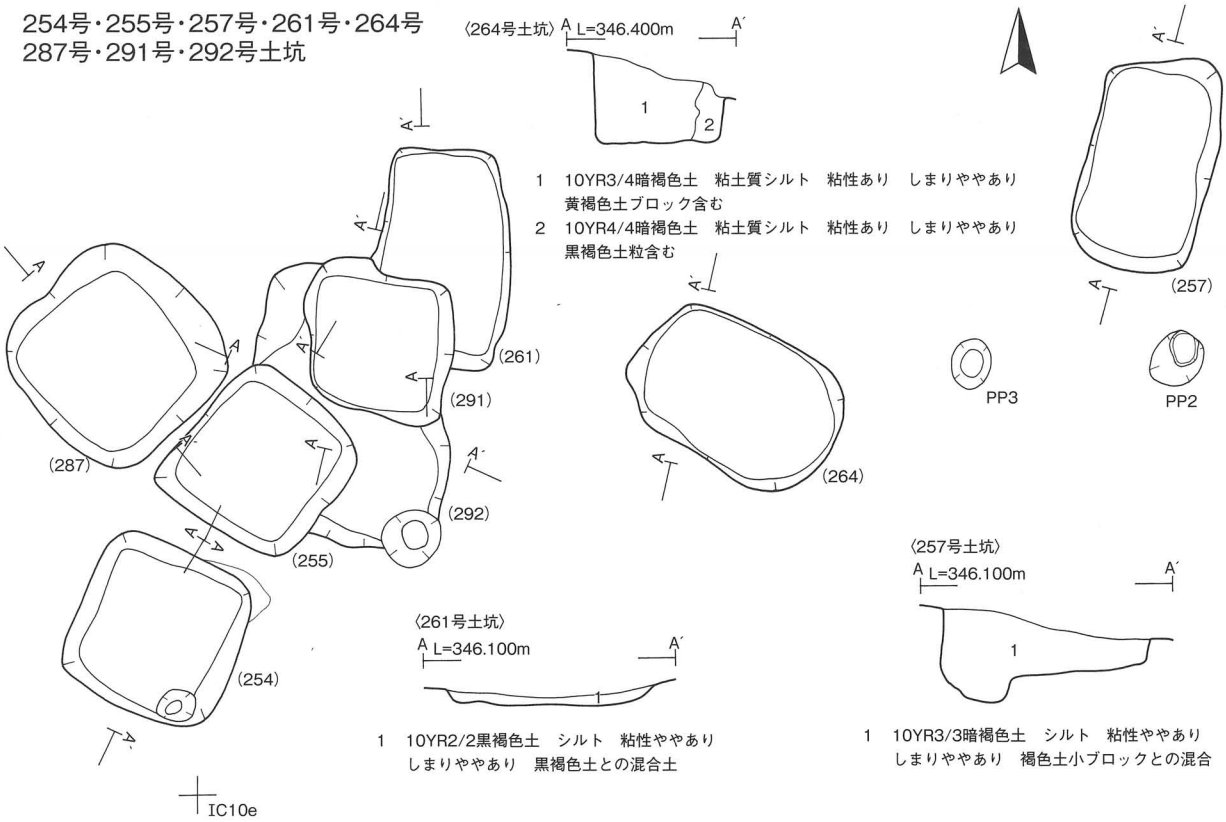
251号土坑（第53図、写真図版38）
＜位置＞ＩＣ10ｄグリッドの南西端にある。
＜概要＞平面形は不整な長方形で、断面形は浅皿状である。遺構間の重複はない。
＜規模＞63×47cm、深さ７cm。　＜長軸方向＞Ｎ－50°－Ｅ。
＜堆積土＞暗褐色土の単層である。混入物もない。
＜出土遺物＞煙管１セット（522）、火打金１点（523）、新寛永のみ５枚、釘１点2.9ｇが出土した。
＜時期＞出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙である。

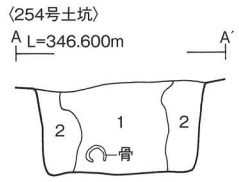
252号土坑（第53図、写真図版39）
＜位置＞ＩＣ9ｅ・10ｅグリッドに跨る。本遺構の東側には他の遺構が広がらない。
＜概要＞平面形は長方形で、断面形は皿状である。
＜規模＞115×65cm、深さ25cm。　＜長軸方向＞Ｎ－15°－Ｗ。
＜堆積土＞黄褐色土粒を含む暗褐色土の単層である。
＜出土遺物＞煙管の細片、「人見藤原重次」と銘がある柄鏡１点（539）、不明鉄製品２点2.3ｇ、釘９点23.1ｇ、古寛永・新寛永併せて７枚と銭種不明３枚が出土している。
＜時期＞出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙である。

253号土坑（第53図、写真図版39）
＜位置＞ⅡＣ1ｅグリッドの西側中央に位置する。本遺構の西側にしか他の墓壙は広がっていない。
＜概要＞平面形は楕円形基調、断面形はバケツ形である。
＜規模＞128×101cm、深さ63cm。　＜長軸方向＞Ｎ－30°－Ｗ。
＜堆積土＞２層に分けられ上位･下位とも褐色土からなるが、上位には黒褐色土のブロックが目立つ。
＜出土遺物＞古寛永と思われるもの１枚のみ出土した。
＜時期＞18世紀前半以降の墓壙としておく。

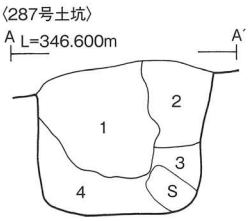
254号土坑（第54図、写真図版39）
＜位置＞ＩＣ9ｄ・10ｄグリッドに跨る。本遺構のすぐ北側には４基の墓壙群がある。
＜概要＞平面形は方形で南隅に小ピットを有する。断面形は浅いビーカー状である。他遺構との重複は認められない。　＜規模＞89×87cm、深さ48cm。
＜堆積土＞改葬時に墓の中央部だけが掘られている。中央部は黒褐色土、壁際は元々の堆積土である黄褐色土が残っている。
＜出土遺物＞大堀・相馬産餌猪口（餌入れ）１点（541）、簪の欠損品１点（542）、古寛永・新寛永併せて４枚と銭種不明２枚、一銭ほか明治期以降の硬貨６枚、棺の木片と人骨が多数出土している。未改葬か。
＜時期＞近代（明治期以降）の墓壙である。

254号・255号・257号・261号・264号
287号・291号・292号土坑

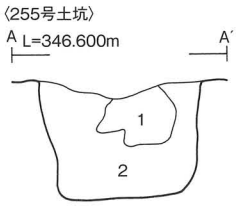




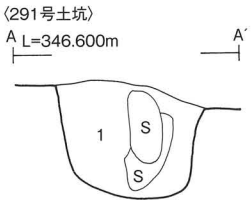
1　10YR2/2黒褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあり
褐色土小ブロックを含む
2　10YR5/6黄褐色土　シルト　粘性あり　しまりあり
黒褐色土粒をまばらに含む



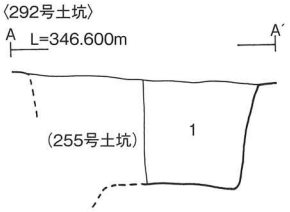
1　10YR4/3にぶい黄褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあり　黄褐色土粒含む
2　10YR4/4褐色土　粘土質シルト　粘性あり　しまりあり　黒褐色土粒を全体に含む
3　10YR3/3暗褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりなし　黄褐色土との混合土
4　10YR3/3暗褐色土　シルト　粘性あり　しまりなし　黄褐色土粒の混入は３層より多い



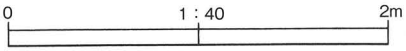
1　10YR2/2黒褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあり
黄褐色土小ブロックを含む
2　10YR5/6黄褐色土　シルト　粘性あり　しまりあり　黒褐色土粒を含む



1　10YR4/3にぶい黄褐色土　粘土質シルト　粘性あり　しまりあり
褐色土粒を全体に含む



1　10YR2/3黒褐色土　粘土質シルト　粘性ややあり　しまりややあり　地山崩落土含む



第54図　254・255・257・261・264・287・291・292号土坑

255号土坑（第54図、写真図版39）
＜位置＞ＩＣ10ｅグリッド南西隅、ＩＣ9ｅ・10ｅグリッドに跨っている。
＜概要＞平面形は方形、断面形はビーカー状である。292号土坑と重複するが本遺構のほうが新しい。291号・287号土坑とは切り合わない。
＜規模＞85×80cm、深さ62cm。
＜堆積土＞黒褐色土粒を含む黄褐色土が主体で、黒褐色土のブロックを層上部に含む。
＜出土遺物＞煙管の雁首１点（555）、環状鉄製品１点（556）、不明鉄製品２点、鉄銭５点、釘29.1ｇが出土した。
＜時期＞鉄銭が出土していることから、18世紀前半以降の墓壙としておく。

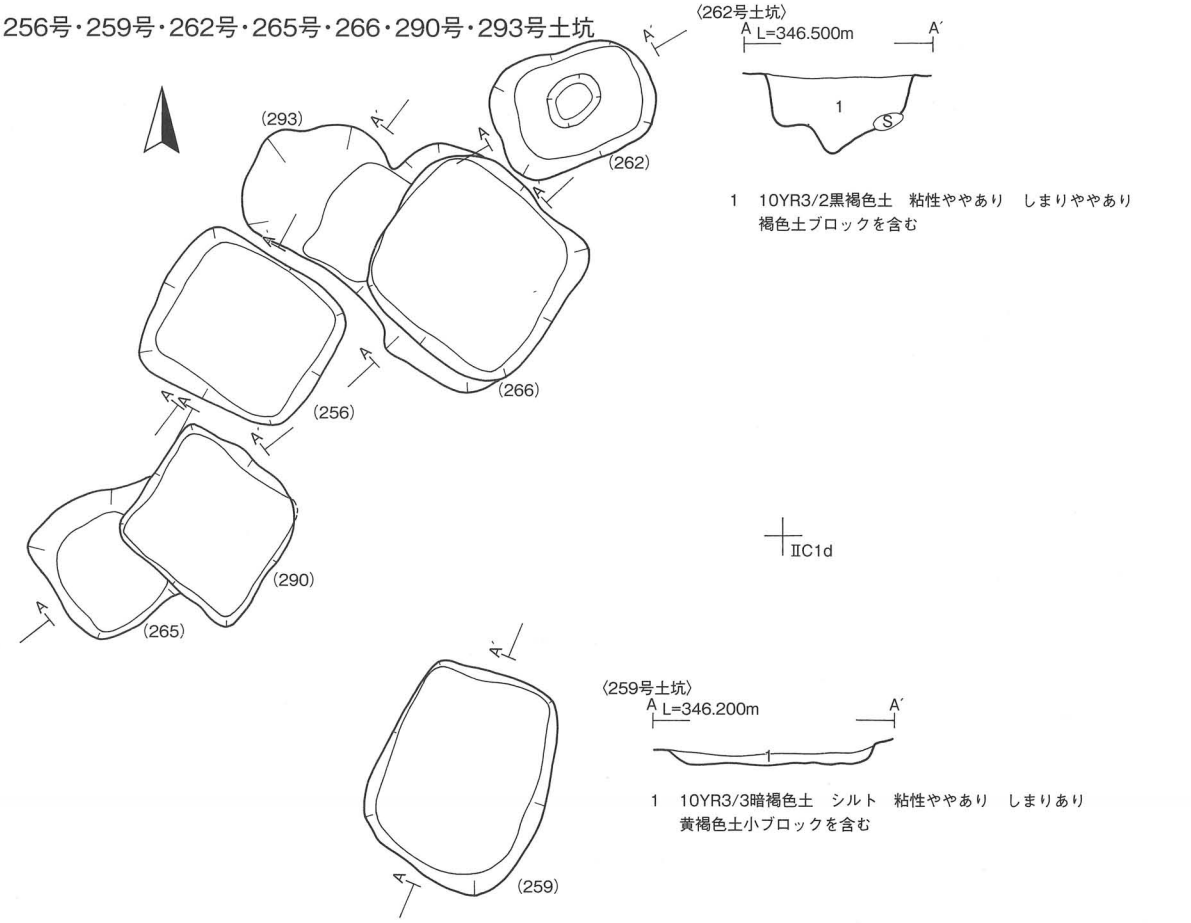
256号土坑（第55図、写真図版40）
＜位置＞ＩＣ10ｃグリッド南側にあり、６基の墓壙群の中央に位置する。
＜概要＞平面形は方形、断面形は浅いビーカー状である。他の遺構とは重複しない。
＜規模＞96×83cm、深さ33cm。
＜堆積土＞上位はフカフカとやわらかい暗褐色土、下位は黄褐色土の２層に分層される。
＜出土遺物＞細工のある煙管１セット（557）、簪４点（559～562）、笄１点（558）、鉄製品１点、古寛永・新寛永併せて16枚、銭種不明10枚、鉄銭40枚前後60.2ｇ、釘21点51.2ｇ。
＜時期＞鉄銭が出土していることから、18世紀中頃以降の墓壙と思われる。被葬者は女性であろう。

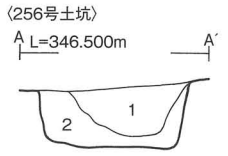
257号土坑（第54図、写真図版40）
＜位置＞ⅡＣ1ｄグリッド西側に位置し、すぐ南側にはＰＰ４がある。
＜概要＞平面形は長方形、断面形は浅皿状で、底面は波打つ。他の遺構との重複はない
＜規模＞84×68cm、深さ６cm。　＜長軸方向＞Ｎ－13°－Ｅ。
＜堆積土＞褐色土小ブロックを含む暗褐色土の単層。
＜出土遺物＞雁首１点（589）、小柄１点（590）、古寛永・新寛永併せて５枚と銭種不明１枚。
＜時期＞新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙と思われる。

258号土坑（第57図、写真図版41）
＜位置＞ⅡＣ1ｄグリッドの北東側に位置する。
＜概要＞平面形は円形、断面形はバケツ形である。改葬された状況が明瞭な断面が残る。他の遺構との重複は認められない。
＜規模＞98×94cm、深さ57cm。
＜堆積土＞上位から中位はにぶい黄褐色土・褐色土・黒褐色土からなり、下位は褐色土粒を含む暗褐色土が埋め戻される。
＜出土遺物＞古寛永・新寛永併せて６枚と銭種不明１枚のほか、人骨片少々。
＜時期＞新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙である。

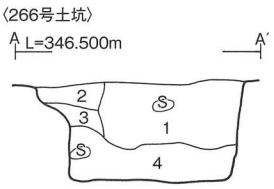
259号土坑（第55図、写真図版41）
＜位置＞ＩＣ10ｄグリッドの北東側。
＜概要＞平面形は不整長方形、断面形は浅い皿状である。底面は緩く波打つ。遺構間の重複はない。

256号・259号・262号・265号・266・290号・293号土坑

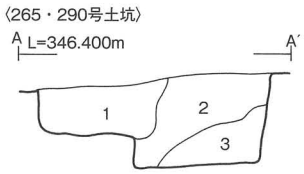




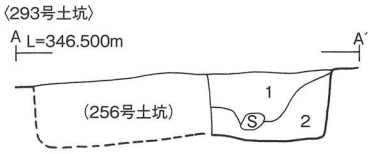
1　10YR3/3暗褐色土　シルト　粘性なし　しまりなし
フカフカ軟らかい
2　10YR5/6黄褐色土　粘土質シルト　粘性ややあり
しまりあり　黄褐色土粒を含む



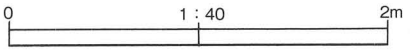
1　10YR3/3暗褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあり　礫混じり
2　10YR4/3にぶい黄褐色土　粘土質シルト　粘性あり　しまりあり　褐色土小ブロック含む
3　10YR2/3黒褐色土　シルト　粘性あり　しまりややあり　2層より褐色土の入り方が多い
4　10YR4/3にぶい黄褐色土　シルト　粘性あり　しまりあり　2層に似る



1　10YR3/3暗褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあり
褐色土粒を含む265号土坑埋土
2　10YR3/3暗褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりなし
290号土坑埋土
3　10YR4/4褐色土　粘土質シルト　粘性ややあり
しまりややあり　褐色土の混入多い



1　10YR4/4褐色土　シルト　粘性あり　しまりあり　礫多数
2　10YR3/2黒褐色土　粘土質シルト　粘性あり　しまりややあり
褐色土粒を全体に含む



第55図　256・259・262・265・266・290・293号土坑

＜規模＞126×89cm、深さ６cm。　＜長軸方向＞Ｎ－22°－Ｅ。
＜堆積土＞黄褐色土小ブロックを含む暗褐色土の単層。
＜出土遺物＞煙管の雁首１点（603）、古寛永１枚・新寛永３枚の併せて４枚出土した。
＜時期＞新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙である。

260号土坑（第56図、写真図版41）
＜位置＞ＩＣ10ｃグリッドの中央北側にある。
＜概要＞平面形は楕円形、断面形は浅皿状である。底面はほぼ平坦である。遺構間の重複なし。
＜規模＞118×77cm、深さ９cm。　＜長軸方向＞Ｎ－21°－Ｅ。
＜堆積土＞小礫含む褐色土の単層である。
＜出土遺物＞煙管の細片２点、寛永通寶１枚と銭種不明２枚、釘６点7.2ｇ。
＜時期＞寛永通寶の年代から、18世紀前半以降の墓壙としておく。

261号土坑（第54図、写真図版39・40）
＜位置＞ＩＣ10ｄグリッド中央付近の墓壙６基が密集する地点にある。
＜概要＞平面形は長方形、断面形は皿状であるが、底面は一部分が大きく凹む。第291号土坑と重複するが、検出状況から本遺構の方が旧い。
＜規模＞117×71cm、深さ29cm。　＜長軸方向＞Ｎ－８°－Ｅ。
＜堆積土＞小礫含む褐色土の単層である。
＜出土遺物＞煙管の細片１点、羅宇３点、簪１点（610）、古寛永１枚・新寛永１枚、棺の金具５点179.1g、木片と銭貨が接着したもの１点3.2ｇ、釘３点8.5ｇが出土した。
＜時期＞寛永通寶の年代から、18世紀前半以降の墓壙としておく。

262号土坑（第55図、写真図版41）
＜位置＞ＩＣ10ｃグリッド東寄りの墓壙群内にあり、その中では最も北側に位置する。
＜概要＞平面形は長方形で、底面は中央部が窪んでいる。266号土坑との重複はない。
＜規模＞85×60cm、深さ27cm。　＜長軸方向＞Ｎ－72°－Ｅ。
＜堆積土＞褐色土ブロックを含む黒褐色土の単層である。
＜出土遺物＞乳児用の玩具のほか、一銭３枚と釘６点7.2ｇが出土した。
＜時期＞近代（明治期以降）の墓壙である。被葬者は幼子と思われる。

263号土坑（第58図、写真図版42）
＜位置＞ⅡＣ1ｃグリッド南東寄りにある。
＜概要＞平面形は不整長方形、断面形は逆台形状である。本遺構の南西側で276号土坑と近接するが、重複はない。
＜規模＞91×60cm、深さ27cm。　＜長軸方向＞Ｎ－46°－Ｅ。
＜堆積土＞黒褐色土粒を含む褐色土が主体であり、最下部には黄褐色土が薄く堆積する。
＜出土遺物＞碁石状の礫１点（616）と新寛永６枚。
＜時期＞新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙である。

264号土坑（第54図、写真図版42）
＜位置＞ＩＣ10ｄグリッド中央やや南東寄り。
＜概要＞平面形は楕円形、断面形は浅いビーカー状である。本遺構の西側には方形の土坑群が近接。
＜規模＞112×75cm、深さ47cm。　＜長軸方向＞Ｎ－59°－Ｗ。
＜堆積土＞黄褐色土ブロックを含む暗褐色土が主体で、人為的に埋め戻されている様子が明瞭である。
＜出土遺物＞煙管の雁首の破片１点、羅宇１点、古寛永・新寛永併せて４枚と破片１点。
＜時期＞新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙である。

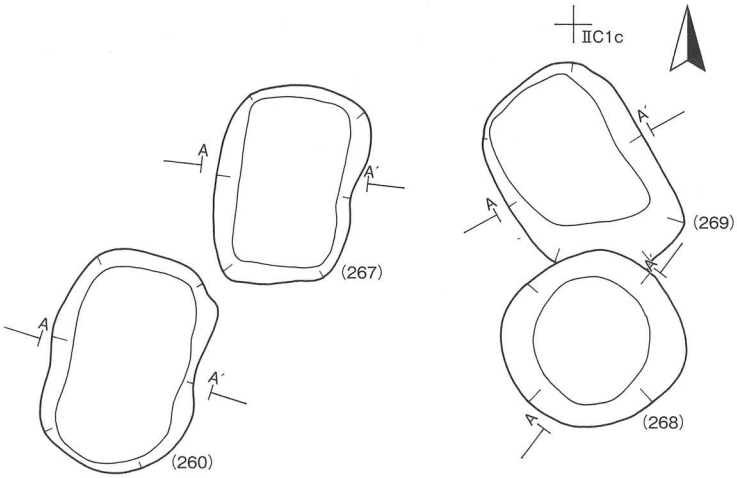
265号土坑（第55図、写真図版42）
＜位置＞ＩＣ10ｄグリッドの北西にあり、そこから北東方向に延びる墓壙群の南端に位置する。
＜概要＞平面形は不整な長方形をなす。断面形は浅いビーカー状である。近代墓壙と思われる290号土坑と重複するが、堆積土の状況から本遺構のほうが新しい。
＜規模＞74×？cm、深さ26cm。　＜長軸方向＞重複のため不明。
＜堆積土＞褐色土粒を含む暗褐色土の単層である。
＜出土遺物＞煙管１セット（627）と新寛永４枚（うち文銭２枚）、鉄一文銭数枚41.5ｇ　一銭10枚、二銭２枚、五銭１枚の各硬貨のほか、布が付着する硬貨１枚2.8ｇ（写真図版56掲載）。
＜時期＞大正期の銭貨が出土していることから、近代（大正期以降）の墓壙である。

266号土坑（第55図、写真図版42）
＜位置＞ＩＣ10ｃグリッドの南東隅寄りに位置する６基の墓壙群の中の１つである。
＜概要＞平面形は方形、断面形は浅いビーカー状である。底面は平坦である。293号土坑と重複するが、本遺構のほうが新しい。＜規模＞112×107cm、深さ40cm。
＜堆積土＞４層に分層した。改葬時に新たに埋められた暗褐色土と、元の堆積土と思われる黒褐色土・にぶい黄褐色土からなる。
＜出土遺物＞煙管１セット（645）とその破片２点、何らかの金具２点（646・647）、不明鉄製品１点2.1ｇ、釘28点78.2ｇ、ボタン１点、ガラス瓶１点。銭貨は出土していない。
＜時期＞煙管の形状など、出土遺物の特徴から近代の墓壙と思われる。

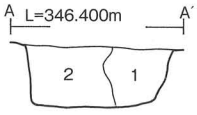
267号土坑（第56図、写真図版43）
＜位置＞ＩＣ10ｃグリッドの北東隅にある。
＜概要＞平面形は長方形、断面形は台形状をなす。260号土坑と南西側で近接するが重複しない。
＜規模＞107×70cm、深さ34cm。　＜長軸方向＞Ｎ－12°－Ｅ。
＜堆積土＞改葬時のものと思われる暗褐色土と、元の堆積土である黒褐色土からなる。
＜出土遺物＞小柄の一部（648）と毛抜き（649）がそれぞれ１点ずつ出土した。
＜時期＞出土した特徴から、近代の墓壙と考えられる。

268号土坑（第56図、写真図版43）
＜位置＞ＩＣ10ｃ・ⅡＣ1ｃグリッドに跨る。
＜概要＞平面形は円形、断面形は浅いビーカー状をなす。北側で269号土坑と切り合うが、本遺構のほうが新しい。底面は中央部がわずかに盛り上がる。

260号・267号・268号・269号土坑

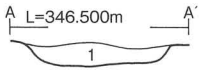


〈269号土坑〉



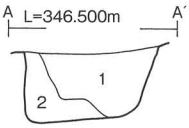
1　10YR2/2黒褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあり
　　礫混じり
2　10YR5/6黄褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあり
　　地山ブロック

〈260号土坑〉



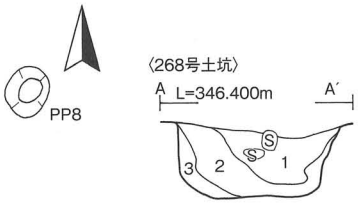
1　10YR4/4褐色土　シルト　粘性なし　しまりややあり
　　小礫含む

〈267号土坑〉



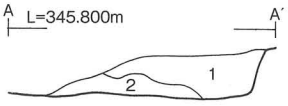
1　10YR5/6黄褐色土　シルト　粘性あり　しまりややあり　褐色土ブロックを含む
2　10YR2/2黒褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりややあり　1層よりブロック多い

273号土坑

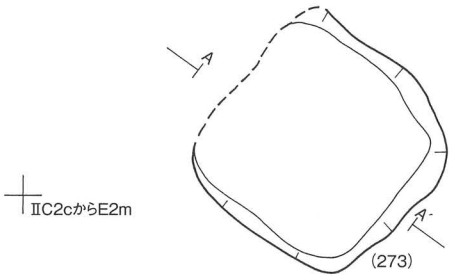


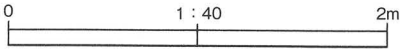
1　10YR2/2黒褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあり　礫混じり
2　10YR5/6黄褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあり　地山ブロック
3　10YR2/3黒褐色土　粘土質シルト　粘性あまりなし　しまりややあり　フカフカやわらかい

〈273号土坑〉



1　10YR4/3にぶい黄褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあり
　　暗褐色土粒と黒褐色土含む
2　10YR4/2灰黄褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあり
　　黄褐色土粒をまばらに含む





第56図　260・267～269・273号土坑

＜規模＞92×90cm、深さ37cm。
＜堆積土＞３層に分けられた。礫混じりの黒褐色土、地山主体の黄褐色土、しまりのない黒褐色土からなる。
＜出土遺物＞古寛永・新寛永含めて４枚出土した。人骨は出土していない。
＜時期＞出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙である。

269号土坑（第56図、写真図版43）
＜位置＞ⅠC10c・ⅡC1cグリッドに跨り、上述した268号土坑で記載の重複関係にある。
＜概要＞平面形は長方形、断面形は逆台形状である。底面はほぼ平坦である。
＜規模＞113×79cm、深さ31cm。　＜長軸方向＞N－37°－W。
＜堆積土＞改葬時のものと思われる黒褐色土と、元々の堆積土であるにぶい黄褐色土の２層からなる。
＜出土遺物＞煙管の雁首の細片１点（654）と、古寛永・新寛永含めて７枚出土した。
＜時期＞出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙である。

270号土坑（第58図、写真図版43）
＜位置＞ⅡC1c・ⅡC1dグリッドに跨る。
＜概要＞平面形は円形、断面形はビーカー状である。底面はほぼ平坦である。本遺構の北西側で276号土坑と重複するが、新旧は掴めなかった。
＜規模＞113×110cm、深さ65cm。
＜堆積土＞改葬時のものと思われる黒褐色土・にぶい黄褐色土と、元々の堆積土であるにぶい黄褐色土からなる。
＜出土遺物＞新寛永（文銭）１枚のみ出土。
＜時期＞出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙としておく。

271号土坑（第58図、写真図版44）
＜位置＞ⅡC2cグリッド西側に位置する。
＜概要＞平面形は長方形、断面形は逆台形状をなす。本遺構の南側に122号土坑が近接する。
＜規模＞110×85cm、深さ30cm。　＜長軸方向＞N－10°－W。
＜堆積土＞暗褐色土の単層である。
＜出土遺物＞古寛永４枚、新寛永（文銭２枚含む）３枚、釘11点59.3ｇ、縄文土器３点35.0ｇのほか、焼骨片が出土している。
＜時期＞出土した新寛永の年代から、17世紀後半以降の墓壙としておく。

272号土坑（第59図、写真図版44）
＜位置＞ⅡC1bグリッド西側の平成19年度調査区との境にあり、確認された近世以降の墓壙群の最も北側に位置する。
＜概要＞平面形は不整楕円形、断面形は皿状をなし底面は波打つ。本遺構に近接する遺構はない。
＜規模＞97×79cm、深さ8cm。　＜長軸方向＞N－43°－E。
＜堆積土＞小礫を含む黒褐色土の単層である。
＜出土遺物＞古寛永・新寛永（文銭１枚）併せて３枚と釘１点0.6ｇである。

＜時期＞出土した新寛永の年代から、17世紀後半以降の墓壙としておく。

273号土坑（第56図、写真図版44）
＜位置＞ⅡC2b・2cグリッドの東寄りで跨る。
＜概要＞平面形は方形で、北西壁を失っているため断面形は不明である。重複する遺構はない。
＜規模＞117×102cm、深さ21cm。
＜堆積土＞上位がにぶい黄褐色土、下位が灰黄褐色土の２層に分層された。
＜出土遺物＞煙管の細片１点、羅宇１点、古寛永１枚である。
＜時期＞出土した古寛永の年代から、17世紀前半を含むそれ以降の墓壙としておく。

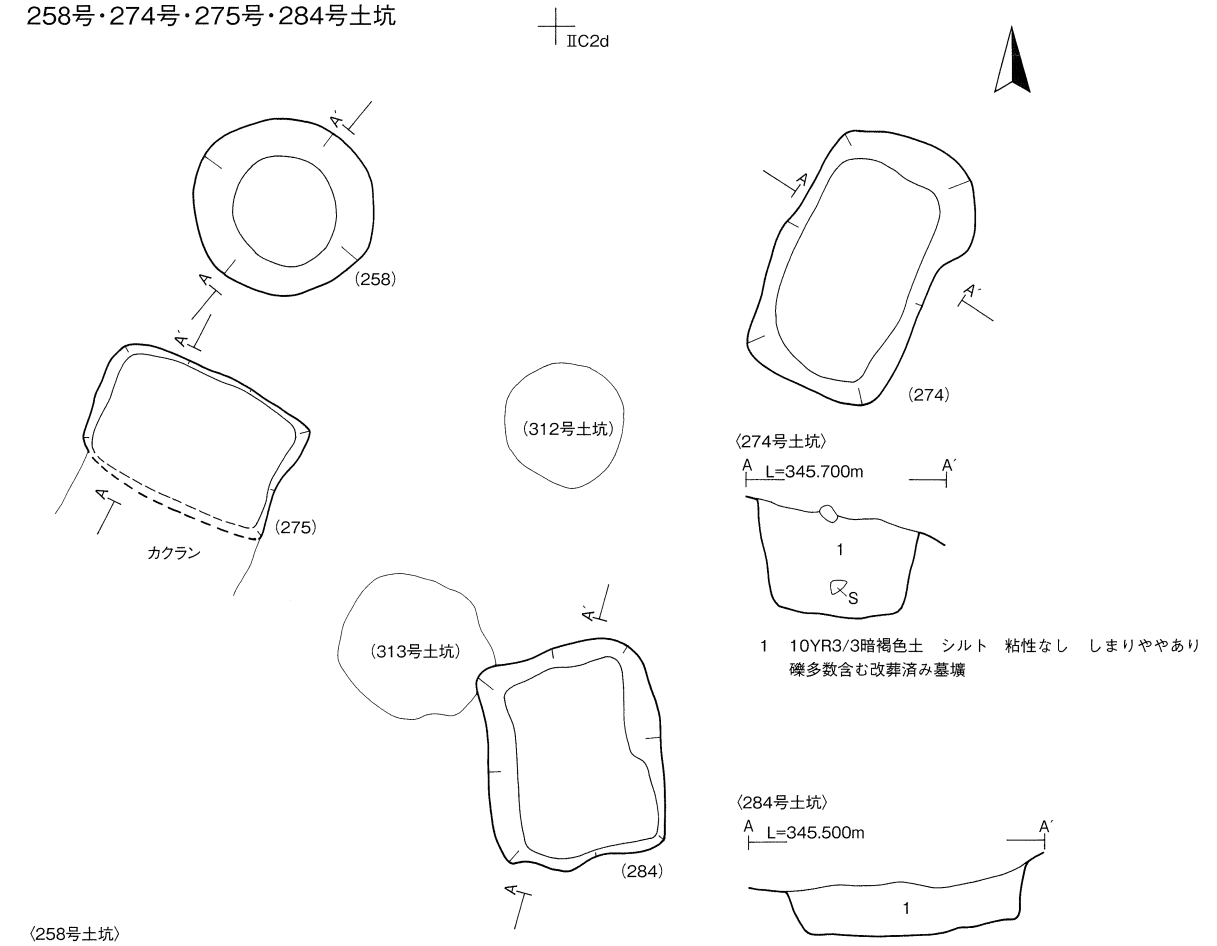
274号土坑（第57図、写真図版44）
＜位置＞ⅡC2dグリッドの中央からやや北西寄りにある。
＜概要＞平面形は不整な長方形で、断面形はバケツ形である。312号土坑とは南西方向に70cmの距離を置く。
＜規模＞144×85cm、深さ56cm。　＜長軸方向＞N－23°－E。
＜堆積土＞礫を多数含む暗褐色土の単層で、改葬後であることが明瞭である。
＜出土遺物＞煙管１セット（674）と吸口１点（675）、銭貨は北宋銭（初鋳1039年）の皇宋元寶１枚、古寛永・新寛永併せて２枚である。
＜時期＞出土した新寛永の年代から、17世紀後半以降の墓壙としておく。

275号土坑（第57図、写真図版45）
＜位置＞ⅡC1dグリッドの中央からやや東寄りにある。
＜概要＞遺構の南西側を欠くが平面形は長方形と思われる。断面形は逆台形状である。遺構の欠損は後世の撹乱による。　＜規模＞106×58cm、深さ30cm。　＜長軸方向＞N－63°－W。
＜堆積土＞炭化物粒をまばらに含む暗褐色土の単層である。
＜出土遺物＞煙管の吸口１点（675）、新寛永４枚のほか、四肢骨及び頭蓋骨片が出土した。
＜時期＞出土した新寛永の年代から、17世紀後半以降の墓壙としておく。

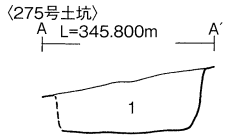
276号土坑（第58図、写真図版45）
＜位置＞ⅡC1cグリッドの南側にあり、ⅡC1dグリッドにわずかに跨る。
＜概要＞平面形は不整な円形で、断面形は浅いビーカー状である。本遺構の南西側で270号土坑と重複する。前述のとおり新旧は不明である。
＜規模＞113×104cm、深さ32cm。
＜堆積土＞改葬時のものと思われる暗褐色土、元々の堆積土である黒褐色土の２層からなる。
＜出土遺物＞棺の金具１点、新寛永５枚と銭貨の細片１点、釘６点89.7g、石器剥片１点（2.3g）、縄文土器１点（11.4g）。
＜時期＞出土した新寛永の年代から、18世紀前半以降の墓壙としておく。

277号土坑（第57図、写真図版45）
＜位置＞ⅡC2eグリッドの北東寄りに位置し、北側80cmに278号土坑がある。

258号・274号・275号・284号土坑

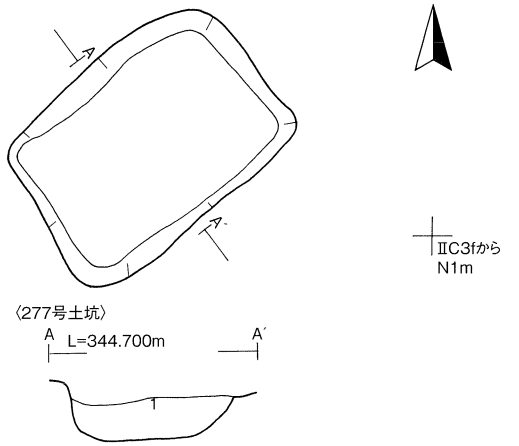


1　10YR4/3にぶい黄褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりややあり
褐色土ブロックとの混合
2　10YR4/6褐色土　シルト　粘性あり　しまりあり　黒褐色土粒との混合
3　10YR2/2黒褐色土　シルト　粘性あり　しまりあまりなし　ブロック状
4　10YR3/3暗褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりなし　褐色土粒を全体に含む



1　10YR4/4暗褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあり
炭化物粒をまばらに含む

277号土坑

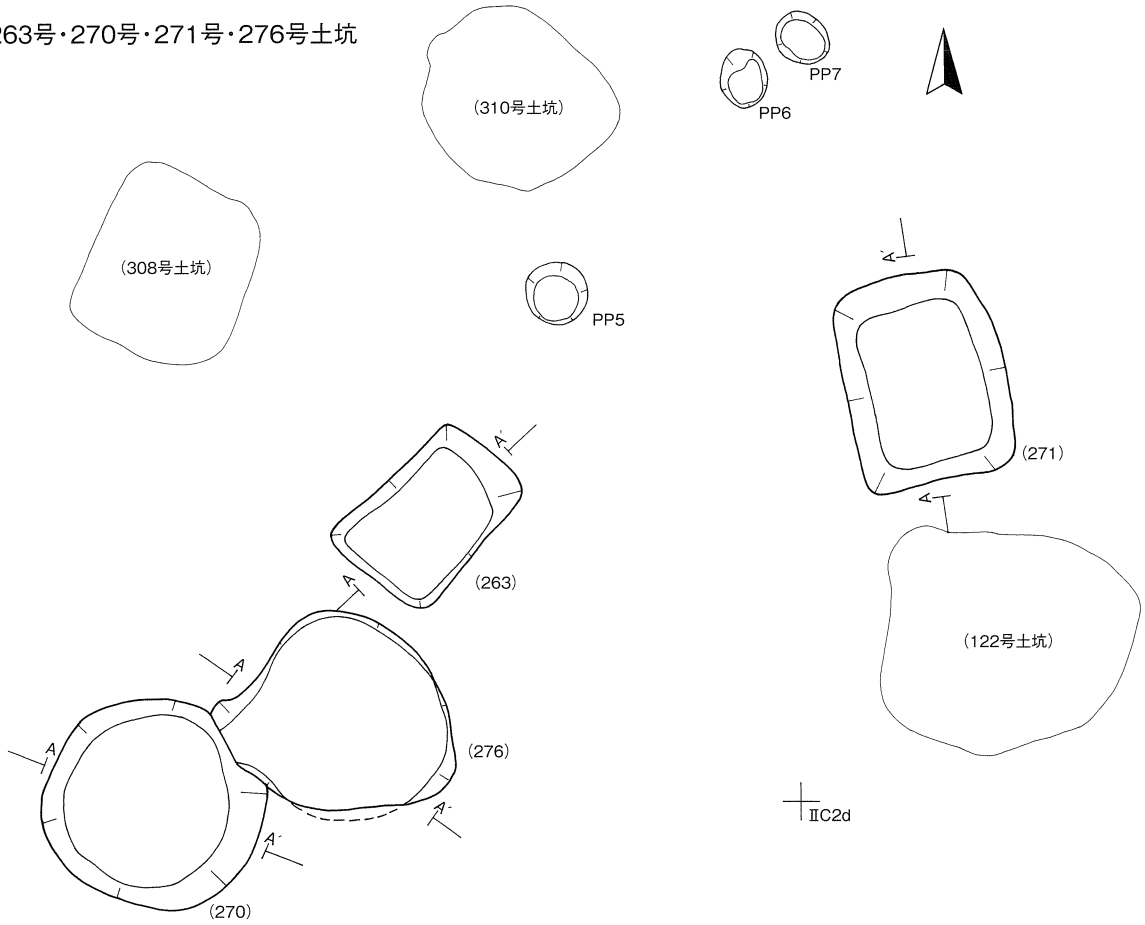


1　10YR3/3暗褐色土　シルト　粘性あまりなし　しまりあり
黄褐色土粒と小礫含む

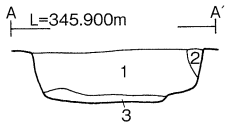
0　1：40　2m

第57図　258・274・275・277・284号土坑

263号・270号・271号・276号土坑

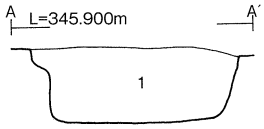


〈263号土坑〉



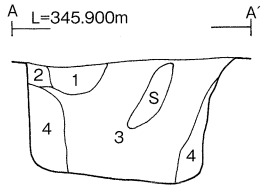
1　10YR4/4褐色土　シルト　粘性あり　しまりややあり
　黒褐色土粒を含む
2　10YR5/6黄褐色土　シルト　粘性あり　しまりあり　地山に似る
3　10YR5/6黄褐色土　シルト　粘性あり　しまりあり
　黒褐色土粒をわずかに含む

〈271号土坑〉



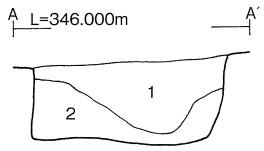
1　10YR3/3暗褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりややあり
　黒褐色土と黄褐色土の混合

〈270号土坑〉



1　10YR3/2黒褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあり
　黄褐色土粒含む
2　10YR5/4にぶい黄褐色土　砂質シルト　粘性なし　しまりややあり
　地山崩落ブロック含む
3　10YR2/2黒褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりややあり
　混入物なし
4　10YR4/3にぶい黄褐色土　シルト　粘性あり　しまりややあり
　黄褐色土粒を全体に含む

〈276号土坑〉



1　10YR3/3暗褐色土　シルト　粘性あり　しまりあり
　黄褐色土小ブロックを含む
2　10YR3/2黒褐色土　シルト　粘性あり　しまりややあり
　1層よりも黒味が強い

0　1：40　2m

第58図　263・270・271・276号土坑

＜概要＞平面形は長方形で、断面形は浅皿状である。重複する遺構はない。
＜規模＞137×98cm、深さ28cm。　＜長軸方向＞N－52°－E。
＜堆積土＞黄褐色土粒と小礫を含む暗褐色土の単層である。
＜出土遺物＞煙管２セット（689・690）、古寛永・新寛永併せて21枚と鉄一文銭90枚あまり281.7ｇ、釘２点6.5ｇのほか、部位不明の人骨片が出土した。
＜時期＞出土遺物に大量の鉄銭が認められることから、18世紀中頃以降の墓壙と思われる。墓は未改葬の可能性が高い。

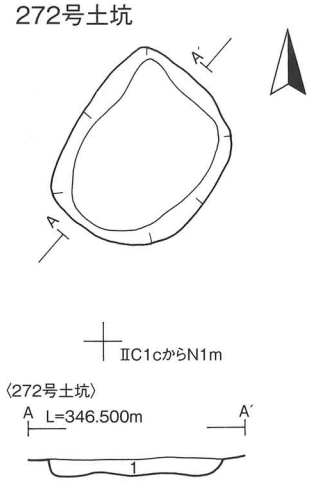
278号土坑（第59図、写真図版45）
＜位置＞ⅡＣ2ｄグリッドの南東隅に位置する。北側50cmほどに279号土坑がある。
＜概要＞平面形は方形、断面形は浅皿状である。重複する遺構はない。
＜規模＞80×77cm、深さ22cm。
＜堆積土＞にぶい黄褐色土の単層で、部分的に黒褐色土を含む。
＜出土遺物＞煙管１セット（712）と鉄銭５枚14.9ｇ、不明鉄製品１点。人骨は四肢骨片と焼骨などが出土した。
＜時期＞鉄銭が出土したことから、18世紀中頃以降としておく。

279号土坑（第59図、写真図版46）
＜位置＞ⅡＣ2ｄグリッドの南東隅にあり、上述のとおりの位置関係である。
＜概要＞平面形は長方形、断面形は浅いビーカー状である。重複する遺構はない。
＜規模＞114×75cm、深さ37cm。　＜長軸方向＞N－59°－E。
＜堆積土＞２層に分層される。上位は黒色土などを含む褐色土、下位は暗褐色土からなる。
＜出土遺物＞掲載した遺物はないが、不明鉄製品１点と鉄一文銭が５点26.9ｇ出土している。
＜時期＞鉄銭が出土したことから、18世紀中頃前半以降の墓壙としておく。

280号土坑（第59図、写真図版46）
＜位置＞ⅡＣ3ｄグリッドの南東側にあり、281号土坑とは南西方向に１ｍの距離を置く。
＜概要＞平面形は不整な方形で、断面形はビーカー状である。重複する遺構はない。
＜規模＞98×86cm、深さ61cm。　＜長軸方向＞N－46°－E。
＜堆積土＞小礫と黄褐色土粒を含む暗褐色土の単層。
＜出土遺物＞釘６点31.3ｇと頭蓋骨片が出土した。
＜時期＞出土した釘などから、近代の墓壙と思われるが詳細は不明である。

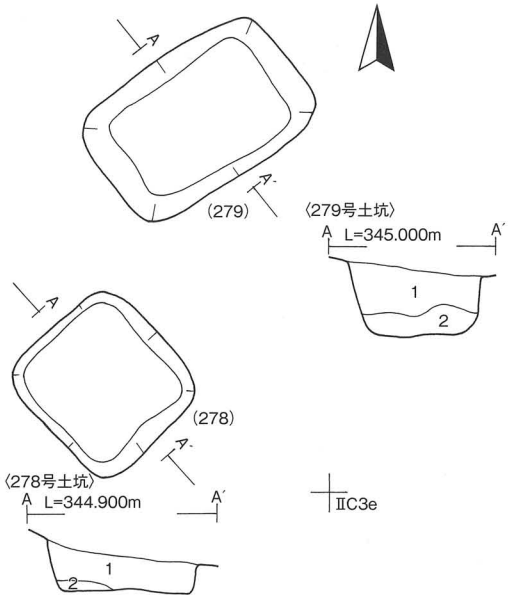
281号土坑（第59図、写真図版46）
＜位置＞ⅡＣ3ｄ・3ｅグリッドに跨る。
＜概要＞平面形は方形で、断面形は浅いビーカー状である。重複する遺構はない。
＜規模＞80×68cm、深さ50cm。　＜長軸方向＞N－45°－E。
＜堆積土＞小礫を全体に含む暗褐色土の単層。
＜出土遺物＞煙管１セット（713）、鉄銭２点10.3ｇ、釘９点49.4ｇ、人骨片１点。
＜時期＞鉄銭が出土していることなどから、18世紀前半以降の墓壙と考えられる。

272号土坑



1　10YR3/2黒褐色土　シルト　粘性なし　しまりなし　小礫多い

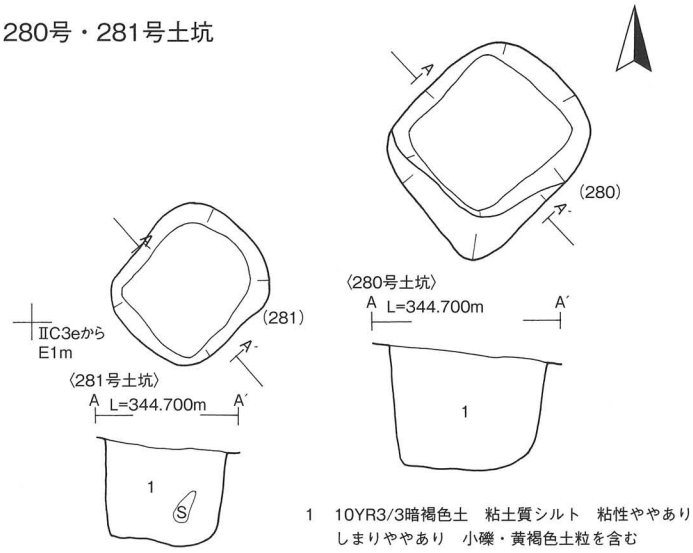
278号・279号土坑



278号土坑
1　10YR4/3にぶい黄褐色土　シルト　粘性なし　しまりややあり　黄褐色土粒極小ブロック含む
2　10YR2/2黒褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあり　暗褐色土小ブロック含む

279号土坑
1　10YR4/6褐色土　粘土質シルト　粘性あまりなし　しまりややあり　黒色土・褐色土を含む
2　10YR3/3暗褐色土　粘土質シルト　粘性あまりなし　しまりややあり

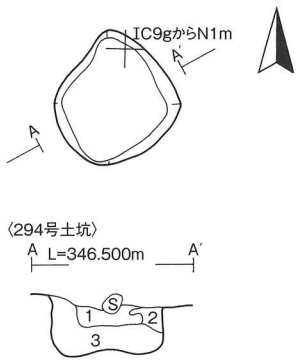
280号・281号土坑



1　10YR3/3暗褐色土　粘土質シルト　粘性ややあり
しまりややあり　小礫・黄褐色土粒を含む

1　10YR3/3暗褐色土　シルト　粘性ややあり
しまりややあり　小礫を全体に含む

294号土坑



1　10YR3/3暗褐色土　シルト　粘性あり　しまりなし
黄褐色土と黒褐色土の混合
2　10YR4/4褐色土　シルト　粘性あり　しまりややあり
黒褐色土粒との混合
3　10YR2/2黒褐色土　シルト　粘性あり　しまりややあり
黄褐色土粒を全体に含む

0　1：40　2m

第59図　272・278～281・294号土坑

282号土坑（第60図、写真図版46）
＜位置＞ⅡC3eグリッド中央南寄りにある。
＜概要＞平面形は不整な長方形で、断面形は浅いバケツ形である。283号土坑と隣り合うが、重複していない。この２基はあわせて改葬され、両方が同時に埋め戻されたようである。
＜規模＞142×92cm、深さ56cm。　＜長軸方向＞N－65°－W。
＜堆積土＞改葬時最初に埋め戻された黒褐色土とその後の暗褐色土からなる。
＜出土遺物＞十銭硬貨１枚、石器剥片１点（13.7ｇ）、釘１点2.2ｇが出土した。
＜時期＞十銭の年号が判読できないことから、明治期の墓壙としておく。

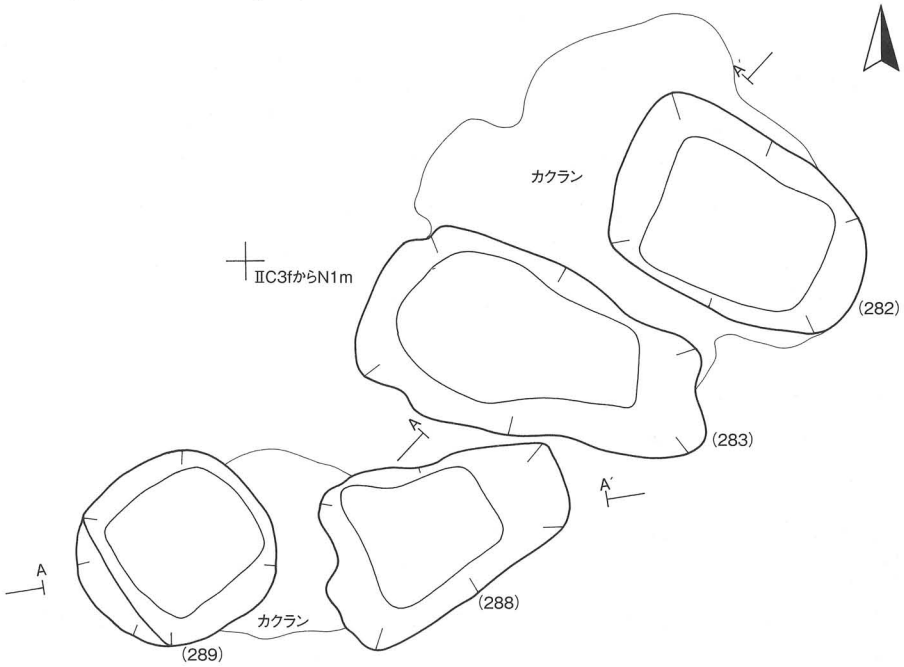
283号土坑（第60図、写真図版46・47）
＜位置＞ⅡC3eグリッド南西寄りにある。
＜概要＞平面形は不整な長方形で、断面形は浅いバケツ形である。
＜規模＞193×95cm、深さ68cm。　＜長軸方向＞N－72°－W。
＜堆積土＞元々の埋土である黒褐色土と改葬時に戻された暗褐色土の２層からなる。
＜出土遺物＞大正期の一銭硬貨１枚、昭和の一銭硬貨３枚、昭和の年号がある十銭硬貨２枚のほか、木片やセルロイド製の髪留め（716）が出土した。
＜時期＞出土した銭貨から、昭和期の墓壙である。

284号土坑（第60図、写真図版47）
＜位置＞ⅡC1d・2dグリッドの南側で跨っている。
＜概要＞平面形は長方形で、断面形は浅皿状である。313号土坑と切り合うが、重複部がわずかであり新旧は掴めなかった。　＜規模＞112×91cm、深さ22cm。　＜長軸方向＞N－10°－W。
＜堆積土＞礫混じりの暗褐色土の単層である。
＜出土遺物＞煙管１セット（723）、古寛永・新寛永（文銭１枚）併せて８枚と銭種不明１枚、人骨片などが出土した。
＜時期＞出土した新寛永の年代から、17世紀後半以降の墓壙と思われる。

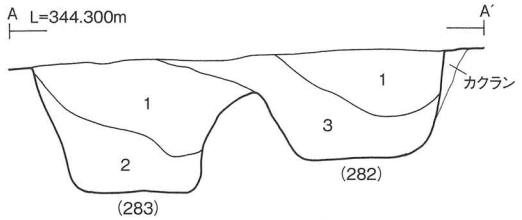
285号土坑（第60図、写真図版47）
＜位置＞ⅡC3fグリッド北東寄りにある。
＜概要＞平面形は長方形で、断面形は浅い皿状である。他の遺構との重複はないが、北東方向1.5mにある286号土坑とともに小型の重機により改葬されたような状況である。
＜規模＞108×89cm、深さ43cm。　＜長軸方向＞N－54°－E。
＜堆積土＞暗褐色土の単層である。　＜出土遺物＞頭蓋骨片。
＜時期＞人骨以外に副葬品が見られないが、近代の墓壙と思われる。

286号土坑（第60図、写真図版47）
＜位置＞ⅡC4eグリッド南西隅にある。
＜概要＞平面形は長方形で、断面形はごく浅い皿状である。　＜規模＞124×68cm、深さ30cm。
＜長軸方向＞N－48°－W。　＜堆積土＞暗褐色土と明黄褐色土からなる。
＜出土遺物＞昭和22年の50銭硬貨１枚と模造銭かと思われるもの１枚1.9ｇ。

282号・283号・288号・289号土坑

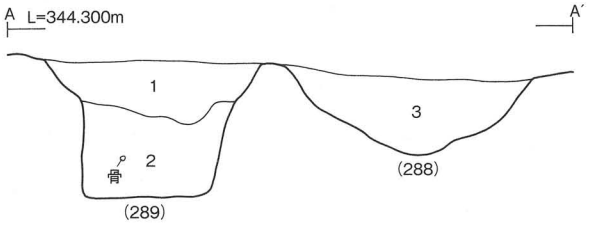


〈282号・283号土坑〉



1　10YR3/3暗褐色土　シルト　粘性あり　しまりあり　黒褐色土と黄褐色土の混合土
2　10YR2/2黒褐色土　シルト　粘性あまりなし　しまりなし
　283号土坑の元々の埋土
3　10YR3/2黒褐色土　シルト　粘性あまりなし　しまりややあり
　282号土坑の埋め戻し
＊二つの墓壙を改葬した後、２基同時に埋め戻した様相

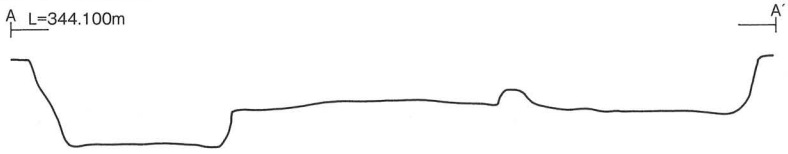
〈288号・289号土坑〉



1　10YR3/3暗褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりややあり
　礫混じり
2　10YR2/2黒褐色土　粘土質シルト　粘性ややあり　しまりややあり
　人骨・釘含む
3　10YR3/3暗褐色土　シルト　粘性あまりなし　しまりややあり
　礫混じり

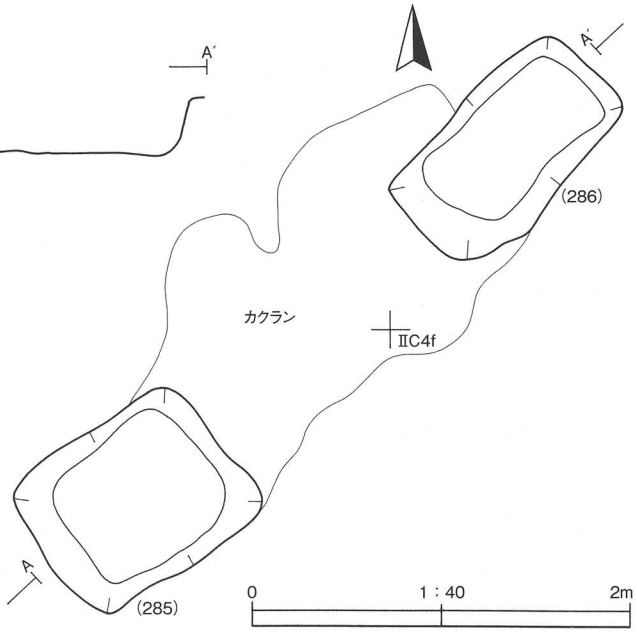
285号・286号土坑

〈285号・286号土坑〉



285号土坑
　1　10YR3/3暗褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあり

286号土坑
　1　10YR6/6明黄褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあり
　2　10YR3/3暗褐色土　シルト　粘性ややあり　しまりあり



第60図　282・283・285・286・288・289号土坑

＜時期＞出土した銭貨から、近代の墓壙である。

287号土坑（第54図、写真図版48）
＜位置＞ＩＣ9ｄ・10ｄグリッドに跨ってあり、このグリッドに位置する４基の墓壙が重複する箇所の西側に近接する。
＜概要＞平面形は方形で、断面形はビーカー状。底面は平坦である。他の遺構との重複はない。
＜規模＞108×89cm、深さ43cm。
＜堆積土＞３層に分層した。２・３層は元の堆積土である暗褐色土で、１層は改葬時に埋められたにぶい黄褐色土である。このことから、その際の掘削は遺構の下面には及んでいないようである。
＜出土遺物＞雁首・吸口に細工が施される煙管１セット（734）と明治期の一銭硬貨が５枚、釘19点187.5ｇと四肢骨・頭蓋骨片が出土した。
＜時期＞出土した銭貨から、近代の墓壙である。

288号土坑（第60図、写真図版48）
＜位置＞ⅡＣ3ｆグリッドの北西隅にあり、西側に289号土坑がつながるようにある。
＜概要＞平面形は不整な長方形状で、断面形は皿状である。重複する遺構はない。
＜規模＞140×78cm、深さ39cm。　＜長軸方向＞Ｎ－68°－Ｅ。
＜堆積土＞礫混じりの暗褐色土の単層。
＜出土遺物＞釣具のビーズ玉様のもの４ヶと釘２点3.4ｇ。
＜時期＞近代の墓壙と思われる。

289号土坑（第60図、写真図版48）
＜位置＞ⅡＣ2ｆグリッドの北東隅にある。
＜概要＞平面形は方形、断面形はビーカー状である。重複する遺構はない。
＜規模＞102×96cm、深さ72cm。
＜堆積土＞２層に分層される。上位は礫混じりの暗褐色土、中位以下は人骨を含む黒褐色土である。
＜出土遺物＞四肢骨片と石器剥片2.4ｇ、釘など。
＜時期＞棺の釘と思われる遺物が出土していることから、近代の墓壙と思われる。

290号土坑（第55図、写真図版42・48）
＜位置＞ＩＣ10ｃ・10ｄグリッドに跨る。本遺構の北東に延びる墓壙群の南側に位置する。
＜概要＞平面形は不整な方形、断面形はバケツ形と思われる。近代墓壙の265号土坑に切られる。
＜規模＞80×78cm、深さ48cm。
＜堆積土＞２層に分けられ、改葬前の褐色土とその後の暗褐色土からなる。
＜出土遺物＞明治期の一銭１枚、大正期の一銭９枚、年号が不明の一銭１枚、計11枚。
＜時期＞大正期の銭貨が出土していることから、近代（大正期以降）の墓壙である。

291号土坑（第54図、写真図版39・40）
＜位置＞ＩＣ10ｄグリッド中央やや西寄りの墓壙６基が集中する箇所にある。
＜概要＞平面形は不整方形、断面形はバケツ形である。底面はやわずかに丸みをもつ。261号土坑と

重複するが、本遺構の方が新しい。　　＜規模＞76×73cm、深さ53cm。
＜堆積土＞褐色土粒及び大形の礫を含むにぶい黄褐色土の単層である。
＜出土遺物＞明治期の一銭硬貨２枚、半銭３枚、古寛永・新寛永があわせて29枚出土した。
＜時期＞明治期の銭貨を含むことから、近代の墓壙としておく。

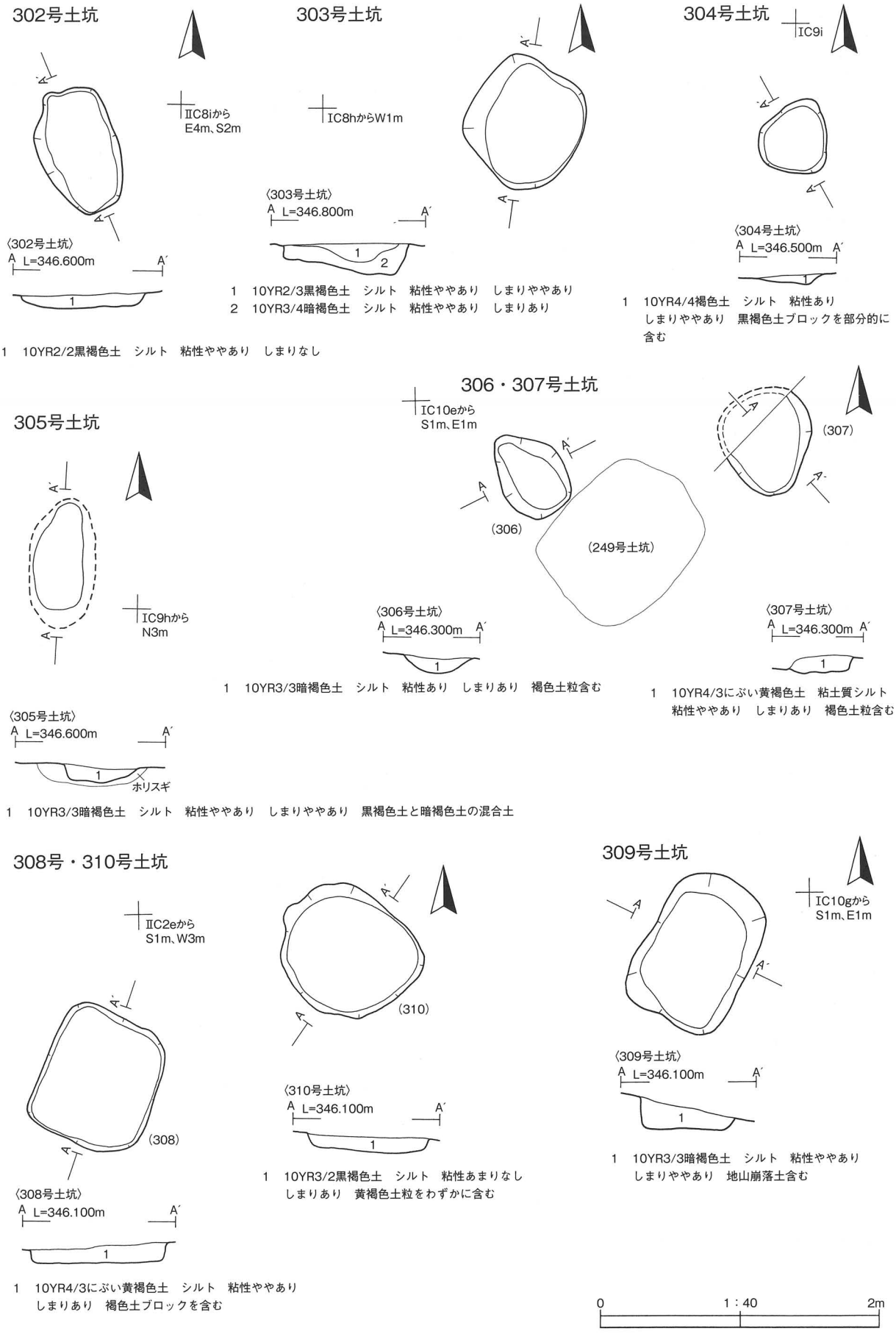
292号土坑（第54図、写真図版39・40）
＜位置＞これもＩＣ10ｄグリッド中央やや西寄りの墓壙６基が集中する箇所にある。
＜概要＞遺構の南西側が255号土坑に、北東側が291号土坑に、南東側はＰＰ９に切られている。
そのため平面形は定かでないが、方形か長方形と思われる。断面形はバケツ形か。
＜規模＞深さ55cm。　＜長軸方向＞Ｎ－９°－Ｅ。
＜堆積土＞地山崩落土を含む黒褐色土の単層である。
＜出土遺物＞なし。
＜時期＞形状から近世以降の墓壙としておく。時期は不明である。

293号土坑（第55図、写真図版49）
＜位置＞ＩＣ10ｃグリッドの南西隅にある。
＜概要＞平面形は266号土坑と重複するため不明、断面形は浅いビーカー状である。本遺構のほうがが旧い。　＜規模＞72×？cm、深さ36cm。
＜堆積土＞上位が褐色土、下位が褐色土粒を含む黒褐色土の２層からなる。
＜出土遺物＞なし。
＜時期＞形状などから近世以降の墓壙とした。時期は不明確である。

294号土坑（第59図、写真図版49）
＜位置＞ＩＣ9ｆグリッドの南西隅にある。
＜概要＞平面形は不整形、断面形は浅いビーカー状である。
＜規模＞63×56cm、深さ30cm。
＜堆積土＞暗褐色土、褐色土、黄褐色土粒を含む黒褐色土の３層からなり人為的に埋め戻されている。
＜出土遺物＞なし。
＜時期＞形状などから近世以降の墓壙とする。

302号土坑（第61図、写真図版49）
＜位置＞ＩＣ8ｉグリッドの中央やや東寄りにある。
＜概要＞平面形は不整長方形、断面形は浅皿状である。他の遺構との重複は認められない。
＜規模＞90×56cm、深さ９cm。　＜長軸方向＞Ｎ－20°－Ｗ。
＜堆積土＞黒褐色土の単層である。　＜出土遺物＞なし。
＜時期＞時期不明の土坑である。

303号土坑（第61図、写真図版49）
＜位置＞ＩＣ8ｆグリッド北西端、225号土坑の北東側３ｍほどにある。
＜概要＞平面形は不整円形、断面形は皿状である。他の遺構との重複は認められない。



第61図　302～310号土坑

＜規模＞82×82cm、深さ22cm。　＜長軸方向＞N－20°－E。
＜堆積土＞中央部は黒褐色土、その周りと下位にかけては暗褐色土が堆積する。
＜出土遺物＞なし。
＜時期＞時期不明の土坑である。

304号土坑（第61図、写真図版50）
＜位置＞ＩＣ9ｉグリッド北西端付近にある。
＜概要＞平面形は不整円形、断面形はごく浅い皿状である。他の遺構との重複は認められない。
＜規模＞51×51cm、深さ７cm。
＜堆積土＞黒褐色土ブロックを部分的に含む褐色土の単層である。
＜出土遺物＞なし。
＜時期＞時期不明の土坑である。

305号土坑（第61図、写真図版50）
＜位置＞ＩＣ8ｇグリッド西端にある。
＜概要＞平面形は不整形、断面形は浅い皿状である。他の遺構との重複は認められない。遺構の上部を掘りすぎたため、全体の規模は不明である。
＜規模＞深さ９cm。　＜長軸方向＞N－９°－E。
＜堆積土＞暗褐色土の単層である。　＜出土遺物＞なし。
＜時期＞時期不明の土坑である。

306号土坑（第61図、写真図版50）
＜位置＞ＩＣ10ｅグリッド中央からやや北西寄りにある。
＜概要＞平面形は不整形、断面形は浅い皿状である。249号土坑と近接する。
＜規模＞66×48cm、深さ９cm。　＜長軸方向＞N－37°－W。
＜堆積土＞褐色土粒を含む暗褐色土の単層である。
＜出土遺物＞なし。
＜時期＞時期不明の土坑である。

307号土坑（第61図、写真図版50）
＜位置＞ＩＣ10ｅグリッドの北東寄りにある。
＜概要＞平面形は不整形、断面形は浅い皿状である。遺構の北西側を掘りすぎたため、全体規模が不明である。　＜規模＞69×？cm、深さ11cm。
＜堆積土＞褐色土粒を含むにぶい黄褐色土の単層である。
＜出土遺物＞なし。
＜時期＞時期不明の土坑である。

308号土坑（第61図、写真図版51）
＜概要＞平面形は方形、断面形は浅皿状である。遺構間の重複はない。
＜規模＞96×72cm、深さ12cm。　＜長軸方向＞N－25°－E。

＜堆積土＞褐色土ブロックを含むにぶい黄褐色土の単層である。
＜出土遺物＞なし。
＜時期＞時期不明の土坑である。

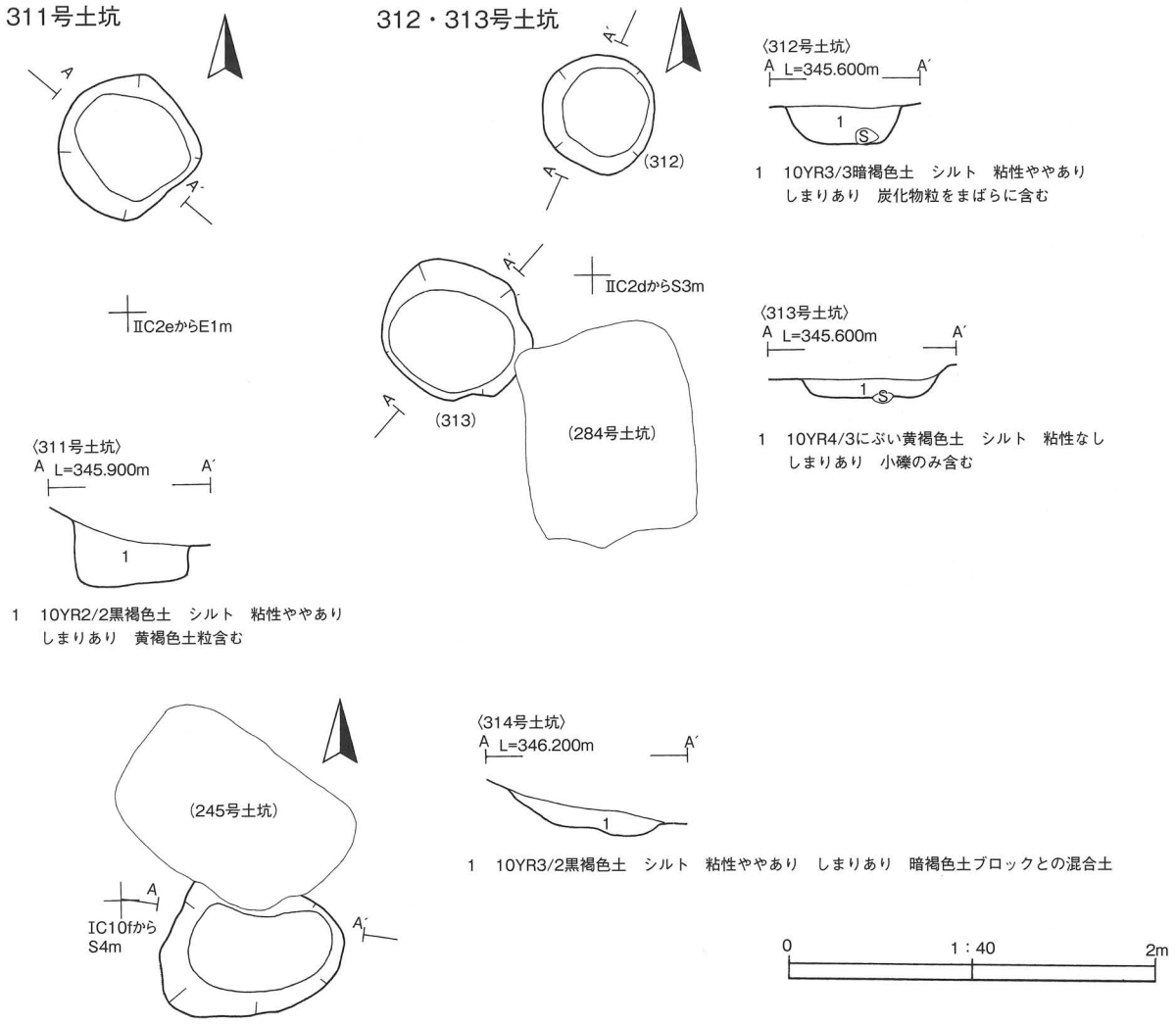
309号土坑（第61図、写真図版51）
＜位置＞ＩＣ10ｇグリッド北西寄りに位置する。
＜概要＞平面形は長方形、断面形は浅皿状である。遺構間の重複はない。
＜規模＞105×75cm、深さ21cm。　＜長軸方向＞Ｎ－26°－Ｅ。
＜堆積土＞地山崩落土を含む暗褐色土の単層である。
＜出土遺物＞なし。
＜時期＞時期不明の土坑である。

310号土坑（第61図、写真図版51）
＜位置＞ⅡＣ1ｃグリッド北東寄りに位置する。
＜概要＞平面形は不整円形、断面形は浅い皿状である。遺構間の重複はない。
＜規模＞100×87cm、深さ11cm。
＜堆積土＞黄褐色土粒を含む黒褐色土の単層である。
＜出土遺物＞なし。
＜時期＞時期不明の土坑である。

311号土坑（第62図、写真図版51）
＜位置＞ⅡＣ2ｂグリッド中央わずかに南西寄りにある。
＜概要＞平面形は不整円形、断面形は浅いビーカー状である。重複はない。
＜規模＞74×72cm、深さ34cm。
＜堆積土＞黄褐色土粒を含む黒褐色土の単層である。
＜出土遺物＞石器剥片１点15.9ｇ。
＜時期＞縄文時代に属するかと思われる剥片が１点出土したが、時期不明とした。

312号土坑（第62図、写真図版52）
＜位置＞ⅡＣ1ｄ・2ｄグリッドに跨る。
＜概要＞平面形は円形、断面形は皿状で、重複はない。
＜規模＞63×62cm、深さ20cm。
＜堆積土＞炭化物粒を含む暗褐色土の単層である。
＜出土遺物＞なし。
＜時期＞時期不明の土坑である。

313号土坑（第62図、写真図版52）
＜位置＞ⅡＣ1ｄグリッド南東側に跨る。
＜概要＞平面形は円形、断面形は皿状である。重複はない。
＜規模＞83×72cm、深さ10cm。



第62図　311～314号土坑

＜堆積土＞小礫含むにぶい黄褐色土の単層である。

＜出土遺物＞なし。

＜時期＞時期不明の土坑である。

314号土坑（第62図、写真図版52）

＜位置＞ＩＣ10ｆグリッド南西隅にある。

＜概要＞平面形は不整楕円形、断面形は浅皿状である。底面は波打つ。245号土坑と重複するが、本遺構のほうが旧い。

＜規模＞？×102cm、深さ14cm。　＜長軸方向＞Ｎ－84°－Ｅ。

＜堆積土＞暗褐色土ブロックと黒褐色土の混合土である。

＜出土遺物＞縄文土器３点10.1ｇ出土した。

＜時期＞縄文時代の土器片が１点出土しているが、時期不明の土坑とした。

c　柱穴状小土坑

墓壙群の中を主体として９個検出された。いずれも出土遺物がなく、また掘立柱建物を構成する配置のものもない。規模等の詳細は一覧表にいっさいを記載した。

第12表　柱穴状小土坑観察表

遺構名	グリッド	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底部標高(m)	埋　土
P71	ⅠC９e	35	33			10YR4/3　にぶい黄褐色土　粘性やや有　しまり有　黄褐色土粒含む
P72	ⅠC９e	27	25	42.7		10YR3/3　暗褐色土　粘性やや有　しまり有
P73	ⅠC10d	25	22	37.9	345.641	10YR2/2　黒褐色土　粘性やや有　しまり有
P74	ⅡC１d	30	26			10YR3/2　黒褐色土　粘性やや有　しまりあり　炭化物粒含む
P75	ⅡC１c	34	32	19.1	345.725	10YR3/2　黒褐色土　粘性やや有　しまりあり
P76	ⅡC１c	34	23	22.5	345.652	10YR3/2　黒褐色土　粘性やや有　しまりあり
P77	ⅡC１c	31	26	22.2	345.648	10YR3/2　黒褐色土　粘性やや有　しまりあり
P78	ⅡC２b	25	22	12.4	345.585	10YR3/2　黒褐色土　粘性やや有　しまりあり
P79	ⅠC10d	32	30	63.2	345.790	

（2）遺　　物

平成20年度調査で出土した遺物は、当センター収納用中コンテナ（容量28㍑）３箱である。内訳は、縄文土器２袋およそ1,500ｇ、石器剥片11点68.8ｇ、副葬銭373枚と100枚を超える鉄銭（寛永通寶）、銭貨・釘類を除く簪や和鋏などの金属製品32点、棺の金具や鉄釘類894.4ｇ、漆器の漆膜、玩具、ボタン、ビーズ玉などで、この他墓壙内に残された人骨が中コンテナ２箱分出土した。

以下に主要な遺物の詳細を記す。

a　銭貨（第63～77図、写真図版57～62）

掲載した355枚の銭種には、渡来銭である北宋銭２枚、（元豊通寶：初鋳1078年、皇宋通寶：初鋳1039年各１枚ずつ）、国内銭では寛永通寶銅一文銭272枚（「古寛永」147枚、文銭以降の「新寛永」が58枚、いずれか不明のもの67枚）、それ以外の近世の国内銭である寶永通寶１枚、二銭や五銭、十銭などの明治以降の硬貨52枚、明治期以降に属さない銭種不明の銭貨28枚がある。また、写真掲載したものには、寛永通寶鉄一文銭と思われる100枚前後468.3ｇの一部、寛永通寶17枚からなる緡銭１本58.1ｇ、ガーゼのような布が付着する硬貨１枚2.8ｇがある。さらに、材質不明の摸造銭かと思われるものが１点1.9ｇ、採拓出来ない銭貨の細片が18.5ｇ出土した。

出土した銭貨の種類を検討することは、被葬者が埋葬された年代を決定する根拠となるが、今回の調査では改葬、未改葬のものが混在しており、全体として墓壙の年代観を明確に示すことは不可能である。だが、墓壙の形状なども加えて考察することで、「近世に属する墓壙」と「明治期以降に属する墓壙」程度の大まかな分類は可能となろうが、これについては後述する。

なお、銭貨が認められた墓壙は72基中58基（80%）で、当時の習俗として銭貨の埋納は当然のごとく行われてきたものであることがわかる。

b　煙管（第63～76図、写真図版53～56）

掲載した煙管は64点で、いずれも雁首と吸口が竹製の羅宇で繋がる羅宇煙管と思われるものである。そのうち、雁首と吸口がセットで出土しているものが27組あり、副葬品の残存状況は良好と言えよう。また、煙管が副葬されていた墓壙は72基中33基（46%）で、当時の喫煙習慣の一端が窺える。19年度同様、今回出土した煙管を古泉氏の分類に照らしてみれば、いずれも雁首の補強体が明瞭でないことから、Ⅳ段階18世紀後半を主体として、Ⅴ段階19世紀に属するものが多いようである。特徴的な煙管としては、372・429・448・557・734などのように、幾何学的な模様の細工が入るものが挙げられる。

c　**金属製品**（第63～73図、写真図版53～56）

銭貨や釘類を除く金属製品32点のうち、鉄製品は17点である。内訳は和鋏４点（374・375・449・475）、毛抜き１点（649）、刀子などの刃物類４点（376・460・461・473）、火打金３点（377・378・523）、環状製品１点（556）、棒状のもの含む不明鉄製品４点などである。この他に、それぞれの墓壙から出土した棺の鉄釘と金具類があるが、これらは重量計測だけを行い本書には掲載しなかった。鉄釘は木質部が取り付いているものが多く、角釘・頭折釘などがあった。

銅製品には、柄鏡３枚、方形鏡１枚、円形鏡（紐鏡）１枚、小柄３点の計８点がある。方形鏡（466）には上下２箇所、円形鏡（506）には中央部に１箇所、紐を通す箇所があり、いずれも年代的には柄鏡のよりも旧い形態とされている。

銀製品は簪６点（542・559～562・610）と笄１点（558）の計７点で、560は耳かきが残る。いずれもにぶい色合いである。

d　**陶磁器**（第65・69・70図、写真図版54・55）

墓壙の副葬品である３点のみ掲載した。近代以降の陶磁器については掲載していない。
403は234号土坑出土の肥前産陶器碗の底部破片である。年代は18世紀代か。515も肥前産陶器で器種は小坏、250号土坑から出土した。草花文が描かれるが、年代は403よりは古く17世紀中頃か。541は254号土坑から出土した餌猪口とも呼ばれる餌入れである。大堀・相馬産、19世紀前半から中頃のものである。

e　**木製品**（第67・69図、写真図版54・55）

木櫛の一部が２点（462・499）出土した。被葬者を女性とする根拠と出来るか。樹種は不明である。

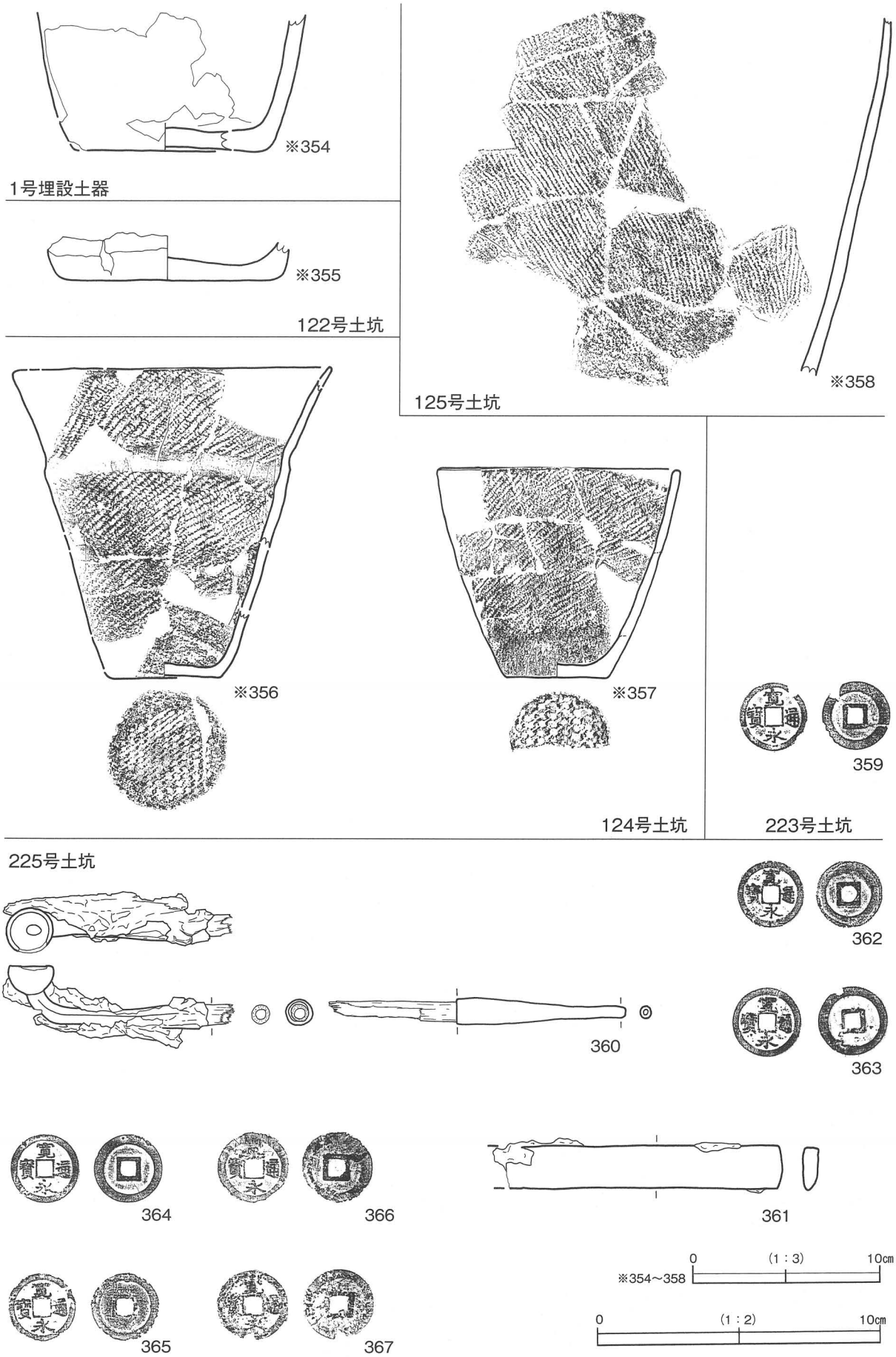
f　**石製品**（第67・72図、写真図版54・56）

使い込まれた硯１点（452）と碁石状の礫（616）が１点出土した。

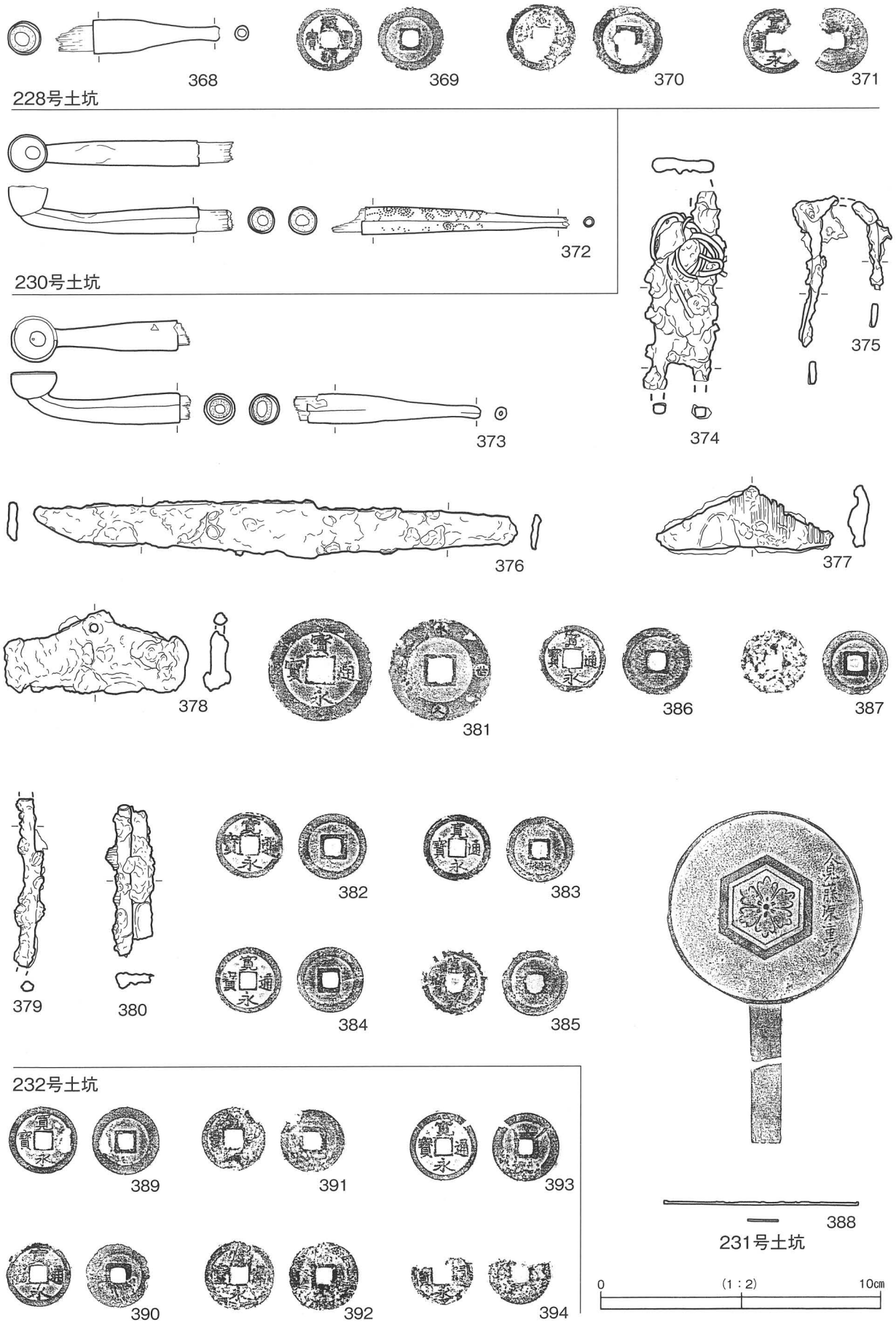
g　**その他**（第75図、写真図版56）

上記以外の副葬品を挙げてみる。釣具にあるような赤いビーズ玉４点１例、いわゆる「ガラガラ」と呼ばれる玩具１点１例、Yシャツのボタン１点１例、ガラス瓶１点１例、セルロイド製の髪留め１点１例（716）。このことから、被葬者は子供や女性であったことがわかる。改葬され残ったものか、あるいはお骨だけが拾われたものか。

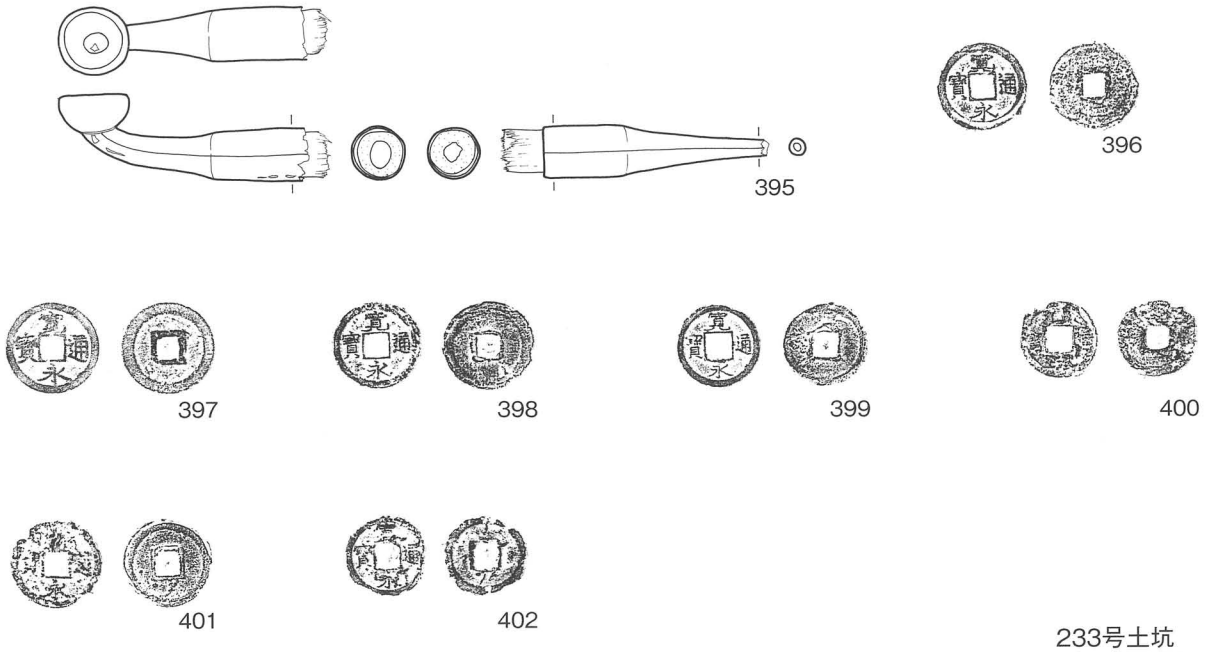
なお、調査の際に出土した人骨は、当センターの中コンテナ（容量28㍑）２箱ほどになったが、調査後には人骨の鑑定等は行わず、野外調査中に筆者が部位等を記録したものである。その後の人骨の取扱いについては、既述のとおりである。



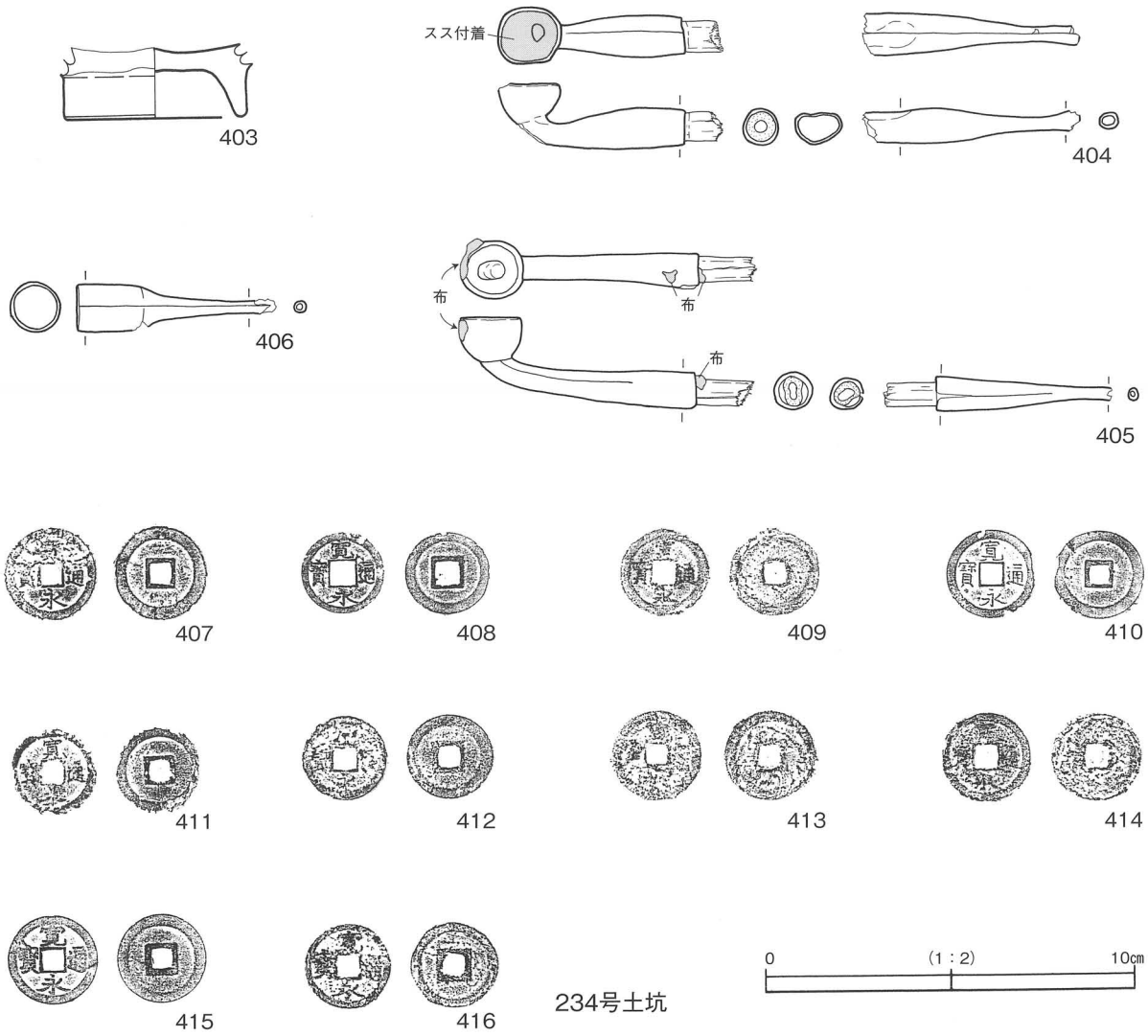
第63図　遺構内出土遺物（17）



第64図　遺構内出土遺物（18）

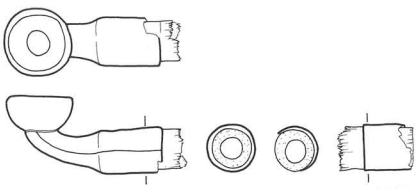


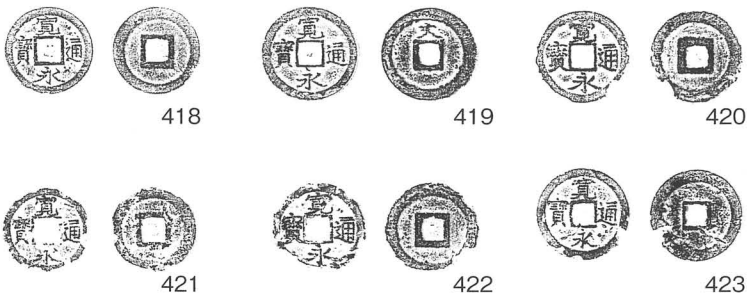
233号土坑



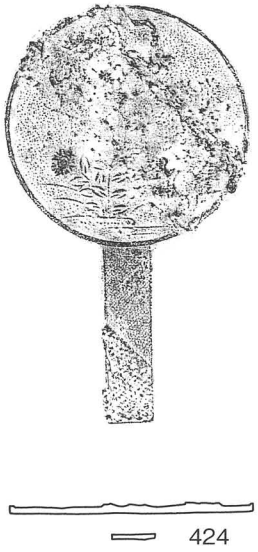
234号土坑

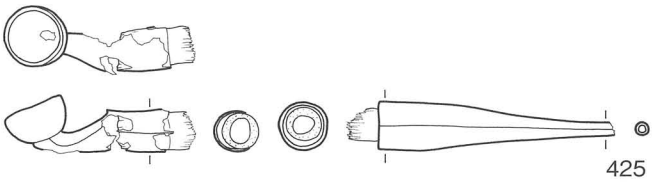
第65図　遺構内出土遺物（19）

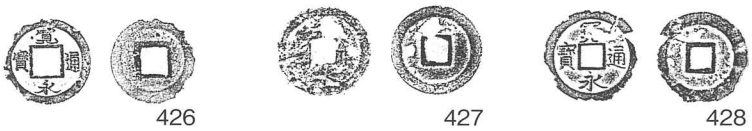

417


418 419 420 421 422 423

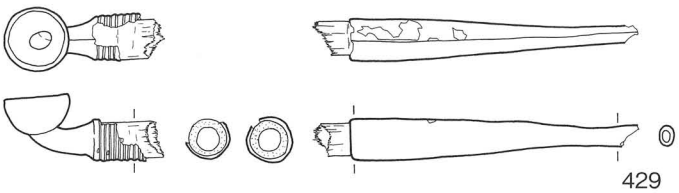
236号土坑

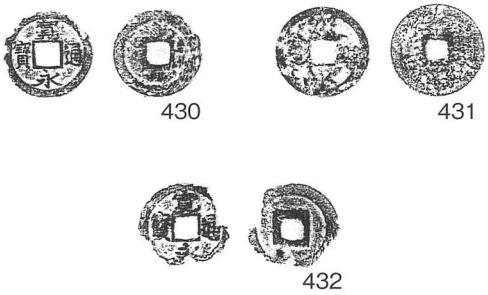

424


425

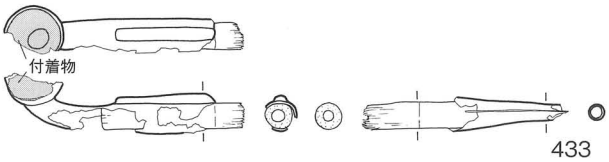

426 427 428

237号土坑


429


430 431 432

238号土坑

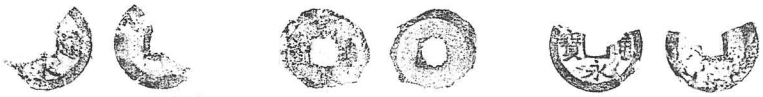


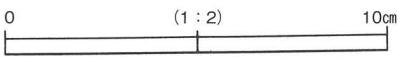
433

434 435

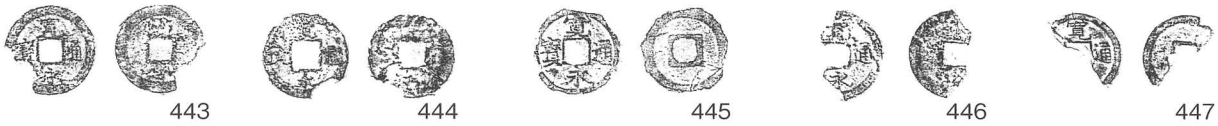
436 437 438 439

239号土坑


440 441 442

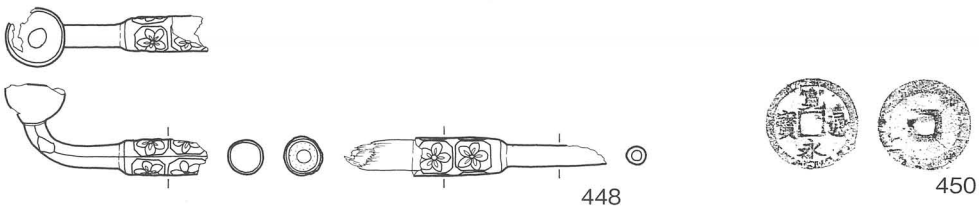


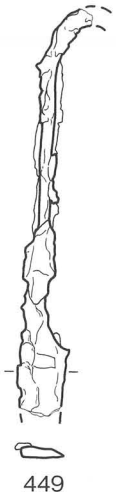
第66図　遺構内出土遺物（20）



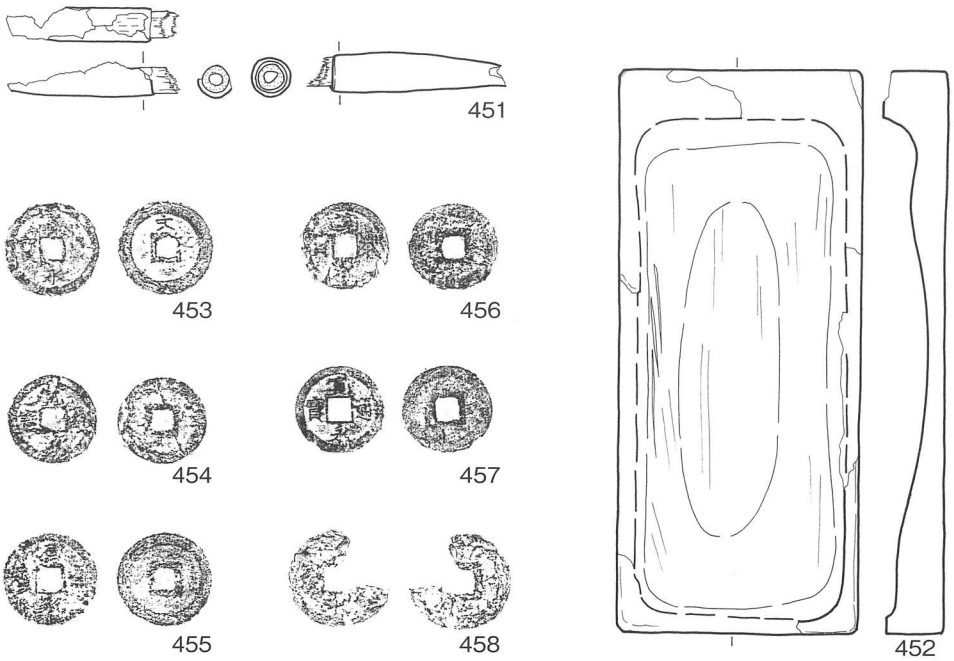
240号土坑

241号土坑

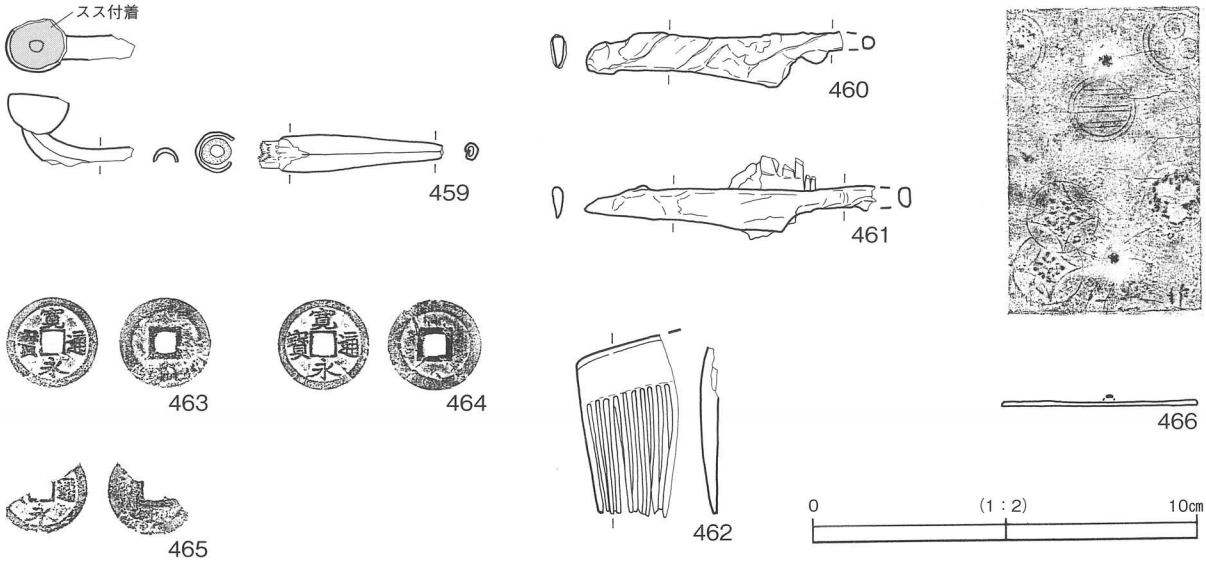




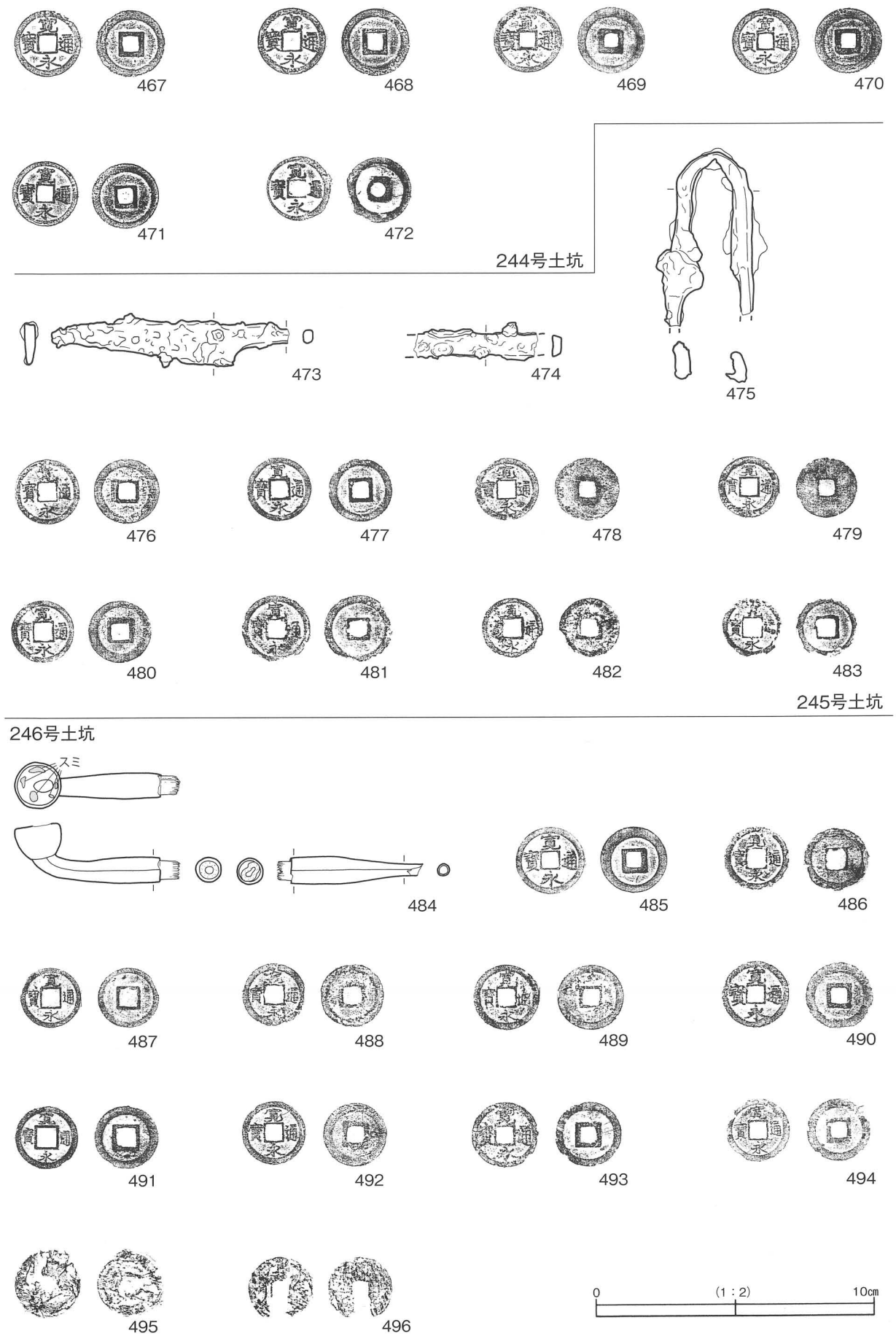
242号土坑



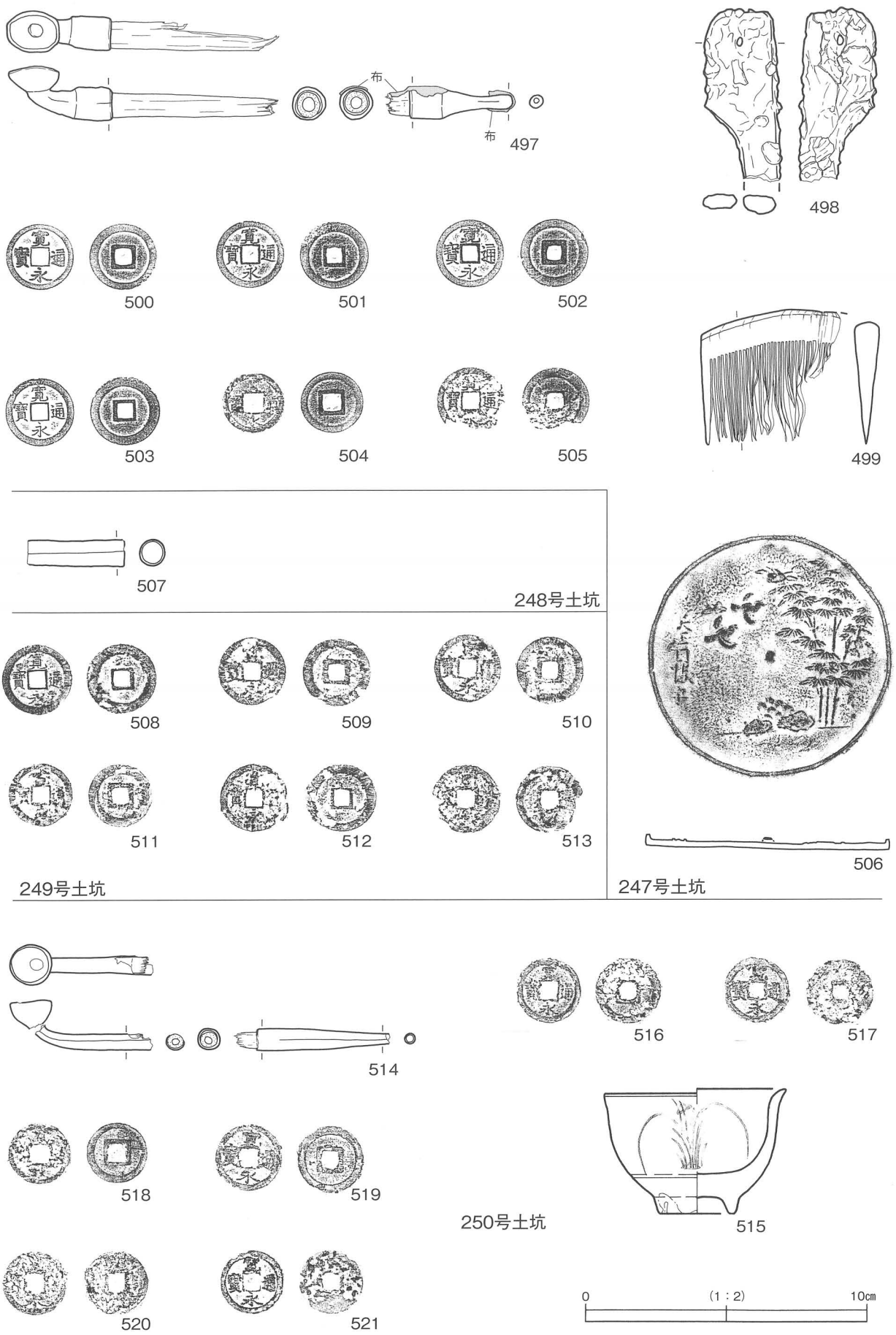
243号土坑



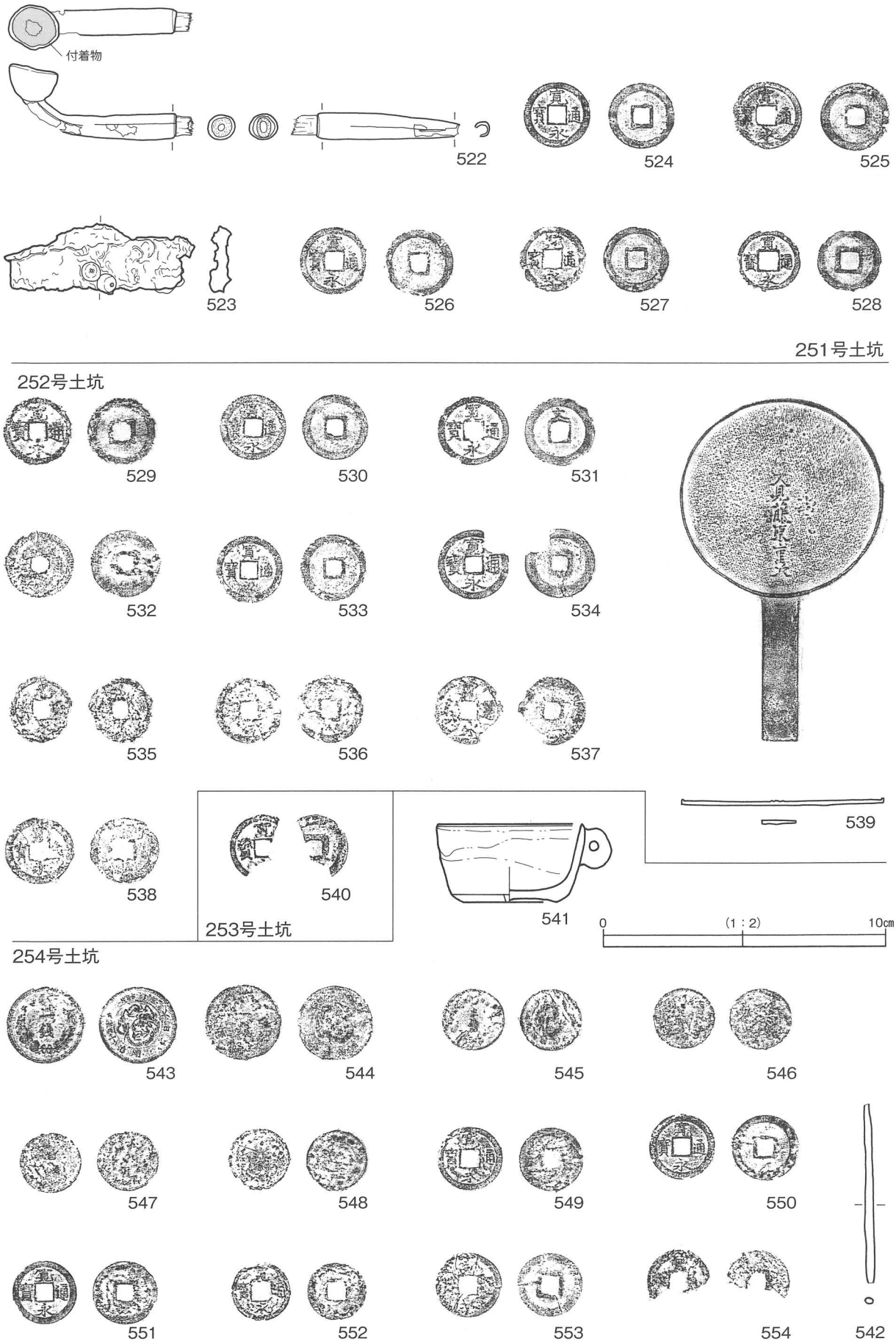
第67図　遺構内出土遺物（21）



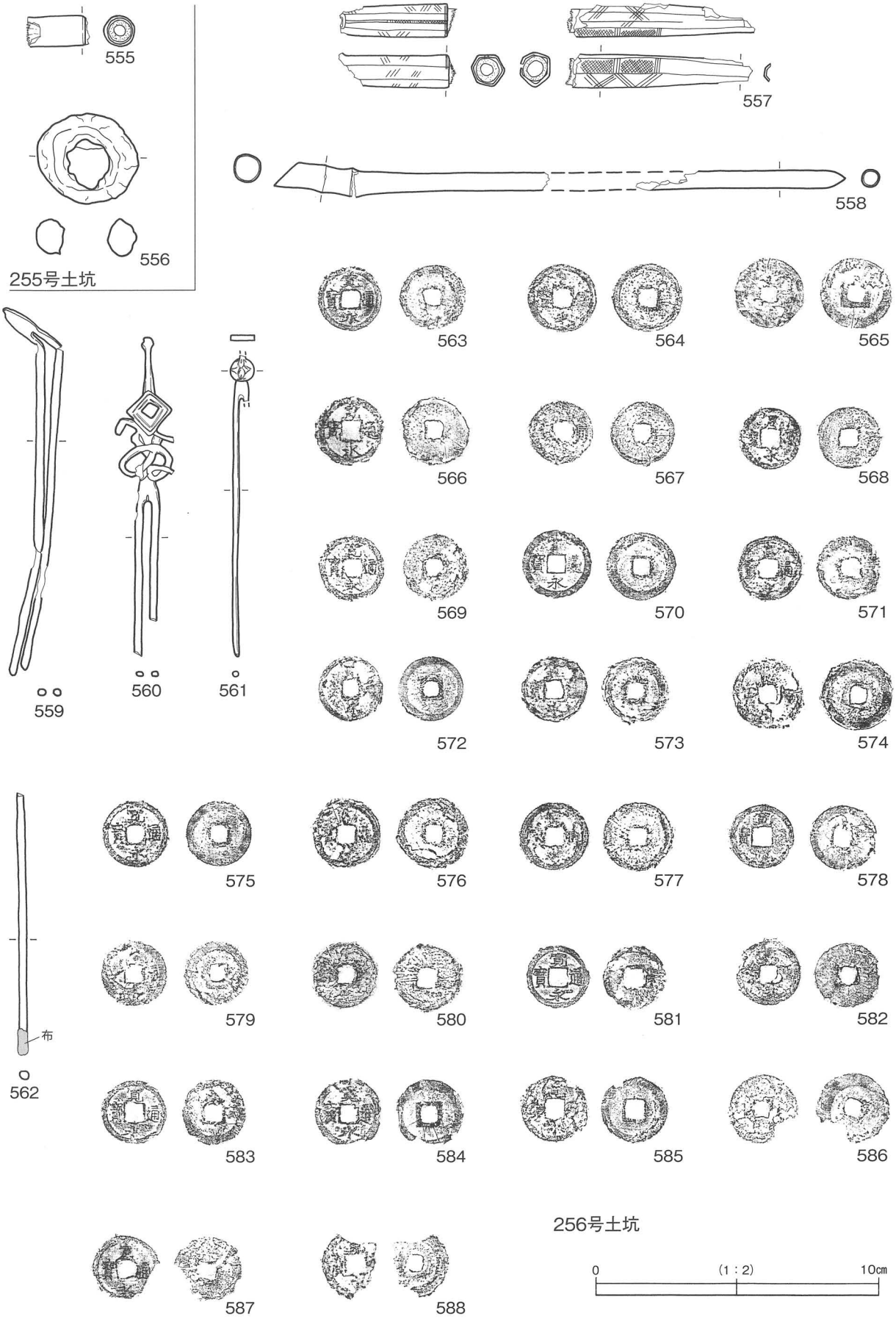
第68図　遺構内出土遺物（22）



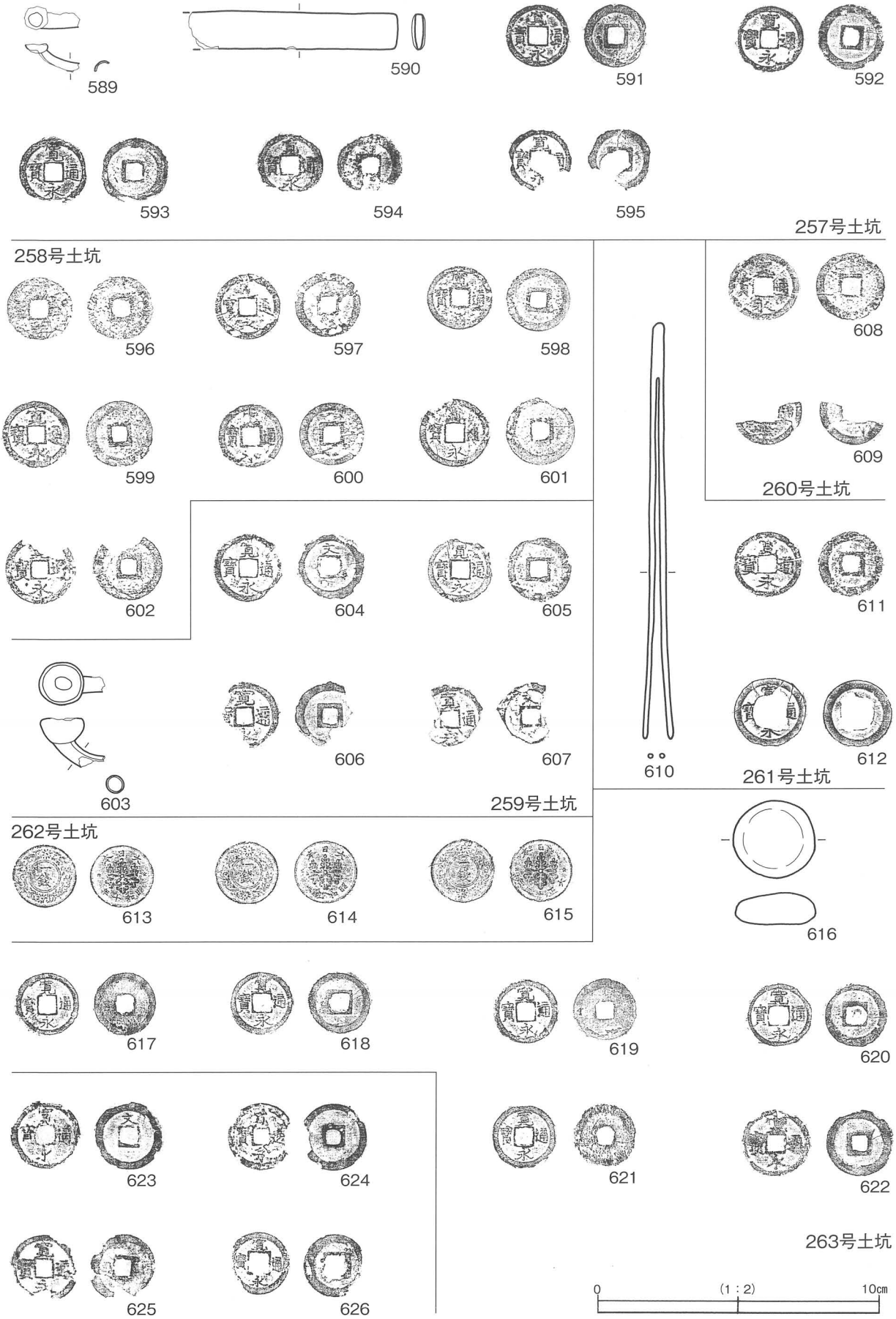
第69図　遺構内出土遺物（23）



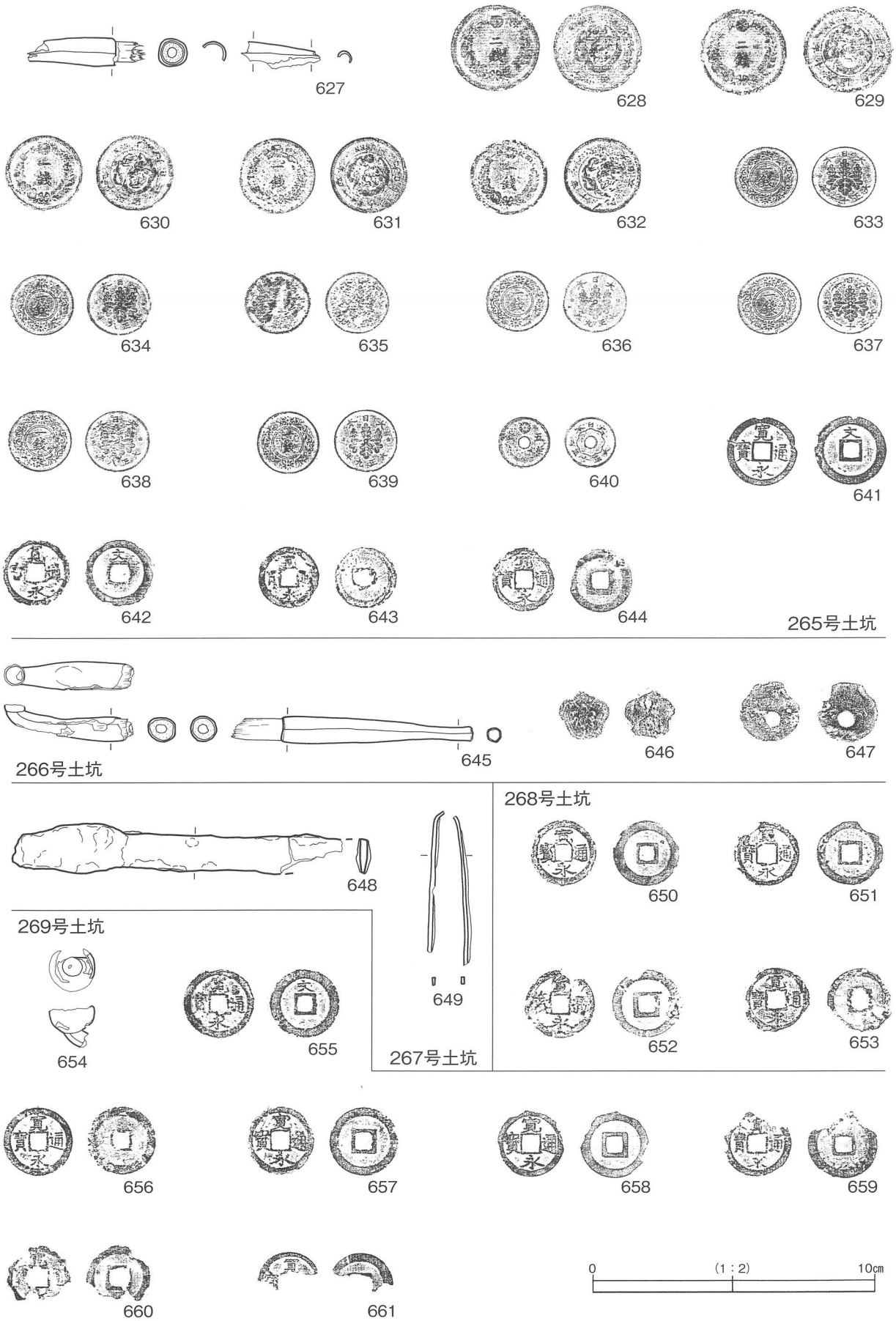
第70図　遺構内出土遺物（24）



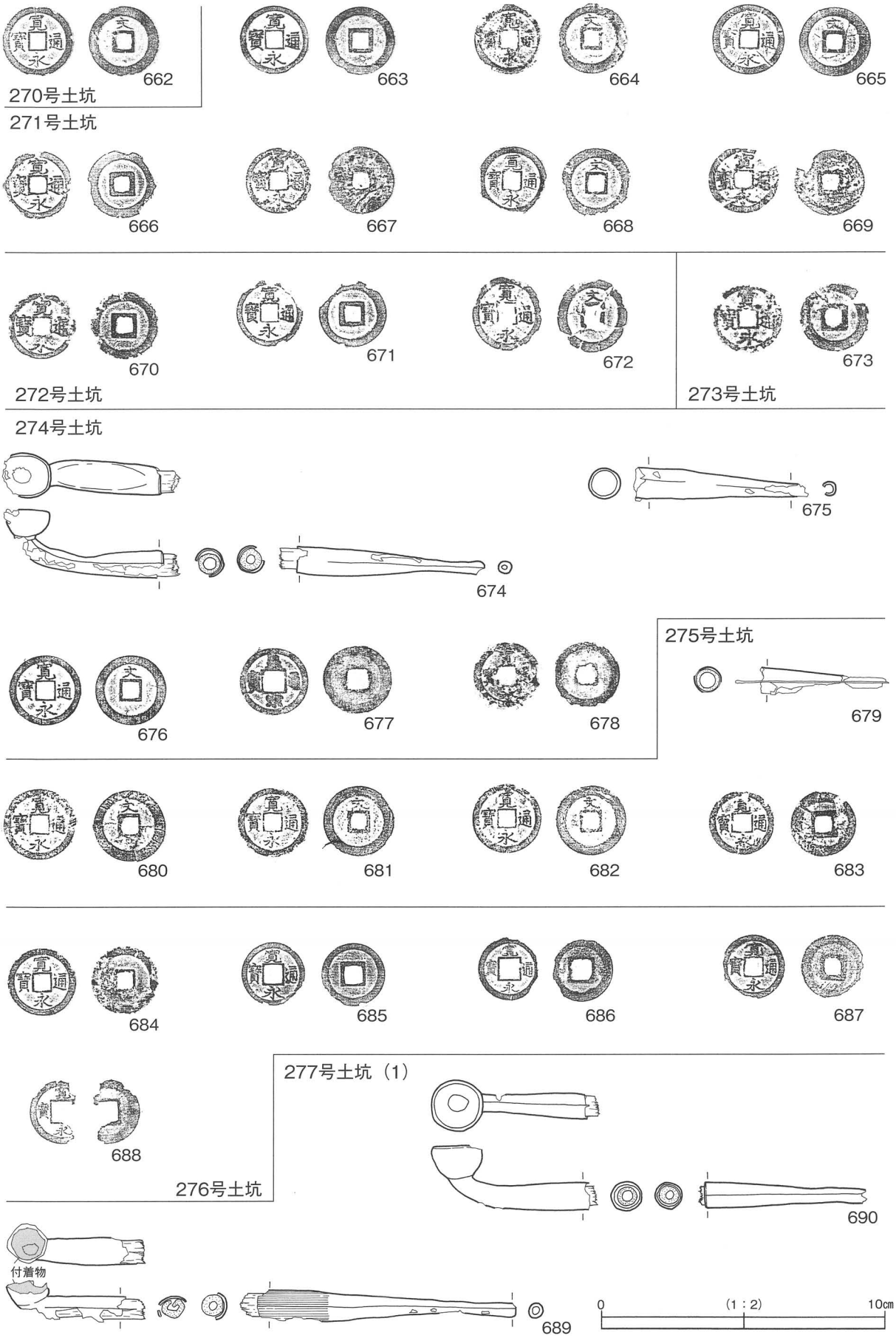
第71図　遺構内出土遺物（25）



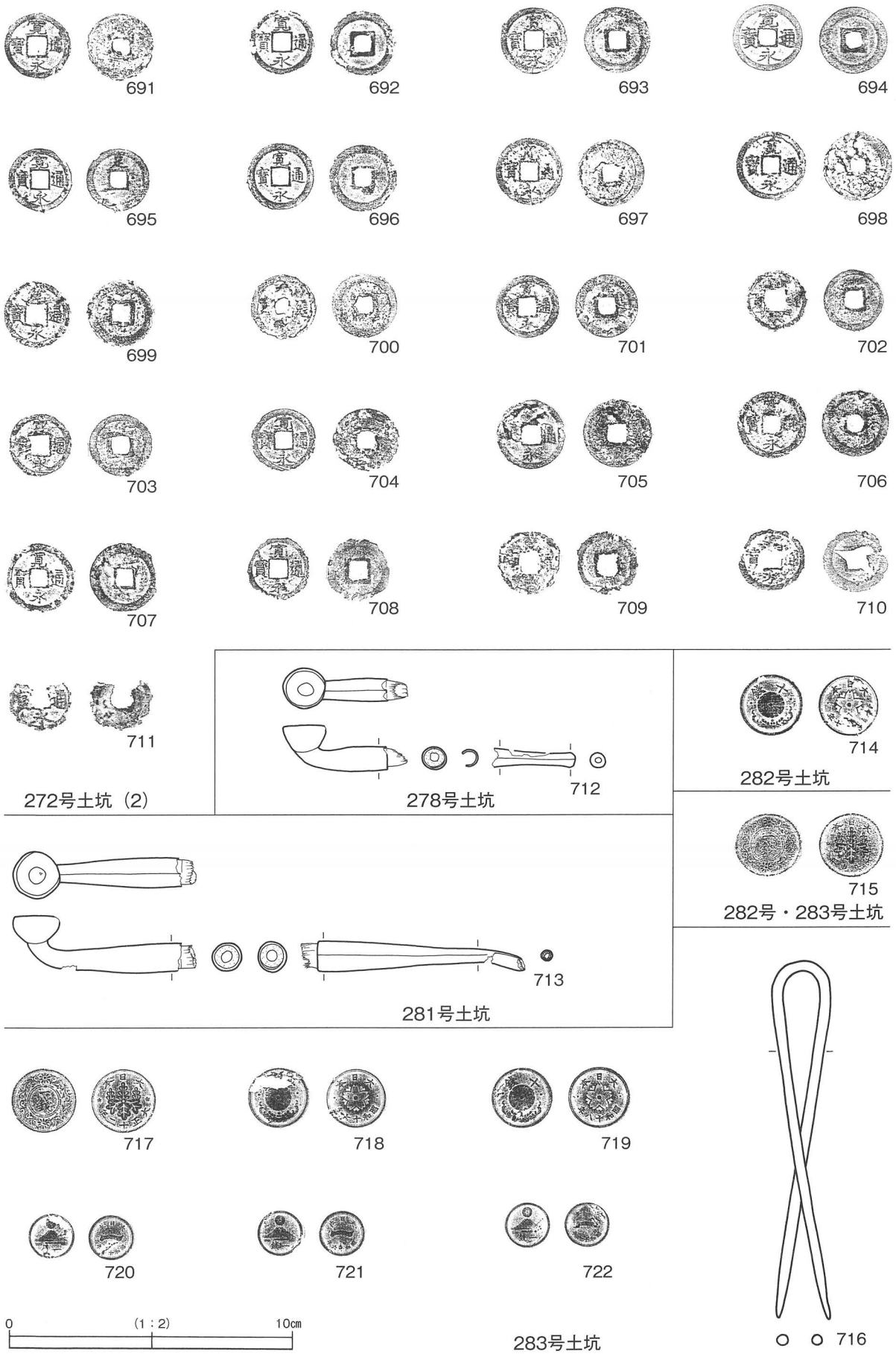
第72号　遺構内出土遺物（26）



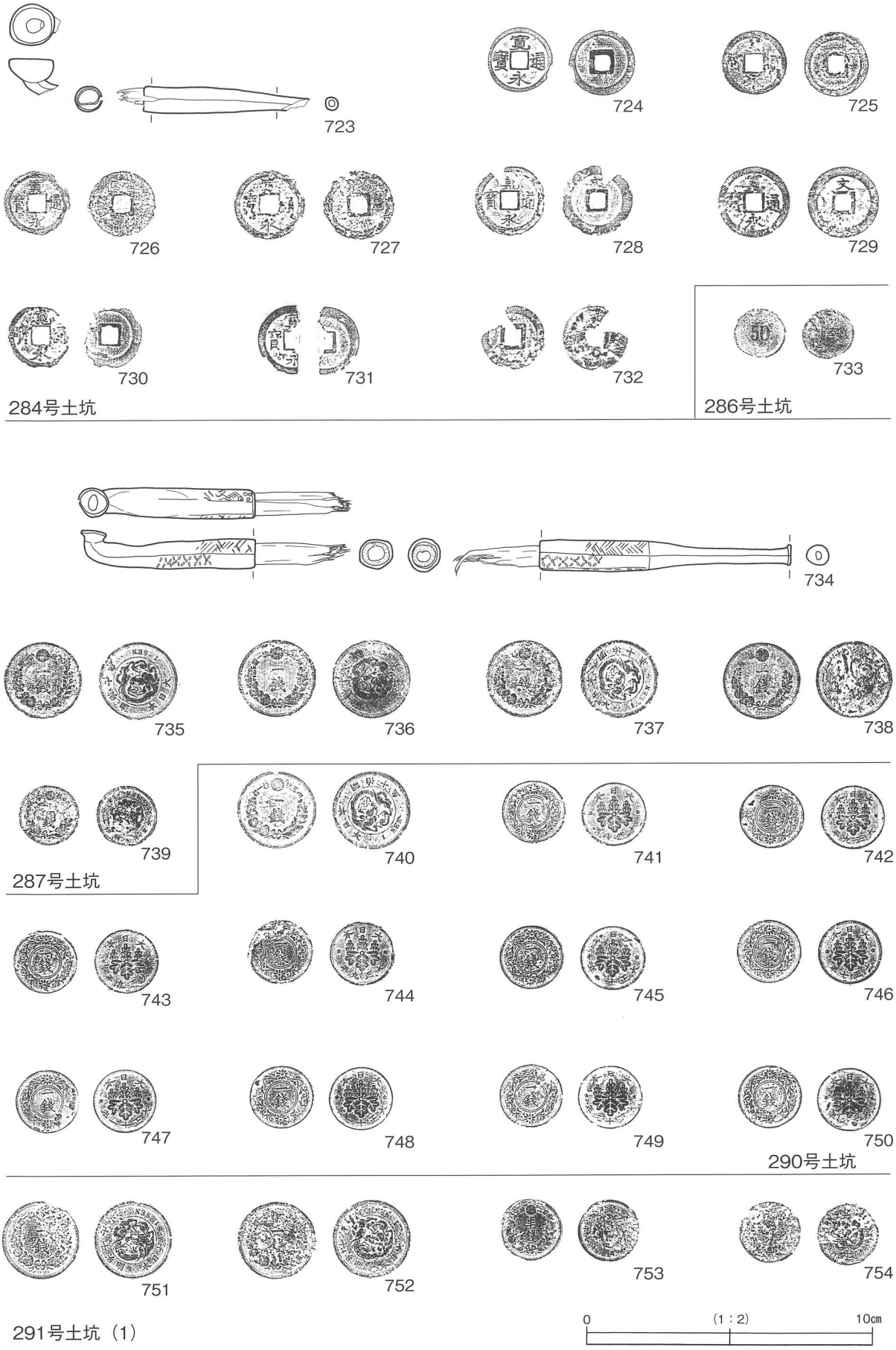
第73図　遺構内出土遺物（27）



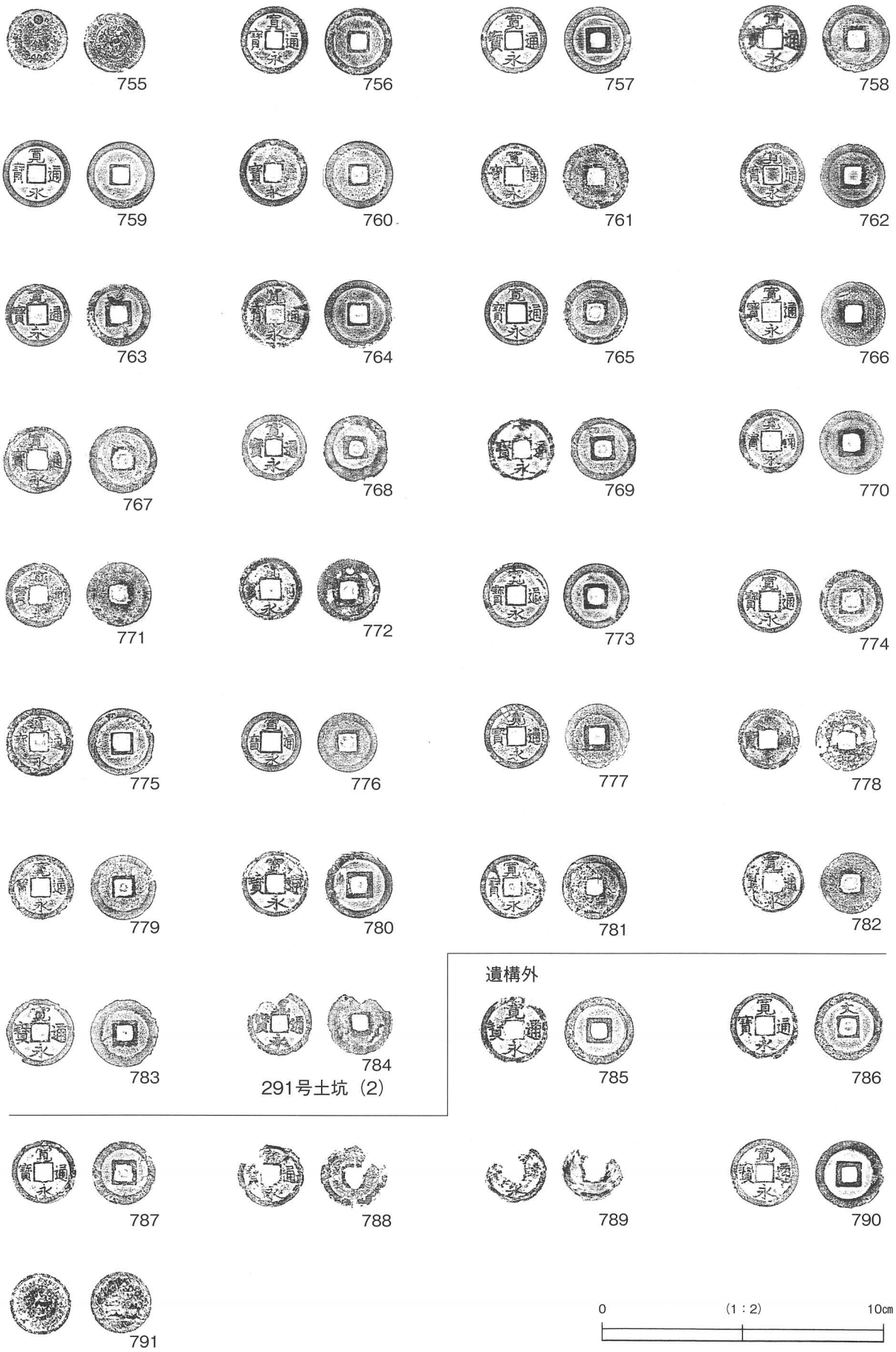
第74図　遺構内出土遺物（28）



第75図　遺構内出土遺物（29）



第76図　遺構内出土遺物（30）



第77図　遺構内出土遺物（31）・遺構外出土銭貨

第13表　平成20年度出土遺物観察表（縄文時代）

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	器種	部位	外面（文様・装飾、地文・原体）	内面	付着物	分類	その他
354	79	101号土器埋設遺構		深鉢	底部	無文	ナデ			底面に網代痕等なし
355	80	122号土坑	埋土	深鉢	底部	無文	ナデ			底面に網代痕等なし
356	82	124号土坑	埋土	深鉢	口～底部	口縁と胴部境に段　0段多条（LR）　網代痕	ミガキ	内外面スス		
357	81	124号土坑	埋土	深鉢	口～底部	小形　0段多条（LR）　網代痕	ミガキ			
358	83	125号土坑	埋土	深鉢	胴部	RL	ナデ			

第14表　平成20年度出土遺物観察表（銭貨）

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	素材	径（cm）	重量（g）	種別		初鋳造年代	その他
359	2-1	223号土坑	埋土	銅	2.40	2.40	寛永通寶	古	17世紀前	
362	4-1	225号土坑	埋土	銅	2.40	2.80	寛永通寶	古？		
363	4-2	225号土坑	埋土	銅	2.45	3.10	寛永通寶	古	17世紀前	
364	4-3	225号土坑	埋土	銅	2.40	3.40	寛永通寶	古	17世紀前	
365	4-4	225号土坑	埋土	銅	2.40	2.30	寛永通寶	古	17世紀中	
366	4-5	225号土坑	埋土	銅	2.50	3.00	寛永通寶	古？		
367	4-6	225号土坑	埋土	銅	2.50	2.10	寛永通寶	古？		
369	9-1	228号土坑	埋土	銅	2.30	3.00	元豊通寶		11世紀後	
370	9-2	228号土坑	埋土	銅	2.50	2.10	寛永通寶	古？新？		
371	9-3	228号土坑	埋土	銅	2.35	1.20	寛永通寶	古	17世紀前	
381	13-1	231号土坑	埋土	銅	3.70	8.20	寶永通寶		18世紀前	
382	13-2	231号土坑	埋土	銅	2.40	2.70	寛永通寶	古	17世紀前	
383	13-3	231号土坑	埋土	銅	2.40	3.20	寛永通寶	新	18世紀前	
384	13-4	231号土坑	埋土	銅	2.35	2.60	寛永通寶	新	18世紀前	
385	13-5	231号土坑	埋土	銅	2.40	1.90	寛永通寶	新？古？		
386	13-6	231号土坑	埋土	銅	2.40	2.40	寛永通寶	新	18世紀前	
387	13-7	231号土坑	埋土	銅	2.40	2.40	？			
389	14-1	232号土坑	埋土	銅	2.45	2.70	寛永通寶	新	18世紀前	
390	14-2	232号土坑	埋土	銅	2.30	2.90	寛永通寶	古？		
391	14-3	232号土坑	埋土	銅	2.30	2.70	？			
392	14-4	232号土坑	埋土	銅	2.40	1.70	寛永通寶	古？新？		
393	14-5	232号土坑	埋土	銅	2.40	2.00	寛永通寶	古	17世紀前	
394	14-6	232号土坑	埋土	銅	2.25	0.90	寛永通寶	新	17世紀	
396	15-1	233号土坑	埋土	銅	2.30	2.80	寛永通寶	新	18世紀前	
397	15-2	233号土坑	埋土	銅	2.40	2.80	寛永通寶	古	17世紀中	
398	15-3	233号土坑	埋土	銅	2.30	2.50	寛永通寶	新	18世紀前	
399	15-4	233号土坑	埋土	銅	2.20	1.80	寛永通寶	新	18世紀前	
400	15-5	233号土坑	埋土	銅	2.00	1.60	寛永通寶	古？新？		
401	15-6	233号土坑	埋土	銅	2.35	2.40	寛永通寶	古？新？		
402	15-7	233号土坑	埋土	銅	2.10	1.10	寛永通寶	新	17世紀後	

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	素材	径（cm）	重量（g）	種別		初鋳造年代	その他
407	16-1	234号土坑	埋土	銅	2.50	3.30	寛永通寶	新	17 世紀後	
408	16-2	234号土坑	埋土	銅	2.30	2.30	寛永通寶	新	18 世紀前	
409	16-3	234号土坑	埋土	銅	2.40	2.40	寛永通寶	新	17 世紀後	
410	16-4	234号土坑	埋土	銅	2.40	3.40	寛永通寶	新	18 世紀前	
411	16-5	234号土坑	埋土	銅	2.30	1.90	寛永通寶	新	17 世紀後	
412	16-6	234号土坑	埋土	銅	2.30	3.80	寛永通寶	古？新？		
413	16-7	234号土坑	埋土	銅	2.40	3.30	寛永通寶	古？新？		
414	16-8	234号土坑	埋土	銅	2.40	2.60	寛永通寶	新？		
415	16-9	234号土坑	埋土	銅	2.40	3.10	寛永通寶	古	18 世紀前	
416	16-10	234号土坑	埋土	銅	2.30	3.80	寛永通寶	古？		
418	18-1	236号土坑	埋土	銅	2.30	2.60	寛永通寶	新	18 世紀前	
419	18-2	236号土坑	埋土	銅	2.40	3.90	寛永通寶	新	17 世紀後	
420	18-3	236号土坑	埋土	銅	2.40	3.30	寛永通寶	古	17 世紀前	
421	18-4	236号土坑	埋土	銅	2.20	2.30	寛永通寶	新	17 世紀後	
422	18-5	236号土坑	埋土	銅	2.40	2.00	寛永通寶	古	17 世紀前	
423	18-6	236号土坑	埋土	銅	2.40	2.00	寛永通寶	新	18 世紀前	
426	19-1	237号土坑	埋土	銅	2.25	2.10	寛永通寶	新	18 世紀前	
427	19-2	237号土坑	埋土	銅	2.40	1.80	寛永通寶	古？新？		
428	19-3	237号土坑	埋土	銅	2.40	1.80	寛永通寶	新	17 世紀	
430	20-1	238号土坑	埋土	銅	2.30	1.50	寛永通寶	新	18 世紀前	
431	20-2	238号土坑	埋土	銅	2.40	2.50	寛永通寶	古？新？		
432	20-3	238号土坑	埋土	銅	2.10	1.60	寛永通寶	古？		
434	21-1	239号土坑	埋土	銅	2.45	3.00	寛永通寶	古	17 世紀中	
435	21-2	239号土坑	埋土	銅	2.50	3.40	寛永通寶	新	17 世紀後	
436	21-3	239号土坑	埋土	銅	2.50	2.90	寛永通寶	新	17 世紀後	
437	21-4	239号土坑	埋土	銅	2.50	3.10	寛永通寶	新	17 世紀後	
438	21-5	239号土坑	埋土	銅	2.50	2.70	寛永通寶	新	17 世紀後	
439	21-6	239号土坑	埋土	銅	2.40	2.10	寛永通寶	新	17 世紀後	
440	21-7	239号土坑	埋土	銅	?	0.90	寛永通寶	古？新？		
441	21-8	239号土坑	埋土	銅	2.30	1.50	寛永通寶	古？新？		
442	21-9	239号土坑	埋土	銅	2.50	1.10	寛永通寶	古？		
443	22-1	240号土坑	埋土	銅	2.30	2.00	寛永通寶	新	17 世紀後	
444	22-2	240号土坑	埋土	銅	2.20	1.90	寛永通寶	古？新？		
445	22-3	240号土坑	埋土	銅	2.30	1.80	寛永通寶	古	17 世紀前	
446	22-4	240号土坑	埋土	銅	2.40	1.30	寛永通寶	新	17 世紀後	
447	22-5	240号土坑	埋土	銅	2.30	0.70	寛永通寶	新	17 世紀後	
450	23-1	241号土坑	埋土	銅	2.40	2.00	寛永通寶	古	17 世紀	
453	24-1	241号土坑	埋土	銅	2.45	2.70	寛永通寶	新	17 世紀後	
454	24-2	242号土坑	埋土	銅	2.30	1.90	寛永通寶	新	17 世紀後	
455	24-3	242号土坑	埋土	銅	2.40	2.80	寛永通寶	古？新？		
456	24-4	242号土坑	埋土	銅	2.55	1.90	寛永通寶	古？		

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	素材	径（cm）	重量（g）	種別		初鋳造年代	その他
457	24-5	242号土坑	埋土	銅	2.30	2.10	寛永通寶	新	18世紀前	
458	24-6	242号土坑	埋土	銅	2.60	2.20	?			
463	25-1	243号土坑	埋土	銅	2.40	1.70	寛永通寶	古	17世紀前	
464	25-2	243号土坑	埋土	銅	2.40	1.70	寛永通寶	古	17世紀後	
465	25-3	243号土坑	埋土	銅	2.40	1.20	寛永通寶	古？		
467	26-1	244号土坑	埋土	銅	2.40	3.80	寛永通寶	古	17世紀後	
468	26-2	244号土坑	埋土	銅	2.45	2.60	寛永通寶	古	17世紀後	
469	26-3	244号土坑	埋土	銅	2.40	3.10	寛永通寶	古	17世紀前	
470	26-4	244号土坑	埋土	銅	2.40	3.50	寛永通寶	古	17世紀前	
471	26-5	244号土坑	埋土	銅	2.40	2.90	寛永通寶	古	17世紀前	
472	26-6	244号土坑	埋土	銅	2.35	2.20	寛永通寶	古	17世紀前	
476	27-1	245号土坑	埋土	銅	2.30	2.90	寛永通寶	新	17世紀後	
477	27-2	245号土坑	埋土	銅	2.30	2.50	寛永通寶	新	18世紀前	
478	27-3	245号土坑	埋土	銅	2.30	2.50	寛永通寶	新	18世紀前	
479	27-4	245号土坑	埋土	銅	2.20	2.80	寛永通寶	新	18世紀前	
480	27-5	245号土坑	埋土	銅	2.30	2.50	寛永通寶	新	18世紀前	
481	27-6	245号土坑	埋土	銅	2.45	2.30	寛永通寶	新	17世紀後	
482	27-7	245号土坑	埋土	銅	2.20	1.20	寛永通寶	新	17世紀後	
483	27-8	245号土坑	埋土	銅	2.20	1.40	寛永通寶	新	17世紀後	
485	28-1	246号土坑	埋土	銅	2.40	3.50	寛永通寶	古	17世紀前	
486	28-2	246号土坑	埋土	銅	2.30	1.70	寛永通寶	新	18世紀前	
487	28-3	246号土坑	埋土	銅	2.20	1.60	寛永通寶	新	18世紀前	
488	28-4	246号土坑	埋土	銅	2.20	2.10	寛永通寶	新	17世紀後	
489	28-5	246号土坑	埋土	銅	2.35	3.00	寛永通寶	新	17世紀後	
490	28-6	246号土坑	埋土	銅	2.40	2.30	寛永通寶	古	17世紀前	
491	28-7	246号土坑	埋土	銅	2.25	2.10	寛永通寶	新	18世紀前	
492	28-8	246号土坑	埋土	銅	2.30	2.10	寛永通寶	新	18世紀前	
493	28-9	246号土坑	埋土	銅	2.40	3.30	寛永通寶	古		
494	28-10	246号土坑	埋土	銅	2.25	1.80	寛永通寶	新	18世紀前	
495	28-11	246号土坑	埋土	銅	2.30	1.70	?			
496	28-12	246号土坑	埋土	銅	2.30	1.60	?			
500	29-1	247号土坑	埋土	銅	2.40	3.20	寛永通寶	古	17世紀前	
501	29-2	247号土坑	埋土	銅	2.40	3.30	寛永通寶	新	18世紀前	
502	29-3	247号土坑	埋土	銅	2.40	3.40	寛永通寶	古	17世紀前	
503	29-4	247号土坑	埋土	銅	2.40	3.80	寛永通寶	新	18世紀前	
504	29-5	247号土坑	埋土	銅	2.20	2.10	寛永通寶	新？		
505	29-6	247号土坑	埋土	銅	2.40	2.20	寛永通寶	新？		
508	32-1	249号土坑	埋土	銅	2.50	3.20	寛永通寶	新	18世紀前	
509	32-2	249号土坑	埋土	銅	2.40	4.00	寛永通寶	古？		
510	32-3	249号土坑	埋土	銅	2.40	3.00	寛永通寶	古？		
511	32-4	249号土坑	埋土	銅	2.30	3.00	寛永通寶	古？新？		

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	素材	径（cm）	重量（g）	種別		初鋳造年代	その他
512	32-5	249号土坑	埋土	銅	2.40	2.60	寛永通寶	新	17世紀後	
513	32-6	249号土坑	埋土	銅	2.40	2.00	?			
516	34-1	250号土坑	埋土	銅	2.30	2.80	寛永通寶	新	18世紀前	
517	34-2	250号土坑	埋土	銅	2.35	2.60	寛永通寶	古	17世紀前	
518	34-3	250号土坑	埋土	銅	2.20	1.60	?			
519	34-4	250号土坑	埋土	銅	2.35	2.90	寛永通寶	古	17世紀中	
520	34-5	250号土坑	埋土	銅	2.30	2.50	?			
521	34-6	250号土坑	埋土	銅	2.25	1.50	寛永通寶	古	17世紀前	
524	35-1	251号土坑	埋土	銅	2.40	2.80	寛永通寶	新	18世紀前	
525	35-2	251号土坑	埋土	銅	2.40	3.80	寛永通寶	新	18世紀前	
526	35-3	251号土坑	埋土	銅	2.40	3.10	寛永通寶	新	18世紀前	
527	35-4	251号土坑	埋土	銅	2.35	2.10	寛永通寶	新	17世紀後	
528	35-5	251号土坑	埋土	銅	2.25	1.80	寛永通寶	新	18世紀前	
529	36-1	252号土坑	埋土	銅	2.40	3.00	寛永通寶	古	17世紀前	
530	36-2	252号土坑	埋土	銅	2.40	2.30	寛永通寶	新	18世紀前	
531	36-3	252号土坑	埋土	銅	2.50	2.50	寛永通寶	新	17世紀後	
532	36-4	252号土坑	埋土	銅	2.40	2.50	?			
533	36-5	252号土坑	埋土	銅	2.40	1.60	寛永通寶	新	17世紀後	
534	36-6	252号土坑	埋土	銅	2.50	2.10	寛永通寶	古	17世紀前	
535	36-7	252号土坑	埋土	銅	2.40	1.40	?			
536	36-8	252号土坑	埋土	銅	2.40	1.20	?			
537	38-9	252号土坑	埋土	銅	2.40	1.30	寛永通寶	古？新？		
538	36-10	252号土坑	埋土	銅	2.40	1.50	寛永通寶	新	17世紀後	
540	37-1	253号土坑	埋土	銅	2.40	1.10	寛永通寶	古？		
543	38-1	254号土坑	埋土	銅	2.70	5.80	一銭		明治10年	
544	38-2	254号土坑	埋土	銅	2.70	5.30	一銭		明治10年	
545	38-3	254号土坑	埋土	銅	2.20	2.90	明治期			
546	38-4	254号土坑	埋土	銅	2.20	2.60	明治期			
547	38-5	254号土坑	埋土	銅	2.20	2.80	明治期			
548	38-6	254号土坑	埋土	銅	2.20	2.90	明治期			
549	38-7	254号土坑	埋土	銅	2.30	1.40	寛永通寶	新？		
550	38-8	254号土坑	埋土	銅	2.30	2.10	寛永通寶	新	18世紀前	
551	38-9	254号土坑	埋土	銅	2.30	1.90	寛永通寶	古？新？		
552	38-10	254号土坑	埋土	銅	2.10	1.30	寛永通寶	古？新？		
553	38-11	254号土坑	埋土	銅	2.30	1.50	?			
554	38-12	254号土坑	埋土	銅	2.25	1.10	?			
563	41-1	256号土坑	埋土	銅	2.30	2.80	寛永通寶	新	18世紀後	
564	41-2	256号土坑	埋土	銅	2.45	2.90	寛永通寶	古？新？		
565	41-3	256号土坑	埋土	銅	2.50	4.10	?			
566	41-4	256号土坑	埋土	銅	2.40	2.50	寛永通寶	新	17世紀後	
567	41-5	256号土坑	埋土	銅	2.30	3.50	?			

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	素材	径（cm）	重量（g）	種別		初鋳造年代	その他
568	41-6	256号土坑	埋土	銅	2.20	2.10	寛永通寶	古？新？		
569	41-7	256号土坑	埋土	銅	2.35	2.30	寛永通寶	新	17世紀後	
570	41-8	256号土坑	埋土	銅	2.40	2.90	寛永通寶	新	17世紀後	
571	41-9	256号土坑	埋土	銅	2.30	1.80	寛永通寶	古？新？		
572	41-10	256号土坑	埋土	銅	2.30	2.80	?			
573	41-11	256号土坑	埋土	銅	2.35	2.60	寛永通寶	古？新？		
574	41-12	256号土坑	埋土	銅	2.40	3.10	?			
575	41-13	256号土坑	埋土	銅	2.30	2.40	寛永通寶	新	17世紀後	
576	41-14	256号土坑	埋土	銅	2.40	4.00	?			
577	41-15	256号土坑	埋土	銅	2.40	3.60	?			
578	41-16	256号土坑	埋土	銅	2.30	2.30	寛永通寶	新	17世紀後	
579	41-17	256号土坑	埋土	銅	2.30	2.50	?			
580	41-18	256号土坑	埋土	銅	2.35	4.00	?			
581	41-19	256号土坑	埋土	銅	2.25	1.50	寛永通寶	新	18世紀前	
582	41-20	256号土坑	埋土	銅	2.30	2.80	?			
583	41-21	256号土坑	埋土	銅	2.30	2.40	寛永通寶	新	17世紀後	
584	41-22	256号土坑	埋土	銅	2.40	2.60	寛永通寶	新？		
585	41-23	256号土坑	埋土	銅	2.40	2.10	寛永通寶	古？新？		
586	41-24	256号土坑	埋土	銅	2.50	3.40	?			
587	41-25	256号土坑	埋土	銅	2.30	1.70	寛永通寶	新	17世紀後	
588	41-26	256号土坑	埋土	銅	2.35	1.50	寛永通寶	古？新？		
591	42-1	257号土坑	埋土	銅	2.25	3.80	寛永通寶	新	18世紀前	
592	42-2	257号土坑	埋土	銅	2.35	2.30	寛永通寶	古	17世紀前	
593	42-3	257号土坑	埋土	銅	2.40	2.30	寛永通寶	新	18世紀前	
594	42-4	257号土坑	埋土	銅	2.30	1.70	寛永通寶	新	17世紀後	
595	42-5	257号土坑	埋土	銅	2.30	1.10	寛永通寶	新	17世紀後	
596	43-1	258号土坑	埋土	銅	2.30	1.80	?			
597	43-2	258号土坑	埋土	銅	2.30	1.90	寛永通寶	新？		
598	43-3	258号土坑	埋土	銅	2.30	2.10	寛永通寶	新	17世紀後	
599	43-4	258号土坑	埋土	銅	2.40	3.90	寛永通寶	古	17世紀前	
600	43-5	258号土坑	埋土	銅	2.30	2.20	寛永通寶	新？		
601	43-6	258号土坑	埋土	銅	2.50	2.60	寛永通寶	新	18世紀前	
602	43-7	258号土坑	埋土	銅	2.50	2.10	寛永通寶	古	17世紀前	
604	44-1	259号土坑	埋土	銅	2.40	2.90	寛永通寶	新	17世紀後	
605	44-2	259号土坑	埋土	銅	2.30	2.40	寛永通寶	新	18世紀前	
606	44-3	259号土坑	埋土	銅	2.35	1.20	寛永通寶	古	17世紀前	
607	44-4	259号土坑	埋土	銅	-	0.60	寛永通寶	新	17世紀後	
608	46-1	260号土坑	埋土	銅	2.50	1.50	寛永通寶	古？新？		
609	46-2	260号土坑	埋土	銅	-	0.80	?			
611	47-1	261号土坑	埋土	銅	2.30	2.30	寛永通寶	古	17世紀前	
612	47-2	261号土坑	埋土	銅	2.50	1.90	寛永通寶	新	17世紀後	

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	素材	径（cm）	重量（g）	種別		初鋳造年代	その他
613	48-1	262号土坑	埋土	銅	2.30	3.10	一銭		昭和十年	
614	48-2	262号土坑	埋土	銅	2.30	3.10	一銭		昭和〇年	
615	48-3	262号土坑	埋土	銅	2.30	3.00	一銭		大正十二年	
617	49-1	263号土坑	埋土	銅	2.20	2.20	寛永通寶	新	18世紀前	
618	49-2	263号土坑	埋土	銅	2.20	2.60	寛永通寶	新	18世紀前	
619	49-3	263号土坑	埋土	銅	2.25	2.40	寛永通寶	新	18世紀前	
620	49-4	263号土坑	埋土	銅	2.20	2.10	寛永通寶	新	18世紀前	
621	49-5	263号土坑	埋土	銅	2.30	1.90	寛永通寶	新	18世紀前	
622	49-6	263号土坑	埋土	銅	2.40	2.50	寛永通寶	古？新？		
623	51-1	264号土坑	埋土	銅	2.40	1.90	寛永通寶	新	17世紀後	
624	51-2	264号土坑	埋土	銅	2.40	1.50	寛永通寶	新	17世紀後	
625	51-3	264号土坑	埋土	銅	2.40	1.50	寛永通寶	古	17世紀中	
626	51-4	264号土坑	埋土	銅	2.20	1.20	寛永通寶	新	18世紀前	
628	52-1	265号土坑	埋土	銅	3.15	13.20	二銭			
629	52-2	265号土坑	埋土	銅	3.10	12.20	二銭		明治十年	
630	52-3	265号土坑	埋土	銅	2.75	6.50	一銭		明治十年	
631	52-4	265号土坑	埋土	銅	2.70	6.80	一銭		明治十四年	
632	52-5	265号土坑	埋土	銅	2.75	6.20	一銭		明治十年	
633	52-6	265号土坑	埋土	銅	2.20	3.70	一銭		大正〇年	
634	52-7	265号土坑	埋土	銅	2.25	3.40	一銭		大正八年	
635	52-8	265号土坑	埋土	銅	2.20	2.50	一銭		?	
636	52-9	265号土坑	埋土	銅	2.20	3.50	一銭		大正九年	
637	52-10	265号土坑	埋土	銅	2.25	3.60	一銭		大正十一年	
638	52-11	265号土坑	埋土	銅	2.20	3.60	一銭		大正八年	
639	52-12	265号土坑	埋土	銅	2.25	3.50	一銭		大正九年	
640	52-13	265号土坑	埋土	銅	1.85	2.50	五銭		大正十年	
641	52-14	265号土坑	埋土	銅	2.50	2.60	寛永通寶	新	17世紀後	
642	52-15	265号土坑	埋土	銅	2.30	2.40	寛永通寶	新	17世紀後	
643	52-16	265号土坑	埋土	銅	2.15	2.60	寛永通寶	新	17世紀後	
644	52-17	265号土坑	埋土	銅	2.20	1.50	寛永通寶	新	18世紀前	
650	55-1	268号土坑	埋土	銅	2.30	3.10	寛永通寶	古	17世紀前	
651	55-2	268号土坑	埋土	銅	2.30	2.20	寛永通寶	新	18世紀前	
652	55-3	268号土坑	埋土	銅	2.50	1.80	寛永通寶	古	17世紀前	
653	55-4	268号土坑	埋土	銅	2.30	2.00	寛永通寶	新	17世紀後	
655	56-1	269号土坑	埋土	銅	2.50	2.50	寛永通寶	新	17世紀後	
656	56-2	269号土坑	埋土	銅	2.40	2.20	寛永通寶	新	18世紀前	
657	56-3	269号土坑	埋土	銅	2.50	2.80	寛永通寶	古	17世紀前	
658	56-4	269号土坑	埋土	銅	2.40	2.50	寛永通寶	古	17世紀前	
659	56-5	269号土坑	埋土	銅	2.40	1.70	寛永通寶	新	17世紀後	
660	56-6	269号土坑	埋土	銅	2.25	0.90	寛永通寶	新？		
661	56-7	269号土坑	埋土	銅	-	0.70	寛永通寶	新	17世紀後	

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	素材	径（cm）	重量（g）	種別		初鋳造年代	その他
662	57-1	270号土坑	埋土	銅	2.45	2.70	寛永通寶	新	17世紀後	
663	58-1	271号土坑	埋土	銅	2.40	1.90	寛永通寶	古	17世紀前	
664	58-2	271号土坑	埋土	銅	2.45	2.30	寛永通寶	新	17世紀後	
665	58-3	271号土坑	埋土	銅	2.50	2.20	寛永通寶	新	17世紀後	
666	58-4	271号土坑	埋土	銅	2.40	2.10	寛永通寶	古	17世紀前	
667	58-5	271号土坑	埋土	銅	2.30	2.00	寛永通寶	古？		
668	58-6	271号土坑	埋土	銅	2.40	2.00	寛永通寶	新	17世紀後	
669	58-7	271号土坑	埋土	銅	2.50	1.80	寛永通寶	古	17世紀前	
670	61-1	272号土坑	埋土	銅	2.30	2.30	寛永通寶	古	17世紀中	
671	61-2	272号土坑	埋土	銅	2.35	1.20	寛永通寶	古	17世紀前	
672	61-3	272号土坑	埋土	銅	2.40	1.20	寛永通寶	新	17世紀後	
673	63-1	273号土坑	埋土	銅	2.40	2.10	寛永通寶	古	17世紀前	
676	64-1	274号土坑	埋土	銅	2.50	3.90	寛永通寶	新	17世紀後	
677	64-2	274号土坑	埋土	銅	2.40	2.60	皇宋元寶		11世紀前	
678	64-3	274号土坑	埋土	銅	2.25	1.80	寛永通寶	古？新？		
680	66-1	275号土坑	埋土	銅	2.50	2.20	寛永通寶	新	17世紀後	
681	66-2	275号土坑	埋土	銅	2.50	2.50	寛永通寶	新	17世紀後	
682	66-3	275号土坑	埋土	銅	2.45	2.40	寛永通寶	新	17世紀後	
683	66-4	275号土坑	埋土	銅	2.25	1.60	寛永通寶	新	17世紀後	
684	67-1	276号土坑	埋土	銅	2.40	2.30	寛永通寶	新	18世紀前	
685	67-2	276号土坑	埋土	銅	2.25	1.70	寛永通寶	新	18世紀前	
686	67-3	276号土坑	埋土	銅	2.20	1.70	寛永通寶	新	18世紀前	
687	67-4	276号土坑	埋土	銅	2.25	2.20	寛永通寶	新	18世紀前	
688	67-5	276号土坑	埋土	銅	2.25	0.90	寛永通寶	新	18世紀前	
691	69-1	277号土坑	埋土	銅	2.30	2.90	寛永通寶	新	18世紀前	
692	69-2	277号土坑	埋土	銅	2.30	2.50	寛永通寶	新	18世紀前	
693	69-3	277号土坑	埋土	銅	2.30	2.30	寛永通寶	新	17世紀後	
694	69-4	277号土坑	埋土	銅	2.40	3.30	寛永通寶	古	17世紀前	
695	69-5	277号土坑	埋土	銅	2.20	1.90	寛永通寶	新	18世紀前	
696	69-6	277号土坑	埋土	銅	2.35	2.50	寛永通寶	新	18世紀前	
697	69-7	277号土坑	埋土	銅	2.35	2.80	寛永通寶	新？		
698	69-8	277号土坑	埋土	銅	2.40	3.90	寛永通寶	古？		
699	69-9	277号土坑	埋土	銅	2.30	3.30	寛永通寶	新	17世紀後	
700	69-10	277号土坑	埋土	銅	2.30	2.90	？			
701	69-11	277号土坑	埋土	銅	2.25	2.40	寛永通寶	新？		
702	69-12	277号土坑	埋土	銅	2.15	2.10	寛永通寶	古？新？		
703	69-13	277号土坑	埋土	銅	2.20	2.20	寛永通寶	古？新？		
704	69-14	277号土坑	埋土	銅	2.30	2.00	寛永通寶	新	18世紀前	
705	69-15	277号土坑	埋土	銅	2.40	3.20	寛永通寶	古？新？		
706	69-16	277号土坑	埋土	銅	2.40	2.40	寛永通寶	新	17世紀後	
707	69-17	277号土坑	埋土	銅	2.40	2.60	寛永通寶	新	18世紀前	

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	素材	径（cm）	重量（g）	種別		初鋳造年代	その他
708	69-18	277号土坑	埋土	銅	2.20	1.50	寛永通寶	新	18世紀前	
709	69-19	277号土坑	埋土	銅	2.20	2.30	?			
710	69-20	277号土坑	埋土	銅	2.30	1.40	寛永通寶	古？新？		
711	69-21	277号土坑	埋土	銅	2.20	1.20	寛永通寶	古？新？		
714	74-1	282号土坑	埋土	銅	2.10	1.20	十銭		?	
715	74・75-1	282・283号土坑	埋土	銅	2.20	3.50	一銭		大正〇年	
717	75-1	283号土坑	埋土	銅	2.20	3.60	一銭		大正十二年	
718	75-2	283号土坑	埋土	銅	2.05	1.10	十銭		昭和十七年	
719	75-3	283号土坑	埋土	銅	2.10	1.00	十銭		昭和十八年	
720	75-4	283号土坑	埋土	アルミ	1.55	0.60	一銭		昭和十〇年	
721	75-5	283号土坑	埋土	アルミ	1.55	0.60	一銭		昭和十六年	
722	75-6	283号土坑	埋土	アルミ	1.55	0.60	一銭		昭和十六年	
724	76-1	284号土坑	埋土	銅	2.30	1.60	寛永通寶	古	17世紀前	
725	76-2	284号土坑	埋土	銅	2.25	2.80	寛永通寶	古？新？		
726	76-3	284号土坑	埋土	銅	2.30	2.30	寛永通寶	新	17世紀後	
727	76-4	284号土坑	埋土	銅	2.50	2.60	寛永通寶	古？新？		
728	76-5	284号土坑	埋土	銅	2.45	2.90	寛永通寶	新	17世紀後	
729	76-6	284号土坑	埋土	銅	2.50	2.80	寛永通寶	新	17世紀後	
730	76-7	284号土坑	埋土	銅	2.25	1.60	寛永通寶	古？		
731	76-8	284号土坑	埋土	銅	2.50	1.40	寛永通寶	新	17世紀後	
732	76-9	284号土坑	埋土	銅	2.25	1.40	?			
733	78-1	286号土坑	埋土	黄銅	1.80	2.40	50銭		昭和二十二年	
735	80-1	287号土坑	埋土	銅	2.70	6.30	一銭		明治七年	
736	80-2	287号土坑	埋土	銅	2.70	6.60	一銭		?	
737	80-3	287号土坑	埋土	銅	2.70	5.90	一銭		明治十年	
738	80-4	287号土坑	埋土	銅	2.70	5.70	一銭		明治二十年	
739	80-5	287号土坑	埋土	銅	2.10	2.80	一銭		明治十九年	
740	84-1	290号土坑	埋土	銅	2.75	6.40	一銭		明治十年	
741	84-2	290号土坑	埋土	銅	2.20	3.30	一銭		大正十年	
742	84-3	290号土坑	埋土	銅	2.30	3.60	一銭		大正九年	
743	84-4	290号土坑	埋土	銅	2.30	3.40	一銭		大正九年	
744	84-5	290号土坑	埋土	銅	2.30	3.20	一銭		大正九年	
745	84-6	290号土坑	埋土	銅	2.25	3.70	一銭		大正十〇年	
746	84-7	290号土坑	埋土	銅	2.25	3.50	一銭		大正七年	
747	84-8	290号土坑	埋土	銅	2.25	3.80	一銭		大正十一年	
748	84-9	290号土坑	埋土	銅	2.20	3.70	一銭		大正十一年	
749	84-10	290号土坑	埋土	銅	2.25	3.10	一銭		大正十二年	
750	84-11	290号土坑	埋土	銅	2.20	3.60	一銭		?	
751	85-1	291号土坑	埋土	銅	2.75	6.00	一銭		明治十七年	
752	85-2	291号土坑	埋土	銅	2.70	5.90	一銭		明治十九年	
753	85-3	291号土坑	埋土	銅	2.15	3.10	半銭		明治十七年	

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	素材	径（cm）	重量（g）	種別		初鋳造年代	その他
754	85-4	291号土坑	埋土	銅	2.15	2.60	半銭		明治○年	
755	85-5	291号土坑	埋土	銅	2.15	3.00	半銭		明治十四年	
756	85-6	291号土坑	埋土	銅	2.40	2.60	寛永通寶	新	18世紀前	
757	85-7	291号土坑	埋土	銅	2.30	2.70	寛永通寶	古	17世紀前	
758	85-8	291号土坑	埋土	銅	2.40	2.50	寛永通寶	古	17世紀前	
759	85-9	291号土坑	埋土	銅	2.40	3.20	寛永通寶	新	18世紀前	
760	85-10	291号土坑	埋土	銅	2.40	2.20	寛永通寶	新？		
761	85-11	291号土坑	埋土	銅	2.30	2.20	寛永通寶	新？		
762	85-12	291号土坑	埋土	銅	2.30	1.60	寛永通寶	新	18世紀前	
763	85-13	291号土坑	埋土	銅	2.30	3.10	寛永通寶	新	18世紀前	
764	85-14	291号土坑	埋土	銅	2.40	1.90	寛永通寶	新	18世紀前	
765	85-15	291号土坑	埋土	銅	2.25	2.10	寛永通寶	新	18世紀前	
766	85-16	291号土坑	埋土	銅	2.30	1.90	寛永通寶	新	18世紀前	
767	85-17	291号土坑	埋土	銅	2.40	2.20	寛永通寶	新	18世紀前	
768	85-18	291号土坑	埋土	銅	2.30	2.30	寛永通寶	古	17世紀中	
769	85-19	291号土坑	埋土	銅	2.30	2.30	寛永通寶	古？		
770	85-20	291号土坑	埋土	銅	2.30	2.60	寛永通寶	新？		
771	85-21	291号土坑	埋土	銅	2.30	1.90	寛永通寶	古？新？		
772	85-22	291号土坑	埋土	銅	2.25	2.90	寛永通寶	新	17世紀後	
773	85-23	291号土坑	埋土	銅	2.30	3.20	寛永通寶	新	18世紀前	
774	85-24	291号土坑	埋土	銅	2.25	2.00	寛永通寶	新	18世紀前	
775	85-25	291号土坑	埋土	銅	2.35	2.10	寛永通寶	新	18世紀前	
776	85-26	291号土坑	埋土	銅	2.10	2.10	寛永通寶	新	18世紀前	
777	85-27	291号土坑	埋土	銅	2.30	2.30	寛永通寶	新	18世紀前	
778	85-28	291号土坑	埋土	銅	2.15	1.50	寛永通寶	古？新？		
779	85-29	291号土坑	埋土	銅	2.30	2.60	寛永通寶	新	18世紀前	
780	85-30	291号土坑	埋土	銅	2.40	2.40	寛永通寶	古	17世紀中	
781	85-31	291号土坑	埋土	銅	2.30	2.00	寛永通寶	新	18世紀前	
782	85-32	291号土坑	埋土	銅	2.20	1.80	寛永通寶	新	17世紀後	
783	85-33	291号土坑	埋土	銅	2.40	2.40	寛永通寶	古	17世紀中	
784	85-34	291号土坑	埋土	銅	2.30	1.70	寛永通寶	古	17世紀前	
785	外-1	遺構外		銅	2.35	3.40	寛永通寶	古	17世紀中	
786	外-2	遺構外		銅	2.40	3.20	寛永通寶	新	17世紀後	
787	外-3	遺構外		銅	2.30	2.30	寛永通寶	新	18世紀前	
788	外-4	遺構外		銅	2.35	1.50	寛永通寶	古？新？		
789	外-5	遺構外		銅	2.20	1.10	寛永通寶	古？新？		
790	外-6	遺構外		銅	2.40	2.90	寛永通寶	古	17世紀前	
791	外-7	遺構外		銅	2.15	2.90	？			

第15表　平成20年度出土遺物観察表（陶磁器）

掲載番号	登録番号	出土地点	層位	材質	器種	部位	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	重量(cm)	内外面（釉薬・絵付）	産地	年代	その他
403	45	234号土坑	埋土	陶器	碗	底部	－	(2.0)	5.0	42.3		肥前	18世紀	
515	56	250号土坑	埋土	陶器	小坏	口～底部	6.5	4.5	3.8	67.6	草花文	肥前	17世紀中	
541	58	254号土坑	埋土	陶器	餌猪口	口～底部	5.2	2.8	3.4	28.5	内面にも釉薬　把手に孔	大堀相馬	19世紀前～中	

第16表　平成20年度出土遺物観察表（煙管）

掲載番号	登録番号	旧遺構名	新遺構名	層位	種類	部位	素材	最長（cm）	最幅(cm)	最厚(cm)	重量（g）	特徴等	分類	時期	残存率
360	1	4号土坑	225号土坑	埋土	煙管	略完形	銅	a（8.0） b（10.5）	a（1.5） b (0.9)	a（1.6） b (0.9)	14.60		Ⅳ	18世紀以降	100%
368	2	9号土坑	228号土坑	埋土	煙管	吸口	銅	(6.00)	1.25	1.20	6.10	全長短め	Ⅳ？	18世紀以降？	50%
372	3	12号土坑	230号土坑	埋土	煙管	略完形	銅	a（8.15） b（8.6）	a（1.35） b (1.10)	a（1.75） b (1.00)	15.30	吸口羅宇側に細工	Ⅴ	19世紀以降	100%
373	4	13号土坑	231号土坑	埋土	煙管	略完形	銅	a（6.50） b（6.7）	a（1.60） b (1.10)	a（1.10） b (1.10)	13.10		Ⅳ	18世紀以降	100%
395	5	15号土坑	233号土坑	埋土	煙管	略完形	銅	a（7.15） b（7.05）	a（1.80） b (1.40)	a（2.40） b (1.40)	19.80	全体に太め　雁首に軽い段	Ⅳでも旧いほうか？	18世紀以降	100%
404	7	16号土坑	234号土坑	埋土	煙管	略完形	銅	a（6.20） b（5.90）	a 1.60 b 1.20	a 1.20 b 1.00	13.80	火皿から脂返しへの湾曲強い	Ⅳ	18世紀以降	100%
405	6	16号土坑	234号土坑	埋土	煙管	略完形	銅	a（8.10） b（6.30）	a 1.60 b 0.90	a 1.00 b 0.90	11.30		Ⅳ	18世紀以降	100%
406	8	16号土坑	234号土坑	埋土	煙管	吸口	銅	(5.50)	1.30	1.30	3.20	小口の径大きい	Ⅳ？	18世紀以降？	50%
417	9	18号土坑	236号土坑	埋土	煙管	略完形	銅	a（4.80） b（2.00）	a 1.80 b (1.20)	a（2.10） b (1.10)	7.50	雁首短い	Ⅳ？	18世紀以降？	65%
425	10	19号土坑	237号土坑	埋土	煙管	略完形	銅	a（5.05） b（7.10）	a（1.80） b (1.35)	a（1.55） b (1.25)	11.90	雁首折れ	Ⅳ	18世紀以降	80%
429	11	20号土坑	238号土坑	埋土	煙管	略完形	銅	a（4.20） b（8.60）	a 1.70 b 1.10	a 1.10 b 1.10	11.40	雁首にねじ山状の細工	Ⅴ？	19世紀以降？	100%
433	12	21号土坑	239号土坑	埋土	煙管	略完形	銅	a（6.35） b（5.45）	a（1.30） b (0.90)	a（1.65） b (0.70)	6.20		Ⅳ？	18世紀以降？	70%
448	13	23号土坑	241号土坑	埋土	煙管	略完形	銅	a（5.35） b（6.90）	a 1.55 b (1.00)	a（2.45） b (1.05)	8.00	雁首・吸口に花柄の細工	Ⅳ？	18世紀以降？	80%
451	14	24号土坑	242号土坑	埋土	煙管	雁首の一部・吸口	銅	a（4.50） b（5.20）	a 0.90 b 1.10	a（0.90） b 1.10	5.30	火皿欠損			60%
459	15	25号土坑	243号土坑	埋土	煙管	雁首の一部・吸口	銅	a（3.40） b（4.80）	a（1.40） b（1.10）	a（0.60） b 1.10	5.40		Ⅳ？	18世紀以降？	70%
484	16	28号土坑	246号土坑	埋土	煙管	略完形	銅	a（6.00） b（5.30）	a 1.65 b (1.00)	a（2.20） b (1.00)	12.40		Ⅳ	18世紀以降	95%

掲載番号	登録番号	旧遺構名	新遺構名	層位	種類	部位	素材	最長（cm）	最幅(cm)	最厚(cm)	重量（g）	特徴等	分類	時期	残存率
497	17	29号土坑	247号土坑	埋土	煙管	略完形	銅	a（9.70） b（4.70）	a 1.50 b 1.20	a 1.20 b 1.20	8.90	雁首・吸口とも極端に短い	Ⅳ	18世紀以降	100%
507	18	31号土坑	248号土坑	埋土	煙管	雁首か吸口の肩部	銅	(3.55)	(1.00)	(0.90)	3.20				10%
514	19	34号土坑	250号土坑	埋土	煙管	略完形	銅	a（5.15） b（5.60）	a 1.50 b (0.80)	a（1.80） b (0.80)	6.20	口付欠損	Ⅳ	18世紀以降	85%
522	20	35号土坑	251号土坑	埋土	煙管	略完形	銅	a（6.50） b（6.00）	a 1.60 b 1.00	a 0.90 b 0.90	11.30		Ⅳ	18世紀以降	90%
555	21	39号土坑	255号土坑	埋土	煙管	雁首肩部？	銅	(2.20)	1.10	1.10	2.40				10%
557	22	41号土坑	256号土坑	埋土	煙管	雁首と吸口の一部	銅	a（4.10） b（6.70）	a 1.20 b 1.20	a 1.10 b 1.20	8.40	雁首・吸口に幾何学模様の細工 断面六角形	Ⅴ？	19世紀以降？	70%
589	23	42号土坑	257号土坑	埋土	煙管	火皿付近	銅	(2.00)	(0.90)	(1.05)	0.50				5%
603	24	44号土坑	259号土坑	埋土	煙管	火皿付近	銅	(2.30)	1.50	(1.80)	2.40				5%
627	25	52号土坑	265号土坑	埋土	煙管	雁首・吸口の一部	銅	a（4.20） b（2.80）	a 1.10 b（0.80）	a 1.00 b（0.70）	2.80				30%
645	26	53号土坑	266号土坑	埋土	煙管	火皿部分のみ欠	銅	a（4.60） b（8.65）	a（1.10） b (1.00)	a（1.30） b (0.95)	8.60		Ⅳ	18 世紀以降	90%
646	77	53号土坑	266号土坑	埋土	金具		銅？	1.50	1.70		1.30				
647	78	53号土坑	266号土坑	埋土	金具		銅？	2.10	2.10		1.70				
654	27	56号土坑	269号土坑	埋土	煙管	火皿	銅	(1.60)	(1.55)	(1.50)	1.00				5%
674	28	64号土坑	274号土坑	埋土	煙管	略完形	銅	a（6.30） b（7.30）	a 1.50 b 1.00	a 1.00 b 1.00	11.30		Ⅳ	18 世紀以降	100%
675	29	64号土坑	274号土坑	埋土	煙管	吸口	銅	(6.20)	1.10	1.10	5.50				50%
679	30	66号土坑	275号土坑	埋土	煙管	吸口の一部	銅	(5.45)	(0.95)	(0.95)	1.50				20%
689	31	69号土坑	277号土坑	埋土	煙管	略完形	銅	a（5.90） b（9.80）	a（1.40） b（1.10）	a 0.80 b（0.90）	11.90		Ⅴ	19 世紀以降	85%
690	32	69号土坑	277号土坑	埋土	煙管	略完形	銅	a（6.00） b（6.00）	a 1.80 b 1.00	a 1.00 b 1.00	6.60		Ⅳ	18 世紀以降	90%
712	33	70号土坑	278号土坑	埋土	煙管	略完形	銅	a（4.40） b（2.95）	a 1.50 b (0.75)	a（1.70） b (0.60)	3.30		Ⅳ	18 世紀以降	80%
713	34	73号土坑	281号土坑	埋土	煙管	略完形	銅	a（6.50） b（7.90）	a 1.70 b (1.10)	a（2.10） b (1.00)	13.80		Ⅳ	18 世紀以降	100%
723	35	76号土坑	284号土坑	埋土	煙管	火皿と吸口	銅	a（1.80） b（6.80）	a 1.50 b (1.10)	a（1.30） b (0.95)	5.40	雁首肩部欠損			65%
734	36	80号土坑	287号土坑	埋土	煙管	略完形	銅	a（9.50） b（11.90）	a 1.10 b 1.10	a 1.00 b 1.10	28.40	雁首・吸口に小紋の細工 脂返し短い	Ⅴ	19 世紀以降	100%

第17表　平成20年度出土遺物観察表（金属製品）

掲載番号	登録番号	旧遺構名	新遺構名	層位	種類	部位	素材	最長（cm）	最幅（cm）	最厚(cm)	重量（g）	特徴等	分類	時期	その他
361	37	4号土坑	225号土坑	埋土	小柄		鉄・銅？	(9.60)	1.50	0.50	20.70				
374	38	13号土坑	231号土坑	埋土	鋏？		鉄	(6.90)	2.50	0.50	14.10				
375	39	13号土坑	231号土坑	埋土	和鋏		鉄	(5.30)	(1.50)	0.80	8.20				
376	42	13号土坑	231号土坑	埋土	刀子	完形	鉄	17.50	2.15	0.40	39.60				
377	44	13号土坑	231号土坑	埋土	火打金	完形	鉄	2.50	6.40	0.70	13.10				
378	43	13号土坑	231号土坑	埋土	火打金	完形	鉄	3.10	6.70	1.00	37.50				
379	41	13号土坑	231号土坑	埋土	棒状製品		鉄	(6.15)	1.20	(0.40)	5.00				
380	40	13号土坑	231号土坑	埋土	不明		鉄	(5.60)	1.80	(0.60)	7.30	棒状のもの２本接合？			
388	72	13号土坑	231号土坑	埋土	柄鏡		銅	12.00	7.00	0.12	28.50				
424	73	18号土坑	236号土坑	埋土	柄鏡		銅	11.15	6.45	0.30	40.80				
449	46	23号土坑	241号土坑	埋土	和鋏		鉄	(10.80)	1.30	0.30	12.20				
460	50	25号土坑	243号土坑	埋土	刀子	刃部	鉄	(6.80)	1.40	0.30	4.70				
461	49	25号土坑	243号土坑	埋土	刀子	刃部	鉄	(7.70)	2.20	0.30	5.00				
466	74	25号土坑	243号土坑	埋土	方形鏡		銅	8.20	5.15	0.30	28.80	方形			
473	51	27号土坑	245号土坑	埋土	刀子	刃部	鉄	(8.50)	1.60	0.40	6.10				
474	52	27号土坑	245号土坑	埋土	不明		鉄	(4.45)	(1.40)	(0.35)	3.30				
475	53	27号土坑	245号土坑	埋土	和鋏		鉄	(6.50)	(4.00)	(1.40)	16.00				
498	54	29号土坑	247号土坑	埋土	不明		鉄	(6.20)	2.70	0.60	23.60	穿孔一箇所			
506	75	29号土坑	247号土坑	埋土	柄鏡		銅	8.85	8.80	0.45	99.80				
523	57	35号土坑	251号土坑	埋土	火打金	完形	鉄	2.55	6.80	0.80	10.80				
539	76	36号土坑	252号土坑	埋土	柄鏡		銅	12.45	7.25	0.25	43.90				
542	60	38号土坑	254号土坑	埋土	簪		銀メッキ	(6.50)	0.30	0.20	1.80				
556	59	39号土坑	255号土坑	埋土	環状鉄製品		鉄	3.30	3.60	1.35	8.10				
559	63	41号土坑	256号土坑	埋土	簪	完形	銀メッキ	(13.30)	0.90	0.30	7.60				
560	61	41号土坑	256号土坑	埋土	簪		銀メッキ	(11.50)	1.90	0.20	8.80	耳かき付			
561	64	41号土坑	256号土坑	埋土	簪		銀メッキ	(10.90)	(0.90)	(0.20)	3.60				
562	62	41号土坑	256号土坑	埋土	簪		銀メッキ	(9.40)	0.30	0.30	4.10	付着物（布？）			
558	65	41号土坑	256号土坑	埋土	笄		銀メッキ	(17.40)	1.05	1.00	9.50	中央部欠損			
590	66	42号土坑	257号土坑	埋土	小柄		鉄・銅	(7.45)	(1.45)	(0.50)	13.70				
610	70	47号土坑	261号土坑	埋土	簪	完形	銀メッキ	15.00	1.10	0.20	9.10				
648	68	54号土坑	267号土坑	埋土	小柄		鉄・銅	(11.85)	1.85	0.55	14.30				
649	69	54号土坑	267号土坑	埋土	毛抜き		鉄	(5.40)	1.40	0.20	1.80				

第18表　平成20年度出土遺物観察表（木製品）

掲載番号	登録番号	旧遺構名	新遺構名	層位	種類	部位	素材	最長（cm）	最幅(cm)	最厚(cm)	重量（g）	特徴等	分類	時期	その他
462	48	25号土坑	243号土坑	埋土	櫛		木	(2.60)	(4.80)	(0.50)	1.80				
499	55	29号土坑	247号土坑	埋土	櫛		木	(4.90)	(5.00)	(0.90)	3.30				

第19表　平成20年度出土遺物観察表（石製品・その他）

掲載番号	登録番号	出土地点	新遺構名	層位	種類	残存率	素材	最長（cm）	最幅(cm)	最厚(cm)	重量(g)	石質	産地	時代	備考
452	47	24号土坑	242号土坑	埋土	硯	略完形		14.90	6.40	1.70	263.10				
616	67	49号土坑	263号土坑	埋土	碁石？	完形		2.30	2.80	1.10	12.40				
716	71	75号土坑	283号土坑	埋土	簪	完形	セルロイド？	15.00	1.10	0.20	9.10				
*		表採遺物			槍先形尖頭器	完形		9.15	2.05	0.60	11.40	珪質頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	

V　自然科学的分析

1　は　じ　め　に

東北地方岩手県域には、岩手、秋田駒ヶ岳、焼石、栗駒、鳴子、鬼首、肘折、十和田など岩手県域とその周辺の火山のほか、洞爺、阿蘇、姶良など北海道や九州など遠方の火山に由来するテフラ（火山砕屑物，いわゆる火山灰）が数多く認められる。テフラの中には、すでに噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、層位や年代が不明な土層やテフラが認められた奥州市胆沢区坪渕㈱遺跡においても、発掘調査担当者により採取された試料を対象に、火山ガラスの屈折率測定を加えたテフラ組成分析を行って指標テフラの検出同定を実施し、遺跡の土層の層位や年代に関する資料を収集することになった。測定分析の対象となった試料は、試料１と試料２の２点（表１）である。

2　テフラ組成分析

（1）分　析　方　法

分析対象となった２試料について、火山ガラス比分析と重鉱物組成分析を合わせたテフラ組成分析を実施して、試料に含まれる火山ガラスの形態色調別組成や、重鉱物の組み合わせについて調べた。分析の手順は次のとおりである。

1）試料１について７ｇ、試料２について11ｇを秤量。
2）超音波洗浄により泥分を除去。
3）80°Cで恒温乾燥。
4）実体顕微鏡下で試料を観察。
5）分析篩により1/4 ～ 1/8mmの粒子を篩別。
6）偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、火山ガラスの色調・形態別比率を求める（火山ガラス比分析）。
7）偏光顕微鏡下で重鉱物250粒子を観察し、重鉱物組成を求める（重鉱物組成分析）。

（2）分　析　結　果

テフラ組成分析の結果をダイヤグラムにして図１に、火山ガラス比と重鉱物組成の内訳を表２と表３に示す。ここでは、いずれの試料からも火山ガラスを検出できた。試料１には、少量の火山ガラスが含まれている（3.2%）。火山ガラスは、比率が高い順に繊維束状に発泡した軽石型（1.6%）、スポンジ状に発泡した軽石型（1.2%）、分厚い中間型（0.4%）である。火山ガラス比分析の際に認められた火山ガラスは、無色透明あるいは白色であった。重鉱物としては、比率が高い順に斜方輝石（49.2%）、単斜輝石（20.0%）、磁鉄鉱（15.6%）が認められる。

試料２には比較的多くの火山ガラスが含まれている（33.2%）。火山ガラスは、量が多い順に繊維束状に発泡した軽石型（15.6%）、スポンジ状に発泡した軽石型（15.2%）、中間型（0.8%）、透明のバブル型（1.6%）である。火山ガラスの色調としては、白色や無色透明それにごくわずかに褐色の中間型ガラスも認められる。重鉱物としては、比率が高い順に斜方輝石（37.6%）、磁鉄鉱（31.2%）、単斜輝石（15.2%）が認められる。

3　火山ガラスの屈折率測定

（1）測　定　方　法

テフラ組成分析では、火山ガラスの色調形態別比率や重鉱物組成上の特徴を把握することはできるが、よほどそれらに特徴があるテフラでない限り、起源を明確にすることは困難である。実際、日本列島とその周辺における主要な指標テフラの年代や分布さらに岩石記載的な特徴を明らかにしたテフラ・カタログ（町田・新井，1992，2003）では、指標テフラとの同定精度の向上のために、火山ガラスや鉱物の屈折率や、データは多くないものの火山ガラスの主成分化学組成などが掲載されている。

そこで、今回は２試料に含まれる火山ガラスについて、温度変化型屈折率測定装置（古澤地質社製MAIOT）により、屈折率（n）の測定を合わせて実施した。

（2）測　定　結　果

試料１に含まれる火山ガラス（32粒子）の屈折率（n）は、1.497（３粒子）、1.499-1.501（５粒子）、1.510-1.514（24粒子）で、trimodalであった。一方、試料２に含まれる火山ガラス（31粒子）の屈折率（n）はほぼ同一rangeに入り、その値は1.496-1.502であった。

4　考　　察

分析対象のうち、試料２については、送付された写真を見る限り、比較的純度が高い試料のようで、これはテフラ組成分析の結果からも指示されよう。実際には、現地における分析者による土層断面観察が必要ではあるが、軽石型ガラスに富む火山ガラスの形態別組成、両輝石（斜方輝石および単斜輝石）に富む重鉱物組成、そして火山ガラスの屈折率などを合わせて考慮すると、試料２に含まれるテフラ粒子については、915年に噴出したと考えられている十和田ａテフラ（To-a，大池，1972，町田ほか，1981，町田・新井，1992，2003）に由来すると考えられる。したがって、試料２が採取された土層については、To-aの可能性が考えられよう。このことから、北側調査区106号土坑はTo-aより下位にある可能性が高いと推定される。

一方、屈折率特性がtrimodalな試料１に含まれるテフラ粒子については、火山ガラスの比率も高くないことを合わせると、複数のテフラに由来するものと思われる。火山ガラスの形態や屈折率などから、起源として考えられるテフラとしては、胆沢扇状地周辺におけるテフラの調査成果などから（早田，1989，未公表資料，渡辺，1996など）、後期更新世以降のテフラだけでも、起源の候補として、鳴子潟沼上原テフラ（Nr-KU，約１～２万年前[*1]，早田，1989，町田・新井，1992，2003，n：1.492-1.500）、浅間板鼻黄色軽石（As-YP，n：1.501-1.505，約1.3～1.4万年前[*1]，新井，1962，町田・新井，1992，2003）およびそれに関係するテフラ、肘折尾花沢テフラ（Hj-O，約1.1～1.2万年前[*1]，n：1.499-1.504，米地・菊池，1966，早田，1989，町田・新井，1992，2003）、十和田中掫テフラ（To-Cu，約5,500年前[*1]，n：1.508-1.512，大池ほか，1966，早川，1983，町田・新井，1992，2003），To-aなどがあげられる。

それらの中で、試料１にもっとも多く含まれる火山ガラス（n：1.510-1.514）については、To-Cuに由来する可能性が高いようにも思える。そうすれば、試料１については、To-Cu降灰後に形成された土層から採取されたことになる。ただ、現段階での信頼度の高い同定は困難なことから、今後さらに信頼度の高いEPMAを利用した火山ガラスの主成分化学組成分析などにより、同定精度の向上が図られることが期待される。

5　ま　と　め

奥州市胆沢区坪渕Ⅱ遺跡で採取された２試料を対象に、テフラ組成分析を行った。その結果、十和田ａ火山灰（To-a, 915年）のほか、さまざまなテフラに由来する可能性のある火山ガラスが検出された。

*1　放射性炭素（14C）年代．As-YPとTo-Cuの暦年較正年代については，約1.5～1.65万年前および約6,000年前と考えられている（町田・新井，2003）．

文献

新井房夫（1962）関東盆地北西部の第四紀編年．群馬大学紀要自然科学編，10，p.1-79.

福田友之（1986）考古学からみた「中掫軽石」の降下年代．弘前大学考古学研究，３，p.4-15.

早川由紀夫（1983）十和田火山中掫テフラ層の分布，粒度組成，年代．火山，第２集，28，p.263-273.

町田　洋・新井房夫（1976）広域に分布する火山灰－姶良Tn火山灰の発見とその意義－．科学，46，p.339-347.

町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．東京大学出版会，276p.

町田　洋・新井房夫（2003）新編火山灰アトラス．東京大学出版会，336p.

大池昭二（1972）十和田火山東麓における完新世テフラの編年．第四紀研究，11，p.232-233.

大池昭二・中川久夫・七崎　修・松山　力・米倉伸之（1966）馬淵川中・下流沿岸の段丘と火山灰．第四紀　研究，５，p.29-35.

早田　勉（1989）テフロクロノロジーによる前期旧石器時代遺物包含層の検討．第四紀研究，28，p.269-282.

渡辺満久（1996）胆沢台地の広域テフラ．日本第四紀学会編「第四紀露頭集－日本のテフラ」，p.45.

米地文夫・菊池強一（1966）尾花沢軽石について．東北地理，18，p.23-27.

表１　テフラ分析試料採取地点

分析試料	採取地点
試料１	北側調査区最西端
試料２	北側調査区106号土坑ベルト

表２　火山ガラス比分析結果

試料	bw(cl)	bw(pb)	bw(br)	md	pm(sp)	pm(fb)	その他	合計
1	0	0	0	1	3	4	242	250
2	4	0	0	2	38	39	167	250

数字は粒子数．bw：バブル型，md：中間型，pm：軽石型，cl：透明，pb：淡褐色，br：褐色，sp：スポン ジ状，fb：繊維束状．

表３　重鉱物組成分析

試料	ol	opx	cpx	ho	bi	mt	その他	合計
1	0	123	50	0	0	39	38	250
2	0	94	38	0	0	78	40	250

数字は粒子数．ol：カンラン石，opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石，ho：角閃石，bi：雲母，mt：磁鉄鉱．

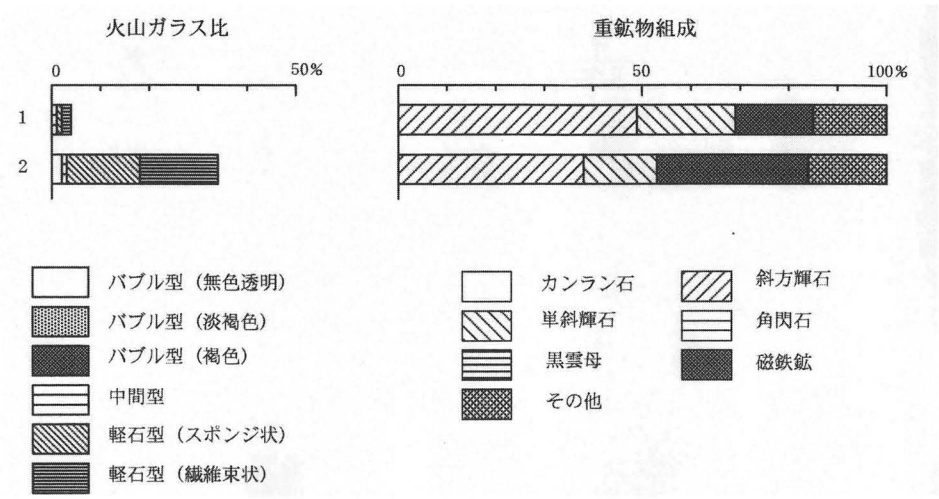
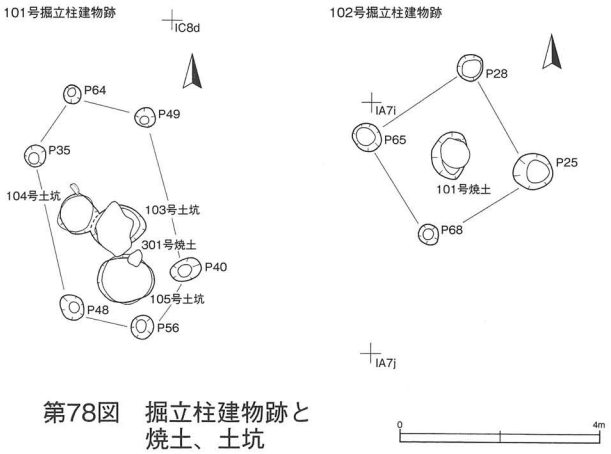


図１　坪渕Ⅱ遺跡のテフラ組成ダイヤグラム

Ⅵ まとめ

1　縄文時代の遺構について

平成19年度調査では、竪穴住居跡が２棟検出されている。１棟は縄文時代後期中葉、もう１棟は縄文時代晩期後葉である。今回確認された縄文時代の遺構の配置を見てみると、北側調査区の北側境に検出された後者の竪穴住居跡を境に、東側斜面では縄文時代晩期の遺構が、西側斜面では縄文時代後期の遺構が広がる様相が窺える。北側調査区中腹から現道を含む調査区中央部は、近・現代まで生活が営まれた場所で、その際の造成等のためか、縄文時代の遺構がほとんど確認されない。



第78図　掘立柱建物跡と焼土、土坑

次に縄文時代中・後期を中心として検出される掘立柱建物跡についてであるが、本遺跡でも第78図に示したように北側調査区と南側調査区からそれぞれ１棟ずつ、計２棟確認された。前者では４本柱（102号掘立柱建物跡）のものが、後者では亀甲型の６本柱（101号掘立柱建物跡）のものが検出され、それぞれ柱穴から出土した遺物から縄文時代後期に位置づけた。この２棟の建物跡には、いずれも中央付近に焼土が確認されているが、次に両者の関連について見てみる。

北上市の上川岸Ⅱ遺跡では、６本柱（長方形）で構成された掘立柱建物跡と同一の検出面で、ほぼ中央に土坑が検出されているが、どちらの遺構からも縄文時代後期の遺物が出土し、これらは別々の遺構として報告されている。この上川岸Ⅱ遺跡の例もそうであるが、縄文時代の掘立柱建物跡の中央部に何らかの付属施設をもつような報告はない。

今回、遺構の重複が少ない中で２棟の掘立柱建物跡に、いずれもそれに伴うような焼土が確認されたことは、もしそれが事実であれば縄文時代の掘立柱建物跡の性格を再検討すべき問題となろう。

2　「寺屋敷」と時期不明掘立柱建物跡について

「坪渕」という遺跡名ではあるが、この名称は元々坪渕Ⅰ遺跡付近の低湿地のことを呼んだ地名のようである。現在の字名にも見られるように、この付近は「追分」と呼ばれ、江戸時代に十数軒あった下嵐江屋敷の東半分を示す字名「東下嵐江」に対し、西半分を指した字名である。「旧仙北街道の野がしらにある追分石（道標－仙北街道と下嵐江金山との分岐点を指すもの）にちなむか（「胆沢町地名・屋号調査報告書」胆沢町教委）」、ともされている。下嵐江屋敷は、旧仙北街道の岩手側の山際最後の集落であり、「東下嵐江」から「追分」を過ぎ、ここから本格的な山道となる。現下嵐江Ⅰ・Ⅱ遺跡から坪渕Ⅱ遺跡まではそうした藩境の重要地点であった。藩政時代から下嵐江屋敷と引っ包めて呼ばれている中で、別の呼び名で「寺屋敷」ということばが文献等に出てくるが、このことば（地名）は、追分（坪渕）に住んだことのある方によると、追分全体ではなくもともと畑地だった周辺（今回の調査区付近）をあらわしたものらしい。屋敷といっても「寺があった所」の意味のようで、『安永風土記』（若柳村安永五年風土記御用書出）に見られる「龍澤寺跡」と考えられている。元々金山のあっ

た渋民沢付近にあったものが、「異教徒（キリシタン）に利用されることを逃れてこの地に移った（「水沢市史」）」「鉱山が衰えてから下嵐江部落にうつり政庁から潰された（「胆沢町史　中世編」）」など謂れがある。下記のように『安永風土記』が書かれた18世紀後半ごろには既に畑地になっていたようで、いつ移ったのかも不明である。

一　明蔵山龍澤寺之跡

當郡永徳寺村曹洞宗報恩山永徳寺之由ニ御座候處退轉仕當時ハ寺跡斗相殘申候

右退轉之年月相知不申候當時畑ニ罷成居候事　　『安永風土記』より

今回の調査はこれらの伝承も踏まえて行ったが、掘立柱建物跡が検出されたものの、寺跡とみられるような建物跡にはならなかった。

3　近世以降の墓壙について

今回２カ年の調査によって、近世から近代にかけての墓壙が多数確認され、その数は90基を上回った。これらの詳細は次の第20表に示したとおりだが、ここではこれまでに県内で報告された近世墓壙の調査成果を２例挙げ、さらに本遺跡での墓壙群の内容について述べる。

当センターが平成６年度に調査した北上市岩脇遺跡では、近世墓壙の平面形状と年代について「長方形から方形へ」という傾向を示し、その変化は江戸時代中期の18世紀前半から始まるとした。方形のものは、座棺が埋められるために深さがあることや、他遺跡での長方形墓壙の年代観がその根拠として挙げられている。同じく、平成15年度以降数年にわたり調査が行われた一関市川崎町河崎の柵擬定地では、220基を超える近世墓が確認され平面形を６種に分類している。それによると、およそ半数の90基が楕円形をなすもので、次に円形50基、方形34基となり、長方形のものは11基と最も少ない。ここでも改葬されたものは平面形が不整形をなしているという。これらの年代は、17世紀～19世紀末までと年代幅がある。

一方、坪渕Ⅱ遺跡の墓壙の埋葬時期は、出土した副葬銭の年代から17世紀中葉～昭和期という結果となった。平面形は、長方形・楕円形・方形・円形の概ね４種が確認できたが、改葬されて本来の形状をとどめていないと思われるものも多い。数少ない重複関係から判断して、「長方形→方形」という傾向は本遺跡でも認められ、また方形の墓壙が深いことも確かめられた。形状から見れば、大まかに近世墓は長方形主体、明治以降近代の墓は方形が主体と言えよう。本遺跡における遺構の内容は、北上市岩脇遺跡のその傾向に似ているが、遺物に目を向けると埋葬銭のひとつである鉄銭の埋葬量の違いや、岩脇遺跡で多く認められる「仙臺通寶」が全く出土していないなど、両者には地域的あるいは年代的な差異が存在するものと思われる。

最後に、今回副葬銭に「至道元寶」「元豊通寶」などの北宋銭が含まれていた墓壙が５基（203号・211号・212号・228号・274号土坑）あったが、いずれも寛永通寶とともに出土しており、埋葬された年代がそこまで遡るものではない。また、この周辺に廃棄されていた墓石であるが全部で13基確認された。これらに記された年号をみると、年代は18世紀前半（1719年）～20世紀初頭（1901年）と判断でき、検出された墓壙群の中のいずれかに据えられていたものと考えられる。繰り返しになるが、いずれも改葬時にまとめて放置されたものであろう。　　（木戸口・濱田）

第20表　墓壙観察表

旧遺構名	遺構名	種類	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	出土遺物														人骨（部位）
						銭貨	煙管	簪	笄	陶磁器	刃物	和鋏	毛抜き	火打金	金具	鏡	木櫛	釘	その他	
	201号土坑	墓壙	長方形	98 × 129	44	古寛永・新寛永（文銭）												○		
	202号土坑	墓壙	長方形	54 × 79	33	古寛永・新寛永（文銭）														
	203号土坑	墓壙	正方形	76 × 86	28	古寛永・北宋銭												○		
	204号土坑	墓壙	不整楕円形	78 × 103	33															
	205号土坑	墓壙	長方形	56 × 121	38	古寛永・新寛永（文銭）・北宋銭											○			
	206号土坑	墓壙	不整楕円形	82 × 128	20															
	207号土坑	墓壙	円形	90 × 94	55	古寛永	吸口1													
	208号土坑	墓壙	長方形	92 × 124	8	古寛永・新寛永（文銭）・渡来銭	セット1				○									
	209号土坑	墓壙	円形	90 × 91	70	新寛永ほか														
	210号土坑	墓壙	長方形	94 × 136	47	古寛永・新寛永														
	211号土坑	墓壙	円形	160 × 174	24	古寛永・新寛永・渡来銭														
	212号土坑	墓壙	長方形	81 × 114	48	古寛永・新寛永・渡来銭	雁首1・吸口1				○									
	213号土坑	墓壙	長方形	80 × 124	46	古寛永・新寛永	雁首1・吸口1					○	○							
	214号土坑	墓壙	正方形	75 × 78	17															
	215号土坑	墓壙	楕円形	92 × 134	19	古寛永・新寛永														
	216号土坑	墓壙	不整正方形	99 × 109	37	新寛永・鉄銭	セット1													
	217号土坑	墓壙	不整長方形	88 × 141	27	古寛永・新寛永	吸口1							○						
	218号土坑	墓壙	長方形	73 × 135	10	新寛永														
	(219号土坑)	墓壙	長方形	116 × 140	10														不明鉄製品1	
	(220号土坑)	墓壙	長方形	358 × 128	32	模造銭？				○				○					棒状鉄製品1	
2号	223号土坑	墓壙	略円形	53 × 54	5	古寛永														骨片少量
3号	224号土坑	墓壙	不整円形	86 × 94	10															焼骨少量
4号	225号土坑	墓壙	不整楕円形	97 × 108	29	古寛永	セット1											○	小柄1	焼骨片少量
7号	226号土坑	墓壙	不整形	54 × 70	7															焼骨片少量
8号	227号土坑	墓壙	方形	72 × 75	8															焼骨片
9号	228号土坑	墓壙	不整長方形	93 × 150	38	古寛永・北宋銭	吸口1													焼骨片少量
10号	229号土坑	墓壙	楕円形	100 × 118	44															四肢骨
12号	230号土坑	墓壙	不整長方形	86 × 143	65	鉄銭・寛永通寶	セット1											○		四肢骨
13号	231号土坑	墓壙	長方形	87 × 128	40	古寛永・新寛永	セット1				○	○		○		○			漆膜1	焼骨、四肢骨
14号	232号土坑	墓壙	円形	81 × 81	78	古寛永・新寛永													底板5	頭蓋骨ほか
15号	233号土坑	墓壙	長方形	90 × ?	47	古寛永・新寛永	セット1													
16号	234号土坑	墓壙	不整長方形	77 × ?	27	古寛永・新寛永	雁首2・吸口3			○								○		
17号	235号土坑	墓壙	円形	79 × 83	65															四肢骨
18号	236号土坑	墓壙	不整長方形	85 × 116	40	古寛永・新寛永	雁首1					○			○	○				頭蓋骨片
19号	237号土坑	墓壙	不整長方形	73 × 109	35	古寛永・新寛永	雁首1・吸口1											○		
20号	238号土坑	墓壙	長方形	70 × 102	44	新寛永	セット1													
21号	239号土坑	墓壙	長方形	93 × 112	8	古寛永・新寛永（文銭含）	セット1												不明1・土器5点(36.9 g)	
22号	240号土坑	墓壙	不整長方形	65 × 92	29	古寛永・新寛永													縄文土器3点（25.2 g）	
23号	241号土坑	墓壙	長方形	82 × 131	38	寛永通寶	セット1				○	○								
24号	242号土坑	墓壙	円形	67 × 73	59	古寛永・新寛永	セット1												硯1・漆膜1・木片1	
25号	243号土坑	墓壙	不整円形	70 × 87	53	古寛永	セット1				○					○	○		布1・木片5	焼骨片
26号	244号土坑	墓壙	楕円形	56 × 88	6	古寛永													漆膜1	
27号	245号土坑	墓壙	長方形	84 × 124	38	新寛永					○								その他2	四肢骨ほか
28号	246号土坑	墓壙	不整長方形	102 × 109	49	古寛永・新寛永	セット1												土器1点（8.6 g）	四肢骨
29号	247号土坑	墓壙	不整長方形	96 × 126	68	古寛永・新寛永	セット1							○		○	○			四肢骨
31号	248号土坑	墓壙	楕円形	63 × 109	15	寛永通寶17枚（緡銭）	雁首1												漆膜1	
32号	249号土坑	墓壙	長方形	93 × 117	61	古寛永・新寛永														
34号	250号土坑	墓壙	不整長方形	83 × 105	46	古寛永・新寛永	セット1			○										
35号	251号土坑	墓壙	不整長方形	47 × 63	7	新寛永	セット1							○				○		
37号	253号土坑	墓壙	不整楕円形	101 × 128	63	古寛永														

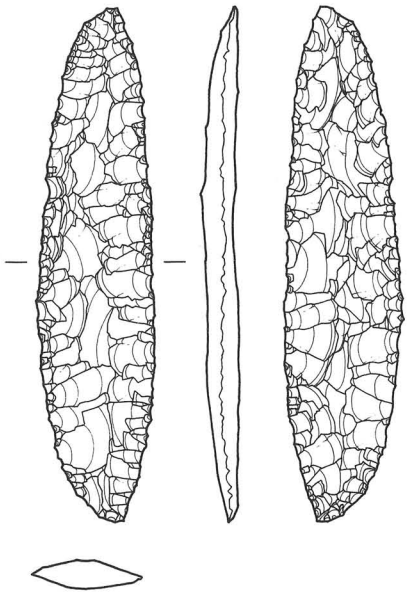
旧遺構名	遺構名	種類	平面形	規模（cm）	深さ（cm）	出土遺物														人骨（部位）
						銭貨	煙管	簪	笄	陶磁器	刃物	和鋏	毛抜き	火打金	金具	鏡	木櫛	釘	その他	
38号	254号土坑	墓壙（明治期）	方形	87 × 89	48	古寛永・新寛永・明治期以降6		○		○									木片多数	頭蓋骨・四肢骨ほか多数
39号	255号土坑	墓壙	方形	80 × 85	62	鉄銭	雁首1											○	環状1・不明2	
41号	256号土坑	墓壙	方形	83 × 96	33	古寛永・新寛永・鉄銭	セット1	○	○		○							○		
42号	257号土坑	墓壙	長方形	68 × 84	6	古寛永・新寛永	羅宇1												小柄2	
43号	258号土坑	墓壙	円形	94 × 98	57	古寛永・新寛永														骨片
44号	259号土坑	墓壙	不整長方形	89 × 126	6	古寛永・新寛永	雁首1													
46号	260号土坑	墓壙	楕円形	77 × 118	9	寛永通寶ほか	雁首1・吸口1											○		
47号	261号土坑	墓壙	長方形	71 × 117	29	古寛永・新寛永	羅宇3	○							○			○	木片1	
48号	262号土坑	墓壙（明治期）	長方形	60 × 85	27	明治期以降												○	幼児用玩具1	
49号	263号土坑	墓壙	不整長方形	60 × 91	27	新寛永													碁石様の石製品1	
51号	264号土坑	墓壙	楕円形	75 × 112	47	古寛永・新寛永	雁首1・羅宇1													
52号	265号土坑	墓壙（明治期）	不整長方形	74 × ?	26	新寛永（文銭含）・鉄銭・大正期以降	雁首2・羅宇1											○		
53号	266号土坑	墓壙	方形	107 × 112	40		セット1・他2											○	不明鉄製品1・ボタン1・ガラス瓶1・縄文土器1	
54号	267号土坑	墓壙	長方形	70 × 107	34								○						小柄1	
55号	268号土坑	墓壙	円形	90 × 92	37	古寛永・新寛永														
56号	269号土坑	墓壙	長方形	79 × 113	31	古寛永・新寛永	雁首1													
57号	270号土坑	墓壙	円形	110 × 113	65	新寛永（文銭）														
58号	271号土坑	墓壙	長方形	85 × 110	30	古寛永・新寛永（文銭含）												○	土器3点（35.0　g）	骨片（焼骨）
61号	272号土坑	墓壙	不整楕円形	79 × 97	8	古寛永・新寛永												○		
63号	273号土坑	墓壙	方形	102 × 117	21	古寛永	煙管1・羅宇1													
64号	274号土坑	墓壙	不整長方形	85 × 144	56	古寛永・新寛永・北宋銭	セット1・吸口1													四肢骨・頭蓋骨片
66号	275号土坑	墓壙	長方形	58 × 106	30	新寛永	吸口1・羅宇1													
67号	276号土坑	墓壙	不整円形	104 × 113	32	新寛永												○	金具1、剥片1（2.3g）、土器1点（　g）	
69号	277号土坑	墓壙	長方形	98 × 137	28	古寛永・新寛永・鉄銭90枚余	セット2											○		部位不明
70号	278号土坑	墓壙	方形	77 × 80	22	鉄銭													不明鉄製品1	四肢骨
71号	279号土坑	墓壙	長方形	75 × 114	37	鉄銭													不明鉄製品1	
72号	280号土坑	墓壙	不整方形	86 × 98	61													○		頭蓋骨片
73号	281号土坑	墓壙	方形	68 × 80	50	鉄銭	セット1											○		四肢骨
74号	282号土坑	墓壙（明治期）	不整長方形	94 × 142	56	明治期以降												○	剥片1(13.7 g)	
75号	283号土坑	墓壙（明治期）	不整長方形	95 × 193	68	大正期以降													髪留め1・木片	
76号	284号土坑	墓壙	長方形	91 × 112	28	古寛永・新寛永（文銭含）	セット1													四肢骨・歯
77号	285号土坑	墓壙	長方形	89 × 108	43															頭蓋骨ほか
78号	286号土坑	墓壙（明治期）	長方形	68 × 124	30	昭和期以降														
80号	287号土坑	墓壙（明治期）	方形	99 × 101	72	明治期以降	セット1											○		四肢骨・頭蓋骨
81号	288号土坑	墓壙（明治期）	不整形	78 × 140	39													○	ビーズ玉4	
82号	289号土坑	墓壙	方形	96 × 102	72														剥片（2.4g）	四肢骨
84号	290号土坑	墓壙（明治期）	不整方形	78 × 80	48	大正期以降														
85号	291号土坑	墓壙（明治期）	不整方形	73 × 76	53	古寛永・新寛永・明治期以降														
86号	292号土坑	墓壙	?	?	55															
87号	293号土坑	墓壙	不整形	72 × ?	36															
90号	294号土坑	墓壙	不整形	56 × 63	30															

4　表面採集遺物

右図の遺物は、平成20年度調査の際に調査区外から採集された珪質頁岩製の槍先形尖頭器である。最大長9.15cm、最大幅2.05cm、最大厚0.6cm、重さ11.4ｇを計り、柳葉形をなす。形態から、縄文時代草創期に属するものと思われるが他に当該期の遺物がなく、また採取した地点の周辺を踏査したが他に遺物は発見されなかった。

5　総　　括

今回の調査により、本遺跡は縄文時代後期（前～中葉）・晩期（中～後葉）を主体とし、近世以降は墓域として利用されていたことが判明した。現在、胆沢ダム建設に伴う発掘調査が進み、周辺の遺跡の様子も次第に明らかになってきた。下嵐江Ⅰ・Ⅱ遺跡では後期旧石器時代の遺物が7,000点あまり出土し、大平野Ⅱ遺跡では、縄文時代中・後期の集落跡の他、縄文時代早期や弥生時代後期の土器が出土するなど、各遺跡において断続的な生活の痕跡が認められている。このことにより、かつて仙北街道の拠点としてにぎわった頃の集落の様子だけではなく、ここに生活した人々の歴史は、縄文時代以前に遡ることができそうである。今後それぞれの調査報告がまとめられることにより、この地域における先史時代の人々の動静を知る手がかりが見えてくるものと思われる。



槍先形尖頭器（S=3/4）

参考文献・引用文献

佐々木勝　1994　「岩手県における縄文時代の掘立柱建物跡について」『岩手県立博物館研究報告第12号』岩手県立博物館

斎藤邦雄・酒井宗孝　1994「岩手県の縄文期葬制遺構について」『北奥古代文化』第23号　北奥古代文化研究会

中村　大　2000「土器の出土状態からみた土壙墓の認定について－縄文時代の北日本を中心として－」『國學院大學考古学資料館紀要』第16輯　國學院大學考古学資料館

金子昭彦　2001「亀ヶ岡文化の住居類型」『亀ヶ岡文化－集落とその実体－晩期遺構集成Ⅰ』日本考古学協会2001年度盛岡大会研究発表資料集

金子昭彦　2003「墓と捨て場から見た東北北部縄文晩期の居住様式」『縄文時代』14号　縄文時代文化研究会

金子昭彦　2004「東北北部縄文晩期における副葬品の意味（予察）－階層化社会を読みとることができるか－『縄文時代』15号　縄文時代文科研究会

中村　大　2007「亀ヶ岡文化の葬制」『縄文時代の考古学９　死と弔い－葬制－』（株）同成社

秋田県教育委員会　1994『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書ⅩⅥ　上谷地遺跡』秋田県文化財調査報告書第241集

秋田県教育委員会　1994『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書ⅩⅧ　小田Ⅳ遺跡』秋田県文化財調査報告書第243集

秋田県教育委員会　1998『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書ⅩⅩⅢ　虫内Ⅰ遺跡』秋田県文化財調査報告書第274集

岩手県教育委員会　1966『岩手の民俗資料　昭和38年民俗資料緊急調査報告』文化財調査報告第16集

胆沢町史刊行会　1982『胆沢町史Ⅲ』「古代中世編」胆沢町史刊行会

宮城縣　1970『宮城縣史32』（資料篇9「風土記御用書出　寫本　膽澤郡上膽澤若柳村」）（財）宮城縣史刊行会

胆沢町教育委員会　1997『安永風土記　記載百姓屋敷調べ－220年前の散居の復元－』胆沢町文化財調査報告書第19集

胆沢町教育委員会　2005『胆沢町地名・屋号調査報告書』胆沢町文化財調査報告書第32集

（財）岩埋文　2008　『平成19年度発掘調査報告書　2008』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第524集
（財）岩埋文　1991　『上川岸Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第153集
（財）岩埋文　1996　『岩脇遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第235集
（財）岩埋文　2006　『河崎の柵擬定地発掘調査報告書（第２分冊）』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第474集

写　真　図　版

調査区遠景（平成19年　西から）

調査区近景（平成19年　直上から　上が南）

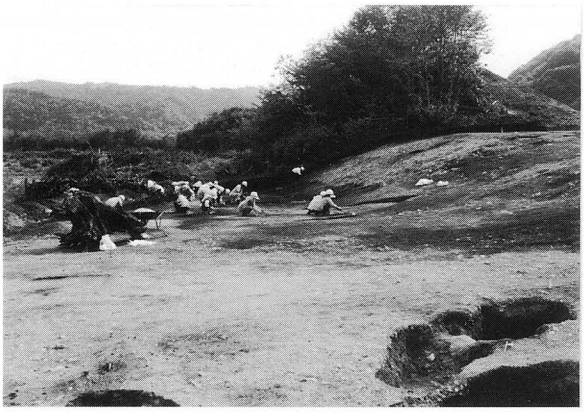
写真図版１　航空写真

平成19年　調査前風景（1）

平成19年　調査前風景（2）

平成19年　調査前風景（3）

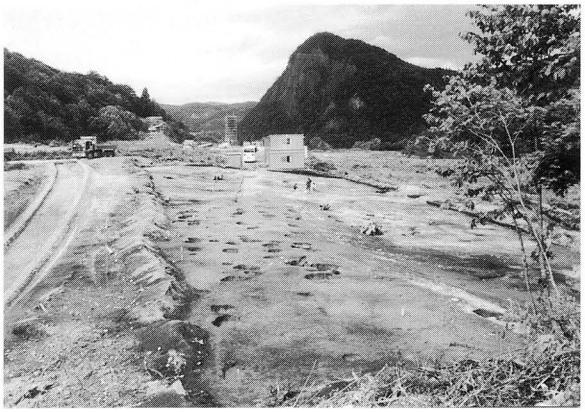
平成19年　基本層序（北側調査区）



平成20年　作業風景（1）

平成20年　作業風景（1）

平成20年　調査前風景（1）

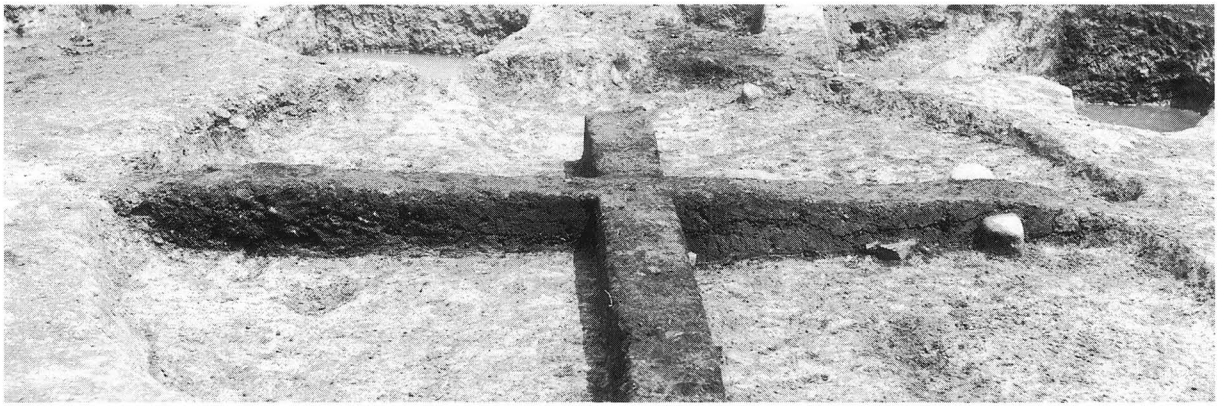


平成20年　調査区全景

写真図版２　調査前風景、基本層序、調査区全景

完掘（東南→）

東西ベルト

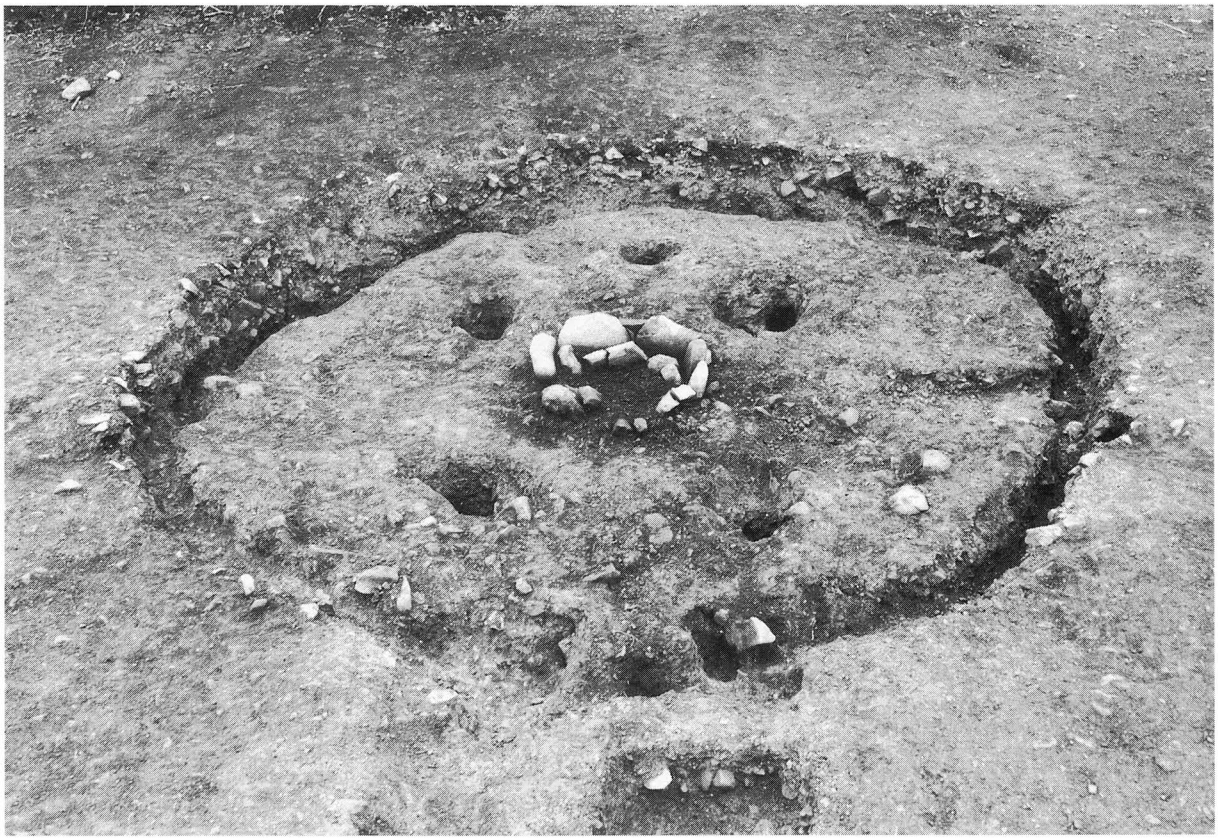


南北ベルト

写真図版３　101号竪穴住居跡

101号竪穴住居内出土遺物

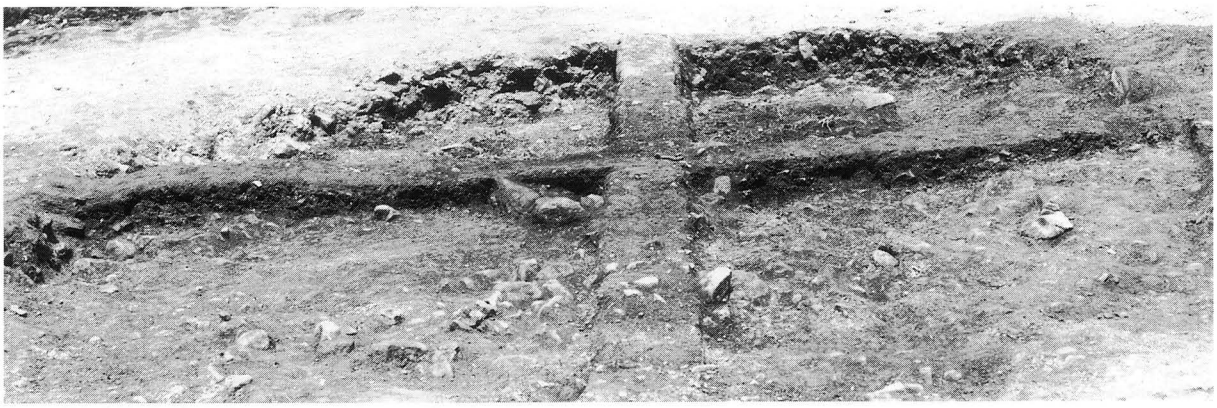
101号竪穴住居跡精査状況



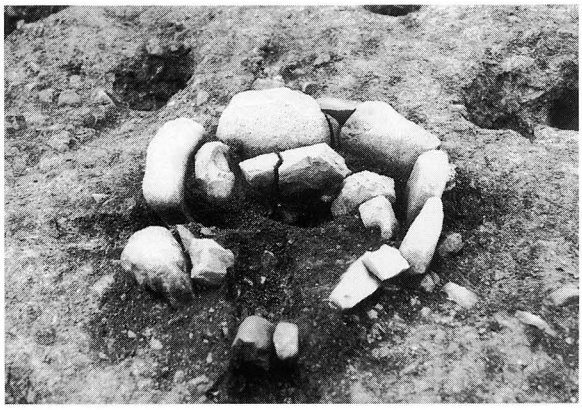
102号竪穴住居跡完掘（東南→）

102号竪穴住居跡　北西－南東ベルト

写真図版４　101・102号竪穴住居跡

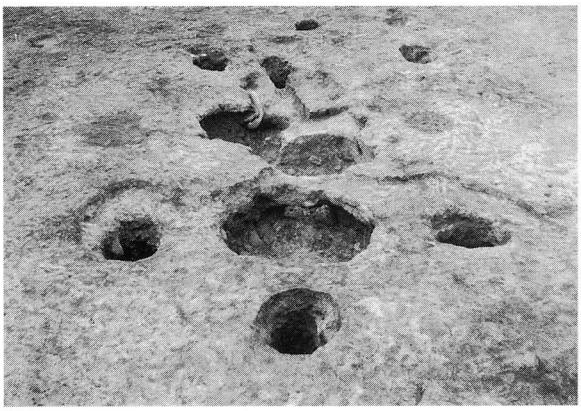


102号竪穴住居跡　南西－北東ベルト



102号竪穴住居内炉

102号竪穴住居内遺物出土状況



101号掘立柱建物跡（南→）

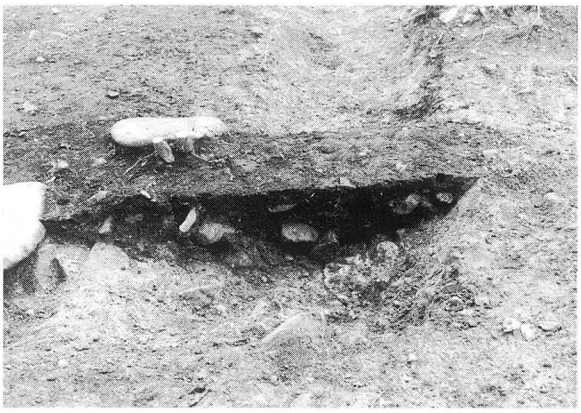
102号掘立柱建物跡（南東→）

301号掘立柱建物跡（南東→）

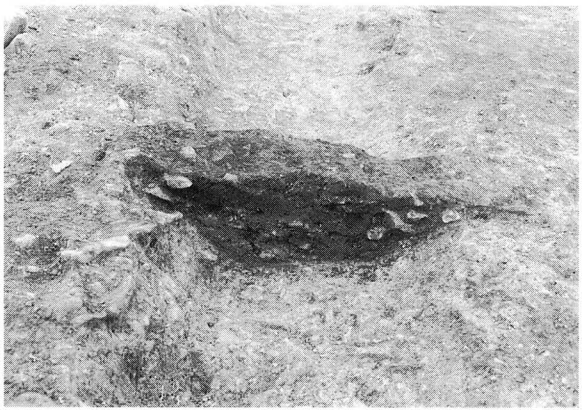
301号掘立柱建物跡（P1）

写真図版５　102号竪穴住居跡、101・102・301号掘立柱建物跡

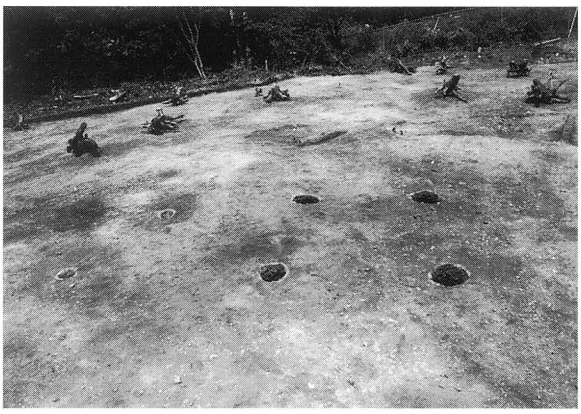
301号掘立柱建物跡（P5）



301号掘立柱建物跡（溝A－A′）

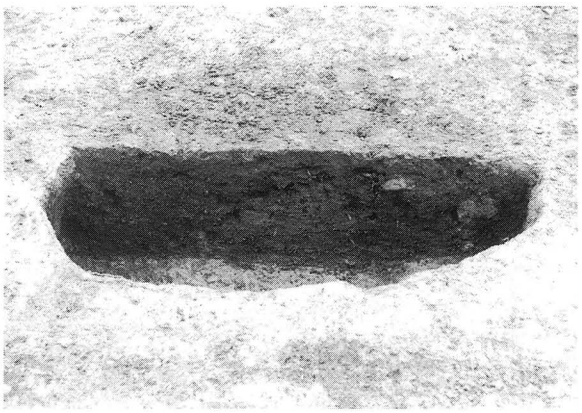


301号掘立柱建物跡（溝B－B′）

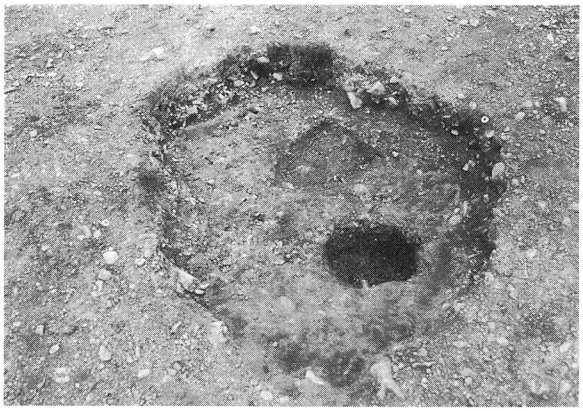


302号掘立柱建物跡（南東→）

101号土坑完掘



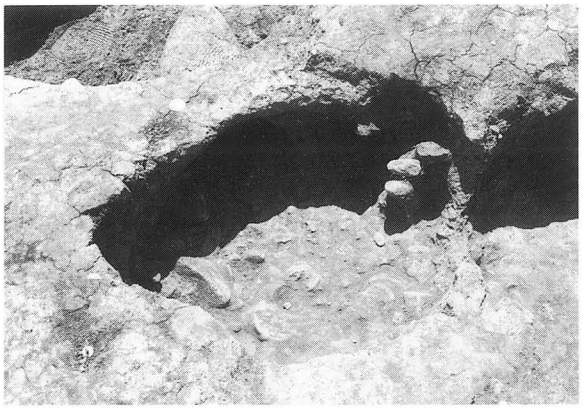
101号土坑断面



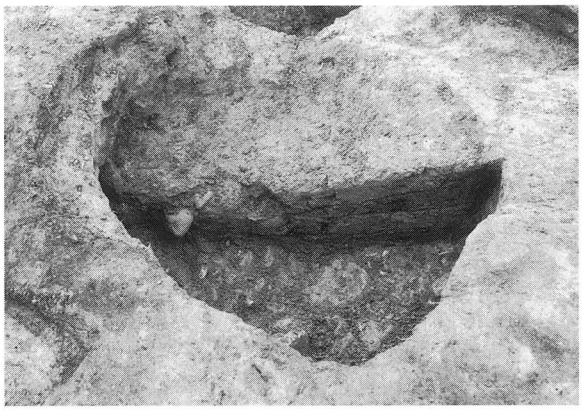
102号土坑完掘

102号土坑断面

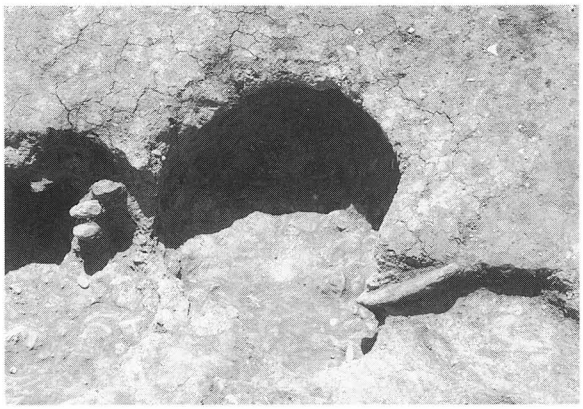
写真図版６　301・302号掘立柱建物跡、101・102号土坑



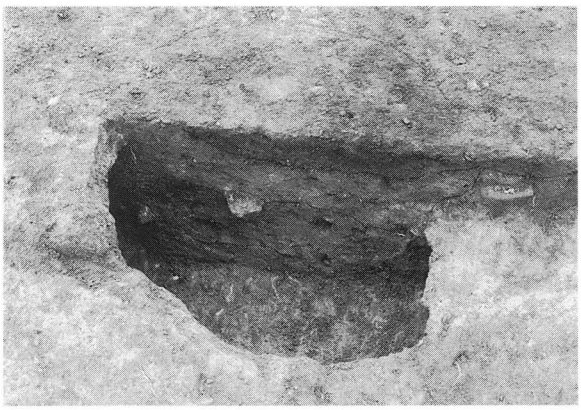
103号土坑完掘



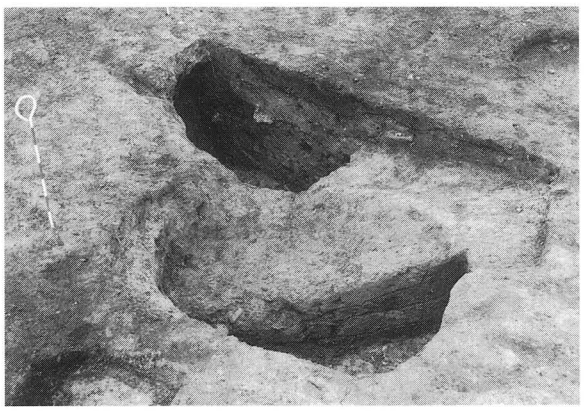
103号土坑断面



104号土坑完掘



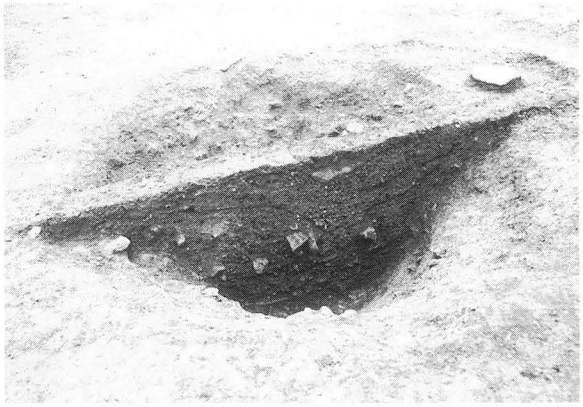
104号土坑断面



103・104号土坑重複状況

106号土坑完掘

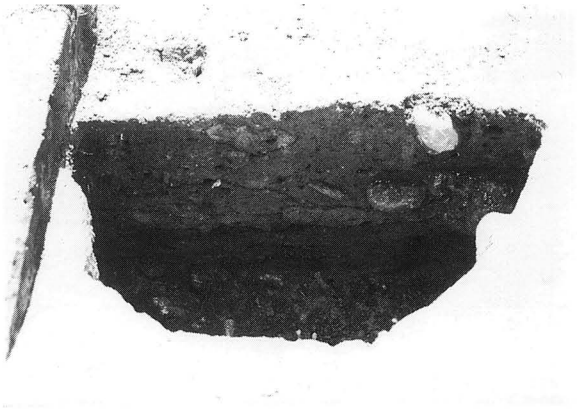
106号土坑遺物出土状況



106号土坑断面

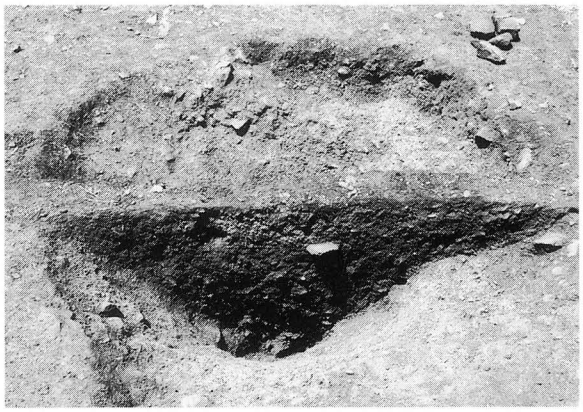
写真図版７　103・104・106号土坑

105号土坑完掘

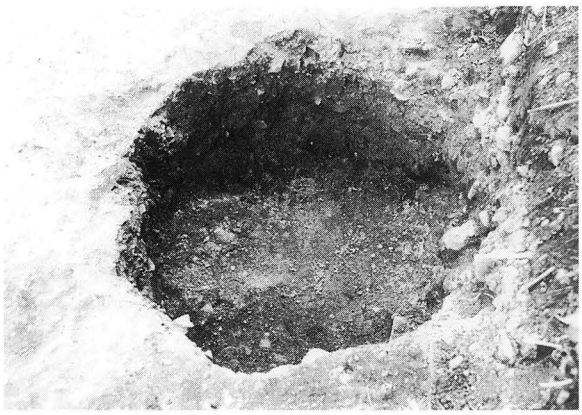


105号土坑断面

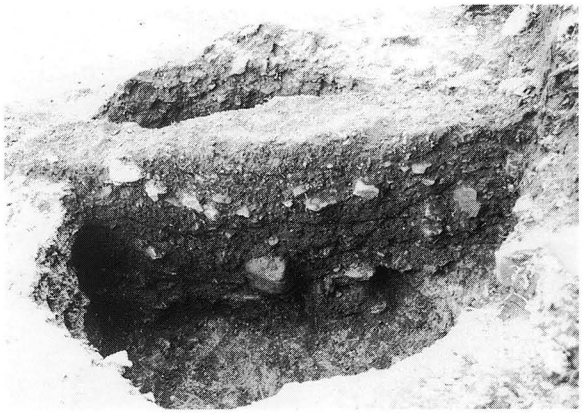
107号土坑完掘



107号土坑断面



108号土坑完掘

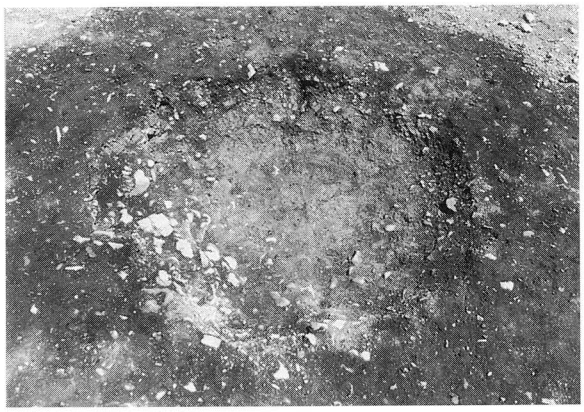


108号土坑断面

109号土坑完掘

109号土坑断面

写真図版８　105・107～109号土坑

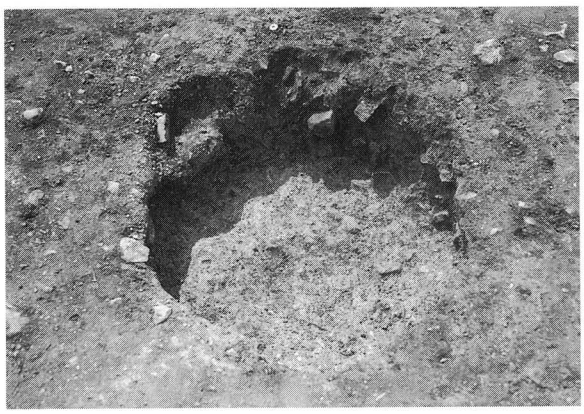


110号土坑完掘

110号土坑断面

111号土坑完掘

111号土坑断面



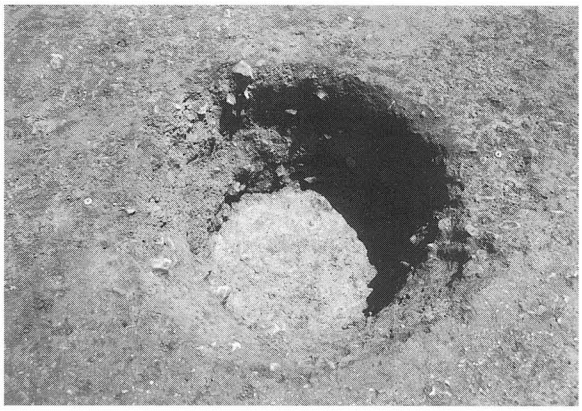
112号土坑完掘

112号土坑断面

113号土坑完掘

113号土坑断面

写真図版９　110～113号土坑

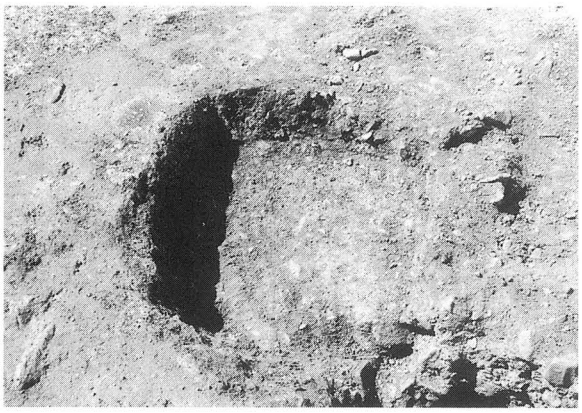


114号土坑完掘

114号土坑断面

116号土坑完掘

116号土坑断面



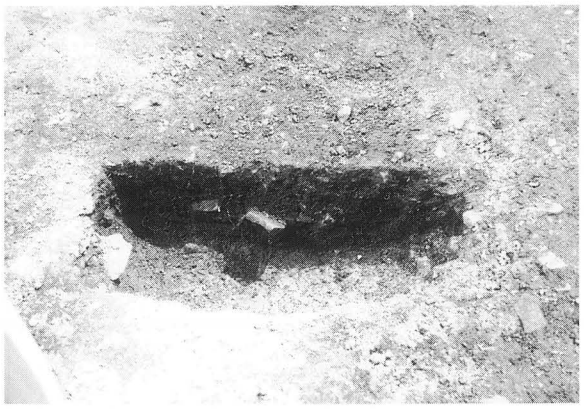
117号土坑完掘

117号土坑断面

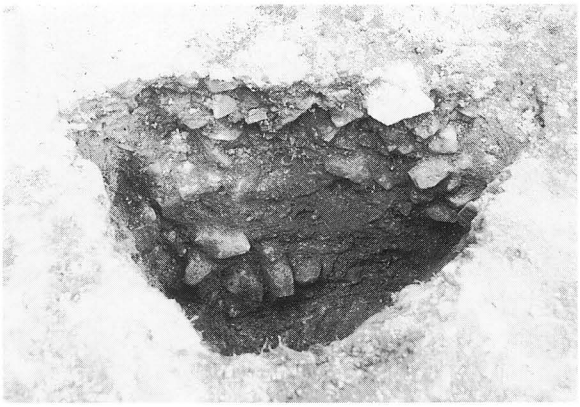
118号土坑完掘

118号土坑断面

写真図版10　114・116～118土坑

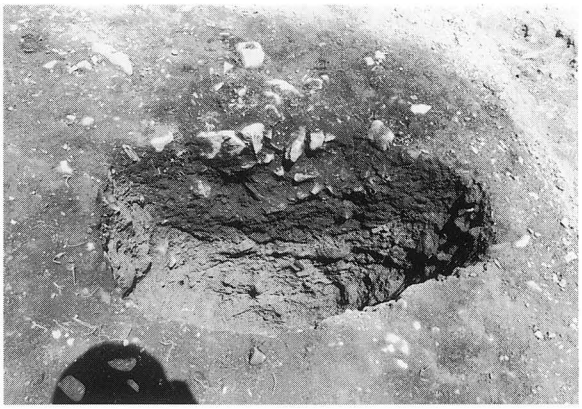


115号土坑断面

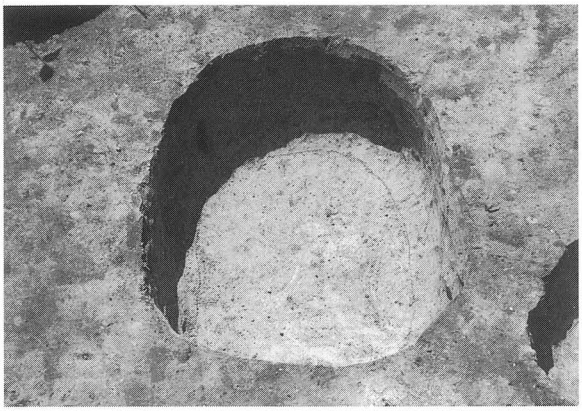


119号土坑断面

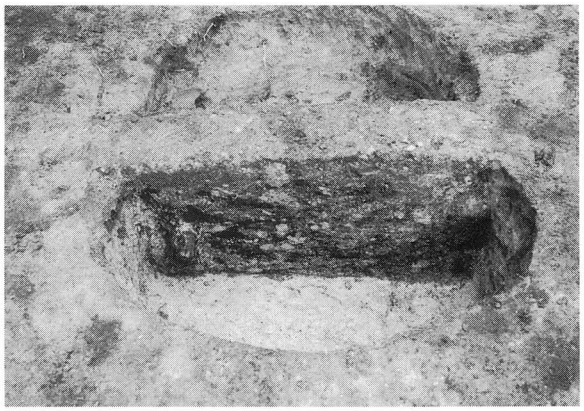
120号土坑・P61・P62完掘



120号土坑断面

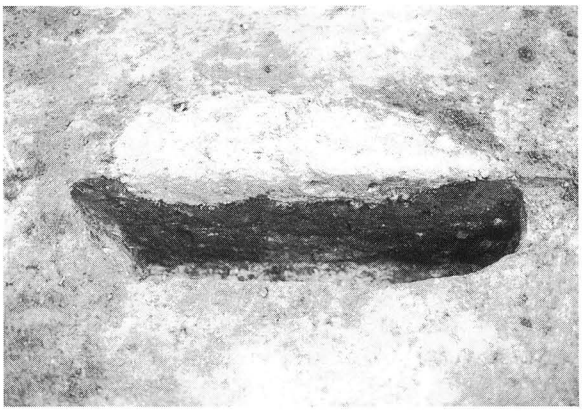


201号土坑完掘



201号土坑断面

202号土坑完掘

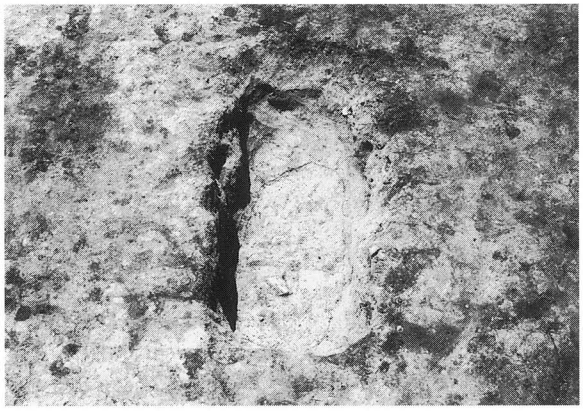


202号土坑断面

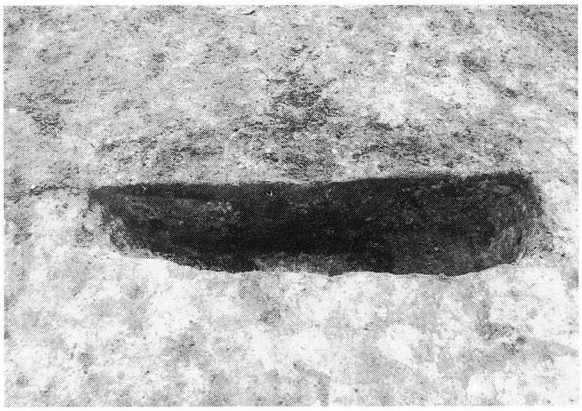
写真図版11　115・119・120・201・202号土坑

203号土坑完掘

204号土坑完掘

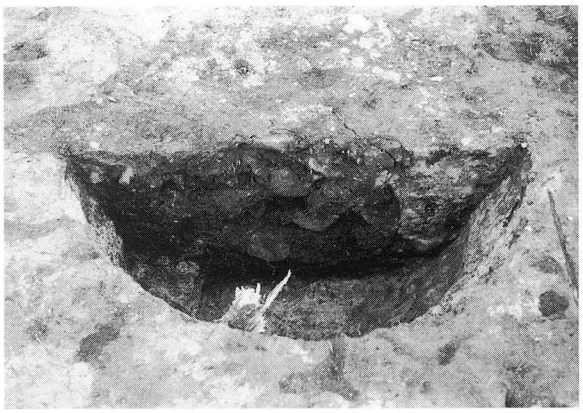


205号土坑完掘

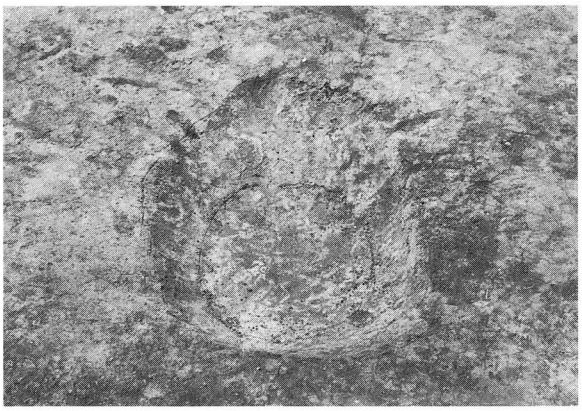


205号土坑断面

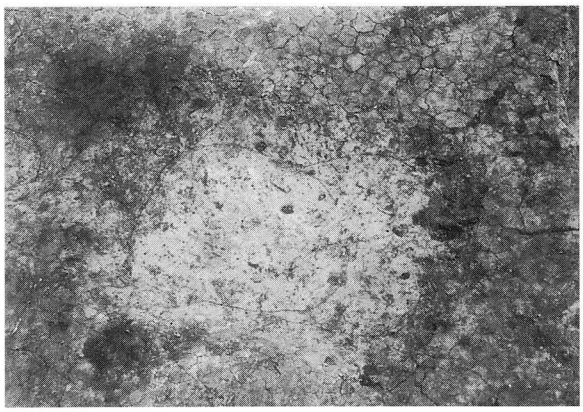
207号土坑完掘



207号土坑断面

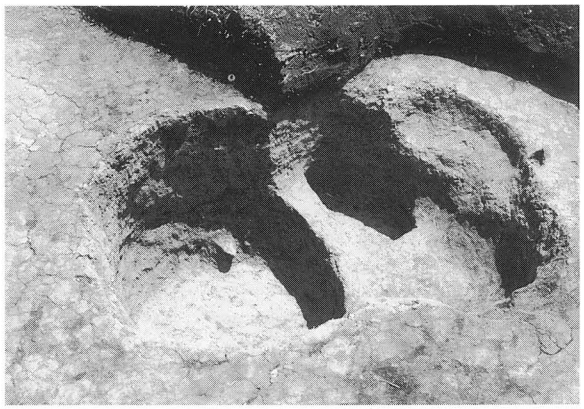


206号土坑完掘



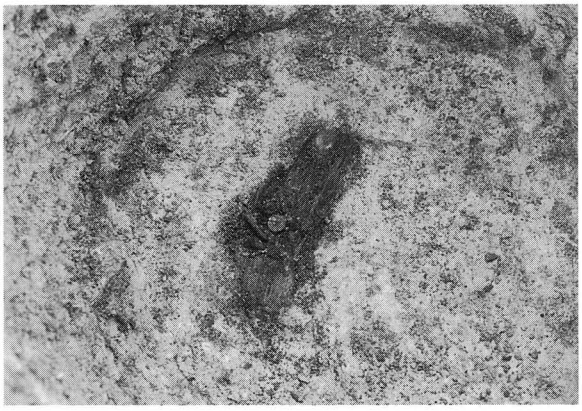
208号土坑完掘

写真図版12　203～208号土坑

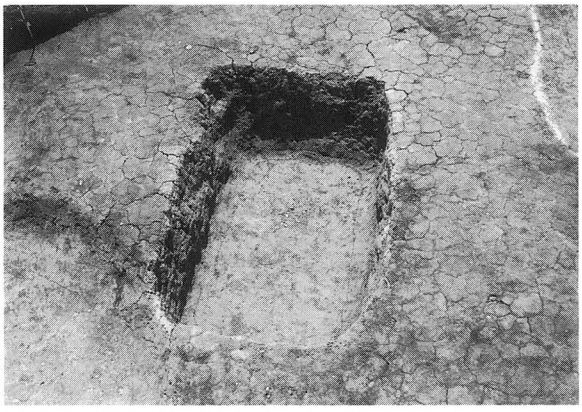


209号（手前）・301号土坑完掘

301号土坑断面

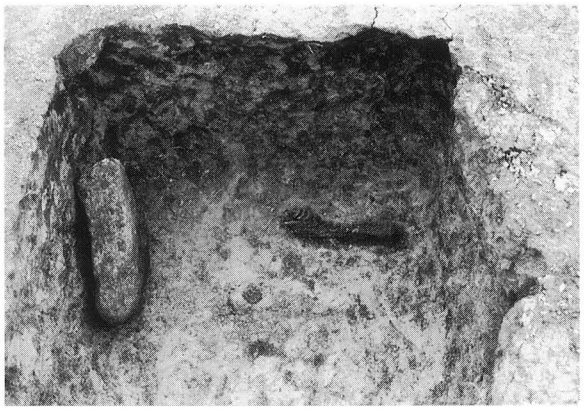


209号土坑遺物出土状況



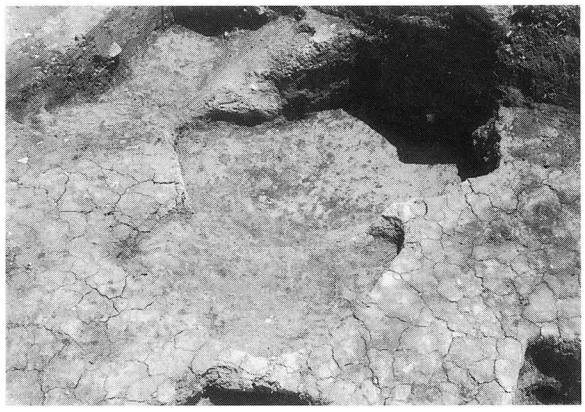
210号土坑完掘

212号土坑完掘



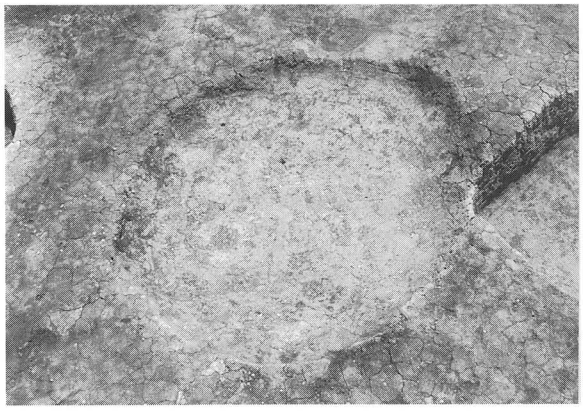
212号土坑遺物出土状況

213号土坑遺物出土状況



213号・214号土坑（手前）完掘

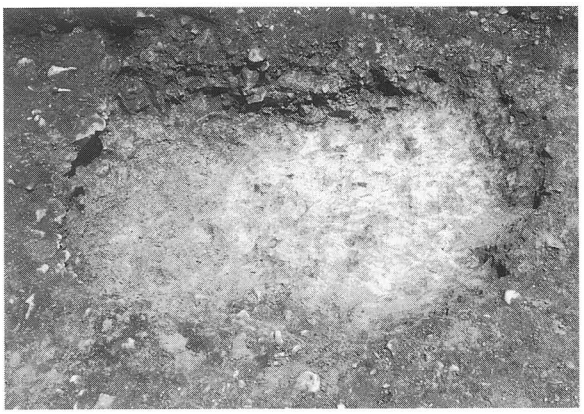
写真図版13　209・210・212～214・301号土坑



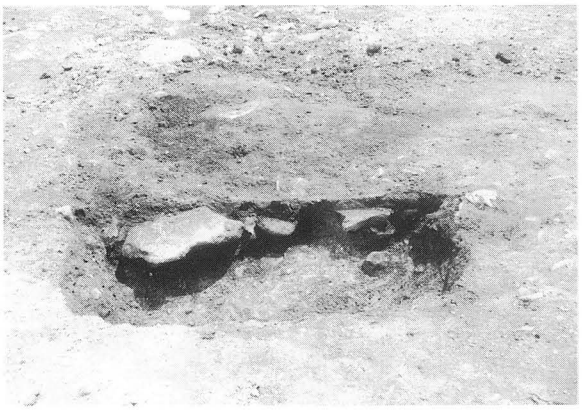
211号土坑完掘

215号土坑完掘

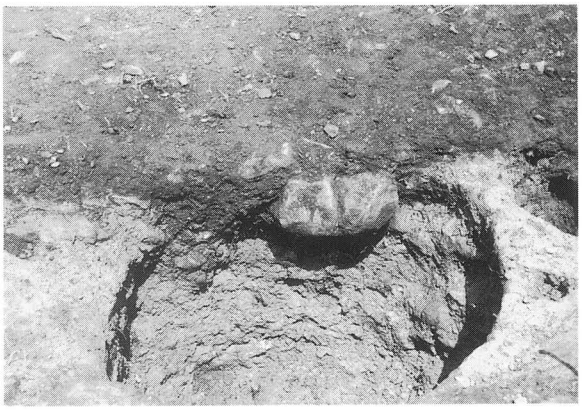
216号土坑完掘



217号土坑完掘



220号土坑断面



221号土坑断面

201号溝　219～222号坑

201号溝断面

写真図版14　211・215～217・219～222号土坑、201号溝

101号焼土

101号焼土断面

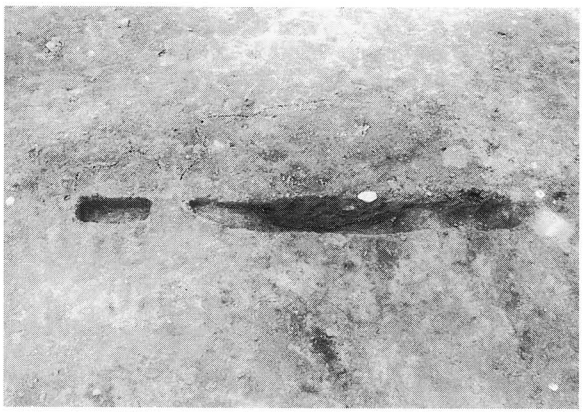
102号焼土

102号焼土断面

201号焼土①断面

201号焼土②断面

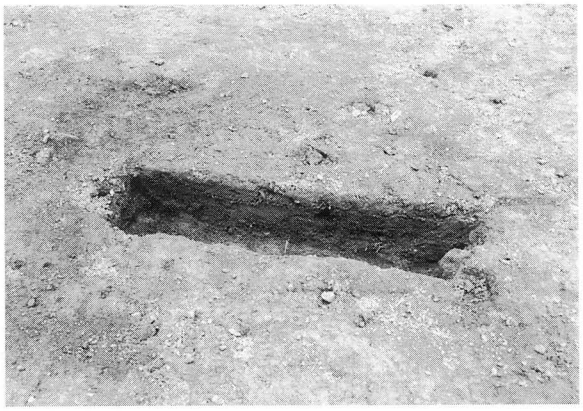
301号焼土



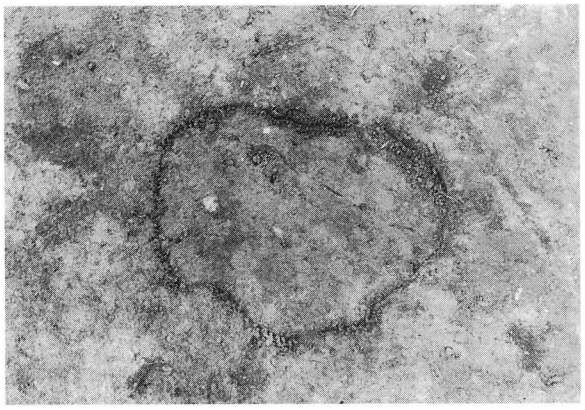
301号焼土断面

写真図版15　101・102・201・301号焼土

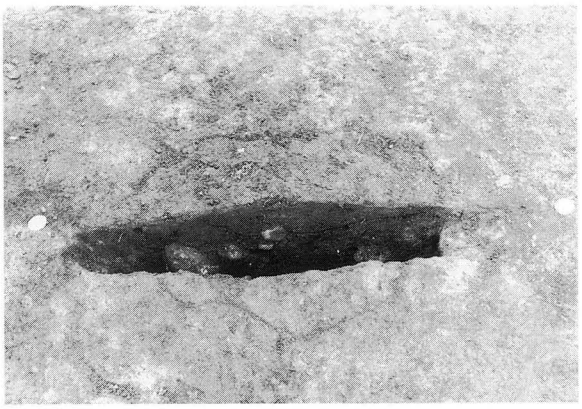
302号焼土



302号焼土断面

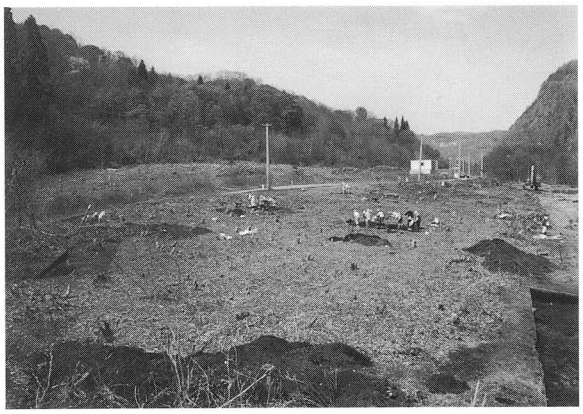


303号焼土

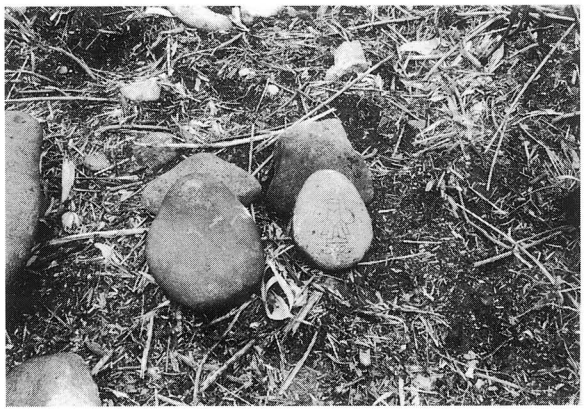


303号焼土断面

北側調査区調査風景（北東→）



南側調査区調査風景（平成19年.南西→）

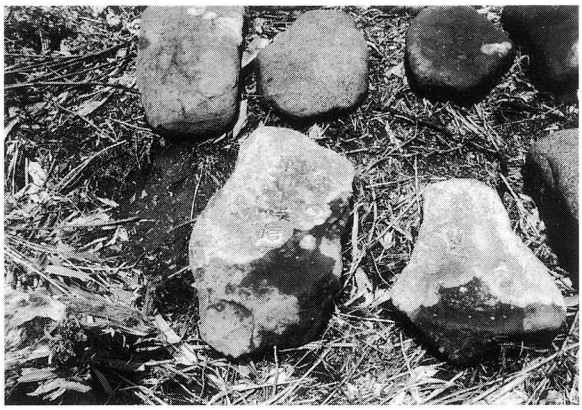


墓石①

墓石②

写真図版16　302・303号焼土、作業風景、墓石(1)

墓石③

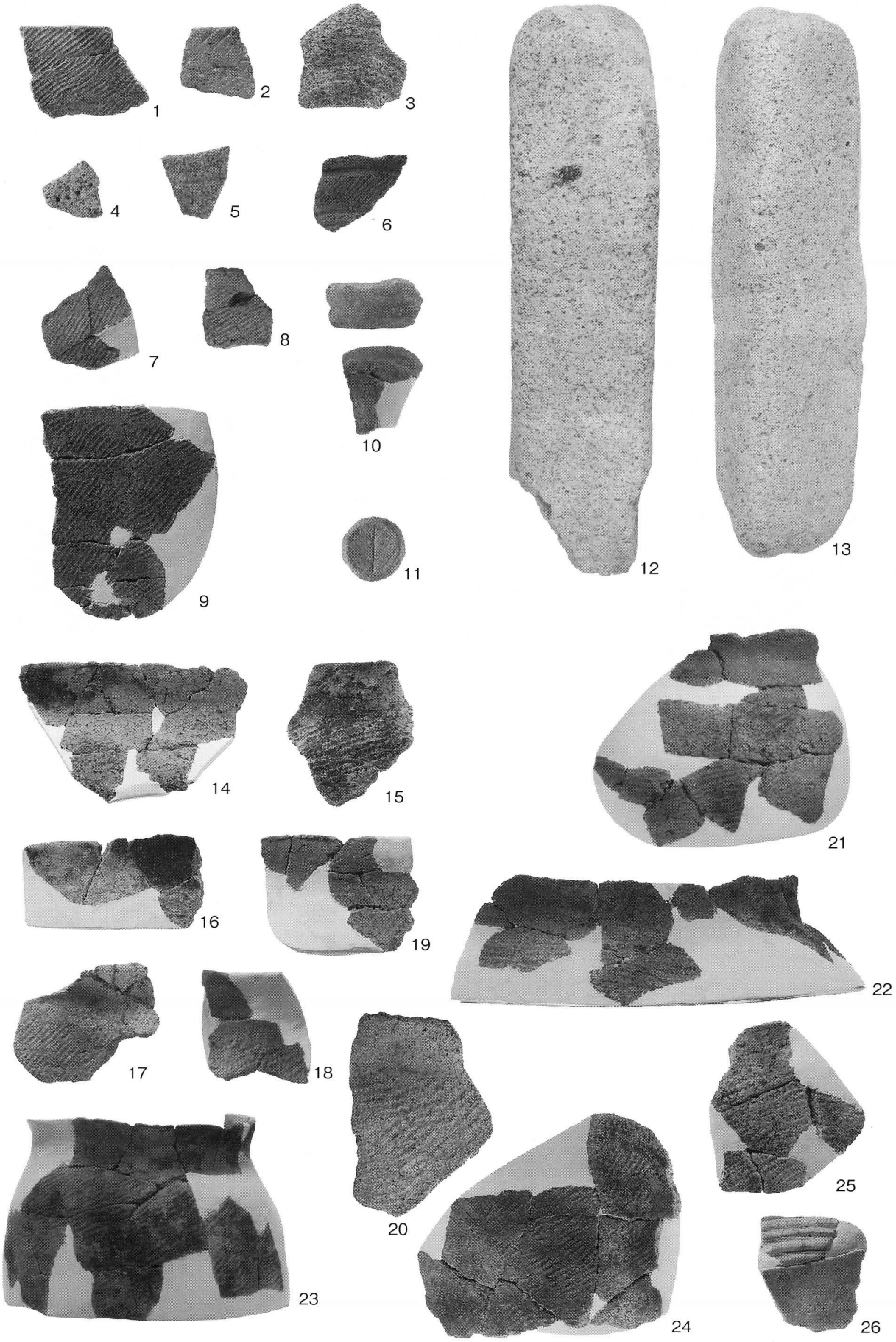


墓石④

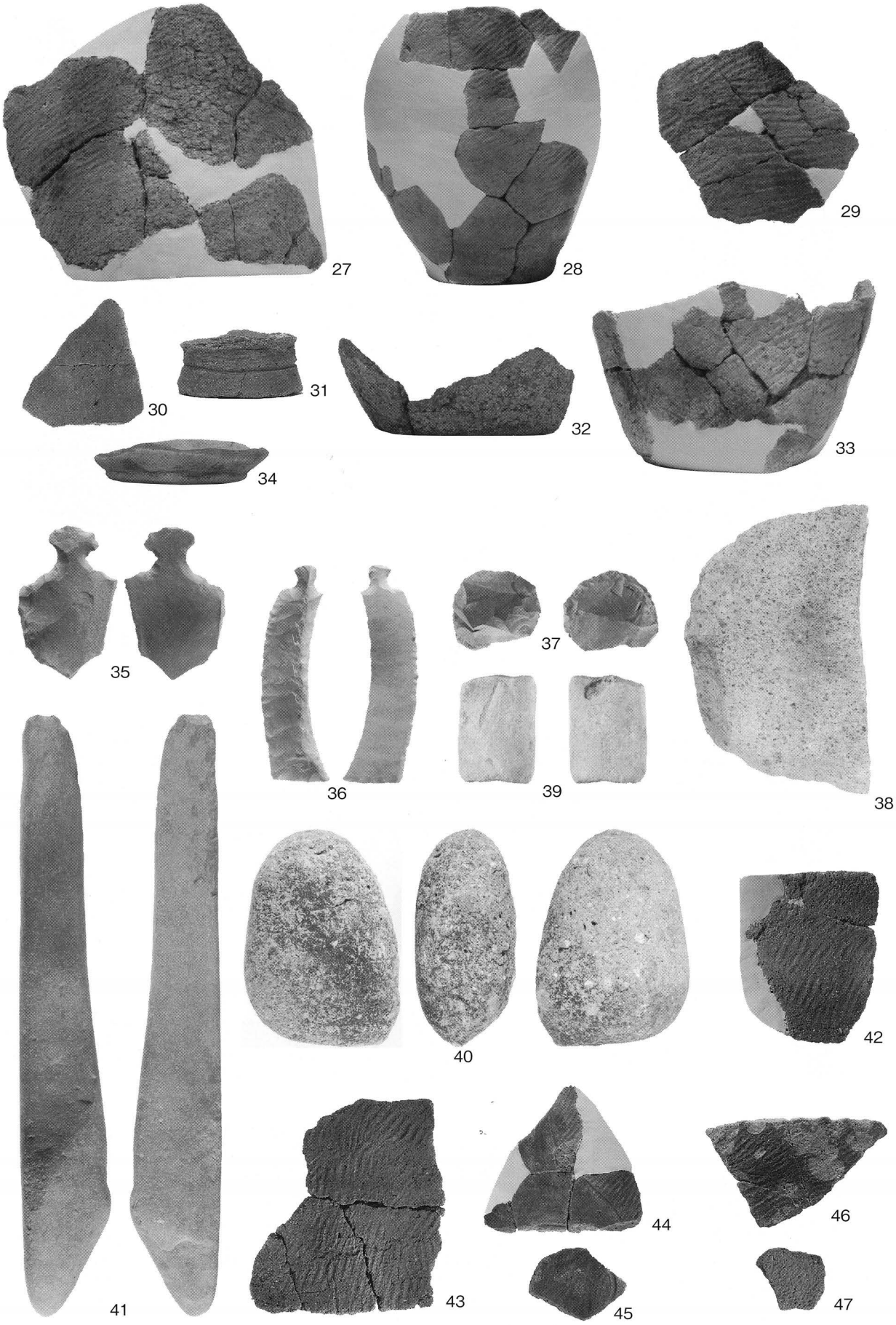
墓石⑤

墓石⑥

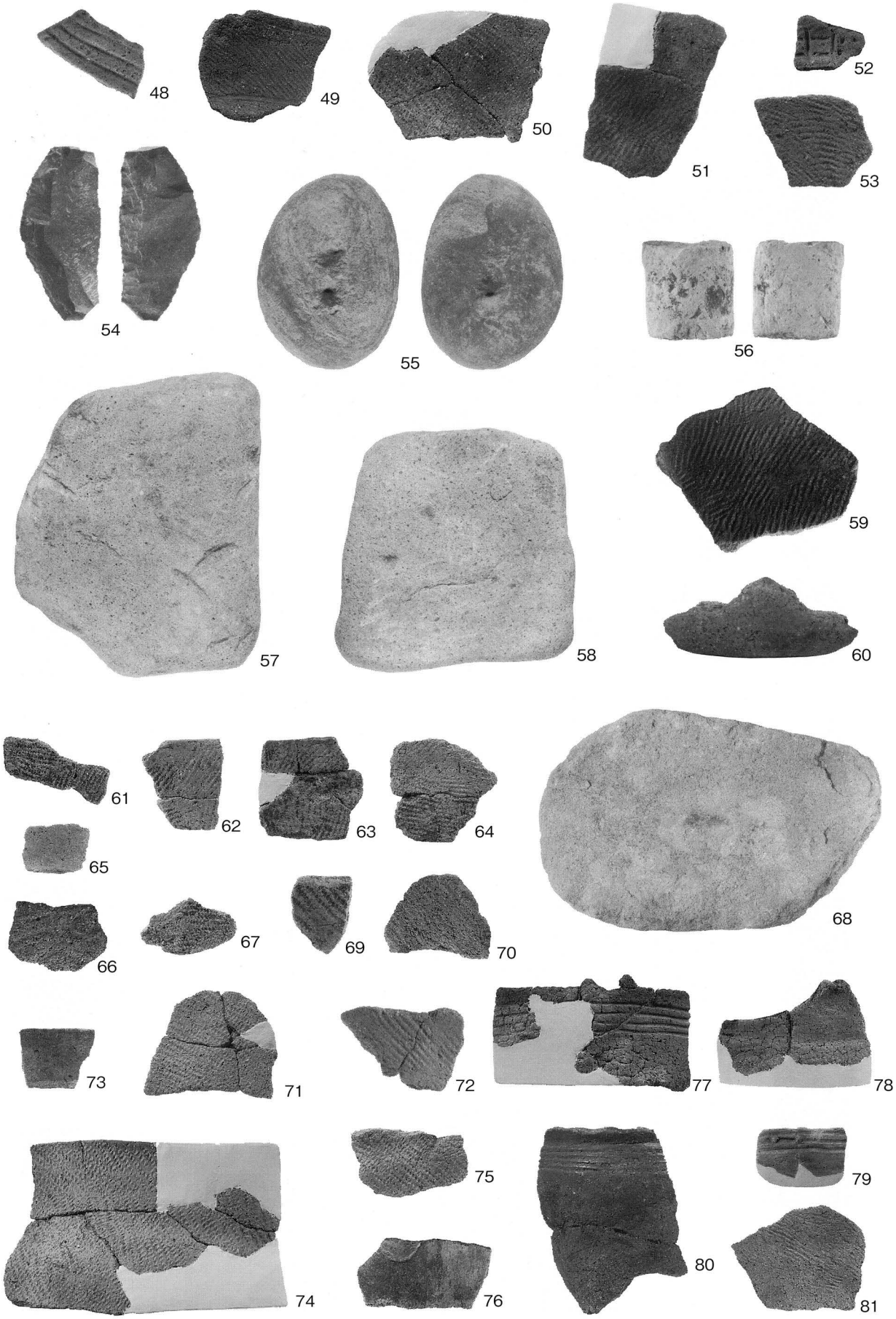
写真図版17　墓石（2）



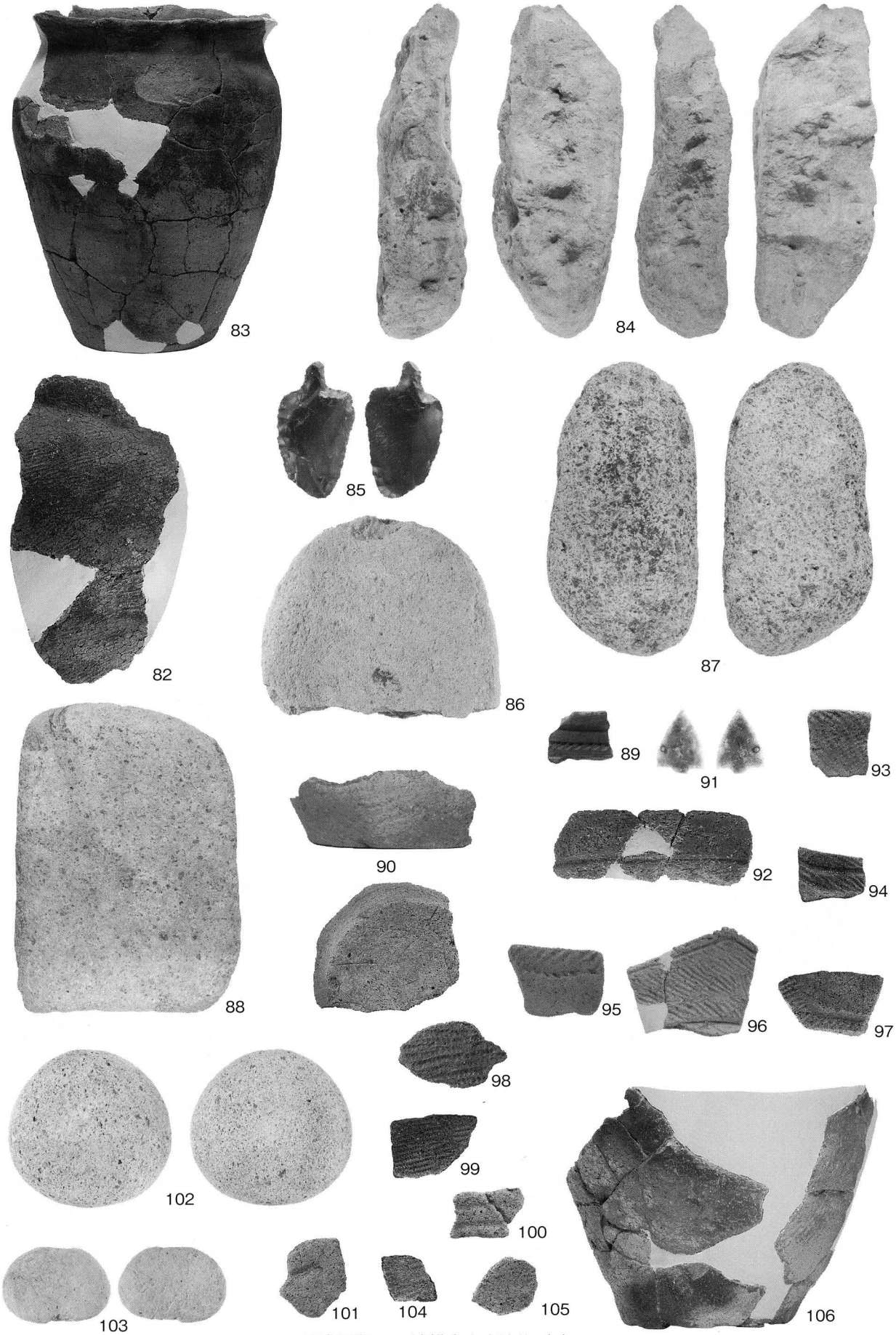
写真図版18　遺構内出土遺物（1）



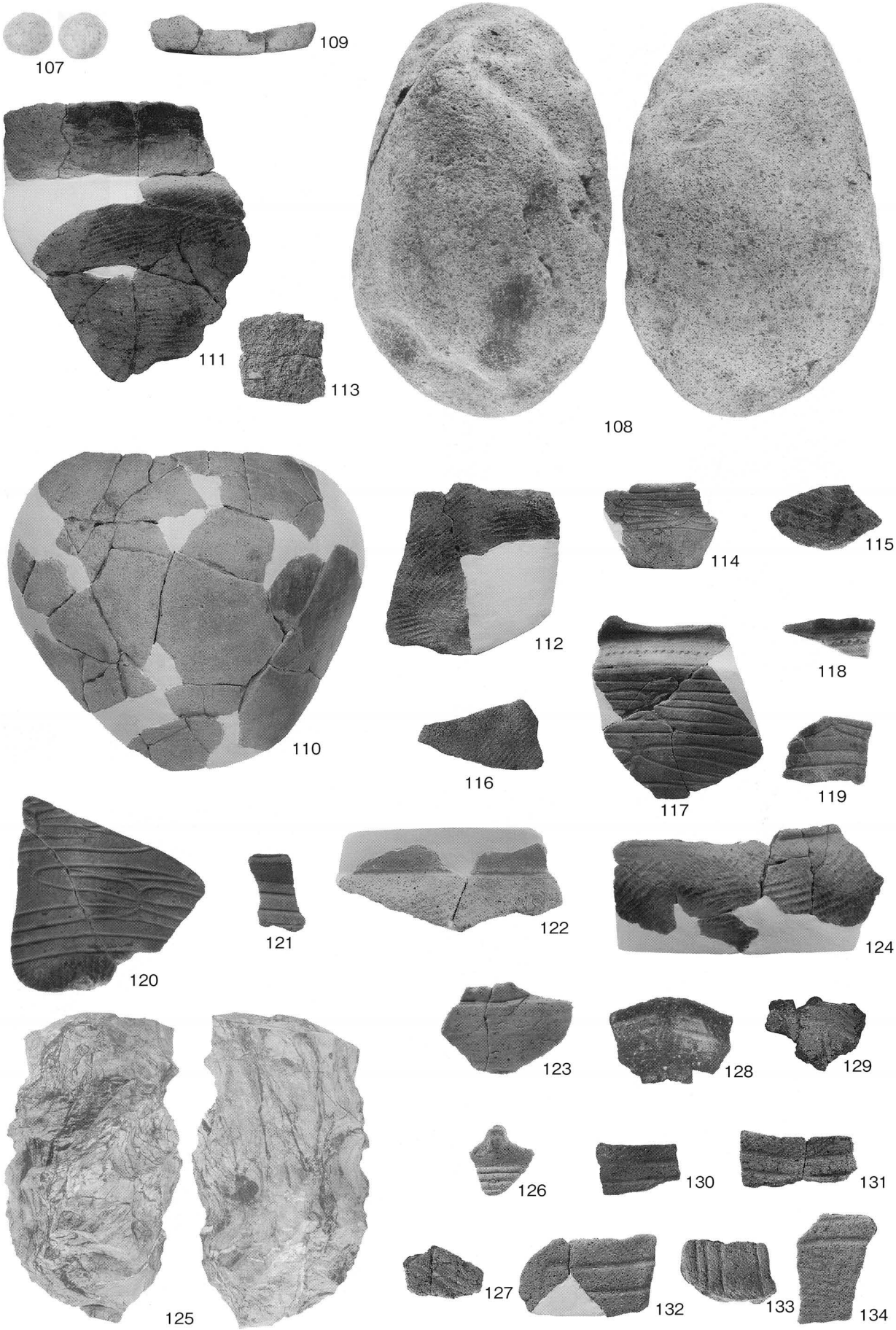
写真図版19　遺構内出土遺物（2）



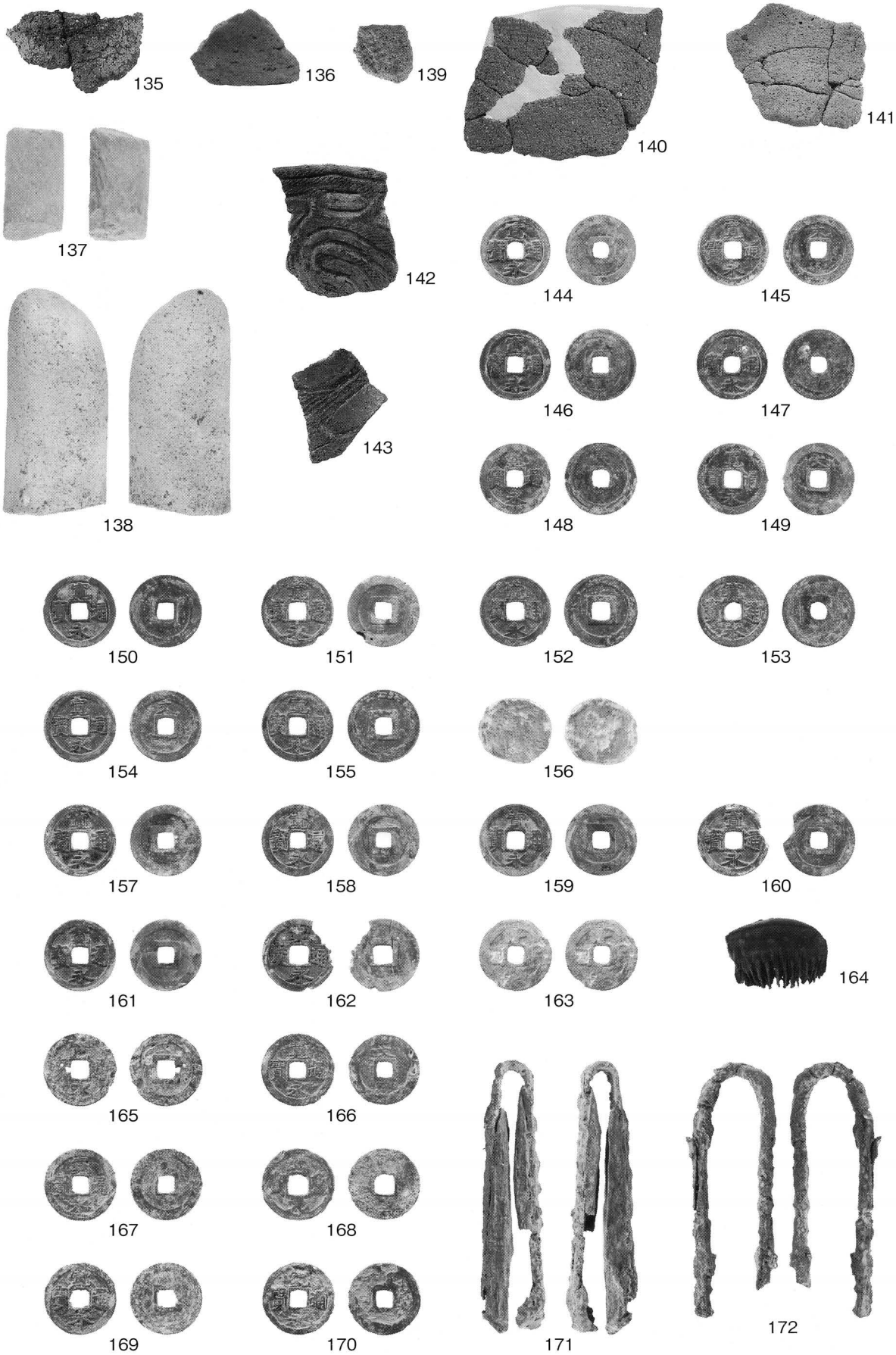
写真図版20　遺構内出土遺物（3）



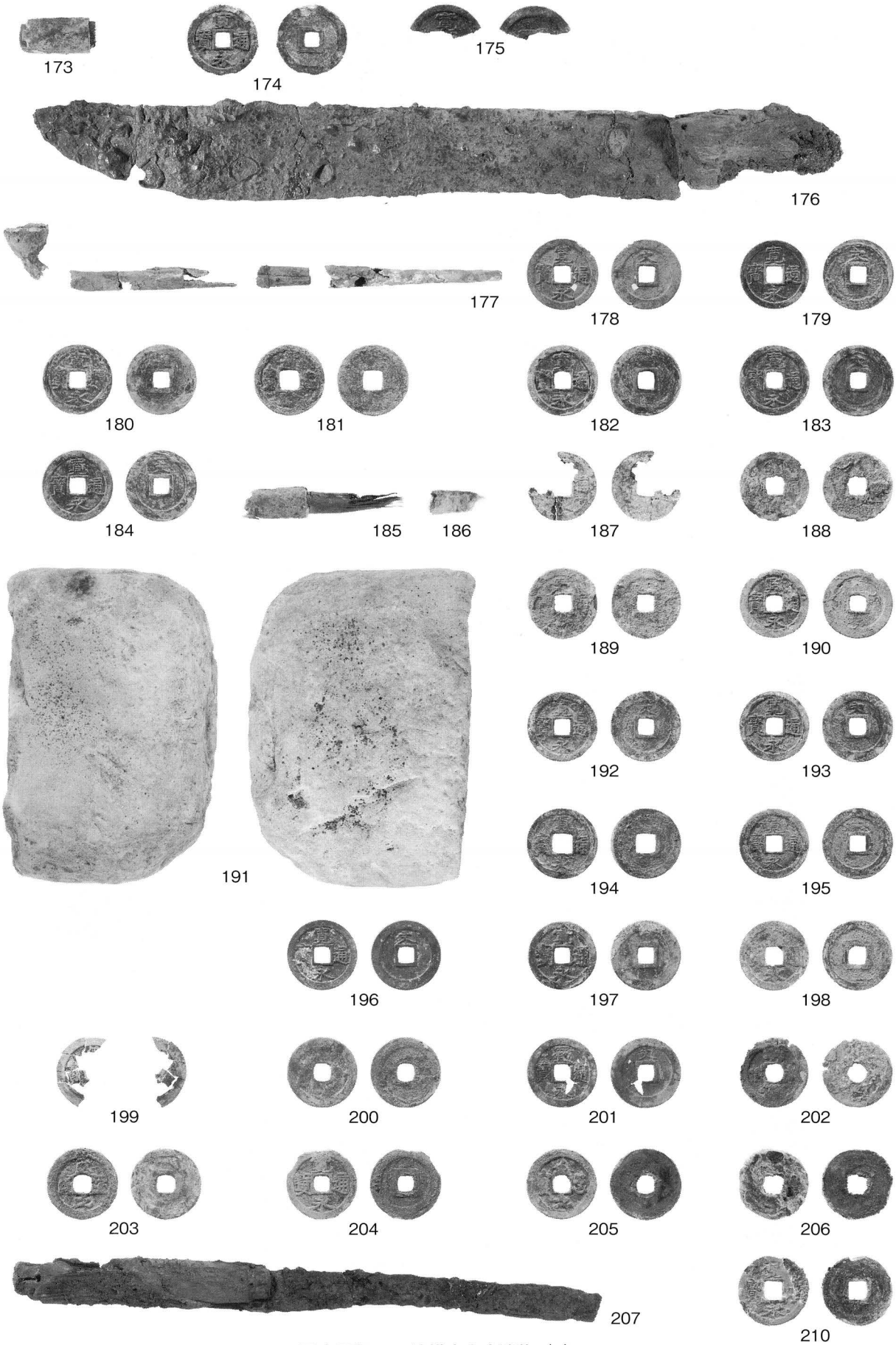
写真図版21　遺構内出土遺物（4）



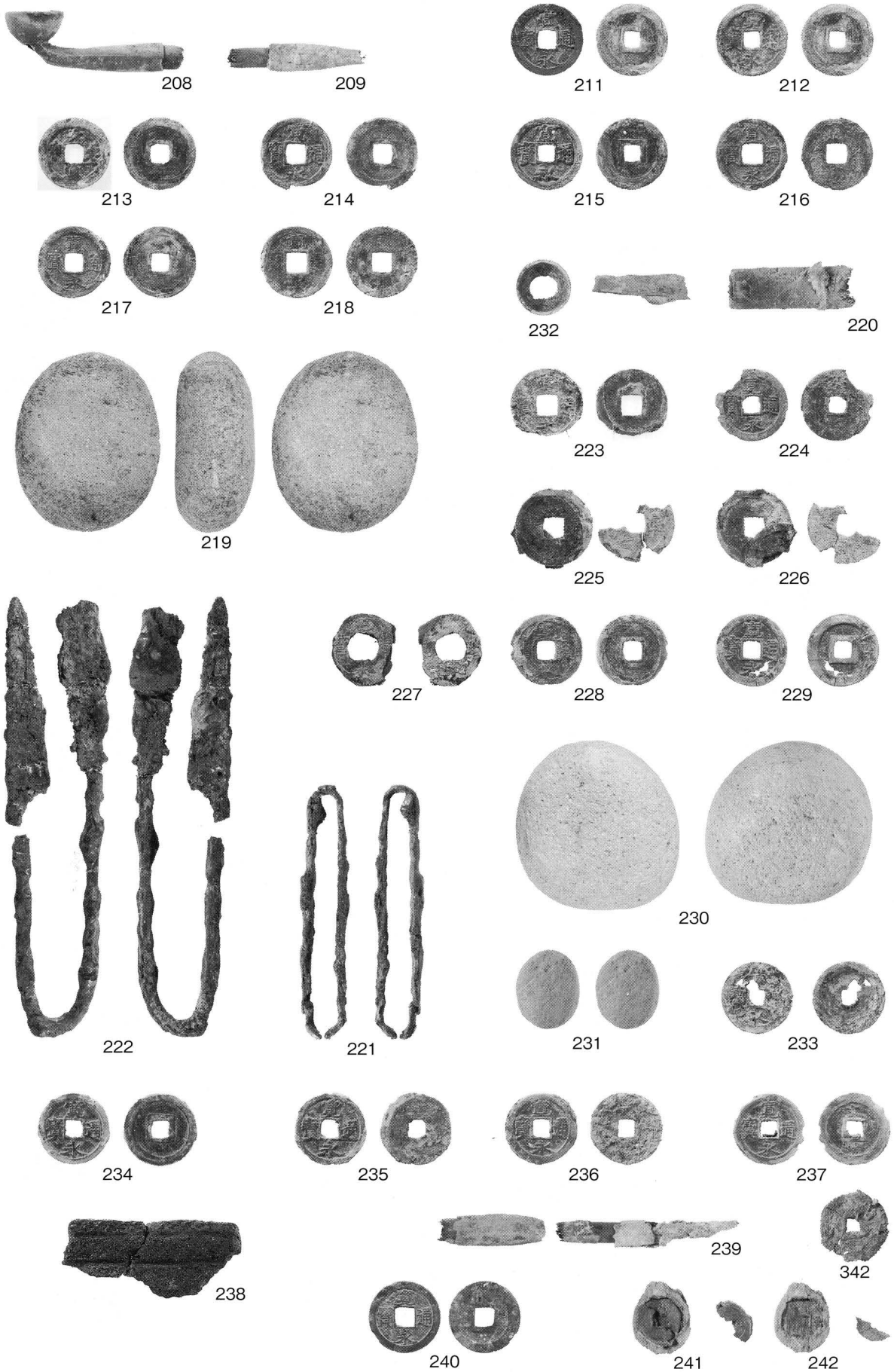
写真図版22　遺構内出土遺物（5）



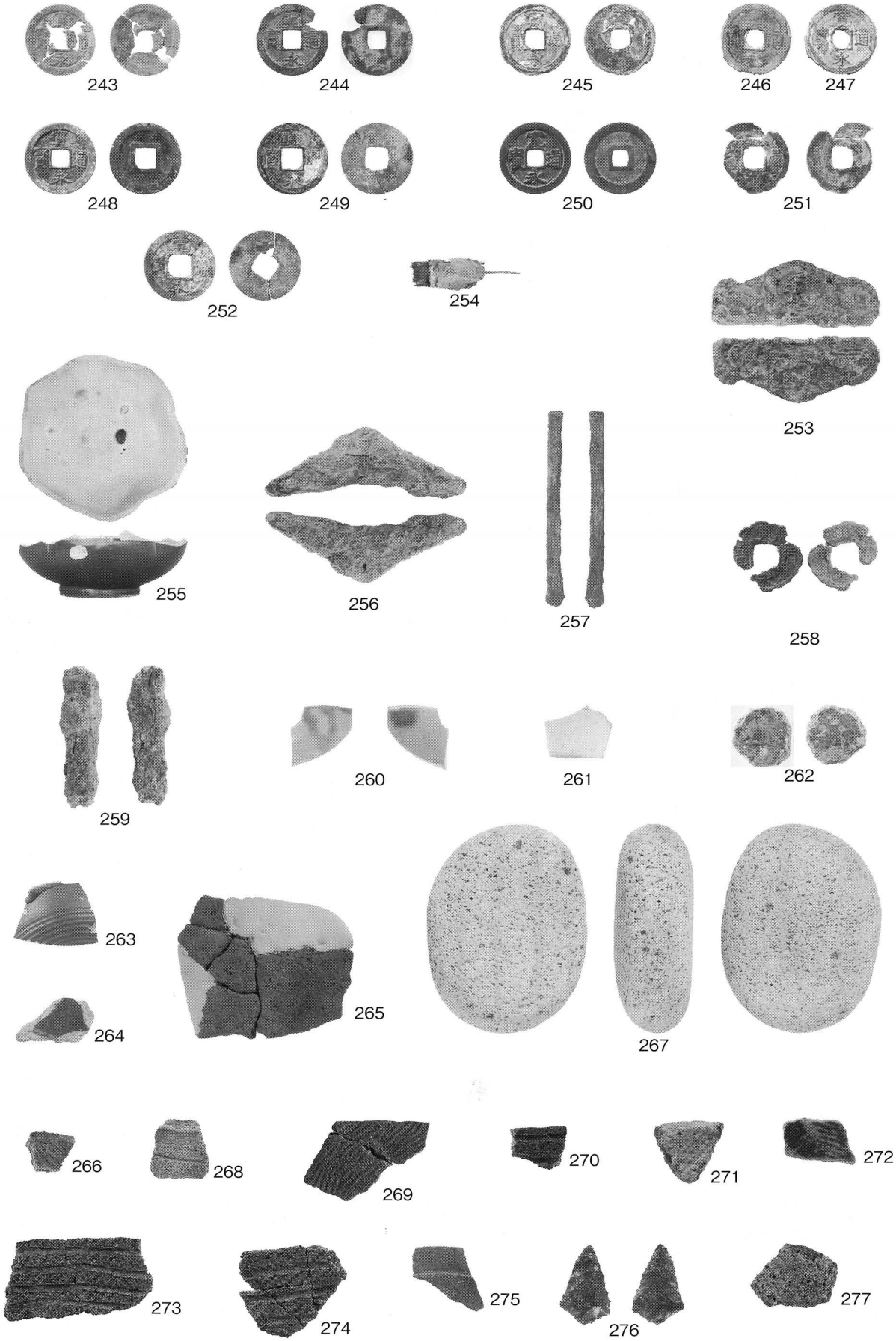
写真図版23　遺構内出土遺物（6）



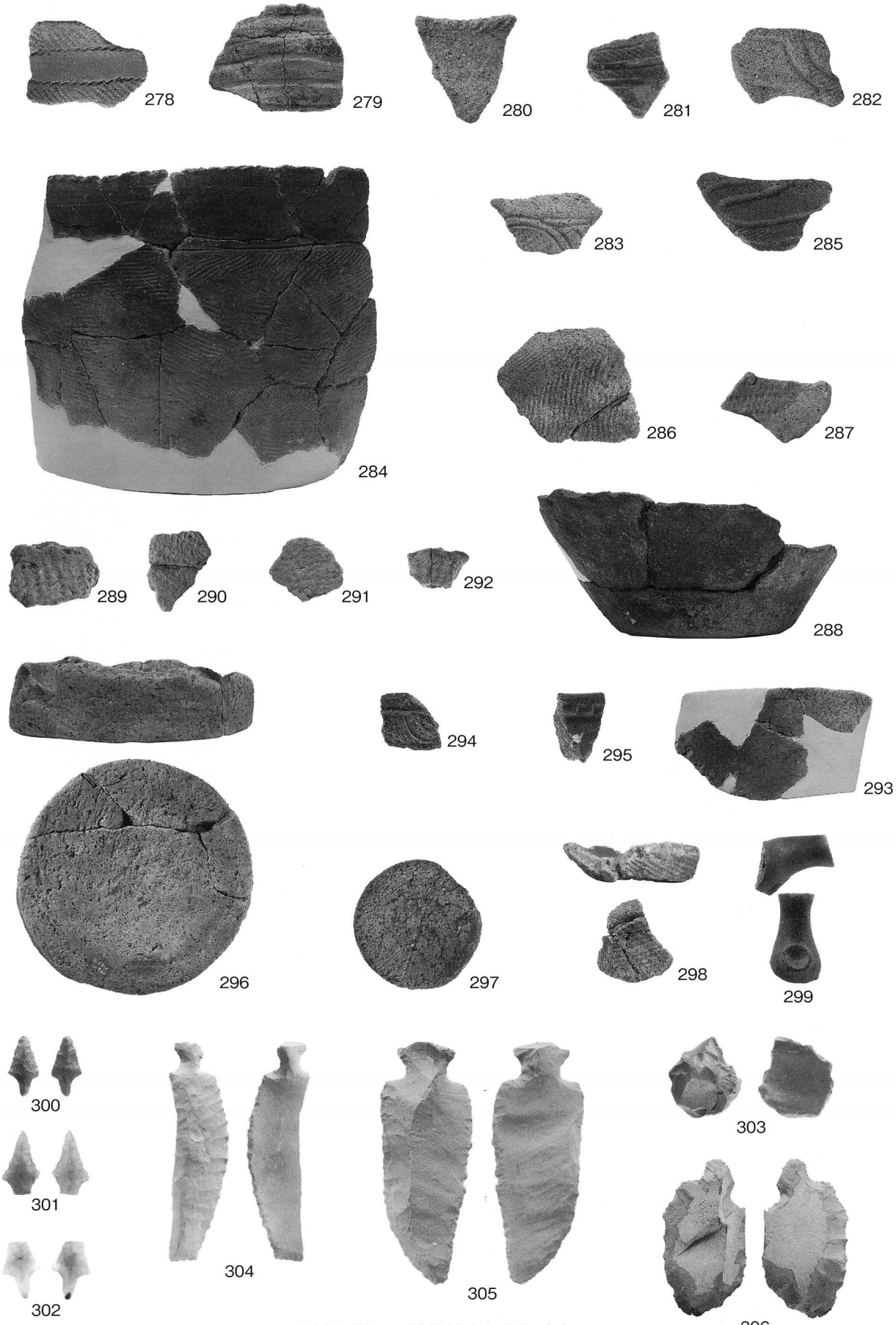
写真図版24　遺構内出土遺物（7）



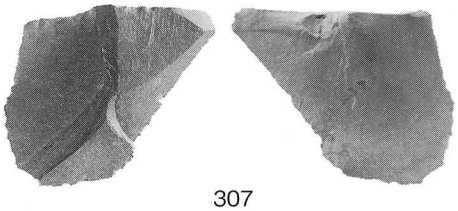
写真図版25　遺構内出土遺物（8）

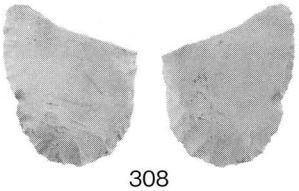


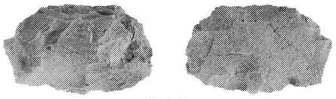
写真図版26　遺構内出土遺物（9）

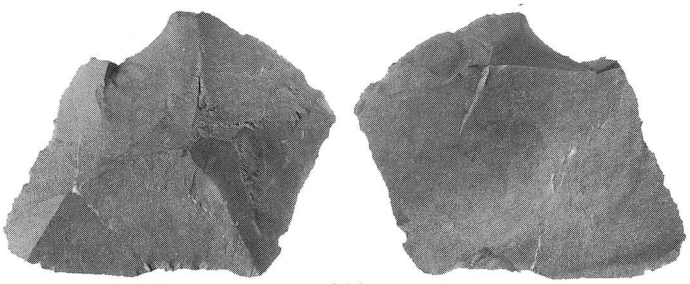


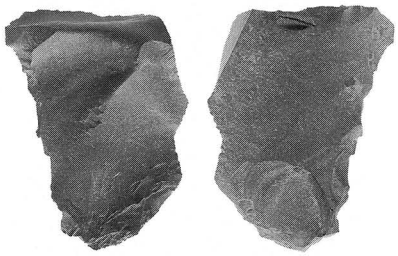
写真図版27　遺構外出土遺物（1）

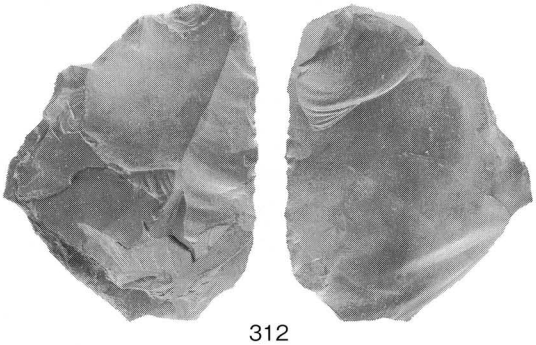

307

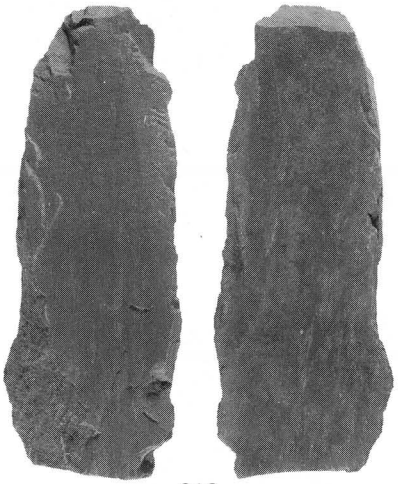

308

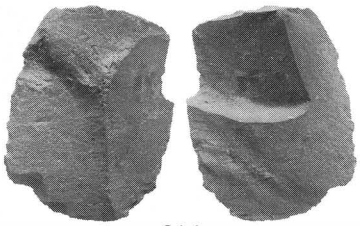

310

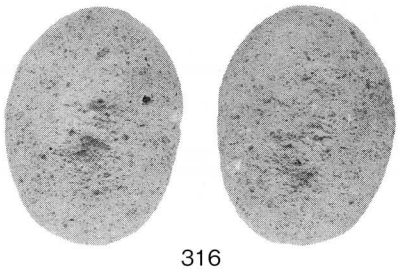

309

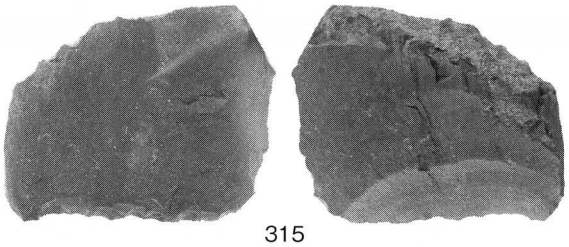

311

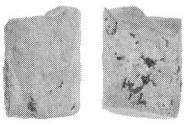

312

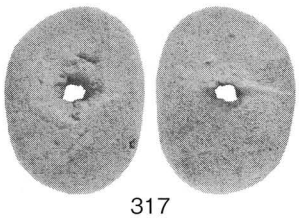

313

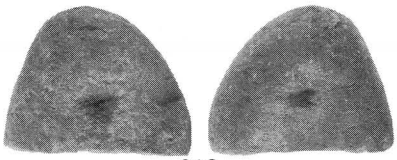

314

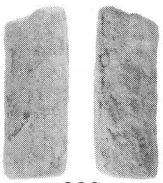

316


315


319


317


318

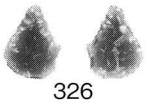

320

写真図版28　遺構外出土遺物（2）

321

322

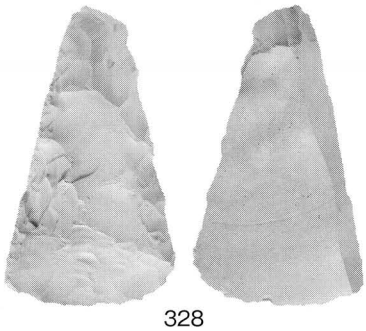
323 324



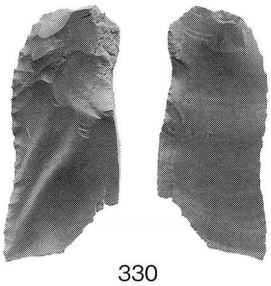
326

327

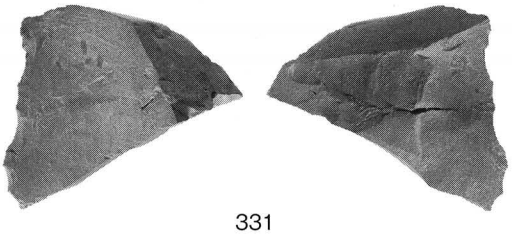
329



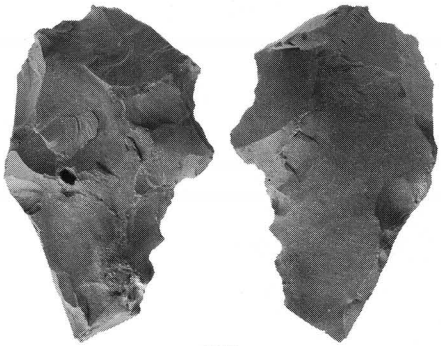
328



330



331



332

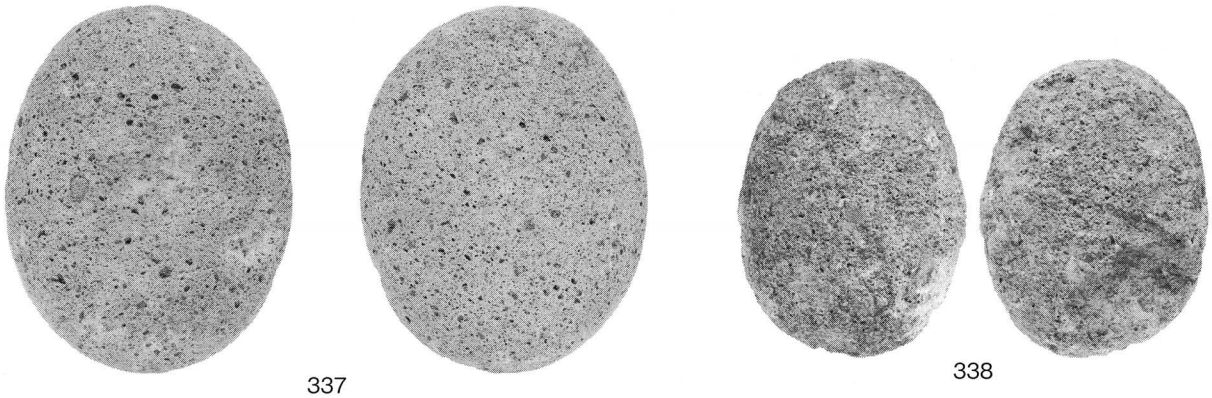
333

334

335

336

写真図版29　遺構外出土遺物（3）

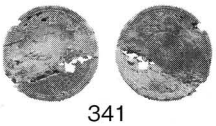


337

338

339

340



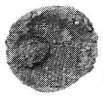
341

343

344

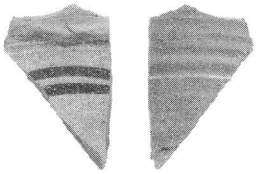
345

346

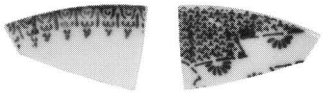


347

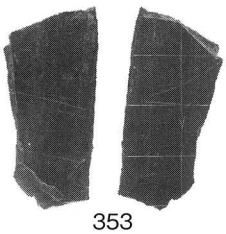
348



349



350



353

351

352

写真図版30　遺構外出土遺物（4）

122号土坑完掘

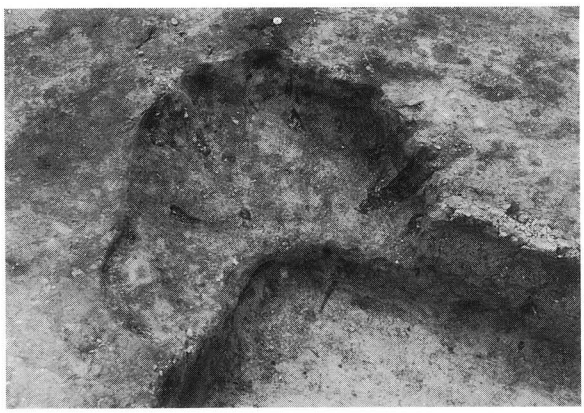
122号土坑断面

123号土坑完掘

123号土坑断面

124号土坑完掘

124号土坑断面



125号土坑完掘

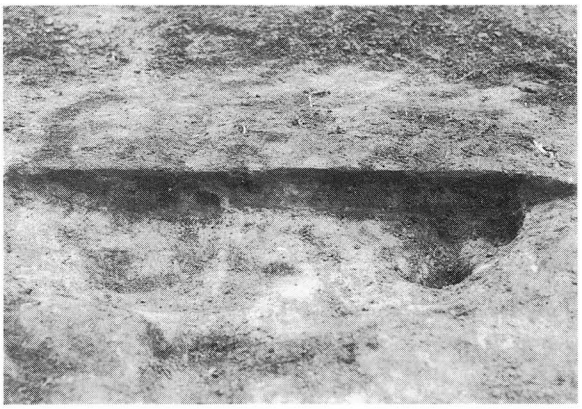
125号土坑断面

写真図版31　122～125号土坑

223号土坑完掘

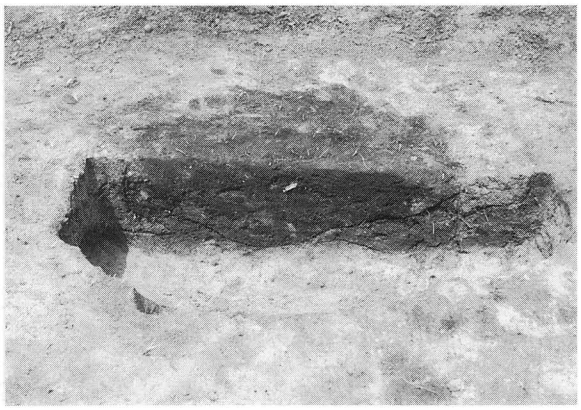
223号土坑断面

224号土坑完掘



224号土坑断面

225号土坑完掘



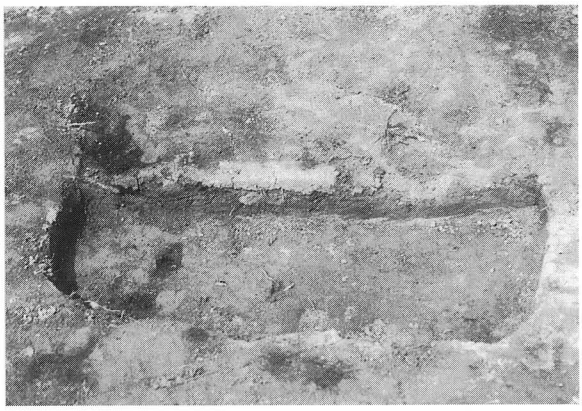
225号土坑断面

226号土坑完掘

226号土坑断面

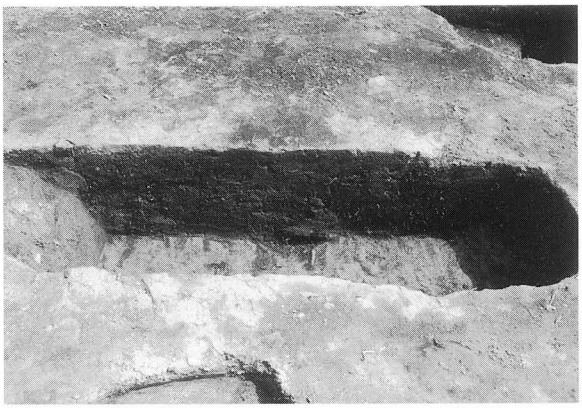
写真図版32　223 ～ 226号土坑

227号土坑完掘



227号土坑断面

228号土坑完掘

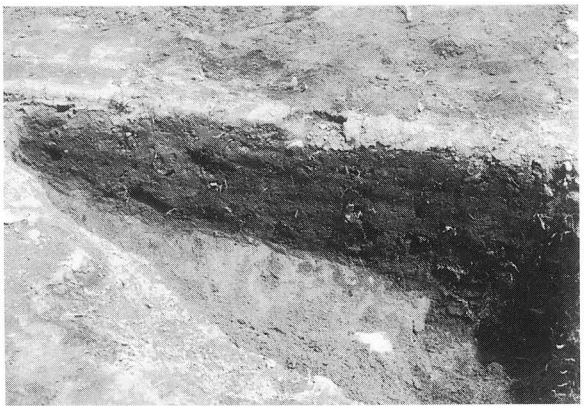


228号土坑断面

229号土坑完掘

229号土坑断面

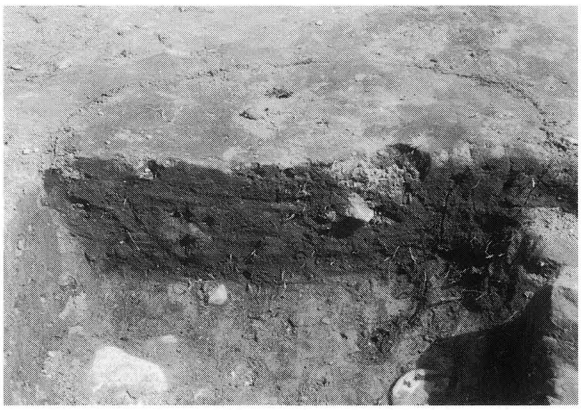
230・233・234号土坑完掘



230号土坑断面

写真図版33　227～230・233・234号土坑

233号土坑完掘

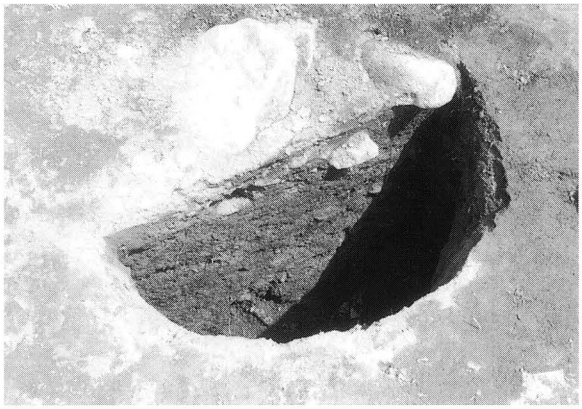


234号土坑断面

231号土坑完掘

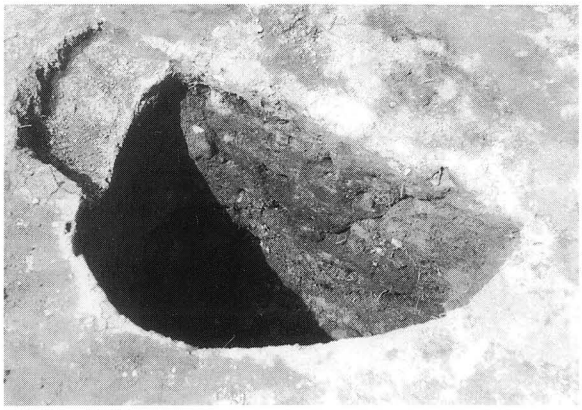
231号土坑断面

232号土坑完掘



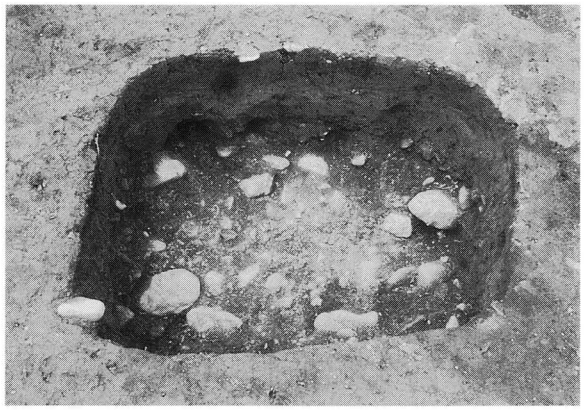
232号土坑断面

235号土坑完掘

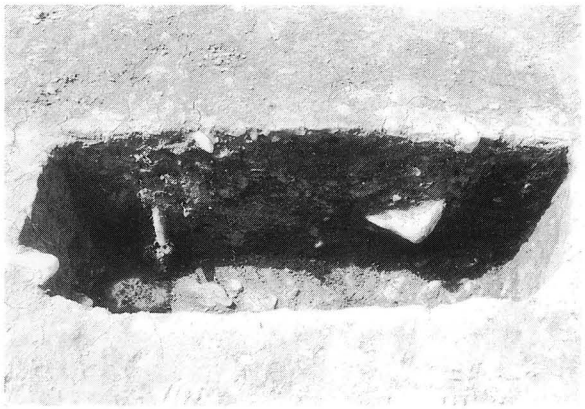


235号土坑断面

写真図版34　231 ～ 235号土坑



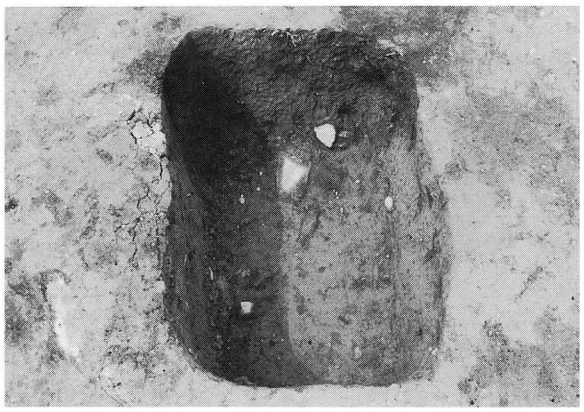
236号土坑完掘



236号土坑断面

237号土坑完掘

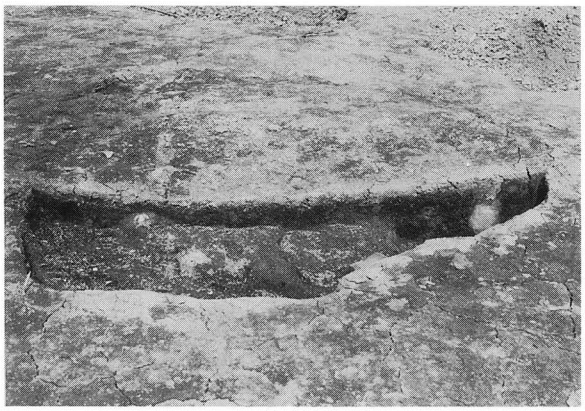
237号土坑断面



238号土坑完掘

238号土坑断面

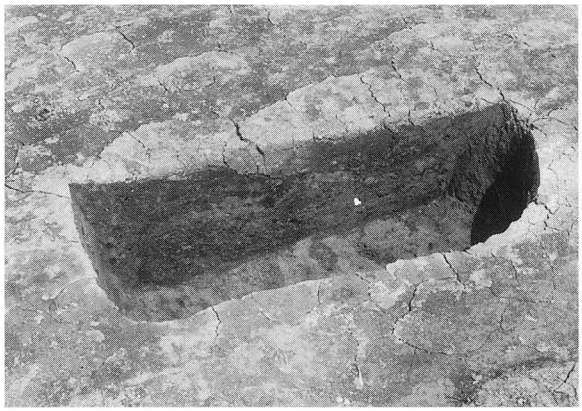
239号土坑完掘

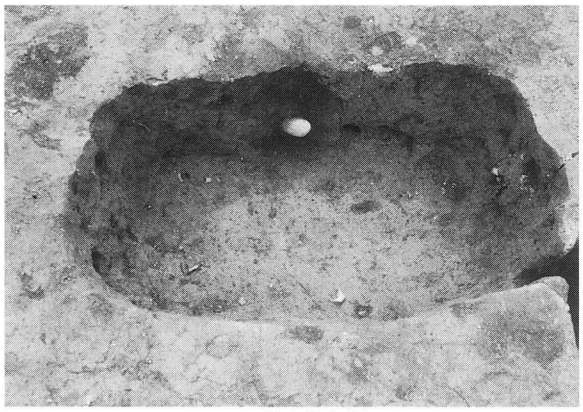


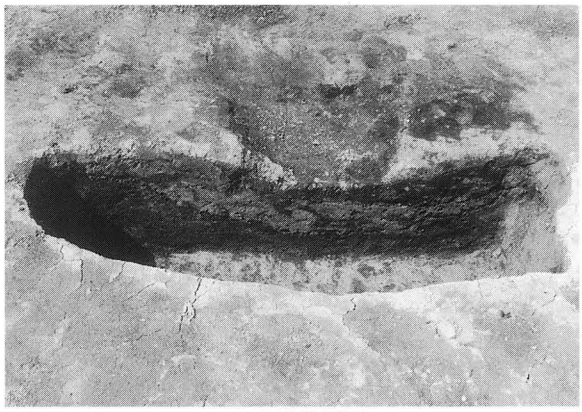
239号土坑断面

写真図版35　236 ～ 239号土坑

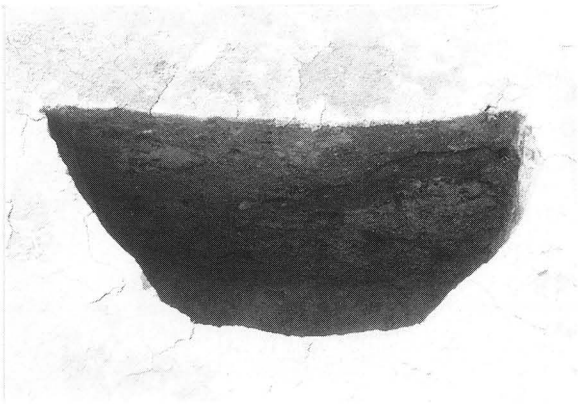
240号土坑完掘


240号土坑断面

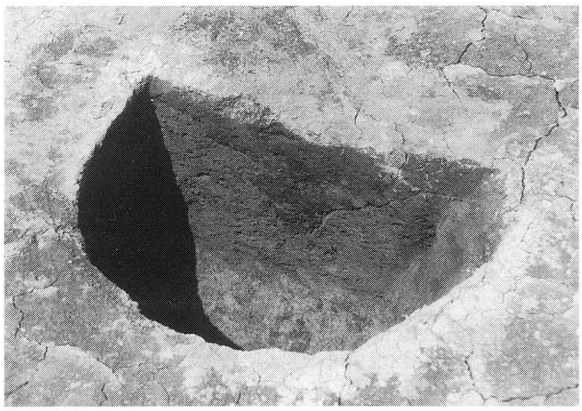

241号土坑完掘


241号土坑断面

242号土坑完掘


242号土坑断面

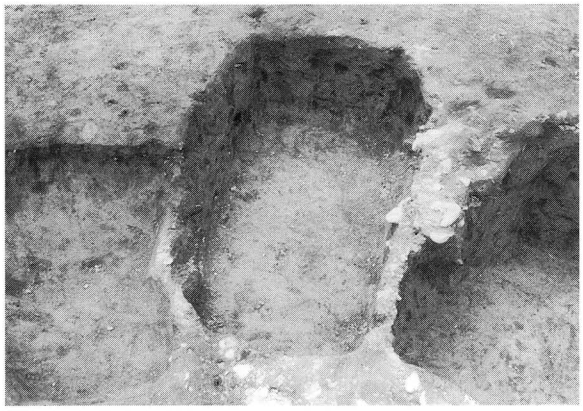
243号土坑完掘


243号土坑断面

写真図版36　240～243号土坑

244号土坑完掘

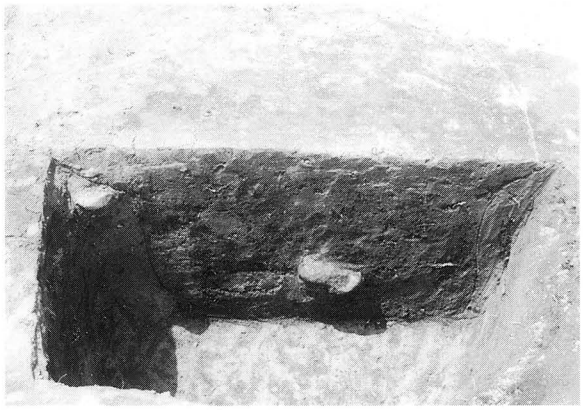
244号土坑断面



245号土坑完掘

245号土坑断面

246号土坑完掘



246号土坑断面

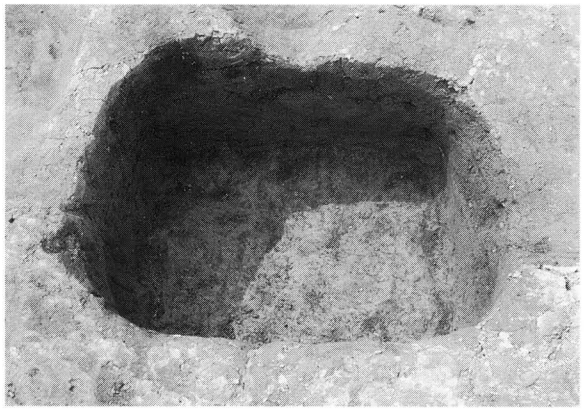
247号土坑完掘

247号土坑断面

写真図版37　244～247号土坑

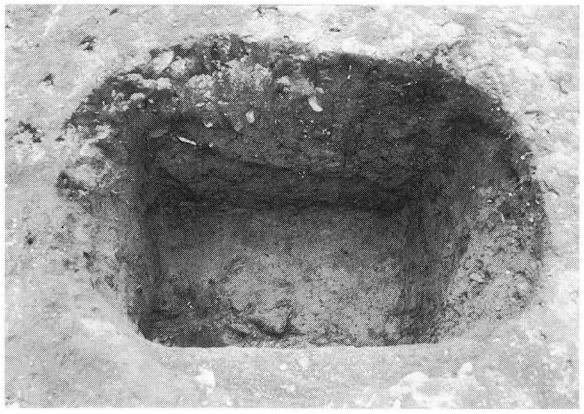
248号土坑完掘

248号土坑断面



249号土坑完掘

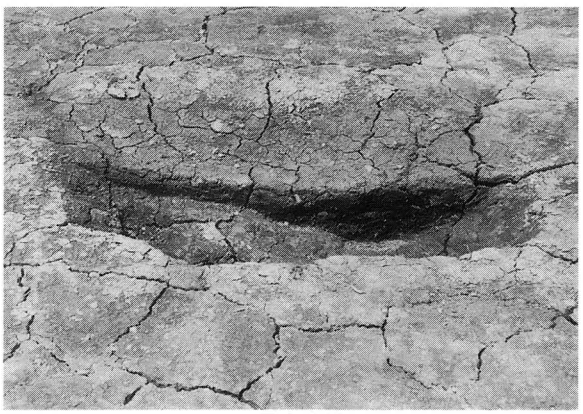
249号土坑断面



250号土坑完掘

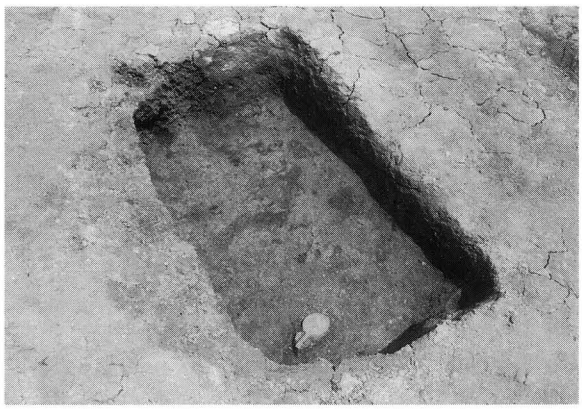
250号土坑断面

251号土坑完掘

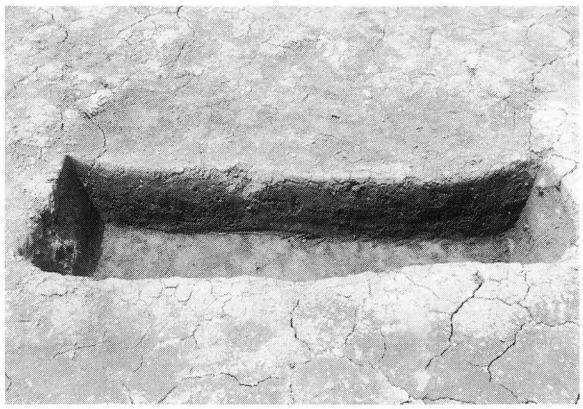


251号土坑断面

写真図版38　248～251号土坑



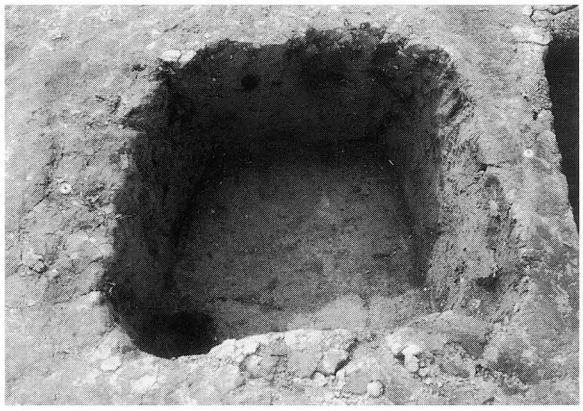
252号土坑完掘



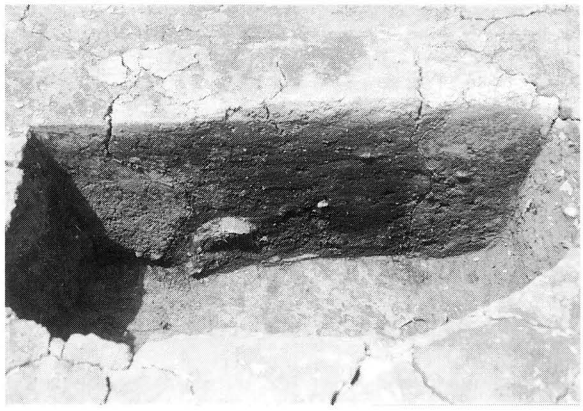
252号土坑断面

253号土坑完掘

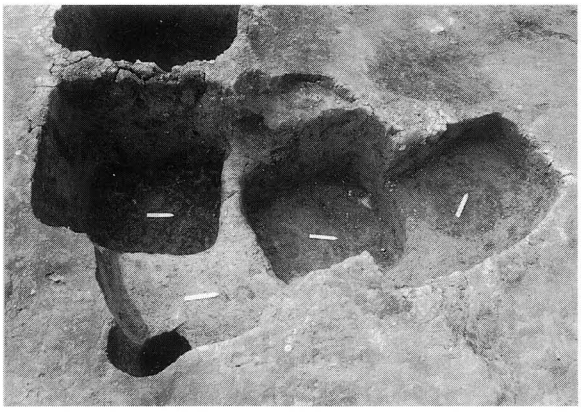
253号土坑断面



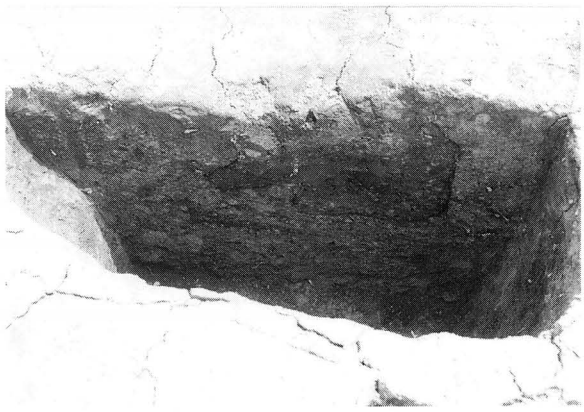
254号土坑完掘



254号土坑断面

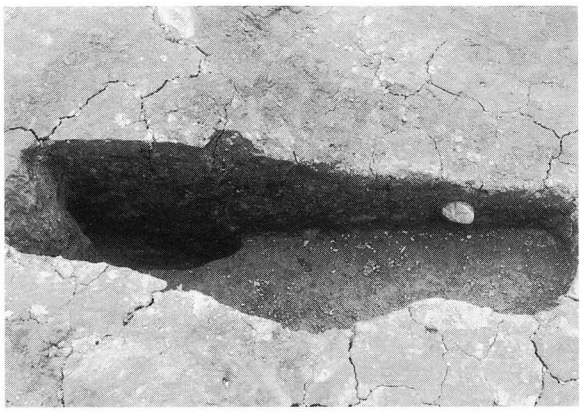


255・261・291・292号土坑完掘



255号土坑断面

写真図版39　252～255・261・291・292号土坑

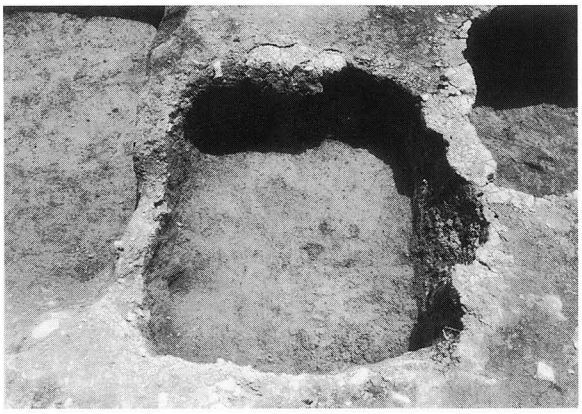


261号土坑断面

291号土坑断面

292号土坑断面

平成20年度調査区全景



256号土坑完掘

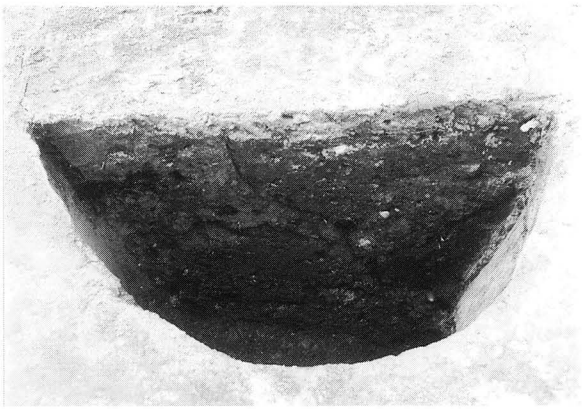
256号土坑断面

257号土坑完掘

257号土坑断面

写真図版40　256・257・261・291・292号土坑

258号土坑完掘



258号土坑断面

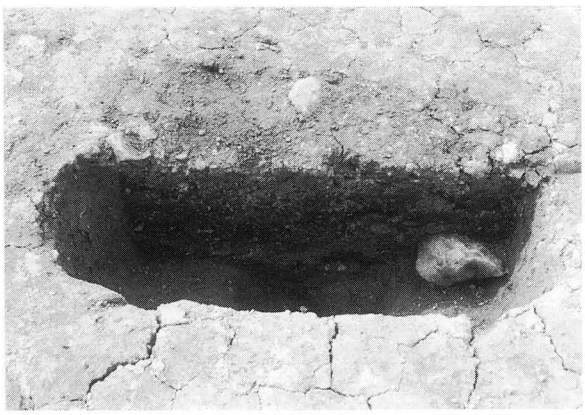
259号土坑完掘

259号土坑断面

260号土坑完掘

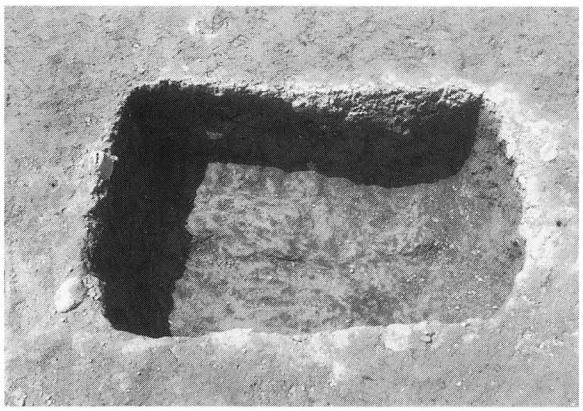
260号土坑断面

262号土坑完掘



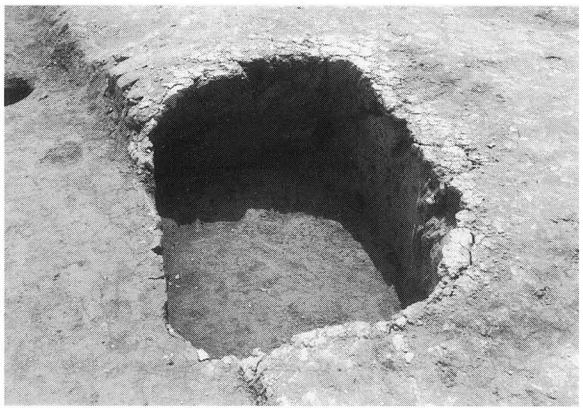
262号土坑断面

写真図版41　258～260・262号土坑



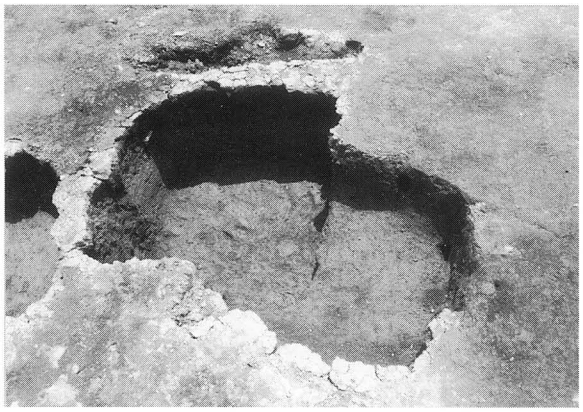
263号土坑完掘

263号土坑断面

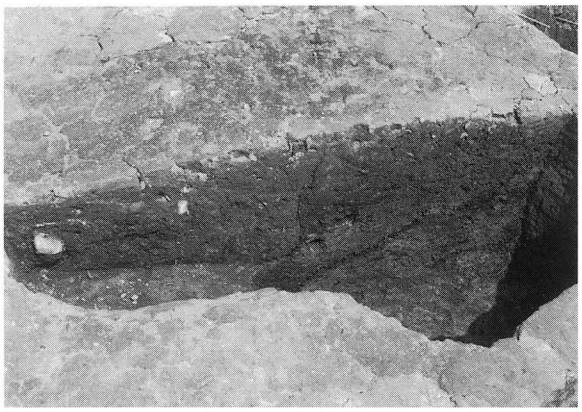


264号土坑完掘

264号土坑断面



265号・290号土坑完掘

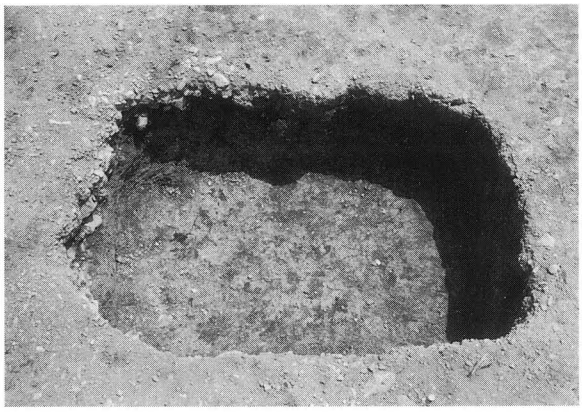


265号・290号土坑断面

266号土坑完掘

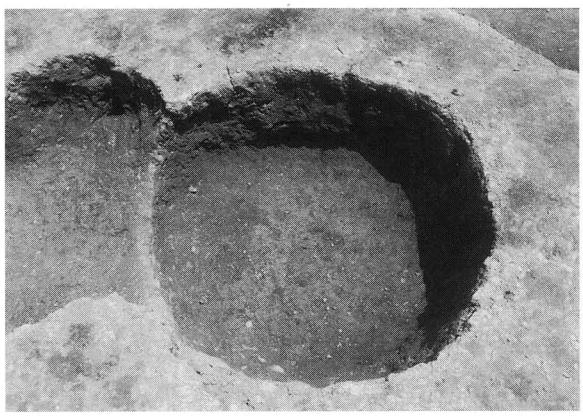
266号土坑断面

写真図版42　263～266・290号土坑



267号土坑完掘

267号土坑断面



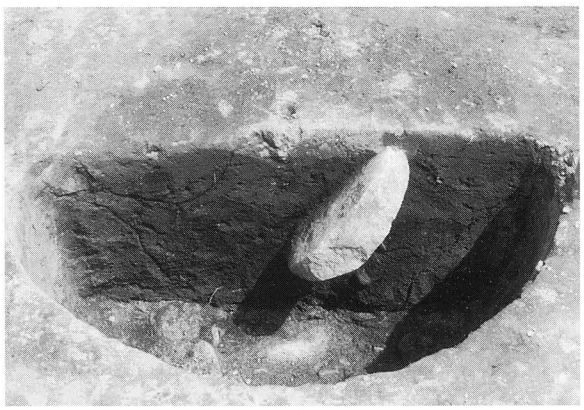
268号土坑完掘

268号土坑断面

269号土坑完掘

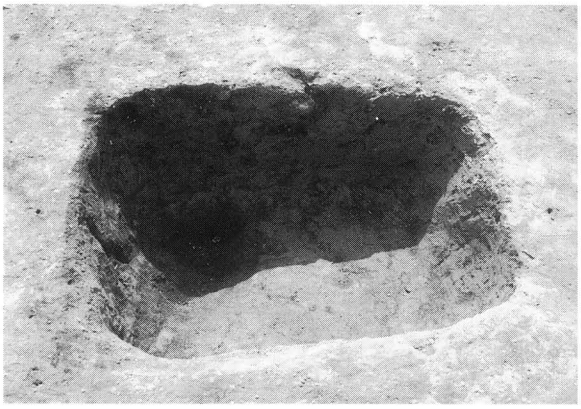
269号土坑断面

270号土坑完掘

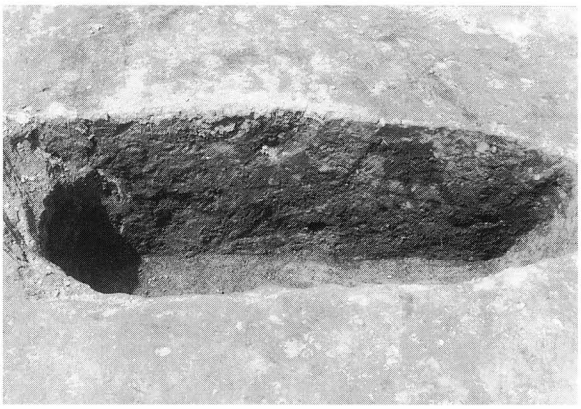


270号土坑断面

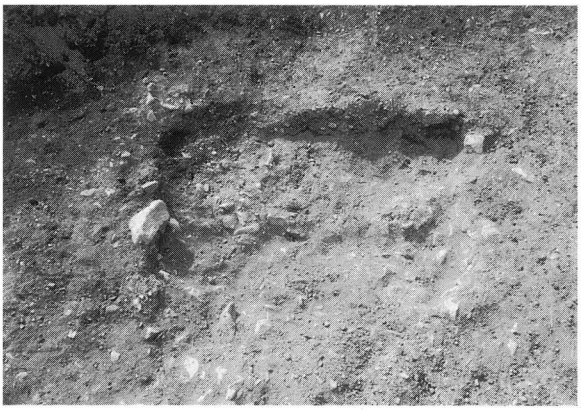
写真図版43　267 ～ 270号土坑



271号土坑完掘



271号土坑断面



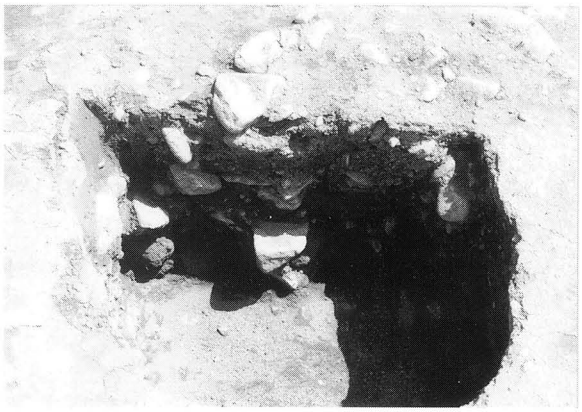
272号土坑完掘

272号土坑断面

273号土坑完掘

273号土坑断面

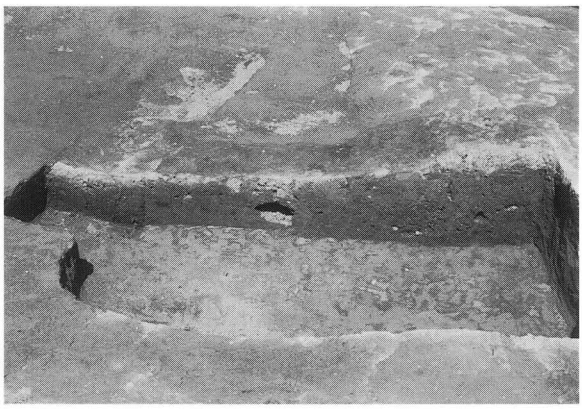
274号土坑完掘



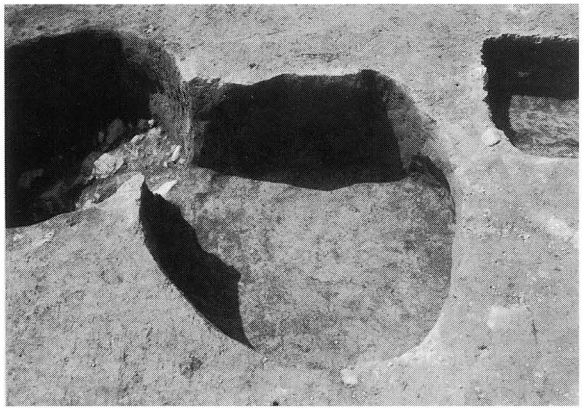
274号土坑断面

写真図版44　271 ～ 274号土坑

275号土坑完掘



275号土坑断面

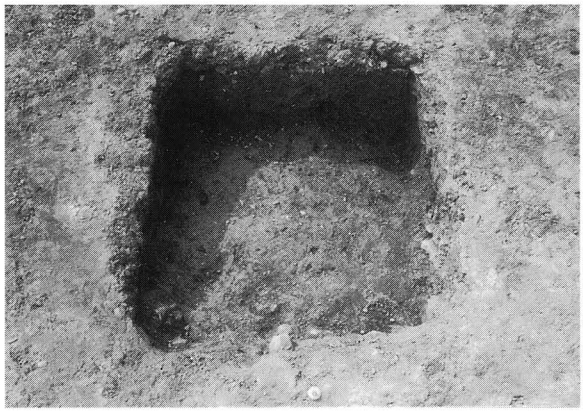


276号土坑完掘

276号土坑断面

277号土坑完掘

277号土坑断面



278号土坑完掘

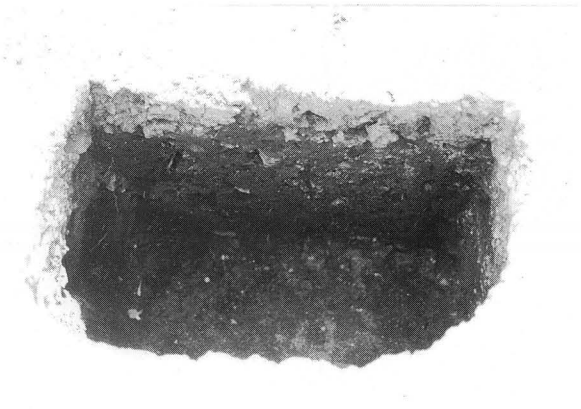
278号土坑断面

写真図版45　275～278号土坑

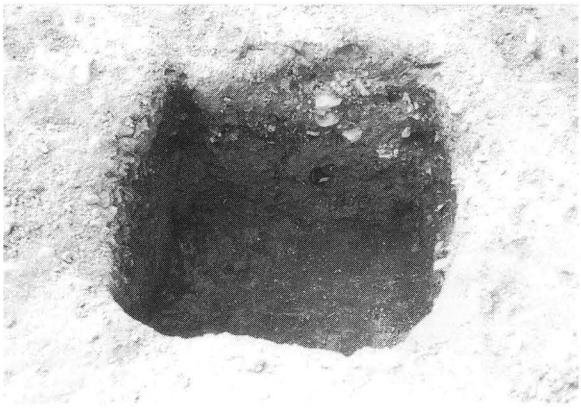
279号土坑完掘

279号土坑断面

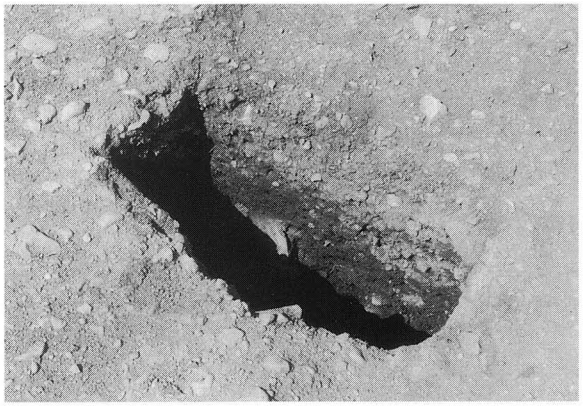
280号土坑完掘



280号土坑断面

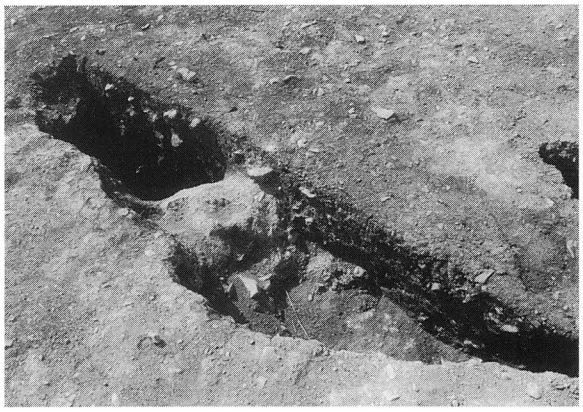


281号土坑完掘



281号土坑断面

282号土坑完掘



282号（右側）・283号土坑断面

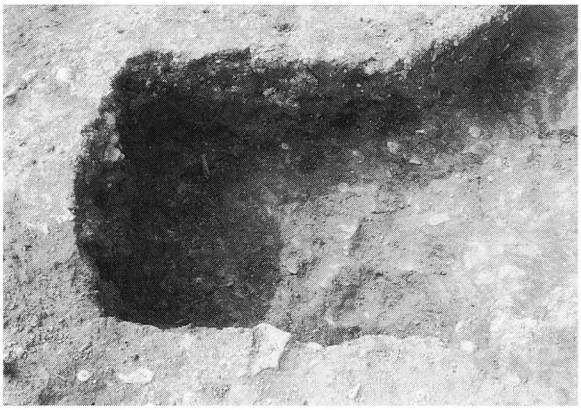
写真図版46　279～283号土坑

283号土坑完掘

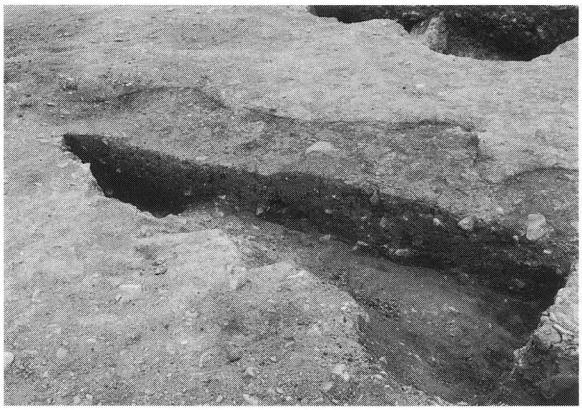
283号（左側）・282号土坑断面

284号土坑完掘

284号土坑断面

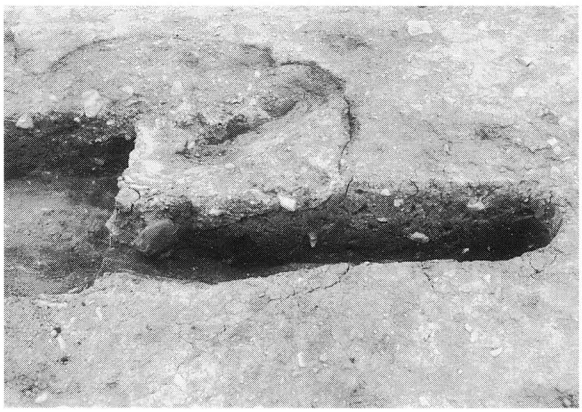


285号土坑完掘



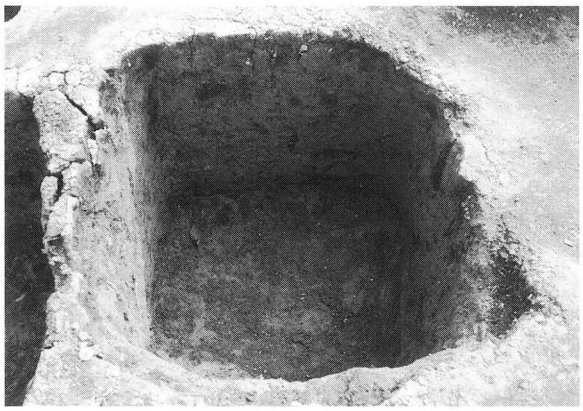
285号土坑断面

286号土坑完掘



286号土坑断面

写真図版47　282～286号土坑



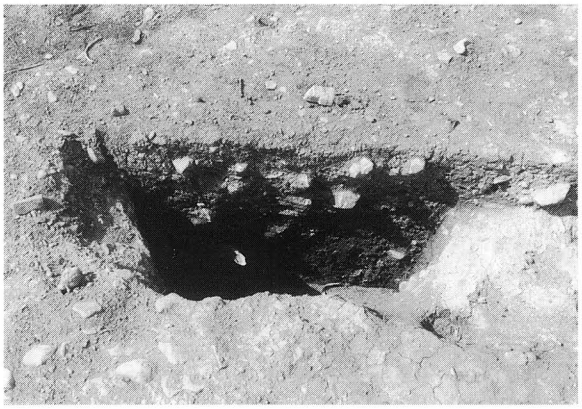
287号土坑完掘

287号土坑断面

288号土坑完掘

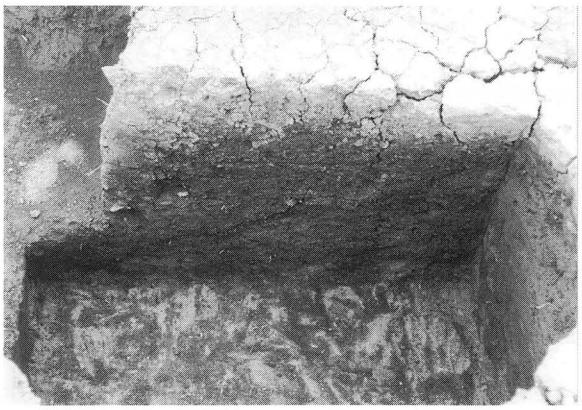
作業風景

289号土坑完掘



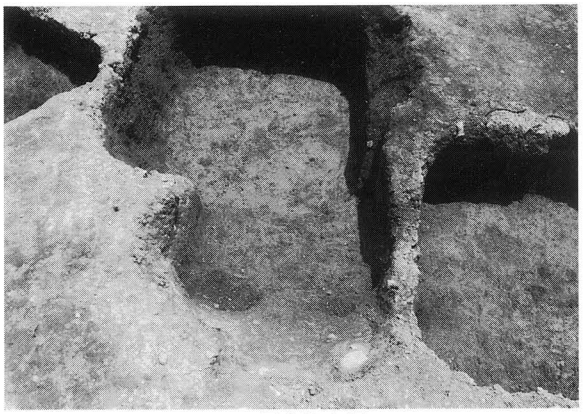
289号土坑断面

290号土坑完掘



290号土坑断面

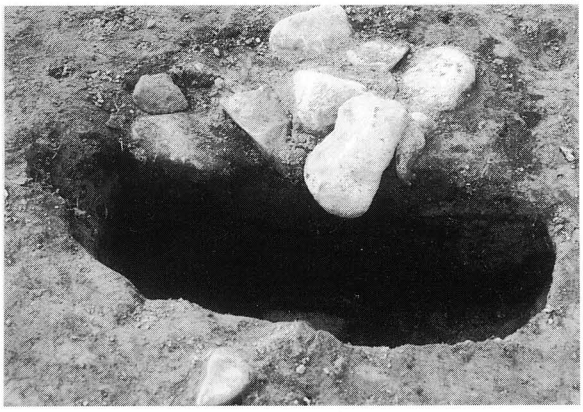
写真図版48　287～290号土坑



293号土坑完掘

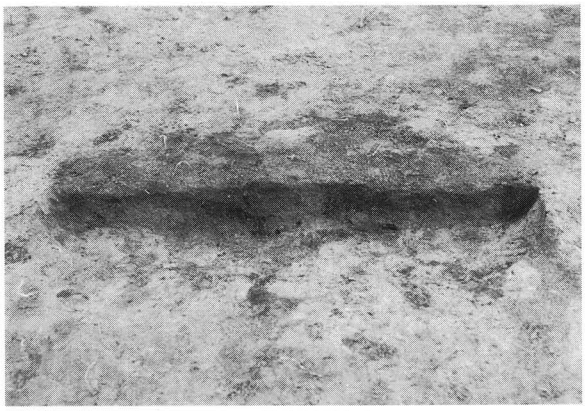
293号土坑断面

294号土坑完掘

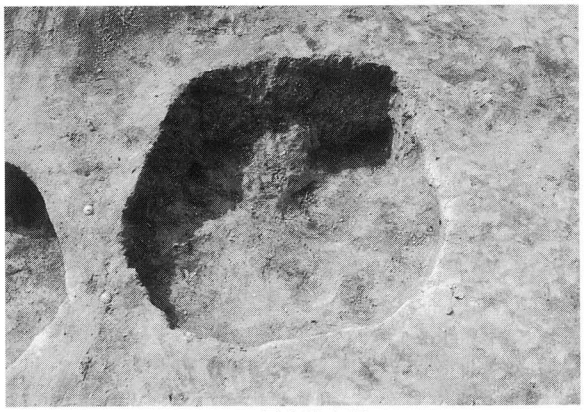


294号土坑断面

302号土坑完掘



302号土坑断面

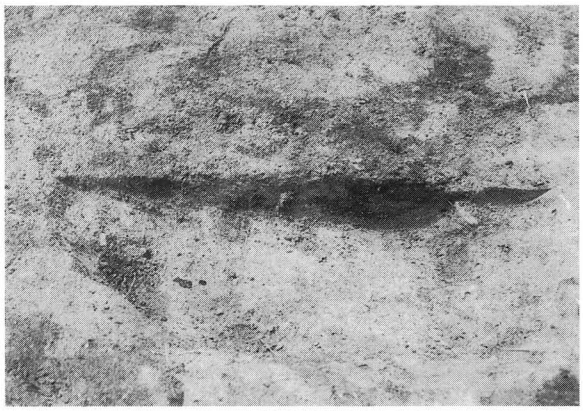


303号土坑完掘

303号土坑断面

写真図版49　293・294・302・303号土坑

304号土坑完掘



304号土坑断面

305号土坑完掘

305号土坑断面

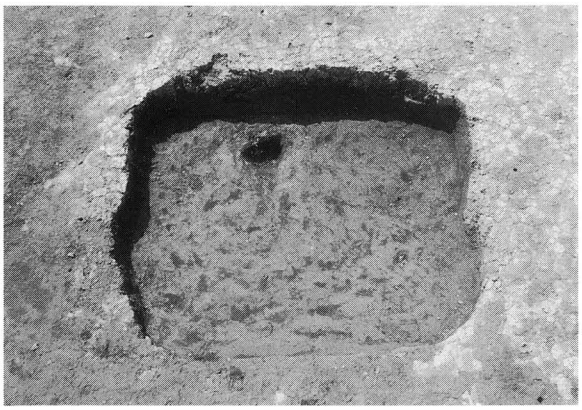
306号土坑完掘

306号土坑断面

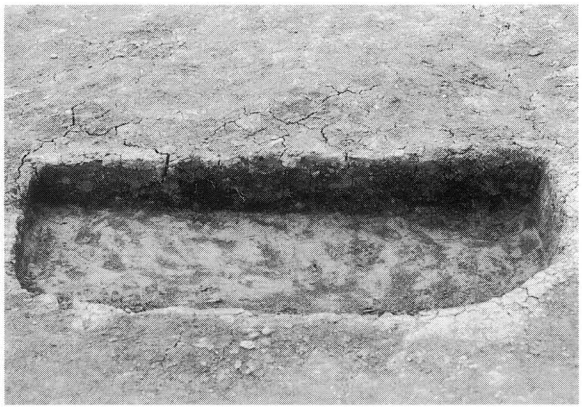
307号土坑完掘

307号土坑断面

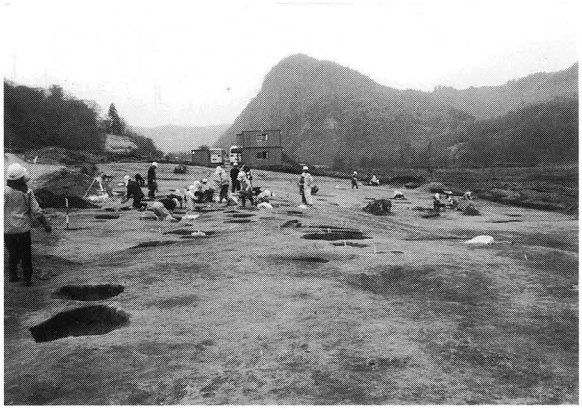
写真図版50　304 ～ 307号土坑



308号土坑完掘



308号土坑断面



作業風景

309号土坑断面

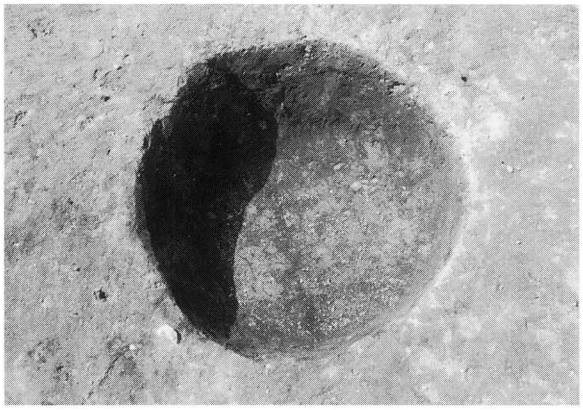
310号土坑完掘

310号土坑断面

311号土坑完掘

311号土坑断面

写真図版51　308～311号土坑



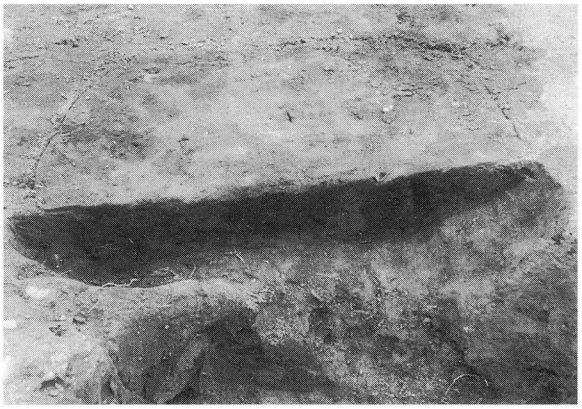
312号土坑完掘

312号土坑断面

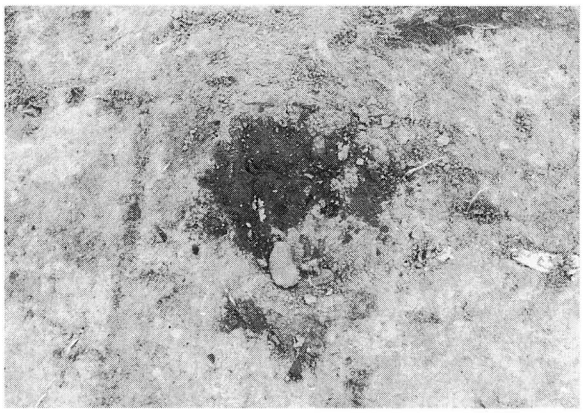
313号土坑完掘

313号土坑断面

314号土坑完掘



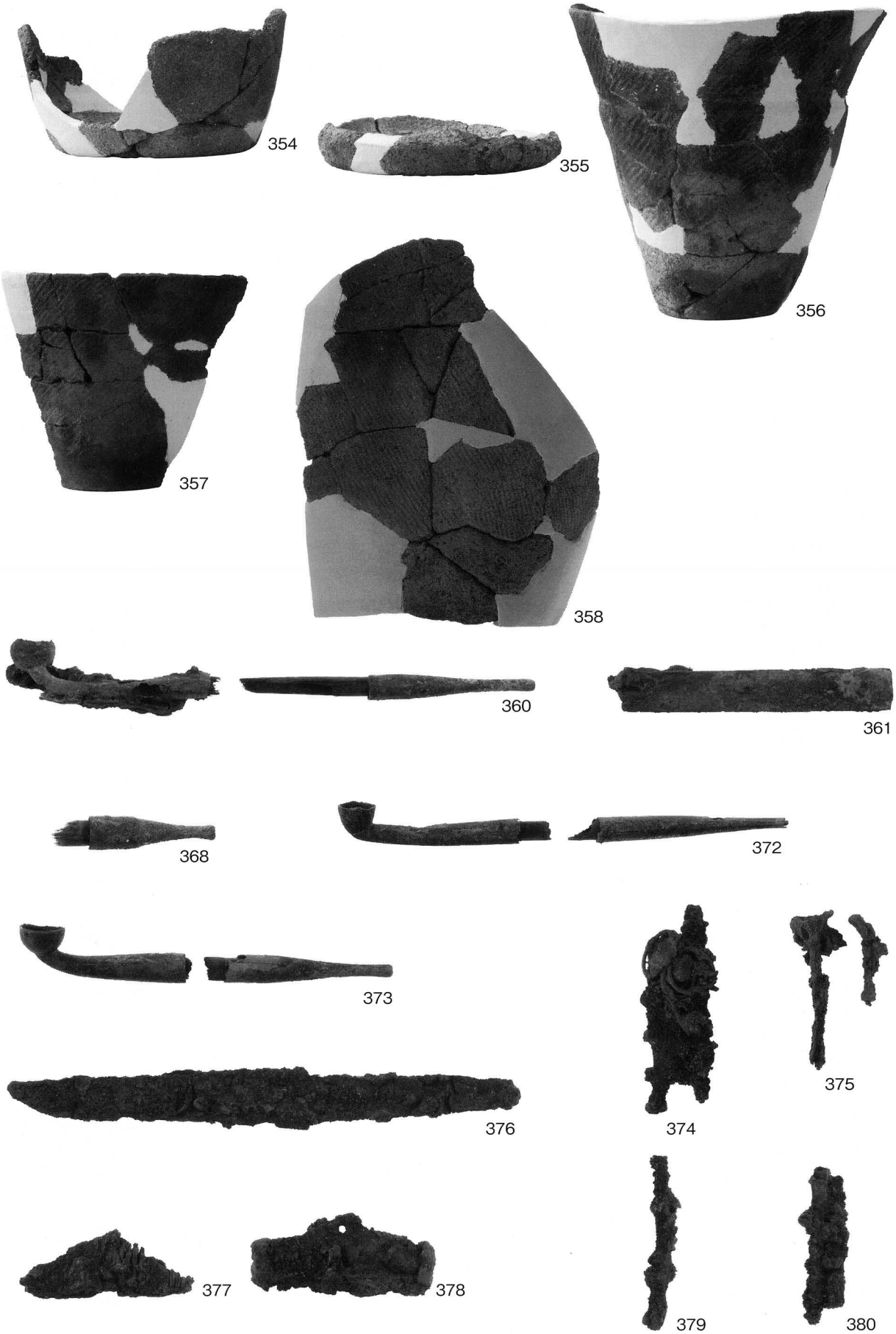
314号土坑断面



101号土器埋設遺構検出状況

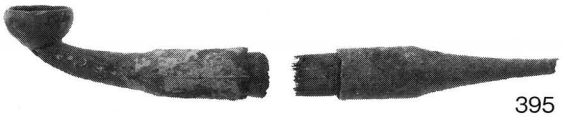
101号土器埋設遺構たち割り

写真図版52　312～314号土坑、101号土器埋設遺構



写真図版53　遺構内出土遺物（10）

388


395

403

404

406

405

417

424

425

429

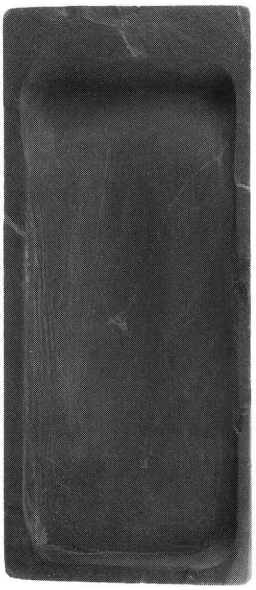
433

449

448

462

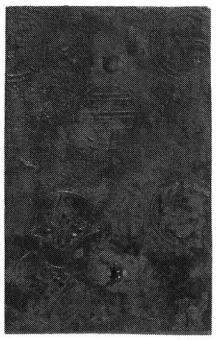
451


452

459

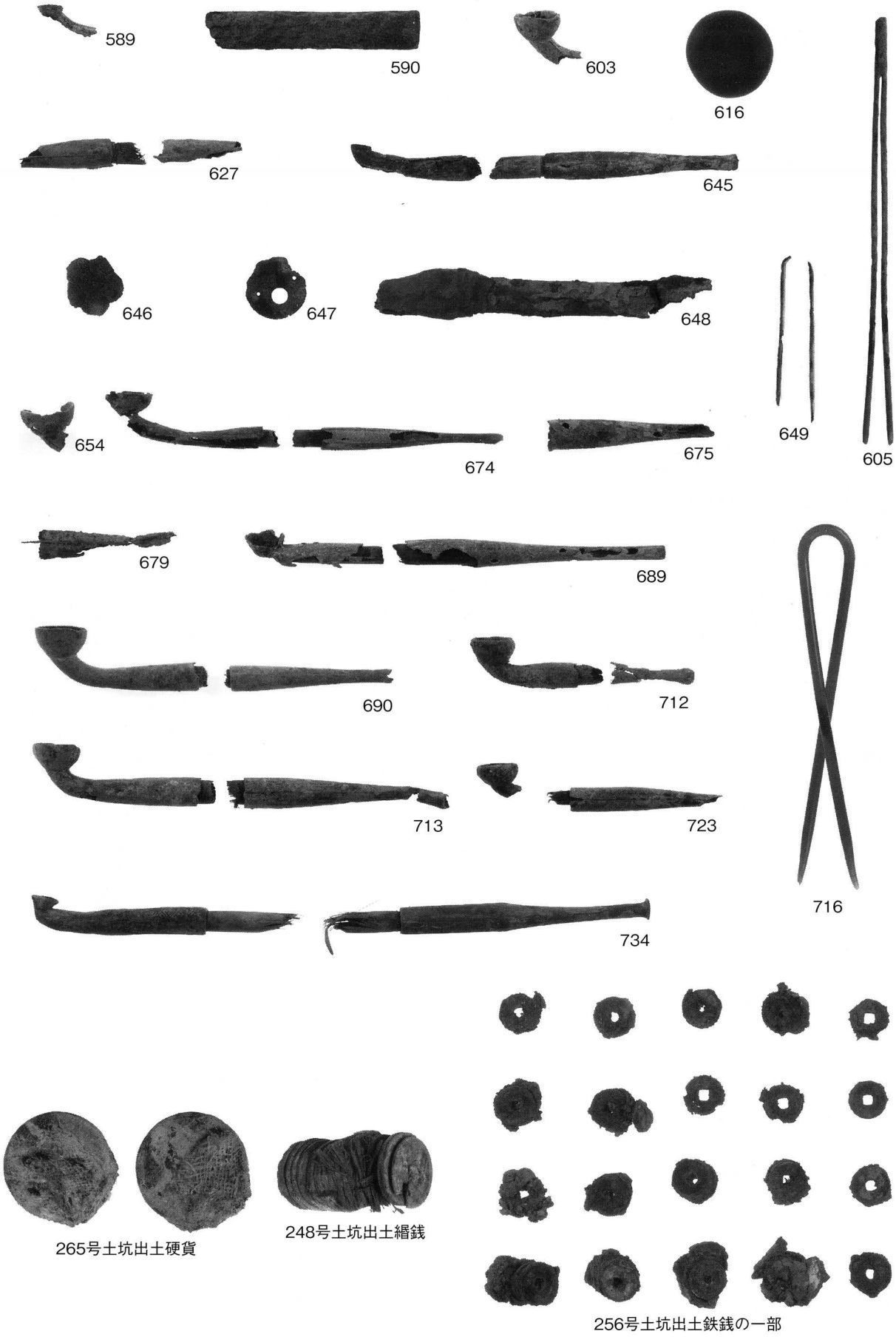
460

461

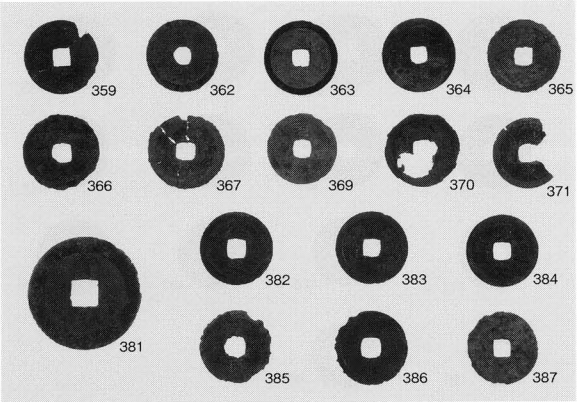

466

写真図版54　遺構内出土遺物（11）

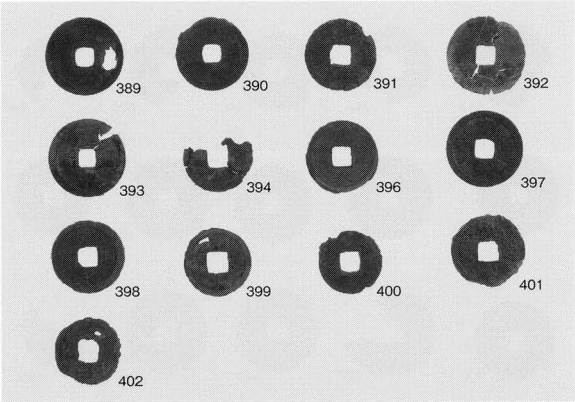
写真図版55　遺構内出土遺物（12）



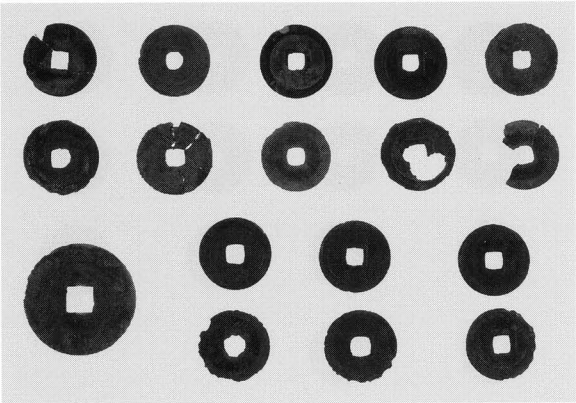
写真図版56　遺構内出土遺物（13）



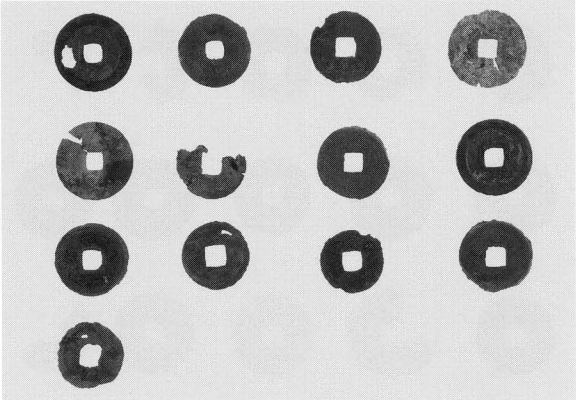
359 ～ 387（表）



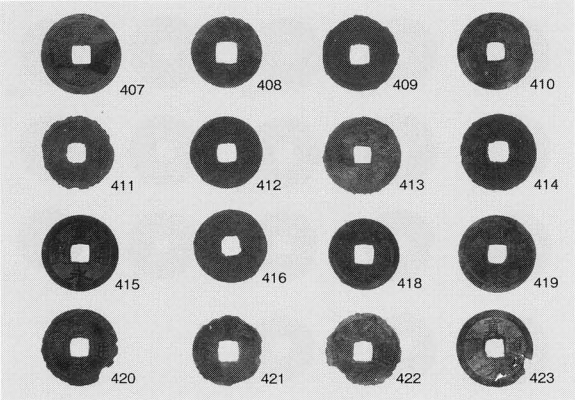
389 ～ 402（表）



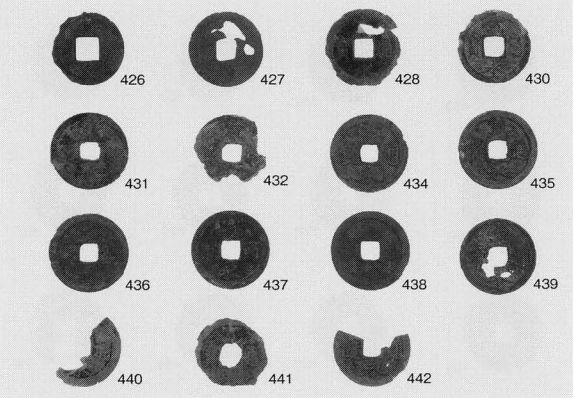
359 ～ 387（裏）



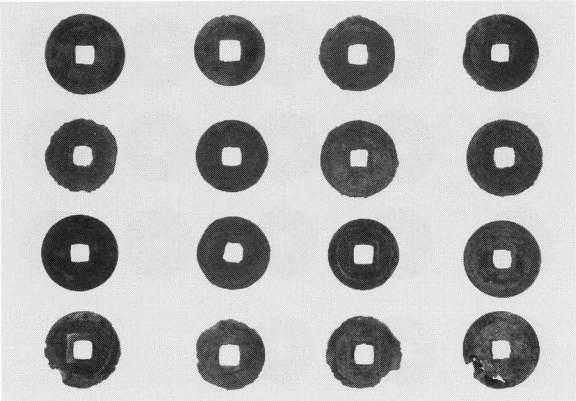
389 ～ 402（裏）



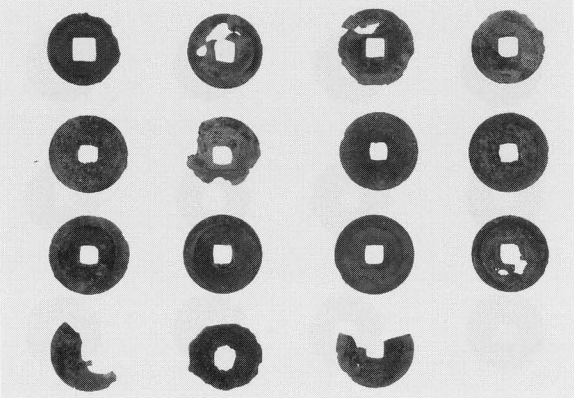
407 ～ 423（表）



426 ～ 442（表）

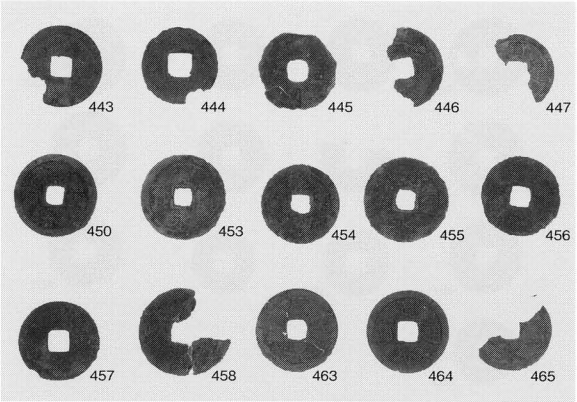


407 ～ 423（裏）

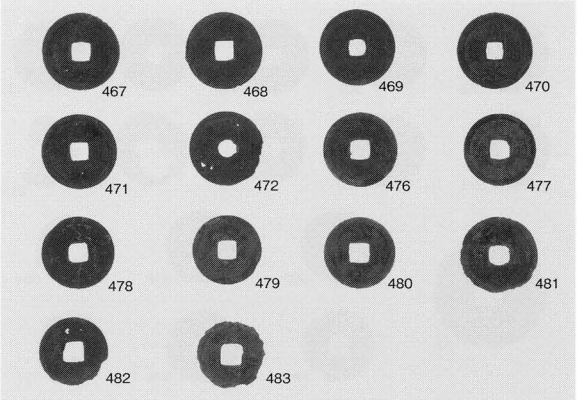


426 ～ 442（裏）

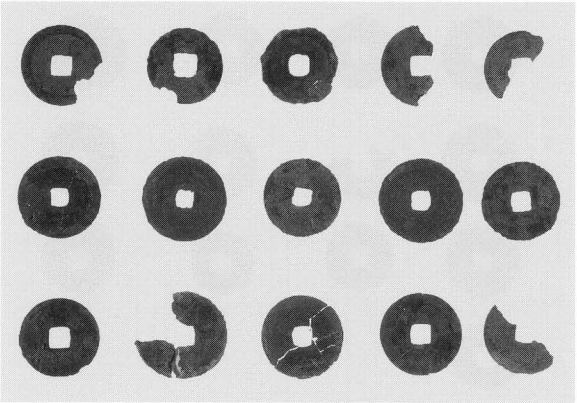
写真図版57　出土銭貨（1）



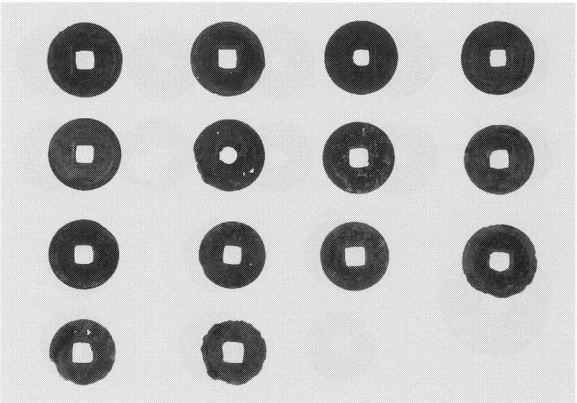
443 ～ 465（表）



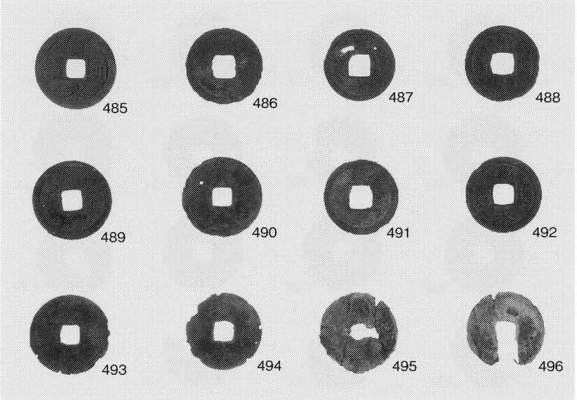
467 ～ 483（表）



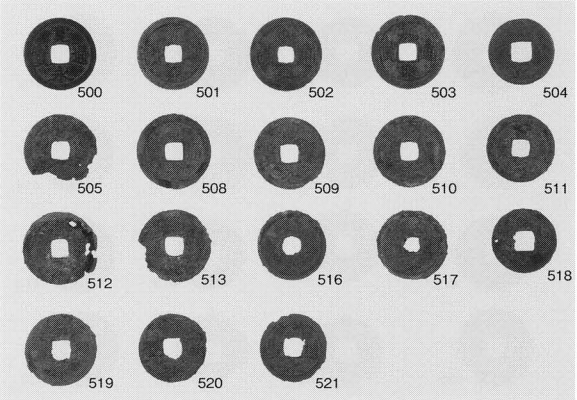
443 ～ 465（裏）



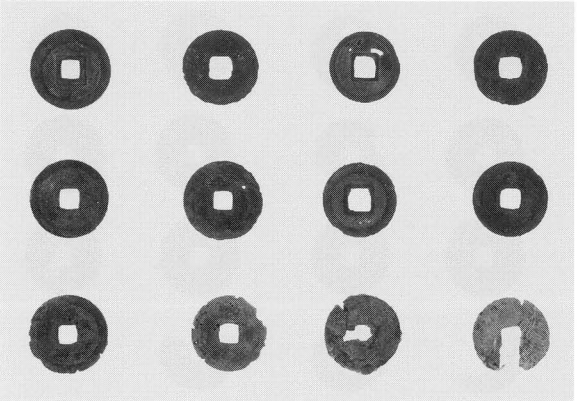
467 ～ 483（裏）



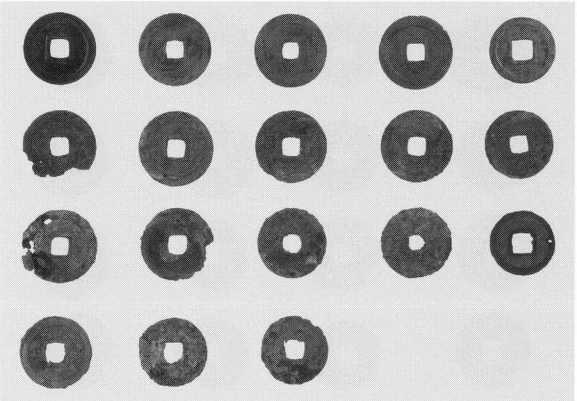
485 ～ 496（表）



500 ～ 521（表）

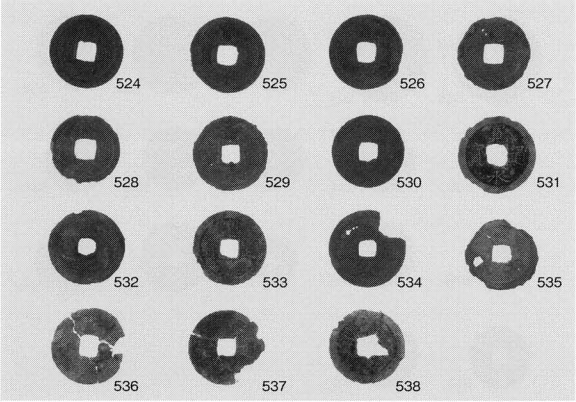


485 ～ 496（裏）

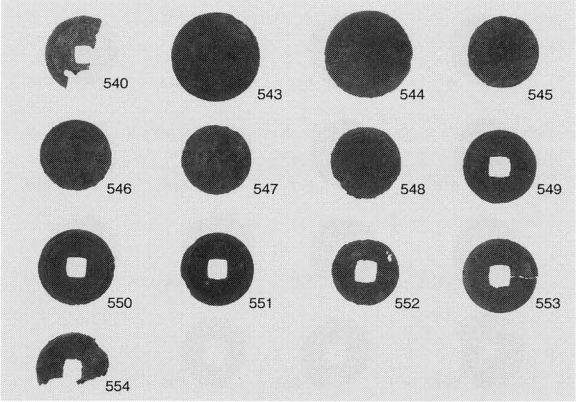


500 ～ 521（裏）

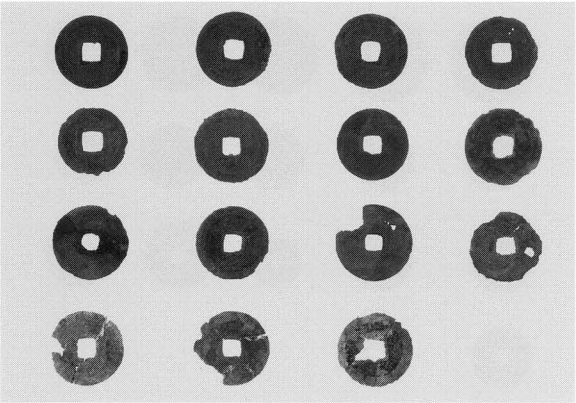
写真図版58　出土銭貨（2）



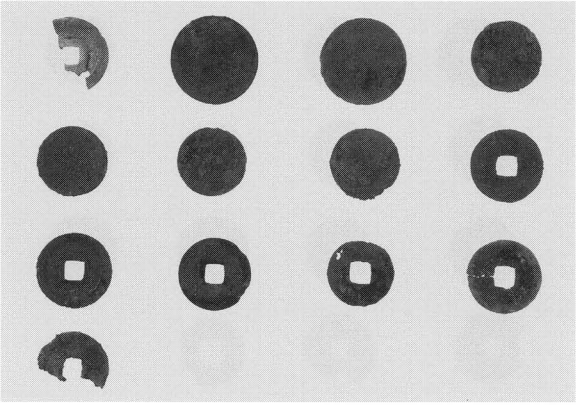
524 ～ 538（表）



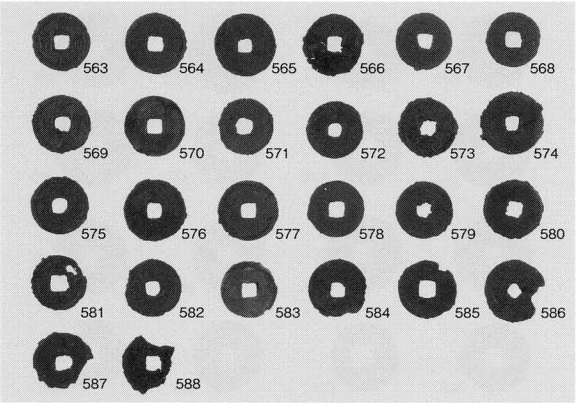
540 ～ 554（表）



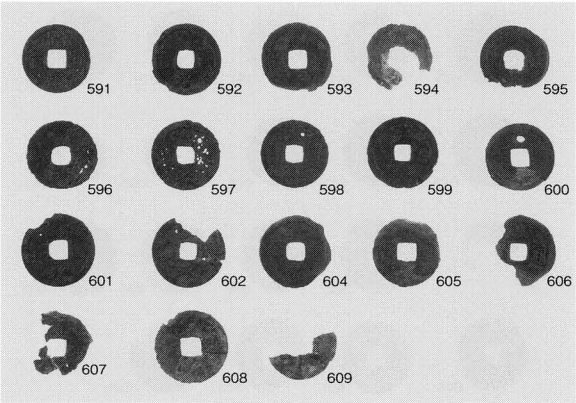
524 ～ 538（裏）



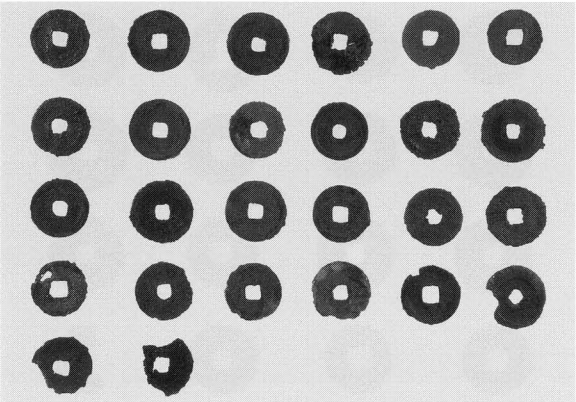
540 ～ 554（裏）



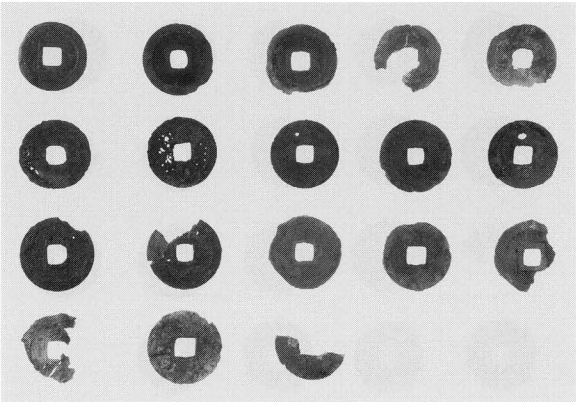
563 ～ 588（表）



591 ～ 609（表）

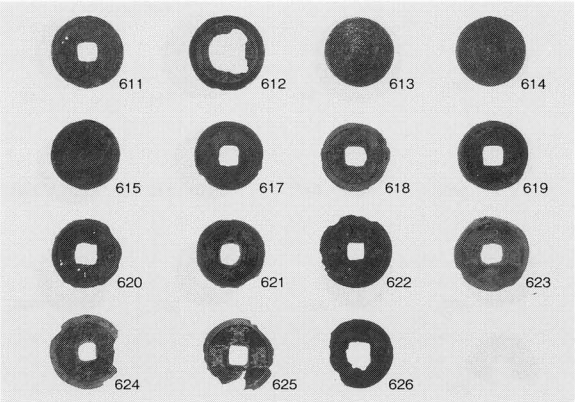


563 ～ 588（裏）

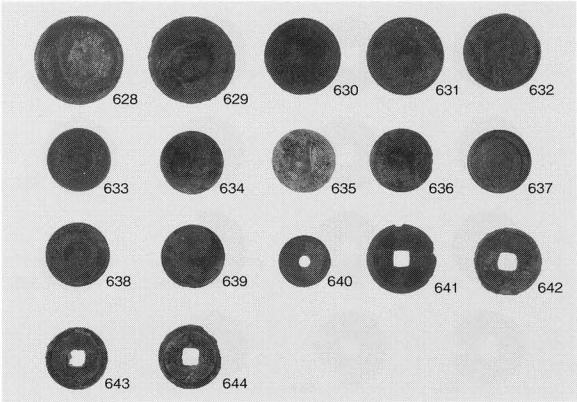


591 ～ 609（裏）

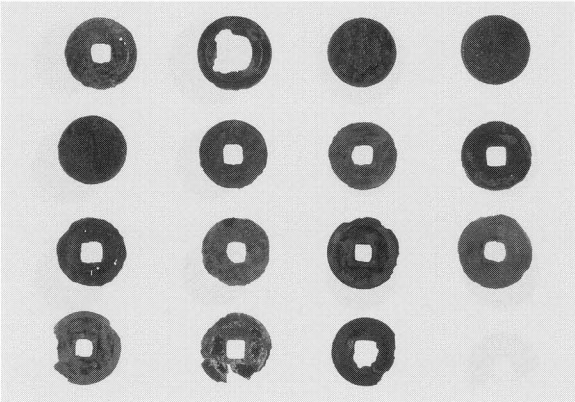
写真図版59　出土銭貨（3）



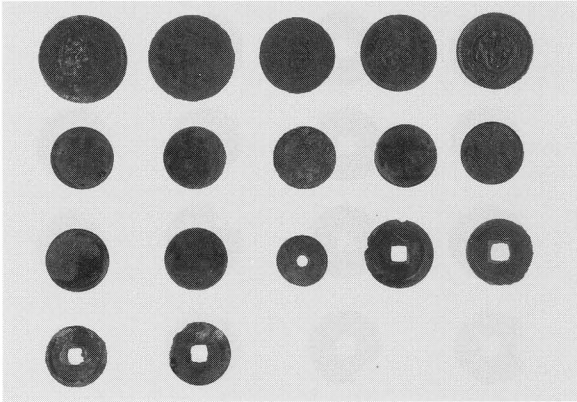
611 ～ 626（表）



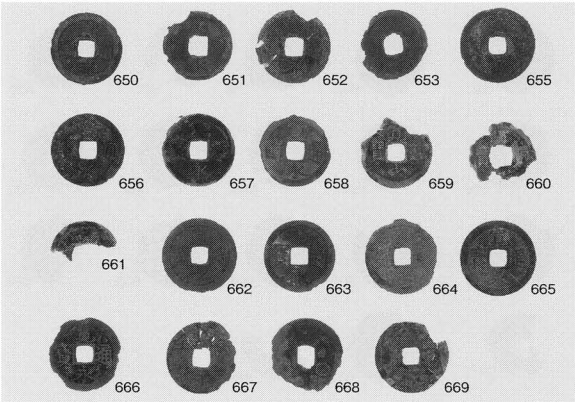
628 ～ 644（表）



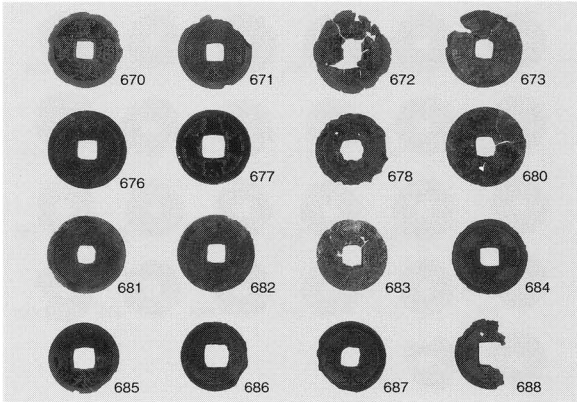
611 ～ 626（裏）



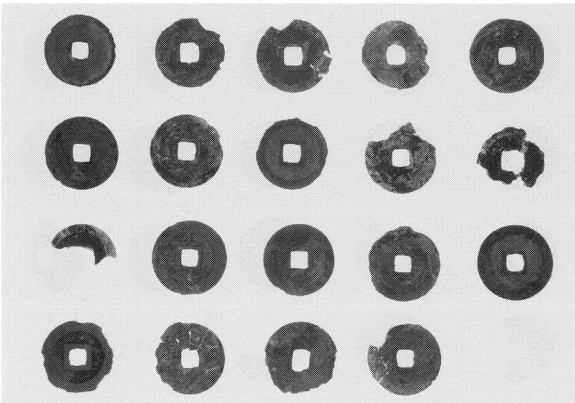
628 ～ 644（裏）



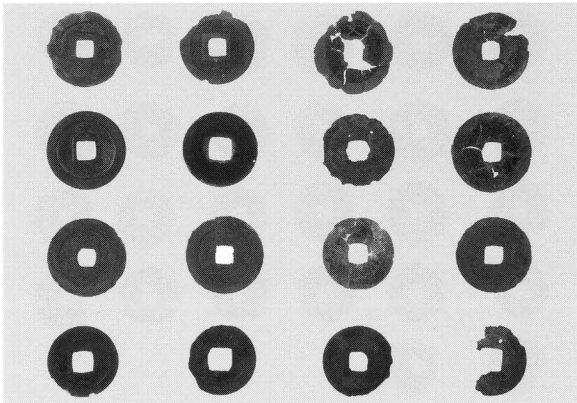
650 ～ 669（表）



670 ～ 688（表）

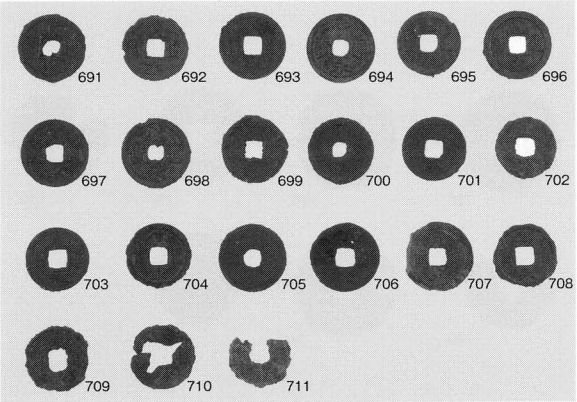


650 ～ 669（裏）

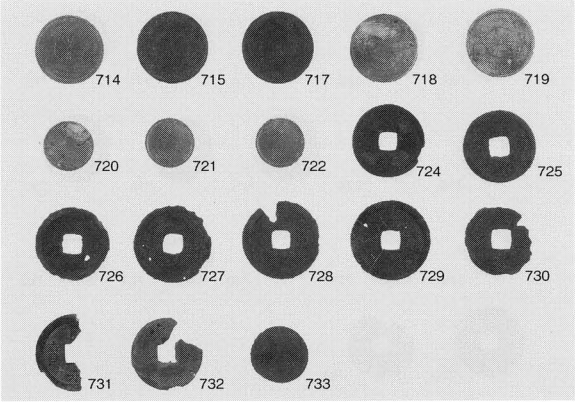


670 ～ 688（裏）

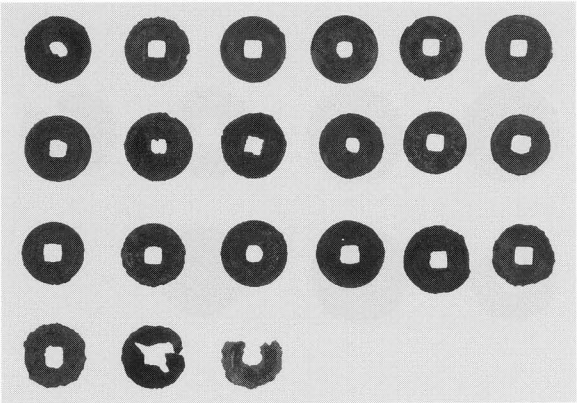
写真図版60　出土銭貨（4）



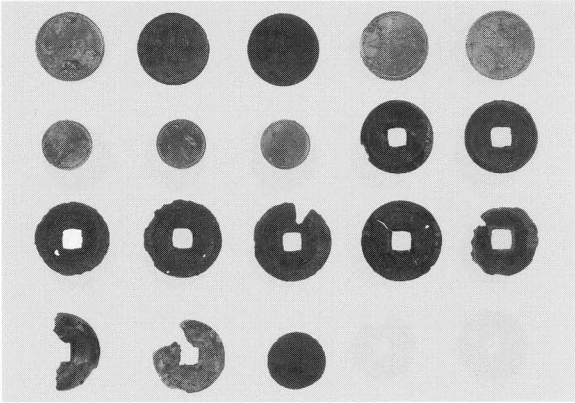
691 ～ 711（表）



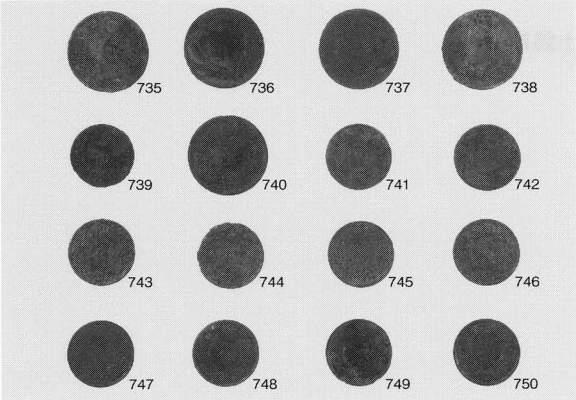
714 ～ 733（表）



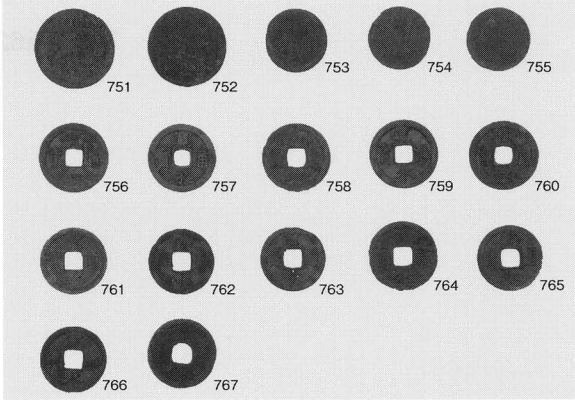
691 ～ 711（裏）



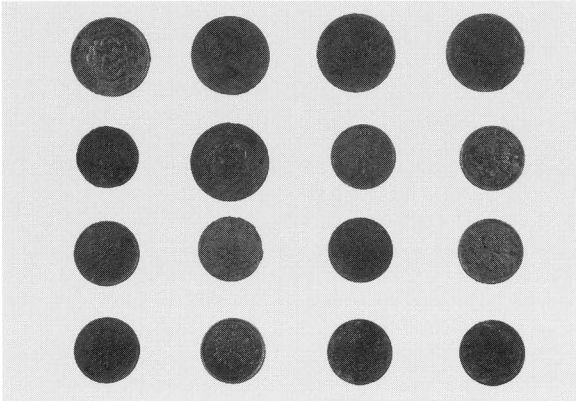
714 ～ 733（裏）



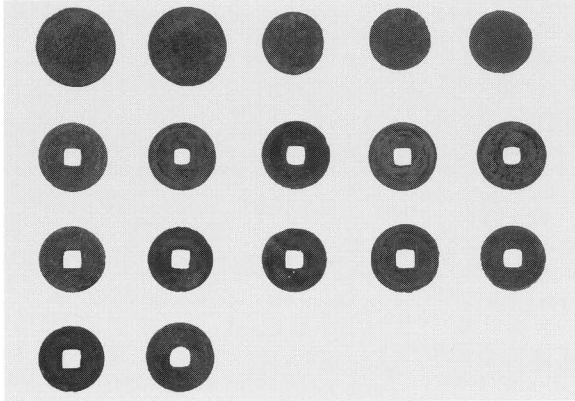
735 ～ 750（表）



751 ～ 767（表）

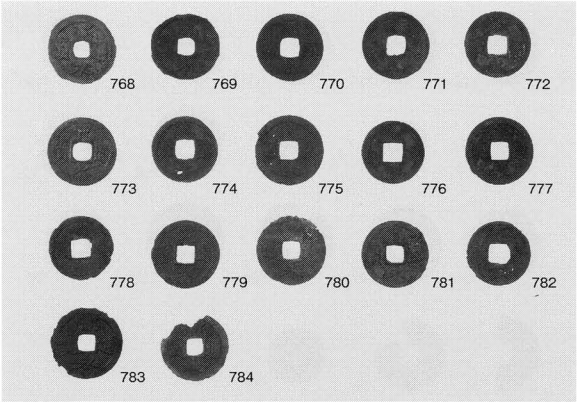


735 ～ 750（裏）

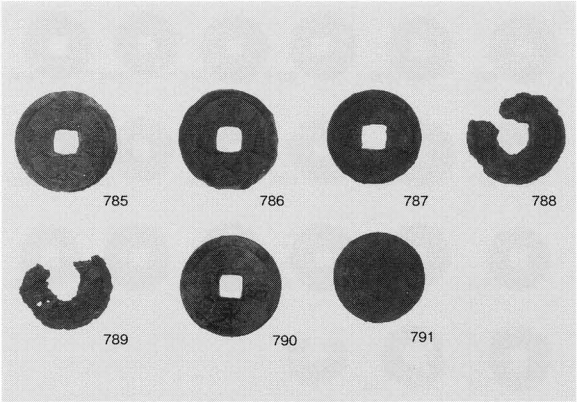


751 ～ 767（裏）

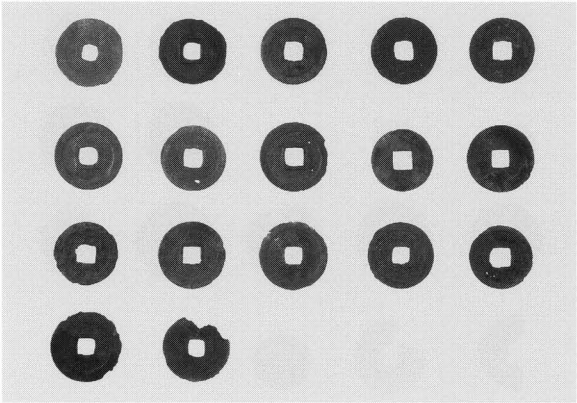
写真図版61　出土銭貨（5）



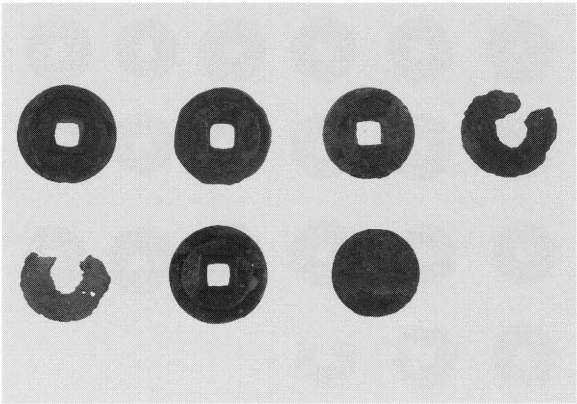
768 ～ 784（表）



785 ～ 791（表）



768 ～ 784（裏）



785 ～ 791（裏）

写真図版62　出土銭貨（6）

報告書抄録

ふりがな	つぼふち２いせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	坪渕Ⅱ遺跡発掘調査報告書
副書名	胆沢ダム建設事業関連遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第554集
編著者名	木戸口俊子・濱田　宏
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020－0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地　TEL　(019) 638－9001
発行年月日	2010年１月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
つぼふち２いせき 坪渕Ⅱ遺跡	いわてけんおうしゅうしいさわ 岩手県奥州市胆沢 くわかやなぎあざおいわけ 区若柳字追分34ほか	3215	ＮＥ31－1023	39度 5分 57秒	140度 52分 48秒	2007.05.01 ～ 2007.06.22	5,029㎡	胆沢ダム 建設事業
						2008.04.11 ～ 2008.05.30	2,000㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
坪渕Ⅱ遺跡	集落跡	縄文時代後・晩期	竪穴住居跡	２棟	縄文土器	
			掘立柱建物跡	２棟	石器	
			土坑	25基	石製品	
			土器埋設遺構	１基		
			焼土	２基		
			柱穴状小土坑	５個		
		近・現代	掘立柱建物跡	１棟	銭貨	
			土坑	４基	キセル	
			墓壙	90基	鉄製品	
			溝	１基	木製品	
			焼土	１基	近世陶磁器	
			柱穴状小土坑	15個		
		時期不明	掘立柱建物跡	２棟		
			土坑	14基		
			焼土	３基		
			柱穴状小土坑	20個		

要約	本遺跡の調査によって、近世～現代まで続く旧仙北街道筋の集落跡のみならず、段丘縁の緩斜面には縄文時代後・晩期の集落が形成されていたことが判明した。

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第554集

坪渕Ⅱ遺跡発掘調査報告書

胆沢ダム建設事業関連遺跡発掘調査

印　刷　平成22年1月25日
発　行　平成22年1月29日

編　集　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話　(019) 638－9001
発　行　国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所
〒023-0403　岩手県奥州市胆沢区若柳字下松原77
電話　(0197) 46－4717
(財)岩手県文化振興事業団
〒020-0023　岩手県盛岡市内丸13番1号
電話　(019) 654－2235
印　刷　株式会社　光文社
〒020-0106　岩手県盛岡市東松園3－12－1
電話　(019) 661－3441(代)

©(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2010